

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

正 誤 表

訂 正 箇 所	誤	正
31・32頁 最下段図中央付近	土坑墓3	土坑墓Ⅲ
114頁 土器番号683	土器内の185	除去

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

国道308号線の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通など東西交通網の整備は、それと直交して南北方向に貫く国道170号線の渋滞現象をよびおこし、立体交差事業を含む道路整備をもららしました。それとともに周辺地域の開発は、それまでの田園風景を一変させ、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容させました。

鬼虎川遺跡はこれまでの発掘調査によって、弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知られています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域などとして、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。今回の調査においては、弥生時代の集落・墓域状況だけでなく、古代末期から近世にわたる道路・耕作状況などを窺うことができました。本書の内容は地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成16年3月

東大阪市教育委員会

例　　言

1. 本書は一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第53次発掘調査の概要報告書である。
 2. 調査は大阪府八尾土木事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
 3. 調査にかかる費用は全額大阪府八尾土木事務所が負担・用意した。
 4. 発掘調査は平成14年3月1日から12月16日まで行ない、工事の関係から北側半分は6工区、南側半分は7工区と分けられて調査工事業者は異なったが一連の調査として実施した。遺物整理および報告書作成作業は平成16年3月31日まで実施した。
 5. 現地調査は若松博恵・松田留美・瀬戸哲也・島田拓・吉山綾子・福瀬哲生が担当し、遺物整理については才原金弘・釜田有理絵が担当して行なった。
 6. 人骨鑑定および動物遺体の同定については大阪市立大学大学院医学研究科分子生体医学大講座器完構築形態学の安部みき子氏に依頼し、報文を賜った。
 7. 基本杭・測査杭打設は株式会社昭和設計コンサルタント、写真測量は株式会社アコード、木製品の樹種同定および保存処理は株式会社京都科学、遺物写真はG F プロに委託して実施した。
 8. 本書はI～III-1～3およびVを若松、III-4を才原、IV-1・2を安部氏、IV-3を京都大学木質科学研究所　伊東隆夫氏が執筆し、若松が編集した。
 9. 現地の土色及び土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色彩監修『新版　標準土色帖』（2000年版）に準拠し、記号表記もこれに従った。
 10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々のご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。
 - 大阪府八尾土木事務所、アーバンテック株式会社、サンエス株式会社、安西工業株式会社、株式会社タナカコンストラクション
 11. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。
- 泊清次郎、松井章子、北野行信、野田忠良、春本浩平、川脇英一、岩本土祐、内田真吾、辰巳友邦、平田ジュニオル、荻野紘実、西村優、利田恵美、片山くみ子、北戸麻紀、佐々木節子、津山恵理子、寺鳴喜美子、中野明弥、西川奈央子、西川美奈子、溝口真紀、南優子、山上憲一、北野晴香、乙村友佳理

本文目次

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の概要	5
1. 調査の方法と経過	5
2. 層位	9
3. 遺構	10
4. 遺物	56
IV. 自然科学	161
1. 出土人骨の鑑定	161
2. 動物遺体の同定	167
3. 出土木製品の樹種同定	176
V. まとめ	177

挿図目次

第1図 遺跡周辺図	3
第2図 各次調査地位断面図	4
第3図 地区割図および西壁断面図一部（折り込み）	7・8
第4図 第17層上面遺構平面図	11
第5図 上器棺墓II平面図	12
第6図 第16下層上面遺構平面図	13
第7図 第16層上面各遺構断ち割り断面図	14
第8図 第16層上面遺構平面図（折り込み）	15～18
第9図 第15層上面遺構平面図（1）（折り込み）	21～24
第10図 第15層上面遺構平面図（2）	25
第11図 第15層上面遺構断面・断ち割り断面図	26
第12図 土坑墓III・IV平面図	27
第13図 第14層上面遺構平面図（折り込み）	29～32
第14図 第14層上面遺構断面図	33
第15図 第14層上面各遺構断ち割り断面図	34
第16図 土坑墓I・II平面図－写真測量図	38
第17図 土器棺墓I・甕出土状況図	39
第18図 第13層上面遺構平面図	40
第19図 自然流路3・4・5断面図	41
第20図 墓境付近断面図	43

第21図	第10層上面遺構平面図	45
第22図	第7・6層上・面足跡平面図	47
第23図	第6層上面遺構平面図	47
第24図	第6層上・面遺構平面図(1)	48
第25図	第6層上面遺構平面図(2)	49
第26図	第4層上面遺構平面図	50
第27図	第3層上面遺構平面図	51
第28図	溝1・2・a・b、落ち込み1平面図	52
第29図	調査地周辺掘り上げ田井路状況図(昭和30年代)	53
第30図	遺跡周辺小字切図	54
第31図	縄文土器実測図	56
第32図	土坑20・21出土土器実測図	58
第33図	土坑10・19・26~28・34・36・37・39・40・48出土土器実測図	60
第34図	土坑41・47出土土器実測図	61
第35図	土坑47出土土器実測図	63
第36図	土坑50出土土器実測図	65
第37図	土坑49・55・57・61・67・71・77・80・83出土土器実測図	67
第38図	土坑82・85・89・97出土土器実測図	68
第39図	土坑96出土土器実測図	71
第40図	土坑99・100・103・105・129・130・134出土土器実測図	72
第41図	溝64・84・85・89・99出土土器実測図	74
第42図	溝100~103・109~112出土土器実測図	76
第43図	溝113・117・120・123出土土器実測図	78
第44図	溝125~127出土土器実測図	79
第45図	溝126出土土器実測図	81
第46図	溝126出土土器実測図	83
第47図	溝128出土土器実測図	84
第48図	溝128出土土器実測図	85
第49図	溝128出土土器実測図	87
第50図	溝128出土土器実測図	88
第51図	溝128出土土器実測図	89
第52図	溝129・131・132・134・138出土土器実測図	91
第53図	溝135・142出土土器実測図	93
第54図	溝146・148・152出土土器実測図	94
第55図	土坑墓I・II、壺棺I(土坑128)・II(土坑95)出土土器実測図	97
第56図	ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738・807・1461・1692出土土器実測図	98
第57図	落ち込み4~6出土土器実測図	100
第58図	自然流路3・4出土土器実測図	102
第59図	6工区第11層出土土器実測図	104
第60図	6工区第11層出土土器実測図	105

第61図	6 工区第13層出土土器実測図	106
第62図	6 工区第13層出土土器実測図	107
第63図	6 T区第13層出土土器実測図	108
第64図	6 T区第13層出土土器実測図	109
第65図	6 工区第13層出土土器実測図	110
第66図	6 工区第13層出土土器実測図	111
第67図	6 工区第13層出土土器実測図	112
第68図	6 工区第13層出土土器実測図	113
第69図	6 工区第13層出土土器実測図	114
第70図	6 工区第13層出土土器実測図	115
第71図	6 T区第14層出土土器実測図	117
第72図	6 工区第11～14層出土土器実測図	119
第73図	6 工区第11～14層出土土器実測図	120
第74図	6 工区第11～14層出土土器実測図	121
第75図	7 工区第11層出土土器実測図	122
第76図	7 工区第13層出土土器実測図	123
第77図	7 T区第13層出土土器実測図	124
第78図	7 工区第13層出土土器実測図	125
第79図	7 工区第13層出土土器実測図	127
第80図	7 工区第13層出土土器実測図	128
第81図	7 工区第13層出土土器実測図	129
第82図	7 工区第14・15層出土土器実測図	131
第83図	7 T区第11～15層出土土器実測図	132
第84図	7 工区第11～15層出土土器実測図	133
第85図	溝1・6・7・60・67、落ち込み1・2、自然流路1・2出土土器実測図	136
第86図	6 工区第2・5・6・8・10層出土土器実測図	138
第87図	7 工区第3～5・7・9・10層出土土器実測図	139
第88図	土製品実測図	141
第89図	石器実測図	143
第90図	石器実測図	144
第91図	石器実測図	145
第92図	石器実測図	146
第93図	石器実測図	147
第94図	石器実測図	148
第95図	石器実測図	149
第96図	石器実測図	150
第97図	木製品実測図	152
第98図	木製品実測図	153
第99図	木製品実測図	154
第100図	木製品実測図	155

第101図 木製品実測図	157
第102図 木製品実測図	158
第103図 骨角製品・金属製品実測図	159

表 目 次

第1表 四肢骨の計測値	164
第2表 齒の計測値	165
第3表 齒の出上表	165
第4表 身長の推定値	166
第5表 北部九州・山口地方の弥生人の計測値	166
第6表 動物遺体同定表	168～172
第7表 シカ下顎骨の計測値表	172
第8表 ウマ基節骨計測値表	172
第9表 遺構ごとの出現頻度表	173
第10表 時期ごとの出現頻度表	174
第11表 樹種同定表	175

図 版 目 次

- 図版1 遺構 1. 調査地航空写真(1950年ごろ撮影)
2. 調査地航空写真(1984年撮影)
- 図版2 遺構 1. 調査地全景(南から)
2. 機械掘削状況
- 図版3 遺構 1. 6工区8地区付近西壁断面(1)
2. 6工区8地区付近西壁断面(2)
- 図版4 遺構 1. 6工区8地区付近西壁断面(3)
2. 6工区8地区付近西壁断面(4)
- 図版5 遺構 1. 7工区36地区付近西壁断面(1)
2. 7工区36地区付近西壁断面(2)
- 図版6 遺構 1. 7工区36地区付近西壁断面(3)
2. 7工区36地区付近西壁断面(4)
- 図版7 遺構 1. 6工区第17層上面遺構(1) 5地区付近 北より
2. 6工区第17層上面遺構(2) 8地区付近 北より
3. 6工区第17層上面遺構(3) 11・12地区付近 南より
- 図版8 遺構 1. 6工区第16層上面遺構(1) 1地区付近 南より
2. 6工区第16層上面遺構(2) 4地区付近 北より
3. 6工区第16層上面遺構(3) 2・3地区付近 東より
- 図版9 遺構 1. 6工区第16層上面遺構(4) 7地区付近 東より
2. 6工区第16層上面遺構(5) 14地区付近 北より
3. 6工区第16層上面遺構(6) 21地区付近 南より
- 図版10 遺構 1. 7工区第16層上面遺構(7) 31・32地区付近 南より
2. 7工区第16層上面遺構(8) 32・33地区付近 東より
- 図版11 遺構 1. 7工区第16層上面遺構(9) 33・34地区付近 東より
2. 7工区第16層上面遺構(10) 35地区付近 東より
- 図版12 遺構 1. 7工区第16層上面遺構(11) 38地区付近 東より
2. 7工区第16層上面遺構(12) 41・42地区付近 東より
- 図版13 遺構 1. 6工区第15層上面遺構(1) 1～3地区付近 北より
2. 6工区第15層上面遺構(2) 4地区付近 西より
- 図版14 遺構 1. 6工区第15層上面遺構(3) 6・7地区付近 北より
2. 6工区第15層上面遺構(4) 8地区付近 東より
- 図版15 遺構 1. 6工区第15層上面遺構(5) 10～11地区付近 北より
2. 6工区第15層上面遺構(6) 13地区付近 西より
- 図版16 遺構 1. 6工区第15層上面遺構(7) 16地区付近 西より
2. 6工区第15層上面遺構(8) 19地区付近 北より
- 図版17 遺構 1. 6工区第15層上面遺構(9) 24地区付近 西より
2. 6工区第15層上面遺構(10) 26地区付近 西より

- 図版18 遺構 1. 6工区上坑96内土器・木製品出土状況 西より
2. 6工区第15層上面遺構 (11) 28地区付近 西より
- 図版19 遺構 1. 6工区第15層上面遺構 (12) 29地区付近 北より
2. 6工区第15層上面遺構 (13) 30地区付近 西より
- 図版20 遺構 1. 7工区第15層上面遺構 (1) 32地区付近 西より
2. 7工区第15層上面遺構 (2) 33地区付近 西より
- 図版21 遺構 1. 7工区第15層上面遺構 (3) 36地区付近 西より
2. 7工区第15層上面遺構 (4) 41・42地区付近 北より
- 図版22 遺構 1. 7工区54地区土坑128（土器棺墓I）土器棺検出状況
2. 7工区54地区土坑128（土器棺墓I）土器棺内VII号人骨出土状況
3. 7工区54地区土坑128（土器棺墓I）断ち割り断面
- 図版23 遺構 1. 7工区53地区上坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨頭部上方動物遺体出土状況
2. 7工区53地区上坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨検出状況
3. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨頸骨付近状況
4. 7工区53地区土坑墓Ⅲ・Ⅲ号人骨腰椎付近石錐出土状況
- 図版24 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (1) 1～5地区 北より
2. 6工区第14層上面遺構 (2) 6地区 東より
- 図版25 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (3) 7地区 西より
2. 6工区第14層上面遺構 (4) 10地区 西より
- 図版26 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (5) 11地区 南より
2. 6工区第14層上面遺構 (6) 12地区 東より
- 図版27 遺構 1. 6工区土坑20内土器出土状況 西より
2. 6工区第14層上面遺構 (7) 13・14地区 西より
- 図版28 遺構 1. 6工区溝84・土坑19内土器出土状況 東より
2. 6工区第14層上面遺構 (8) 16～18地区 西より
- 図版29 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (9) 19地区 北より
2. 6工区第14層上面遺構 (10) 20・21地区 北より
- 図版30 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (11) 22地区 西より
2. 6工区第14層上面遺構 (12) 23地区 西より
- 図版31 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (13) 24地区 西より
2. 6工区第14層上面遺構 (14) 25・26地区 西より
- 図版32 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (15) 27地区 西より
2. 6工区第14層上面遺構 (16) 28地区 西より
- 図版33 遺構 1. 6工区第14層上面遺構 (17) 29・30地区 南より
2. 7工区第14層上面遺構 (1) 31・32地区 西より
- 図版34 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (2) 32・33地区 南より
2. 7工区第14層上面遺構 (3) 34地区 西より
- 図版35 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (4) 35地区 西より
2. 7工区第14層上面遺構 (5) 36地区 西より
- 図版36 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (6) 38地区 西より

2. 7工区第14層上面遺構 (7) 39地区 西より
- 図版37 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (8) 39~41地区 北より
2. 7工区第14層上面遺構 (9) 41~43地区 北より
- 図版38 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (10) 43~45地区 北より
2. 7工区第14層上面遺構 (11) 44~46地区 北より
3. 7工区第14層上面遺構 (12) 46~48地区 北より
4. 7工区第14層上面遺構 (13) 48~51地区 北より
- 図版39 遺構 1. 7工区第14層上面遺構 (14) 51~53地区 北より
2. 7工区第14層上面遺構 (15) 52~54地区 北より
3. 7工区第14層上面遺構 (16) 55・56地区 北より
4. 7工区第14層上面遺構 (17) 57・58地区 北より
- 図版40 遺構 1. 7工区58地区上坑墓IV・VII号人骨検出状況 北より
2. 7工区58地区上坑墓IV・VII号人骨上半部状況
3. 7工区58地区土坑墓IV・VII号人骨下半部状況
- 図版41 遺構 1. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨検出状況 西上より
2. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨頭部状況
3. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨上半身部状況
- 図版42 遺構 1. 7工区42地区土坑墓I・I号人骨検出状況 北上より
2. 6工区17地区甕出土状況
- 図版43 遺構 1. 7工区51地区土坑95（上器棺墓I）土器棺検出状況
2. 7工区51地区土坑95（土器棺墓I）断ち割り断面
3. 7工区51地区土坑95（土器棺墓I）上器棺内IV号人骨出土状況
- 図版44 遺構 1. 6工区38・39地区自然流路3検出状況 南より
2. 6工区38・39地区自然流路3内堆積状況
- 図版45 遺構 1. 6工区4~6地区自然流路4検出状況 北より
2. 6工区4~6地区自然流路4内堆積状況
- 図版46 遺構 1. 7工区54・55地区自然流路5検出状況 南より
2. 7工区54地区自然流路5北斜面足跡検出状況
- 図版47 遺構 1. 6工区1~4地区落ち込み6検出状況 北より
2. 6工区6・7地区落ち込み7検出状況 西より
- 図版48 遺構 1. 7工区~45地区第13層・自然流路5上面遺構検出状況 南より
2. 7工区~55地区第13層・自然流路5上面遺構検出状況 南より
- 図版49 遺構 1. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝（3）検出状況 西より
2. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝（3）検出状況 西より
- 図版50 遺構 1. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝（1）検出状況 西南より
2. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝（2）検出状況 西より
- 図版51 遺構 1. 6工区23~25地区坪境付近西断面（1）
2. 6工区23~25地区坪境付近西断面（2）
3. 溝18北斜面辛塔婆出土状況
- 図版52 遺構 1. 7工区33地区付近第8層上面足跡検出状況

2. 7工区32地区付近第10層上面足跡検出状況
- 図版53 遺構 1. 7工区39地区溝75検出状況
2. 7工区42～44地区溝79検出状況
- 図版54 遺構 1. 7工区33地区付近第7層上面足跡検出状況
2. 7工区33地区付近第8層上面鉄製品出土状況
- 図版55 遺構 1. 7工区32地区付近第6間層2面目足跡検出状況
2. 7工区34地区付近第6間層3面目足跡検出状況
- 図版56 遺構 1. 7工区33地区付近第6間層1面目足跡検出状況
2. 7工区41・42地区第6間層2面目足跡
- 図版57 遺構 1. 6工区8～10地区第8層上面足跡 南より
2. 6工区29地区第10層上面足跡検出状況 南より
- 図版58 遺構 1. 6工区21地区付近第6間層2面目足跡検出状況 南より
2. 6工区16地区付近第6間層3面目足跡検出状況 南より
- 図版59 遺構 1. 6工区20～22地区第5間層上面遺構 北より
2. 6工区20～23地区第6層上面遺構 北より
- 図版60 遺構 1. 7工区31～39地区第6層上面遺構(1) 南より
2. 7工区31～45地区第6層上面遺構(2) 南より
- 図版61 遺構 1. 6工区落ち込み2 北より
2. 6工区落ち込み3 南より
- 図版62 遺構 1. 6工区1～18地区自然流路1 南より
2. 6工区16地区付近自然流路1内足跡検出状況 東より
- 図版63 遺構 1. 7工区～45地区溝60 南より
2. 7工区溝60東西断ち割り断面 北より
- 図版64 遺構 1. 7工区43～45地区4層上面溝群 北より
2. 7工区46地区付近4層上面溝群・足跡 北より
- 図版65 遺構 1. 6工区25～27地区第3下層上面遺構 南より
2. 6工区28～29地区第3下層上面遺構 北より
- 図版66 遺構 1. 7工区43～52地区溝6 北より
2. 7工区51地区溝6内卒塔婆出土状況
- 図版67 遺構 1. 7工区54・55地区自然流路2 南東より
2. 7工区54・55地区自然流路2内杭断ち割り断面
- 図版68 遺構 1. 6工区1～11地区落ち込み1 北より
2. 落ち込み1内曲物出土状況
3. 落ち込み1内下駄出土状況
- 図版69 遺構 1. 6工区23・24地区溝7 東より
2. 6工区30地区土坑3 東より
- 図版70 遺構 1. 6工区26地区からの溝1 北より
2. 6工区28地区上坑1 東より
- 図版71 遺物 土坑20・21・47出土弥生土器 壺・甕・鉢・高杯
- 図版72 遺物 土坑19・50・82出土弥生土器 壺・無頬壺・甕蓋・鉢・高杯

- 図版73 遺物 上坑97・105出土弥生土器 壺・細頸壺・無頸壺・鉢
- 図版74 遺物 溝84・85・111・123出土弥生土器 壺・甕・鉢・甕蓋・水差形土器
- 図版75 遺物 溝123・126出土弥生土器 壺・高环・壺蓋・細頸壺
- 図版76 遺物 溝126・128出土弥生土器 壺・甕
- 図版77 遺物 溝128出土弥生土器 壺・無頸壺
- 図版78 遺物 溝128・129・131・135出土弥生土器 壺・鉢・甕
- 図版79 遺物 溝135・146、壺棺墓Ⅰ・Ⅱ出土弥生土器 壺・甕・鉢・高环
- 図版80 遺物 落ち込み6、自然流路3、6工区第11・13層出土弥生土器 壺・甕・高环
- 図版81 遺物 6工区第13層出土弥生土器 壺・無頸壺・鉢
- 図版82 遺物 6工区第13層出土弥生土器 高环・甕
- 図版83 遺物 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版84 遺物 6工区第13層出土弥生土器 壺・甕蓋・甕蓋
- 図版85 遺物 6工区第14・11～14層出土弥生土器 壺・無頸壺・壺蓋・甕蓋
- 図版86 遺物 6工区第11～14層出土弥生土器 甕・甕蓋
- 図版87 遺物 6工区第11～14層、7工区第11・13層出土弥生土器 壺・鉢・高环・壺蓋
- 図版88 遺物 7工区第13・15層出土弥生土器 壺・甕・高环・鉢・壺蓋・甕蓋
- 図版89 遺物 7工区第11～15層出土弥生土器 壺・甕・高环・壺蓋・鉢、第10層出土土師器 杯
- 図版90 遺物 1. 繩文土器 浅鉢・深鉢
2. 土坑20出土弥生土器 甕・壺
- 図版91 遺物 1. 上坑21出土弥生土器 壺・鉢
2. 上坑10・21出土弥生土器 甕
- 図版92 遺物 1. 土坑26・28・34・37・40・48出土弥生土器 甕・壺・鉢
2. 土坑27・34出土弥生土器 壺・甕・甕蓋・細頸壺
- 図版93 遺物 1. 土坑39出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 土坑41出土弥生土器 壺・甕・鉢・高环・壺蓋
- 図版94 遺物 1. 上坑47出土弥生土器 壺
2. 土坑47出土弥生土器 壺・無頸壺
- 図版95 遺物 1. 土坑47出土弥生土器 高环・甕蓋
2. 土坑47出土弥生土器 甕
- 図版96 遺物 1. 土坑47出土弥生土器 甕
2. 土坑50出土弥生土器 壺
- 図版97 遺物 1. 土坑50出土弥生土器 甕
2. 土坑50出土弥生土器 鉢・高环
- 図版98 遺物 1. 土坑49・57・61・67・80出土弥生土器 壺・甕・鉢・高环
2. 土坑63・71出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版99 遺物 1. 土坑55・71・77・83出土弥生土器 壺・鉢・甕
2. 土坑82・85出土弥生土器 壺・甕・鉢・壺蓋・甕蓋
- 図版100 遺物 1. 土坑89・97出土弥生土器 甕・鉢
2. 土坑96出土弥生土器 壺
- 図版101 遺物 1. 土坑96出土弥生土器 壺

2. 土坑96出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版102 遺物 1. 土坑99・130出土弥生土器 壺・甕・高坏・鉢
2. 土坑100・103・129・134出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版103 遺物 1. 溝89・99出土弥生土器 壺・高坏・鉢・甕
2. 溝64・84・85出土弥生土器 壺
- 図版104 遺物 1. 溝102・109・112出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 溝100・110出土弥生土器 壺・甕・壺蓋・甕蓋
- 図版105 遺物 1. 溝101・103・111出土弥生土器 壺・甕・高坏
2. 溝123出土弥生土器 壺・鉢
- 図版106 遺物 1. 溝123出土弥生土器 甕・鉢・高坏・甕蓋
2. 溝113・117・120出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版107 遺物 1. 溝125・127出土弥生土器 壺・甕・甕蓋
2. 溝126出土弥生土器 鉢・高坏
- 図版108 遺物 1. 溝126出土弥生土器 鉢・細頭壺
2. 溝126出土弥生土器 壺
- 図版109 遺物 1. 溝126出土弥生土器 壺
2. 溝126出土弥生土器 甕
- 図版110 遺物 1. 溝126出土弥生土器 甕
2. 溝126出土弥生土器 甕・甕蓋
- 図版111 遺物 1. 溝128出土弥生土器 壺
2. 溝128出土弥生土器 壺
- 図版112 遺物 1. 溝128出土弥生土器 壺
2. 溝128出土弥生土器 壺・無頭壺
- 図版113 遺物 1. 溝128出土弥生土器 無頭壺・細頭壺・甕蓋
2. 溝128出土弥生土器 鉢・高坏・水差形土器
- 図版114 遺物 1. 溝128出土弥生土器 甕
2. 溝128出土弥生土器 甕
- 図版115 遺物 1. 溝128出土弥生土器 甕
2. 溝128出土弥生土器 甕
- 図版116 遺物 1. 溝128出土弥生土器 甕
2. 溝129出土弥生土器 壺・無頭壺・甕・鉢
- 図版117 遺物 1. 溝131・132・134出土弥生土器 壺・甕
2. 溝135・138・142出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版118 遺物 1. 溝135出土弥生土器 壺・甕・鉢
2. 溝146出土弥生土器 壺・甕・無頭壺
- 図版119 遺物 1. 溝146・148・152出土弥生土器 壺・甕・鉢・高坏・甕蓋
2. 上坑墓I・II出土弥生土器 壺・甕
- 図版120 遺物 1. ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738出土弥生土器
壺・甕・鉢
2. ピット807・1461・1629出土弥生土器 壺・甕・鉢

- 図版121 遺物 1. 落ち込み4・5・6出土弥生土器 壺・甕・高坏
2. 落ち込み6出土弥生土器 壺・甕・高坏
- 図版122 遺物 1. 自然流路3出土弥生土器 壺・甕・高坏
2. 自然流路4出土弥生土器 壺・甕
- 図版123 遺物 1. 自然流路4出土弥生土器 甕
2. 6工区第11層出土弥生土器 壺・無頸甕
- 図版124 遺物 1. 6工区第11層出土弥生土器 甕
2. 6工区第11層出土弥生土器 壺・鉢・高坏・甕蓋
- 図版125 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 壺
2. 6工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版126 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 壺
2. 6工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版127 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 壺
2. 6工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版128 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 壺
2. 6工区第13層出土弥生土器 無頸壺
- 図版129 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 細頸壺・無頸壺
2. 6工区第13層出土弥生土器 鉢
- 図版130 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 鉢
2. 6工区第13層出土弥生土器 鉢
- 図版131 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 鉢・高坏
2. 6工区第13層出土弥生土器 高坏
- 図版132 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 高坏
2. 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版133 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 甕
2. 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版134 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 甕
2. 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版135 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 甕
2. 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版136 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 甕
2. 6工区第13層出土弥生土器 甕
- 図版137 遺物 1. 6工区第13層出土弥生土器 甕蓋
2. 6工区第14層出土弥生土器 壺
- 図版138 遺物 1. 6工区第14層出土弥生土器 壺・細頸壺・鉢・高坏・甕蓋
2. 6工区第14層出土弥生土器 鉢・甕
- 図版139 遺物 1. 6工区第11～14層出土弥生土器 壺
2. 6工区第11～14層出土弥生土器 壺
- 図版140 遺物 1. 6工区第11～14層出土弥生土器 壺・細頸壺・無頸壺・水差形土器
2. 6工区第11～14層出土弥生土器 甕・有孔鉢

- 図版141 遺物 1. 6工区第11~14層出土弥生土器 鉢・高坏
2. 6工区第11~14層出土弥生土器 高坏
- 図版142 遺物 1. 7工区第11層出土弥生土器 壺・甌
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版143 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版144 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版145 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版146 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺・細頸壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 細頸壺・無頸壺・水差形土器
- 図版147 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版148 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版149 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 壺
2. 7工区第13層出土弥生土器 壺
- 図版150 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 鉢
2. 7工区第13層出土弥生土器 鉢・高坏
- 図版151 遺物 1. 7工区第13層出土弥生土器 高坏・甌蓋
2. 7工区第14層出土弥生土器 壺・甌・鉢・細頸壺・高坏
- 図版152 遺物 1. 7工区第15層出土弥生土器 壺・甌・鉢
2. 7工区第11~15層出土弥生土器 壺
- 図版153 遺物 1. 7工区第11~15層出土弥生土器 壺・無頸壺
2. 7工区第11~15層出土弥生土器 細頸壺・鉢・高坏
- 図版154 遺物 1. 7工区第11~15層出土弥生土器 壺
2. 7工区第11~15層出土弥生土器 壺
- 図版155 遺物 1. 溝1・6・7・60・67出土陶器 楪、瓦器 楪、須恵器 甌・坏・壺、黑色土器 楪
2. 落ち込み1・2出土土師器 楪、皿、須恵器 甌・高坏、黑色土器 楪
- 図版156 遺物 1. 落ち込み1出土陶器 楪、皿(表)
2. 同上(表)
- 図版157 遺物 1. 自然流路1出土須恵器 坏、瓦器 火舍、陶器 楪、埴輪
2. 自然流路2出土須恵器 甌・高坏・坏・蓋坏、土師器 高坏、製塩土器
- 図版158 遺物 1. 6工区第2・5・6・8層出土須恵器 坏・蓋坏、土師器 盆・甌、黑色土器 楪、陶器 楪
2. 6工区第10層出土須恵器 高坏・蓋坏、土師器 坏・甌
- 図版159 遺物 1. 7工区第3・4・5層出土須恵器 蓋坏・甌、土師器 盆・鉢・鍋、綠釉陶器 楪
2. 7工区7・9・10層出土須恵器 甌・坏・高坏、土師器 高坏・皿・甌、陶器 甌
- 図版160 遺物 1. 土製品

2. 土製品
- 図版161 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版162 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版163 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版164 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版165 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版166 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版167 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版168 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版169 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版170 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版171 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版172 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版173 遺物 1. 石器(表)
2. 同上(裏)
- 図版174 遺物 木製品
- 図版175 遺物 木製品
- 図版176 遺物 木製品
- 図版177 遺物 木製品
- 図版178 遺物 木製品
- 図版179 遺物 木製品
- 図版180 遺物 木製品
- 図版181 遺物 骨角製品・金属製品
- 図版182 遺物 人骨
- 図版183 遺物 人骨
- 図版184 遺物 人骨
- 図版185 遺物 人骨
- 図版186 遺物 人骨

図版187 遺物 人骨

図版188 遺物 動物遺体

図版189 遺物 動物遺体

図版190 遺物 材の顕微鏡写真

I. 調査に至る経過

調査は一般国道170号線の西石切立体交差事業に伴う発掘調査の一貫として平成14年に実施した。国道170号線と国道308号線とが交叉する「被服団地前」は交通渋滞をきたす場所として早くからその解消が求められてきた。平成9年4月の第二阪奈有料道路の開通によりその混雑は増し、平成10年に西石切立体交差事業は国庫補助事業として採択された。国道308号線の上部に阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道および近畿日本鉄道東大阪線の橋脚が存立することからこの立体交差事業はアンダーパス工法が選択された。

「被服団地前」交叉点付近は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡が広がっている。本遺跡は1975年以降、58次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で遺跡東北部（とくに国道308号線付近の調査）で繩文時代前期の繩文海進による海食崖を検出し、その付近から前期から中期の土器・石器とともに魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代は前期から後期までの遺構・遺物を確認している。前期は遺跡北西部（国道308号線付近）に長原式土器と前期土器を伴う貝塚、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側には（北端部付近は希薄）とくに中期の大溝、井戸などの土坑、柱穴などのピット群、貝塚、そして方形周溝墓、土坑墓・上器棺墓などの遺構と多量の弥生土器・石器・木製品などを検出しており、この時期には複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた=拠点集落。後期になると集落は縮小化し、古墳時代前期にはその中心は南部へ（36次など）、後期には東北部に移行したようである（23次など）。飛鳥時代以降の遺構・遺物は希薄で西部域を中心に生産域と化す。平安時代前半には条里制に伴う遺構が見られるようになり、中世にはその坪境などに溝が穿かれ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

事業者である大阪府（大阪府八尾土木事務所）と調査主体者の東大阪市（東大阪市教育委員会文化財課）は協議に入って、まずは調査域の確認（特に北部）と国道170号線現道下埋設管等の移設・埋設先である両側拡幅箇所の発掘調査を実施することで合意し、平成6年度以降道路拡幅域の確保に伴い隨時調査を続行している。

平成6年度に調査対象の北限および遺跡の北端を確定した国道308号線以北の国道170号線北西側部の調査（第38次）、8年度に同北東側部の調査（第42次）を行ない、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出し、弥生時代前・中期の遺物包含層も確認したが出土遺物は希薄であった。10年度の第44次調査は国道308号線・新川以南で国道170号線の西側にあたり、鋼矢板の根入れの関係で弥生時代相当層は完掘できなかった。調査トレンチ全域の弥生時代中期遺物包含層からは弥生土器などが大量に出土し、南端部からは大型のヒスイ製獣形勾玉が出土した。北側では弥生中期前半から中半の大溝を検出し、当該期の土器のほか石器（ヒスイ製小型勾玉含む）や木器が多く出土した。大溝の西側では土坑墓を2基を検出した。土坑墓1は仰臥伸展位の成人男性が、土坑墓2は鋼矢板で西半分が切断され詳細は不明であるが3体の成人人骨が埋葬されていた。また、近世期の堆積層から「主税」の墨書き土器（奈良～平安期のもの）が出土した。11年度の第49次調査は国道308号線以北で国道170号線の西側にあたり、弥生時代中期の自然流路、中・近世の溝およびと近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。第52次は第49次の北およびこれらの東面側にあたり、弥生時代前期の溝・ピット、中期の溝・自然流路、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。

今回の調査は平成14年3月1日から4月2日まで機械掘削し、その間に1段目支保工および覆工板の架設工事を行ない、4月3日から12月16日まで人力掘削による調査を実施した。

II. 位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高4~8mの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号線（外環状線）がほぼ南北に走り、北部ではこれに直行するように東西方向の国道308号線が延びている。この中央分離帯域には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、4・50年前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が広がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畑遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

绳文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上に点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山遺跡や貝花遺跡がある。早期には多くの押型文土器とともに石器・土偶と炉跡・集石遺構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畑遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、本遺跡東部などからこの時期の海蝕崖が検出され、前期土器や魚介類などの動物遺体が出土している。中期の遺跡としては善根寺・綱手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には、綱手遺跡から多くの土器・石器などとともに住居跡・配石遺構などがあり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土されている。そして晚期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器を確認している日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノドなどの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は平野部に移り、本遺跡の西端に長原式土器と前期土器を包含した貝塚があり、本遺跡中央部や植附・中垣内・本市中南部の山賀遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形周溝墓や貝塚などが検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡でも大集落が形成された。後期になると集落はやや小規模化するものの、本遺跡や段上・上六万寺・北烏池遺跡などの平野部の集落と、山畑・岩瀧山遺跡などで高地性集落が営まれた。

古墳時代前期に本遺跡南部および五合田・西岩田遺跡などから多くの上師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畑・市尻などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくなかった。本市には前期の大型古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山1号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畑古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・出雲井古墳群などの群集墳・植附・段上・巨摩廃寺などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麓部を中心に數多く築造された。

飛鳥から平安時代後半には仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石凝寺、やや後出する客坊廃寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝、須恵器・土師器や墨書き器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構を検出している。

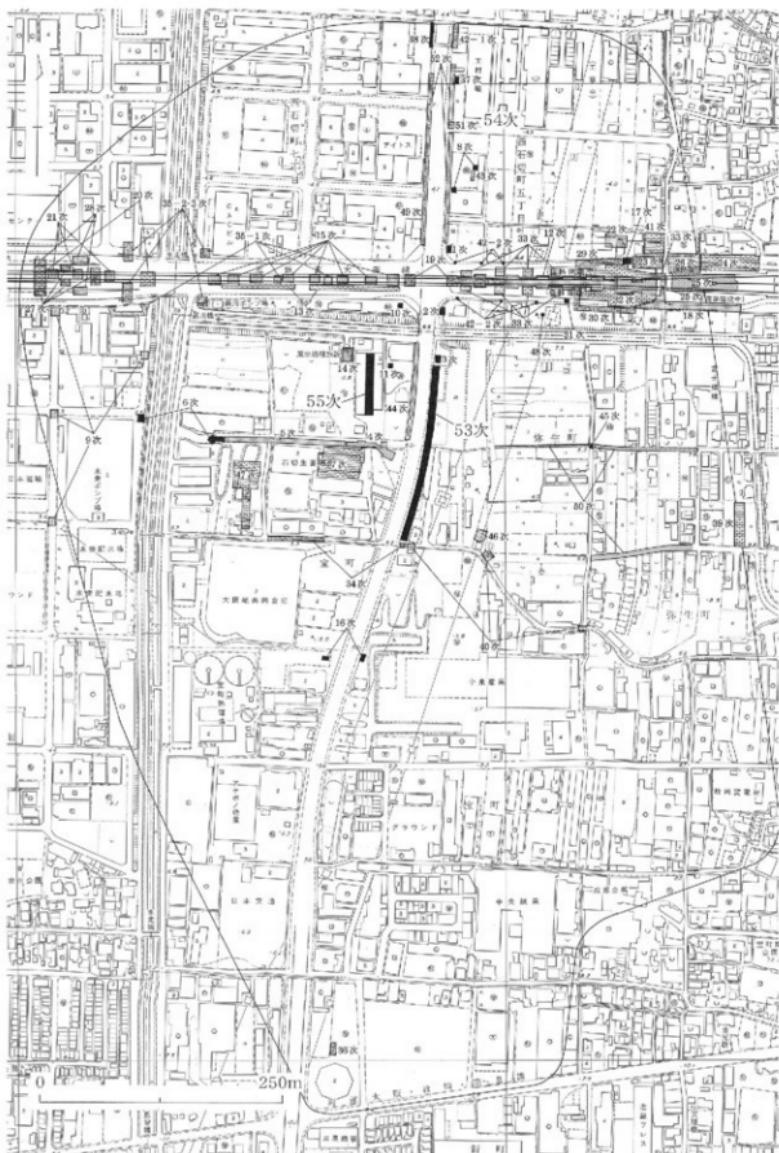
平安時代後期から鎌倉時代にかけては広い範囲にわたり整地活動がみられ、西ノ辻・神並などの遺

跡から掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡を検出している。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けるなど大掛かりな開発を行なうとともに、大溝を作り集落も形成された。

南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いに数多く村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続していた。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が戦乱期に数多く築造されたが、安土・桃山時代までに廃絶または城としての機能をなくしてしまった。江戸時代になると大和川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産城の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畠が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第1図 遺跡周辺図 (1/25000)



第2図 各次数調査地位置図

III. 調査の概要

1. 調査の方法と経過

今回の調査地は国道170号線拡幅予定地で、国道308号線南側の東歩道および拡幅域あたり、工事工程により2つの工区…6工区・7工区に分けて調査を実施した（工区名は平成10年度…1工区、平成11年度…2工区に順じている）。各工区の調査期間は6工区が平成14年3月1日から11月22日、7工区が3月8日から12月16日までであった。各調査工区は幅約5～4mで南北方向に細長く6工区は約96m、7工区は84m、計約866m²であった。調査区は車輌の通行、会社等の営業、掘削残土の搬出箇所の確保などから覆工板を布設した場所もあった。とくに6工区南半分と7工区全面に敷設された。

各工区の調査は基本的に現地表(GL)下約1.5～2mの道路舗装・盛土などを機械掘削し、以下一部機械・人力併用掘削部を設けながらGL～約5mまで人力掘削による調査を実施した。

調査にあたっては道路敷きであり掘削深度が5mをこえることなどから、調査区域は土留め鋼矢板を打設するとともに2段の支保工が架設された。南北方向の腹起に対する東西方向の切堀によって生じた小区画（基本的に南北3×東西4m）を利用して地区割を行ない、それに基づいて遺物の取り上げなどを行なった。また遺構・断面図の製作にあたっても国家座標標と併行して用いた（第3図参照）。

<調査日誌抄>

- 3月1日 6工区調査地の舗装除去および機械掘削開始。
3月8日 7工区調査地の舗装部除去と機械掘削開始。
3月12日 6・7工区にかけて掘り上げ田に伴う井路（溝1）の存在確認。
4月3日 6・7工区、平面の実質的な人力掘削開始。
4月26日までに6・7工区にまたがる溝1写真。
5月17日 7工区、溝6より卒塔婆出土。
5月13日 6工区、西断面1回目分層と写真開始。
6月12日 6工区、東西方向の坪境道の存在確認。溝6より卒塔婆出土。
7月1日 6工区・7工区の6層内で足跡検出。
7月26日～6工区2段目支保工架設準備。
8月6日～7工区2段目支保工架設準備。
8月12日 7工区、上坑墓I検出（8月22日写真）。
8月26日 6工区自然流路掘削。7工区土坑墓II検出（9月2日写真）。
9月9～12日 調査地内調査基本杭の設置。
9月21日 6工区および7工区北側の第14層上面遺構写真。
10月11日 7工区、土坑墓III検出（10月17日写真）。
10月17日 6・7工区北側の第15層上面遺構写真。
10月24日 6工区第16層上面遺構写真。
10月29日 7工区南側第15層上面遺構写真。
10月30日 6工区第17層上面遺構写真。
11月12日 7工区、上坑墓IV検出（11月15日写真）。
11月22日 6工区調査終了。
12月16日 7工区調査終了。

6工区

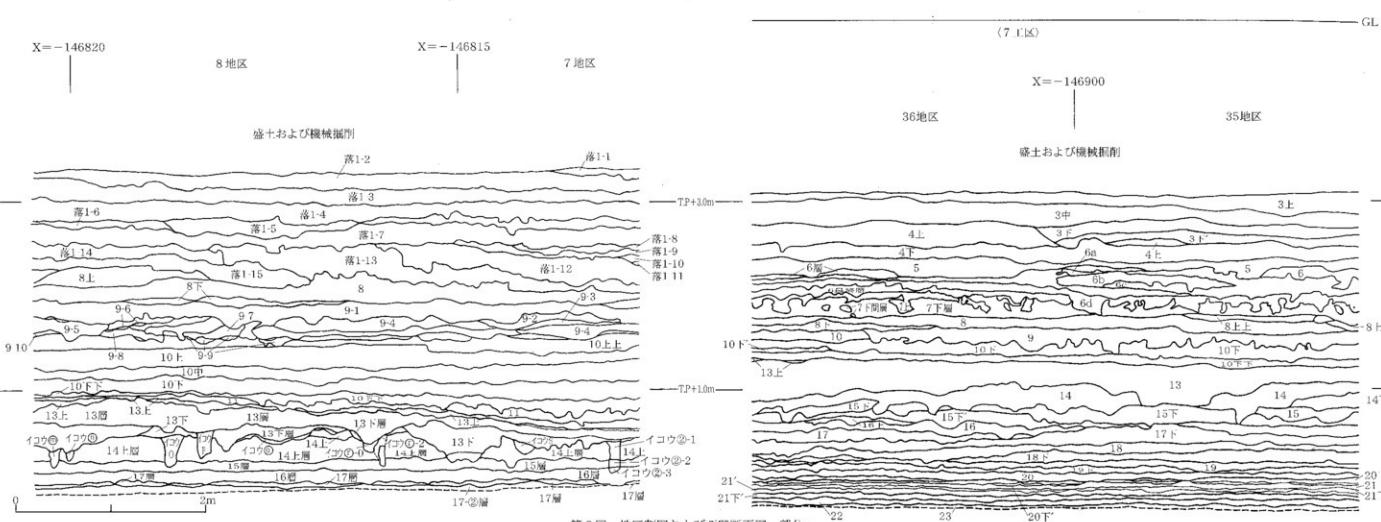
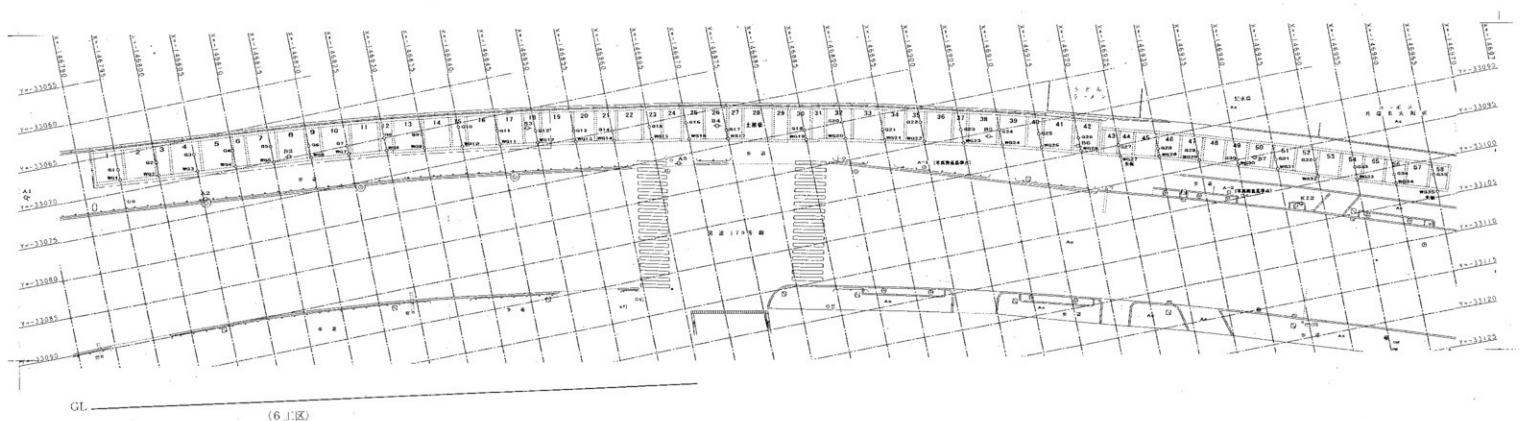
- 高-1-1: 2.5Y4/3 オリーブ色 粘土質土(7.5Y4/1 黒色 粘土質土、小礫含む)
高-1-2: 5Y4/2 黒オリーブ色 シルト(2.5GY4/1 白色オリーブ色シルトを多く混じり、1mm大の礫含む)
高-1-3: 7.5Y4/2 黒オリーブ色 シルト(4~7mm大の礫含む、礫分少)、
高-1-4: 5Y3/1 オリーブ色シルト(3mm大の礫含む)
高-1-5: 10Y4/1 黑色 シルト(2.5Y5/2 増灰黄色 シルトが多く混じり、じり、小~1mmの大礫含む)
高-1-6: 5GY5/1 オリーブ色シルト(鉄分若干含む)
高-1-7: 10Y4/1 黑色 粘土質シルト(GY4/2 黒オリーブ色 粘土質シルト、
2.5GY4/1 黑オリーブ色シルト混じる)
高-1-8: 5Y3/1 オリーブ色 粘土質シルト
高-1-9: 5Y3/2 オリーブ色 シルト
高-1-10: 10GY5/1 黑色 粘土質シルト(GY5/2 黒オリーブ色 粘土質シルト、
鉄物含む)
高-1-11: 10Y4/1 黑色 シルト(小礫若干含む)
高-1-12: 10Y4/1 黑色 シルト(5Y3/1 オリーブ黒色 シルト、7.5Y4/1 黑色 粘
土質土をブロック状に含む)
高-1-13: 7.5Y4/1 黑色 鉄粒砂(7.5Y4/1 黑色 シルトをブロック状に含む)
高-1-14: 7.5Y4/2 黑オリーブ色 シルト(鉄分が多く、3~5mmの大礫若干含む)
高-1-15: 7.5Y4/1 黑色 シルト
高-1-16: 5GY4/1 黑オリーブ色 黑色 シルト(鉄物少若干混じる)
8層: 7.5GY4/1 黑色 粘土
8上層: 7.5GY4/1 増灰黑色 シルト(3mm大の礫含み二重)
8下層: 8GY4/1 増灰黑色 シルト(GY5/2 黒オリーブ色 シルト混じる)
8下層: 10GY4/1 増灰黑色 中粒砂混じりシルト
9層-1: 7.5GY4/1 増灰黑色 シルト(粗粒砂混じる3~7mm大の礫若干含む)
9層-2: 7.5Y4/2 黑オリーブ色 粘土
9層-3: 10Y4/1 黑色 増灰黑色 シルトが若干、中粒砂ミナ状に含む)
9層-4: 7.5Y4/1 黑色 リード鉛Gm(鉛Gmの鉛合む)
9層-5: 2.5GY3/1 黑オリーブ色 粘土(細粒砂、5mm大の礫含み、中粒砂
ミナ状に混じる)
9層-6: 5GY4/1 増灰黑色 シルト
9層-7: 7.5GY4/1 増灰黑色 サークル砂(7.5GY4/1 增灰黑色 シルトが若干混じる)
9層-8: 5GY4/1 黑オリーブ色 粘土
9層-9: 2.5GY4/1 黑オリーブ色 黑色 増灰砂(若干粗粒砂が混じる)
9層-10: 2.5GY4/1 黑オリーブ色 黑色 中粒砂
10上層: 2.5Y5/2 増灰黄色 粘土質シルト(GY5/2 オリーブ色 粘土
-GY5/2 黑色 粘土質土)、鉄物含む
10上層: 5Y5/2 黑オリーブ色 粘土質シルト(GY5/2 オリーブ色 増灰砂混じる)
10中層: 5Y5/2 黑オリーブ色 粘土質シルト(7.5Y4/1 黑色 粘土質シルトと鉄分
若干混じる)
10下層: 2.5Y4/1 黑色 粘土質シルト(中粒砂含む)
10下層: 5Y4/1 黑色 粘土質シルト
11層: 5Y4/1 黑色 粘土質シルト(10GY5/1 増灰色 粘土質シルトをブロック状に
混じる)
13上層: 5Y4/1 黑色 粘土質シルト(10YR6/4 にびい黄灰色 粘土質シルト若干
混じる)
13下層: 5Y2/1 黑色 中粒砂混じり粘土質シルト(粘性強)
14上層: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト
15層: 10Y3/1 黑オリーブ色 粘土質シルト
16層: 5GY3/1 増灰黑色 粘土質シルト
17層: 7.5GY4/1 増灰黑色 粘土質シルト
17-18層: 10Y3/1 オリーブ色 黑色(7.5GY4/1 増灰黑色 粘土質シルト混じる
底層): 7.5Y5/1 増灰色 粘土質シルト
底層: 5Y5/3 黑オリーブ色 シルト(粗粒砂混じり)、鉄物含
溝6: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト
イコウcm: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(7.5Y4/1 黑色 粘土質シルトをブロック状
に混じる)
イコウc: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト
イコウo: 5Y2/1 黑色 中粒砂混じり粘土質シルト(7.5Y4/1 黑色 粘土質シルト
-鉄物含む若干混じる)
イコウq: 2.5Y2/1 黑色 粘土質シルト(若干(4層混じる)
イコウr: 1: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(粘性強やや弱)
2: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト
イコウs: 7.5Y2/1 黑色 粘土質シルト(2.5Y5/2 増灰黄色 粘土質シルトと鉄物
含む)

7工区

- 7下層じる)
イコウr-1: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(中粒砂を若干混じる)
2: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(5Y4/1 黑色 粘土質シルトをブロック
状に若干混じる)
3: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(木片若干混じる)

7工区

- 3上層: 10Y6/4 にびい黄褐色・10Y5/1 黑色 砂混じり粘土質シルト
3中層: 5Y4/3 前オリーブ色 砂混じりシルト頁土
3下層: 7.5GY5/1 綠褐色・2.5Y4/6 オリーブ褐色 砂混じり上
3下層: 5GY5/1 オリーブ色 黑色 砂混じりシルト
4上層: 10Y5/1 黑色 彩・小塊混じり粘土質
4下層: 5GY4/1 始オリーブ色 黑色 砂混じり頁土
5層: 10GY4/1 黑色 青色 砂混じり粘土質シルトと7.5Y5/2 オリーブ色 黑・小綠
葉じり土の粘土
6最上層: 10Y4/1 黑色 シルト
6中層: 10Y3/1 オリーブ黑色 粘土質砂混じり粘土質シルト(中粒砂若干混じる)
6中層: 5Y5/1 黑色 シルト混じり粗粒砂(中・粗粒砂、2mm大の礫含む)
6中層: 7.5Y3/1 オリーブ黑色 粘土質砂混じり中粒砂(2~10mm大の礫含む)
6中層: 5Y5/2 黑オリーブ色 粘土質シルト
6最下層: 7.5Y4/1 黑色 粘土質シルト
7層: 7.5Y5/1 黑色 粘土質シルト(粗粒砂、3~5mmの大礫多く含む)
7下層: 7.5Y2/1 黑色 粘土質シルト(粗粒砂、2~3mmの大礫多く含む)
7下層: 7.5Y3/1 オリーブ黑色 黑土質砂混じり中粒砂若干混じる)
(8上層): 10Y3/1 オリーブ黑色 中粒砂シルト
8上・層: 10Y3/1 オリーブ黑色 黑土質シルト(粗粒砂、2~3mmの大礫多く混
じる)
8下層: 7.5Y3/1 オリーブ黑色 粘土・中粒砂(2~5mmの大礫多く含む)
9層: 10Y4/1 黑色 鉄粒砂混じり粘土質シルト(中・粗粒砂若干混じる)
(10下層): 10Y3/1 オリーブ黑色 粘土質シルト混じり中粒砂(2~5mmの大礫含む)
(13上層): 7.5Y2/1 黑色 黑土質シルト(鉄性強い、粗粒砂、2~3mmの大礫、混
多く含む)
13層: 7.5GY4/1 黑色 粘土質シルト(中~粗粒砂、2mmの大礫多く含む)
14層: 7.5Y2/1 黑色 黑土質シルト
14下層: 7.5Y2/1 黑色 中粒砂混じり粘土質シルト(2~3mmの大礫含む)
(15層): 7.5Y3/1 オリーブ黑色 黑色(粗粒砂混じり粘土質シルト(中・粗粒砂若干混じる)
15下層: 7.5Y1/1 オリーブ黑色 黑色 粘土質砂混じり頁土(10Y2/1 黑色 黑土質シル
トをブロック状に混じる)
15下層: 10Y3/1 オリーブ黑色 黑・細粒砂(鉄物含む)
16上層: 10Y3/1 オリーブ黑色 黑・細粒砂(鉄物含む)
(16下層): 10Y1/1 黑色 増灰砂混じり頁土(中・粗粒砂若干混じる)
(17層): 7.5Y3/1 オリーブ黑色 黑色 粘土質シルト(中・粗粒砂若干混じる)
18層: 5Y2/1 黑色 粘土質シルト(鉄物含む)
18下層: 7.5Y3/1 黑色 錫鉱砂混じり粘土質シルト(粘性強)
19層: 5GY4/1 始オリーブ色 黑土質シルト若干(若干7.5Y3/1 オリーブ黑色 粘土
質シルトをブロック状に混じる)
20層: 7.5Y3/1 オリーブ色 黑土質シルト(7.5Y4/1 増灰黑色 黑色 粘土質シルト(粘性強
い)がブロック状に混じる)
20下層: 10Y2/1 黑色 粘土質シルト
20下層: 5GY5/1 オリーブ色 黑土質シルト(粘性強)、7.5Y2/1 黑色 黑
土質シルトが若干混じる)
21層: 7.5Y2/1 黑色 粘土質シルト(粘性強)
21下層: 7.5Y2/1 黑色 黑色 黑土質シルト(粘性強い、7.5GY5/1 増灰黑色 黑土質シ
ルトが若干混じる)
21下層: 7.5GY5/1 増灰黑色 黑土質シルト(7.5Y2/1 黑色 粘土質シルト(粘性強
い)が混じる)
21下・層: 7.5GY5/121 黑色 黑土質シルト(粘性強く、7.5GY5/1 増灰色 黑土質シ
ルト)若干混じる)
22層: 10Y2/1 黑色 黑土質シルト(粘性強)
23層: 7.5Y5/1 黑色 黑土質シルト(粘性強い、上部では7.5Y2/1 黑色 黑土質シ
ルトが多く混じる)



第3図 地区割図および西壁断面図一部

2. 層位

盛上

第1層 旧耕土で土師器・須恵器・陶器の小細片などが出土し、溝1などの掘り上げ田に伴う井路などを検出した。

第2層 旧床土 若干の土師器・須恵器・陶器小細片とカメ腹側板の一部（資料番号101）などが出土した。上面で落ち込みを検出した。

第3層 3～4層に分かれる砂混じりシルト質上・シルトを主体としていた近世末から近代の整地・耕作上。土師器・須恵器・瓦器・陶器・瓦などの小・細片が出土した。耕作上面で、落ち込みなどを確認し、整地層上面で坪境の道（曇）・溝・土坑・自然流路などの遺構を検出した。

第4層 2～3層に分かれる砂・小礫混じり粘質土・粘土の耕作土。土師器・須恵器・瓦器・陶器・瓦などの小・細片が出土した。坪境の道（曇）・落ち込み・溝など検出した。

第5層 砂混じり粘土質シルトと砂・小礫混じり土の混ざった整地土。土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土した。

第6層 砂・シルト・シルト質粘土の互層。2～3面の足跡検出した。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器などの小・細片が出土した。

第7層 シルトまたは粘土質シルトで、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器の小・細片と鉄製品などが出土した。上面で坪境の道（曇）・溝・足跡などを検出した。

第8層 粘土・粘土質シルトの堆積層。弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器の小・細片とウマの骨（資料番号102）などが出土した。

第9層 粘土質シルトを主体とし、6工区では砂・粘土質シルトの互層をなしていた。弥生土器・土師器・須恵器・埴輪などが出土した。

第10層 砂混じりの粘土質シルトを主体とし、3～4層に分かれる。弥生土器・土師器・須恵器・製塙土器の小・細片とヒトの上腕骨（資料番号156）などが出土した。上面で坪境の溝・溝・足跡・土坑などを検出した。

第11層 植物遺体および植物遺体を多く含むシルト質粘土層で、カモの仲間の骨（資料番号103）などが出土した。

第12層 植物遺体を含むシルト質粘土および粘土の互層。

第13層 砂・礫などを含むシルト・粘土質シルトで2～3層に分かれる。弥生土器・石器・木器・サヌカイト・動物遺体などの弥生時代の遺物を多量に包含していた。上面で落ち込み2基と3筋の自然流路を検出し、7工区では中面および下面で上坑墓・上器柏墓を検出した。

第14層 砂混じり粘土質シルトを主体とし2～3層に分かれる。弥生土器・石器・サヌカイトなどの遺物を包含していた。上面で弥生時代中期半ばごろの遺構を検出した。

第15層 砂混じり粘土質シルトを主体とし2～3層に分かれる。弥生土器・サヌカイト小片などが少量出土した。上面で弥生時代中期前半ごろの遺構を検出した。

第16層 砂混じり粘土質シルトで、弥生土器・サヌカイト小片などが少暈出土した。上面で弥生時代中期初頭ごろの遺構を検出した。

第17層 砂を若干含む粘土質シルト。6工区北側において上面で弥生時代前期ごろのピット・小溝などの遺構を検出した。

第18層 黒色粘土質シルトで2層に分かれる。

第19層 暗オーリープ灰色粘土質シルトを主体とし2層に分かれる。

- 第20層 黒色粘土質シルトで3層に分かれる。
- 第21層 黒色粘土質シルトと緑灰色粘土質シルトの互層の4層に分かれる。
- 第22層 黒色粘土質シルト。
- 第23層 灰色粘土質シルト。
- 第17層以下は無遺物層。

3. 遺構

古い時代から順をおって調査内容を概観していく。

【縄文時代以前】

粘土・シルトなど確認した層は縄文時代後・晩期対応層（第17～23層）で、いわゆる河内湖・潟期の自然の堆積状態を示しているが、遺物は出土していない。ただ、弥生時代中期後半の整地層である第13層内（1・2・5・6、8～11）と弥生時代の遺構内（3・4・7）などから凸帯文土器などの晩期土器片が出土している。この時期の明確な遺構は確認できなかった。

【弥生時代】

<前期>

東方の調査（第40・46次調査）で前期の大溝などが確認されている。今回の調査では前期土器は中期包含層から出土しているが、遺構としてはピット、土坑、溝および土器棺墓などを検出したのみで、相対的にあまり多くない。

第17層上面遺構（第4図 図版7）

6工区1から11地区でのみでピット5個、土坑1基、溝1条を検出した。

P1321・1322・1434・1436は径0.1m前後、深さ0.05m前後の小ピットで、埋土は前3個が2.5Y2/1黒色粘土質細・中粒砂混じり粘質シルト、P1436は10Y2/1オリーブ黒色粘土質シルト。P1435は径0.2m、深さ0.08mを測り、埋土は5Y2/1黒色細粒砂混じり粘質シルト。土坑125は西側半分のみ検出（東側溝で切断）、径0.6m、深さ0.1m、埋土。7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト。溝162は北側先の土坑84によって切断されており、残存長0.55m、幅0.15m、深さ0.05mを測り、埋土は5Y2/1黒色粘土質細粒砂混じり粘質シルト。いずれからも遺物は出土しなかったが、検出層から前期相当期のものと思われる。

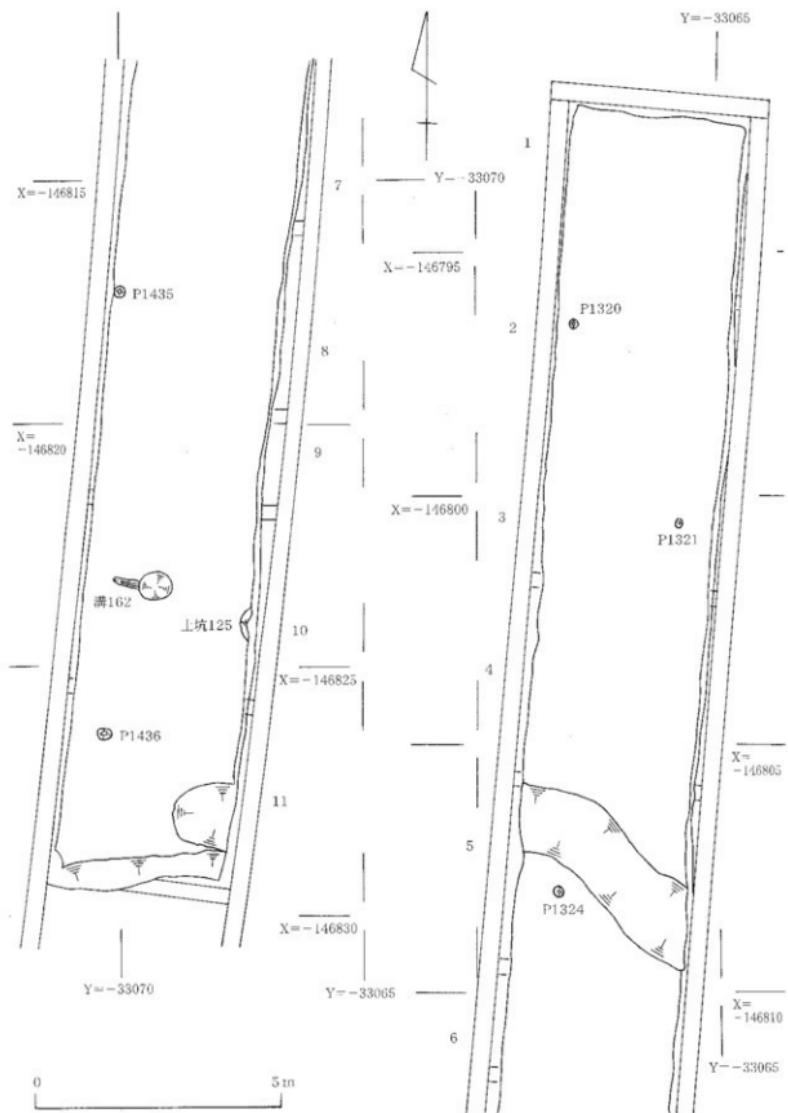
土器棺墓II-壺棺II-（第5図 図版22）

7工区54地区での第15層相当層上面で土坑128を検出した。上部は弥生時代中期後半の整地時（第13層）に敵愾され、土坑内に口縁を北西方向に向けてほぼ横向けにえられていた壺（432）の胴・下部の一部も欠損していた。土坑は0.8m×0.65m、深さ0.3mの楕円状を呈し、土坑底部に暗オリーブ灰色粗粒砂混中粒砂（d）を敷いて壺を据え、その周りを粘土質シルト混じり黒色中粒砂・黒色粘土質シルト（b・b'）で埋めて固定していた。そしてその上を暗緑灰色粗粒砂混中粒砂（シルト若千混）で覆って埋められていた。

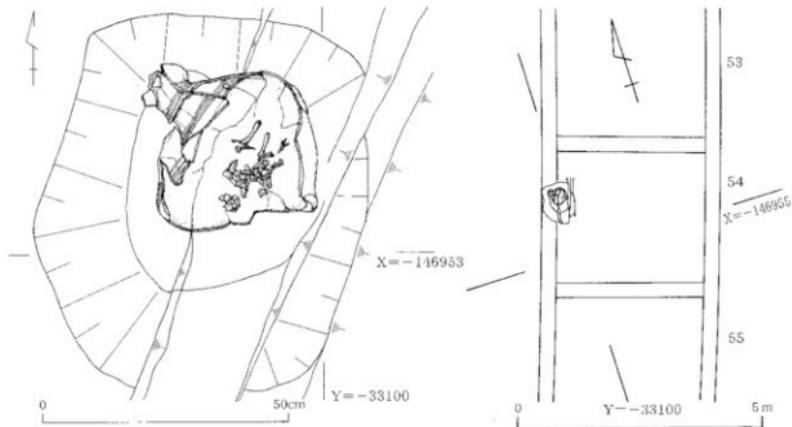
壺内は下部一帯が黒色細～中粒砂混粘土質シルト（a）で、その中からは幼児（胎児）の骨が出上した（VII号人骨）。骨の遺存状況はわりと良く、頸蓋骨・大腿骨などの四肢骨があった。

<中期前葉から中葉>

この時期の集落域期の遺構面は最低4面あり（調査時での遺構検出層は第14・15・16上・16下層）、各面で遺構に切り合い関係が見られ、さらに複数の時期にわたっていたものと思われる。



第4図 第17層上面遺構平面図



第5図 土器棺墓II平面図

後述していくように、各面からは各種の溝、土坑（井戸含み）、ピット群（柱根残存のものあり）などが見られ、とくに第14・15層上面遺構は調査地のほぼ全域にわたっていた。

第16層は上部が暗灰色粘土質シルト、下部が灰色砂混じり粘土質シルトに分かれ、若干の弥生土器片が出土し、それぞれの上面でピット・土坑を検出した。

第16下層上面遺構（第6図）

遺構は第16下層が残存していた33地区から53地区（7工区）で検出した。33～38地区にかけては45のピット群（P1478～1520・1642）が見られた。ピットには径10cm前後の円形もの・径20cm前後円形のものと30～40cmの円形またはやや不定形なものがあった。ピット群は33地区東南から38地区西北部にかけて帯状に分布していた。

39～43地区では遺構は検出されず、44地区から53地区にかけては数が少くなり、径10cm前後のピットは1（P1598）しかなく、他は径15cm以上で大きいものは径50cmに近いピット（P1571～1599）と2基の土坑（土坑99・133）を検出した。土坑133は長辺1.1m、短辺0.6mの隅丸長方形を呈し、深さ0.18mを測った。土坑99は西側が不明であるがほぼ同規模のものと思われ、埋土は中粒砂を多く含む黒色（7.5Y2/1）粘土質シルトであったが遺物はなかった。この地域の遺構は33～38地区的ピット群に比べるとまばらであった。46地区のP1574のそばからは弥生土器高杯脚部片が出土した。

第16上層上面遺構（第8図 図版8～12）

柱穴などのピット群、土坑など検出した。1～8地区は土坑3基（土坑130・82・129）、溝（138）とやや多くのピットが見られたが、9～29地区まではまばらであった。しかし、30地区付近から37地区付近にかけては3基の小土坑（土坑98・123・124）、1条の溝（溝166）と多数のピットを検出した。しかし、38地区以南になると49～51地区付近で土坑2基（土坑99・133）とやや多くのピットが見られたが、全体的にはまた少なくなっていた。

以下、主要な構造を北側（1地区）から概観して記す。

土坑130（1地区）は、3.7×1.6m、深さ0.15mを測る（北・西など調査地外）。埋土は黒色（5Y2/1）粘土質シルトで、壺（176～178）・鉢（179）・甕（180・181）などの弥生土器、板（1172）



第6図 第16下層上面造構平面図

などが出土した。

上坑82（2・3地区）は、 2.3×1.5 m、深さ0.1mを測る舌状土坑（西は調査地外）。埋土は植物遺体を含む黒色（2.5Y2/1）粘土質シルトで、壺（132）・鉢（131・135）・甕蓋（133）・壺蓋（134）・甕（136～138）などの弥生土器、自然木などが出土した。

溝138（3地区）は、 1.2×1 m、深さ0.08mの舌状（西は調査地外）を呈する。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘土質シルトで、壺（390）・鉢（391）・甕（388・389）などの弥生土器が出土した。断面観察の結果、第14層上面の造構と判った。

上坑129（3・4地区）は、北は溝138で切断、西は調査地外。 1×0.7 m、深さ0.1mを測る舌状土坑（西は調査地外）。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘土質シルトで、高坏（170）などの弥生土器が出土した。

土坑99（50地区）は、 0.8×0.5 m、深さ0.08mを測る角張った舌状土坑（西は調査地外）。埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土質シルトで、壺（167）・高坏（168）・甕（166）などの弥生土器、大型哺乳類などの動物遺体（資料番号32・33）が出土した。

この造構面で検出した柱状木製品および杭の状況を見てみると（第7図参照）、ピットを穿って径15cm以上の木を埋設したもの－P1306・1247・1220など、直接打ち込んだ径1.3cmまでのもの－杭1・r・jーなどがあった。ピットのうち出土遺物を検出した主なものは、以下のとおりである。P1453からシカ（資料番号96）。P1461からは金（446）。P1629からは壺（450）。

第15層は調査地のほぼ全域に広がっていた整地層で、粗粒砂混じりオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし、上部などに細粒砂混じり灰色粘土質シルト、下部の一部に礫を含むオリーブ黒色中・細粒砂が見られる混上層であった。肩内からは弥生土器、打製石器・動物遺体、サヌカイト片などが出土した。

弥生上器は壺（916・917）・甕（918～920）・高坏（921）・鉢（922～925）などであった。

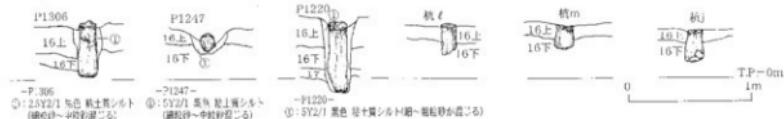
動物遺体はイノシシ（資料番号230）・シカ（資料番号229・231）・大型哺乳類（資料番号228）などであった。

15層上面造構（第9・10図 図版13～21）

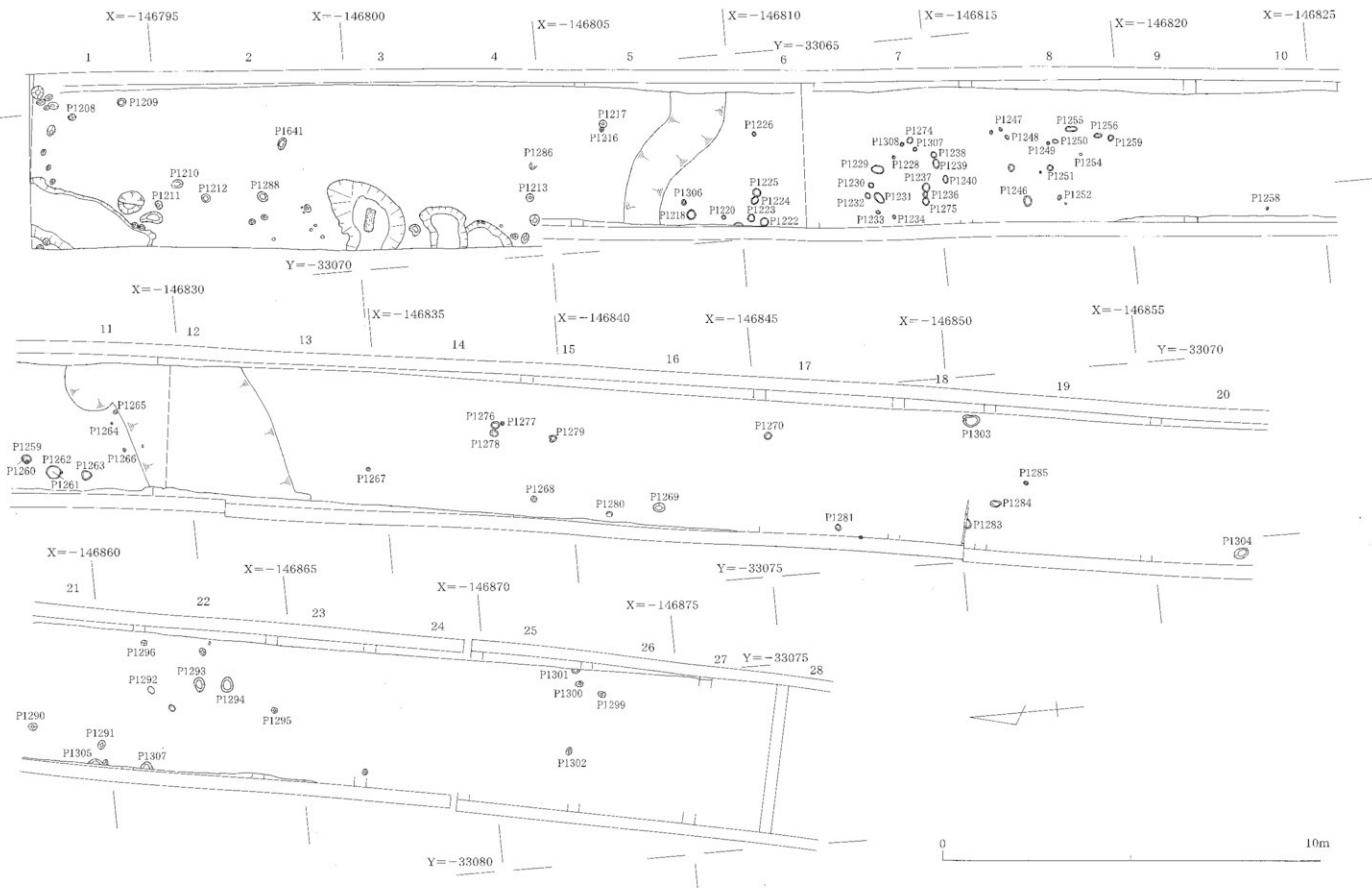
柱穴などのピット群、土坑（井戸含む）、溝、土坑墓などを検出した。以下、主要な造構を北側（1地区）から概観して記す。

土坑82（2・3地区）は、南北2.1m、東西1.3m、深さ0.15mを測る舌状土坑（西木調査）。埋土は黒色（2.5Y2/1）炭・小礫粘土質シルトで、壺（132）・鉢（131・135）・甕蓋（133）・壺蓋（134）・甕（136～138）などの弥生土器、イノシシ・シカ？などの動物遺体（資料番号23・24）が出土した。

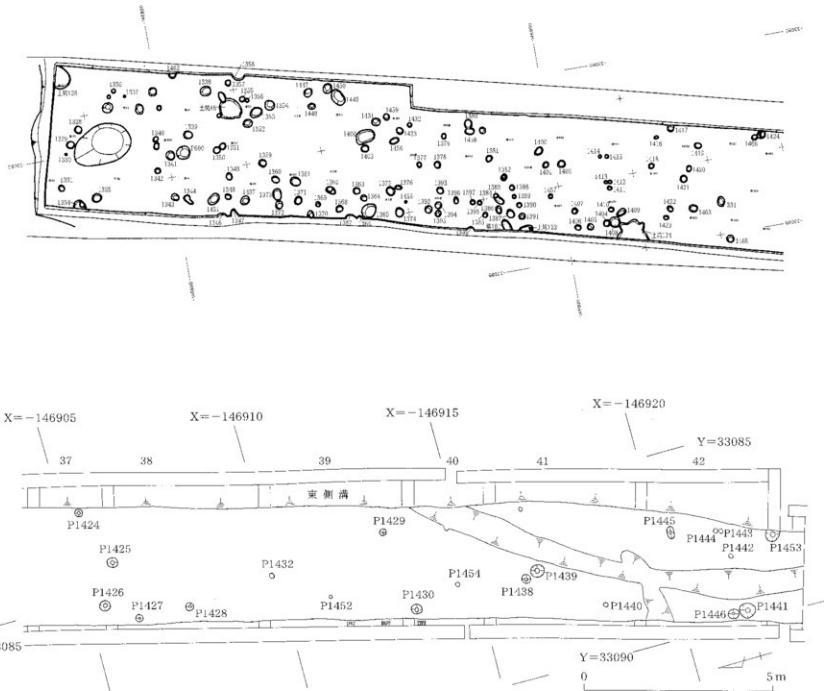
溝138（3・4地区）は、幅0.68～1m、深さ0.08mを測る東西方向の溝。南肩の一部は上坑97によって切られている。埋土は緑灰色（7.5GY6/1）粘土質シルトを若干含む黒色（5Y2/1）粘土質シルトで、甕（388・389）・壺（390）・鉢（391）などの弥生土器、板（1174）、鹿角製品（1203）、シカなどの動物遺体（資料番号71・72）が出土した。



第7図 第16層上面造構断ち割り断面図



第8図 第16層上面遺構平面図



第8図 第16層上面造構平面図

土坑83（4地区）は、 1.62×1.16 m、深さ0.35mの小判形を呈する土坑。埋土は黒色（2.5Y2/1）炭・小礫粘土質シルトで、壺（129）・鉢（130）などの弥生土器、先尖棒（1171）・板（1173）などの木製品が出土した。

土坑97（4地区）は、幅 2×1.2 m、深さ1.4m以上の円形（東は未調査）十坊〔=井〕。埋土は黒色（5Y2/1）・オリーブ黒色（7.5Yないし5Y2/2）などの砂混じり粘土質シルトで6層に分かれ—第11図参照—、甕（144）・鉢（145～147）・壺（148）・細頸甕（149）などの弥生土器、石庖丁（1072）などが出土した。

土坑96（26・27地区）は、南北2.2m、東西2m（西は未調査）の舌状土坑の北よりに、径1.7m、深さ0.5mの円筒部があり、東北東から流れ込む溝153—幅0.36～0.52m、深さ0.25m、断面は第11図参照—があった。円筒部は黒色（7.5ないし5Y2/1）などの砂混じり粘土質シルトで7層に分かれ—第11図参照—、甕（162～164）・鉢（165）・壺（152～161）・細頸甕（150）・無頸甕（151）などの弥生土器、石庖丁（1072）・石槍（1118）などの石器、農具原材（1178）などの木製品、イノシシ・大型哺乳類などの動物遺体（資料番号30・31）が出土した。

土坑10（27・28地区）は、 1×0.8 m、深さ0.12mの不整梢円形を呈し、埋土は黒色（5Y2/1）シルト混じりオリーブ黒色（7.5Y2/2）シルトで、甕（28）などの弥生土器が出土した。

溝81（27～29地区）は、北東から南西方向にのびる溝。検出長9.4m、幅1～0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色（2.5Y2/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、弥生土器片・サヌカイト片などが出土した。

土坑85（30・31地区）は、径2.5m、深さ0.3mを測る円形土坑。埋土は黒色（5Y2/1）砂混じり粘土質シルトで、壺（139）・甕（140～142）などの弥生土器、自然木などが出土した。

土坑86（31・32地区）は、径1.6m、深さ0.7mを呈する円形土坑=井戸。埋土は黒色（2.5Y2/1）粘土質シルトで、弥生土器片・サヌカイト片などが出土した。

溝139（36地区）は、幅2.1m～0.2m、深さ0.07mを測る南東から北西方向にのびる。埋土は黒色（7.5Y2/1）粗粒砂混じり粘土質シルトで、イノシシ（資料番号73）などが出土した。

土坑100（38地区）は、 1.04×0.77 m、深さ0.2mの小判形を呈し、埋土は黒色（5Y2/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、甕（100）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号34）などが出土した。

土坑87（45地区）は、 0.7×0.4 m、深さ0.12mを測る半円状を呈し（東未調査）、埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土質シルトで、シカ（資料番号26）などが出土した。

土坑103（48～50地区）は、検出東西長4m、南北1.15m（東は溝99で切断、西未調査）、深さ0.15mを割り、側・底面からは土坑121、ピット4などを検出した。埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）中・粗粒砂・小礫混じり粘土質シルトで、甕（172～174）・甕（175）などの弥生土器、凸帯文土器片（3）、動物遺体片（資料番号35）などが出土した。

土坑104（52・53地区）は、溝146北斜面で検出した。 0.74×0.32 m、深さ0.14mを測る小判形土坑。埋土は黒色（7.5Y2/1）粗粒砂混じり粘土質シルトで、ヒトの右脛骨（V号人骨）が出土した。後述する土坑墓Ⅲ（Ⅲ号人骨）とは別個体。

土坑105（53地区）は、溝146底東部で、土坑106とともに検出した。南北0.95、東西1.1m（東は未調査）、深さ0.2mの半小判形を呈し、埋土は黒色（7.5Y2/1）中・粗粒砂混じり粘土質シルトで、小型甕（105）などの弥生土器とヒトの頭蓋骨と下頬骨の一部（IV号人骨）が出土した。後述する土坑墓Ⅲ（Ⅲ号人骨）とは別個体、V号人骨との関係は不明。

その他多数のピット検出した。P 538・585・592・662・666・864・1172や杭として記してはいるが杭1・杭a・杭dなどに柱根が残存し、杭用と思われる径0.1m未満のピットも多く見られた。ピットのうち出土遺物を検出した主なものは以下のとおりである。P 690からはイノシシ（資料番号87）。P 738からは董（442）、イノシシまたはシカ（資料番号88）。P 756からは大型哺乳類（資料番号89）。P 807からは海面質（資料番号90）。P 847からは大型哺乳類（資料番号91）。P 874からは右錐（1161）。P 985からは動物遺体片（資料番号92）。P 988からは肋骨片（資料番号93）。P 1001からは長骨片（資料番号94）。P 1010からはシカ（資料番号95）。

土坑墓III-Ⅲ号人骨-（第12図 図版23）

53地区の溝146底の第15層相当層上面で検出した。土坑内からは頭位をほぼ北北西にした仰臥屈葬の成人男性人骨（Ⅲ号人骨）が出土した。土坑は2.5m×0.7mを測る、底面が頭部から身体へかけてゆるやかに傾斜した細長い長方形状を呈していた。周辺および上部が後世の遭構（溝146など）で破損していたため正確な形・計測値は不明であり、頭蓋骨上面部・右足骨など、人骨の一部も欠損していた。

身体は仰向けに寝させ、両腕はかるく外側へ「く」の字状におりまげ、手を下腹部横に置いていたと思われる。両脚はほぼまっすぐに伸ばしてあった。下頸骨は右方向に倒れて頸骨部にかかり、首をすばめたようになっていた。頸骨の後部からは骨製の刺突具と思われるものが刺さった状態で出土し、腰近くの脊椎骨付近からも右鎖が出土した。また、胸骨の一部も変形しており、生前に何らかの外傷をうけたものと思われ、殺害された可能性が考えられる。土坑内からは凸帯文土器片（7）などが出土した。

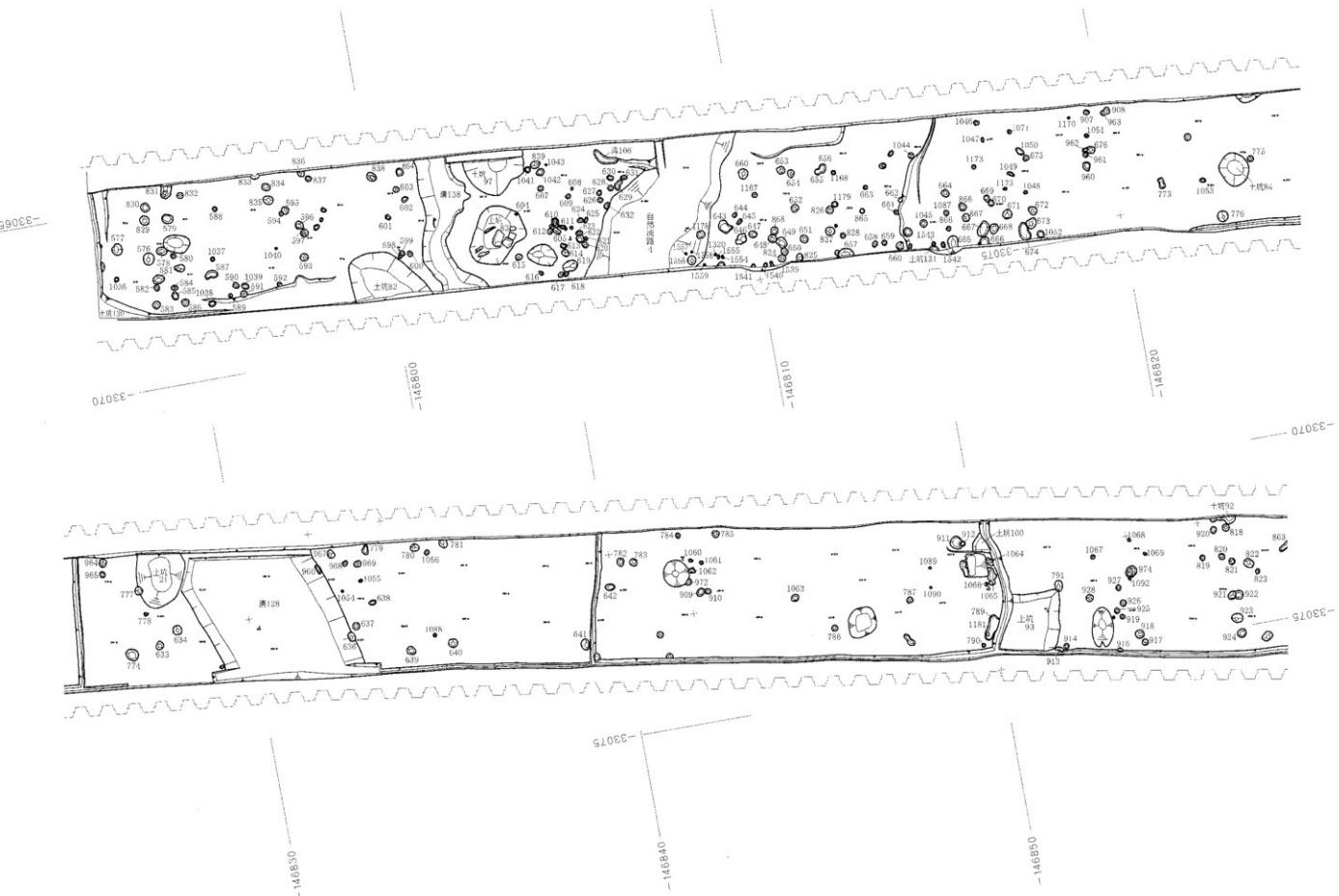
また、土坑墓III西方の第15層内からは新生児と思われるヒトの骨が散乱した状態で出土した（資料番号232）。

土坑墓IV-Ⅶ号人骨-（第12図 図版40）

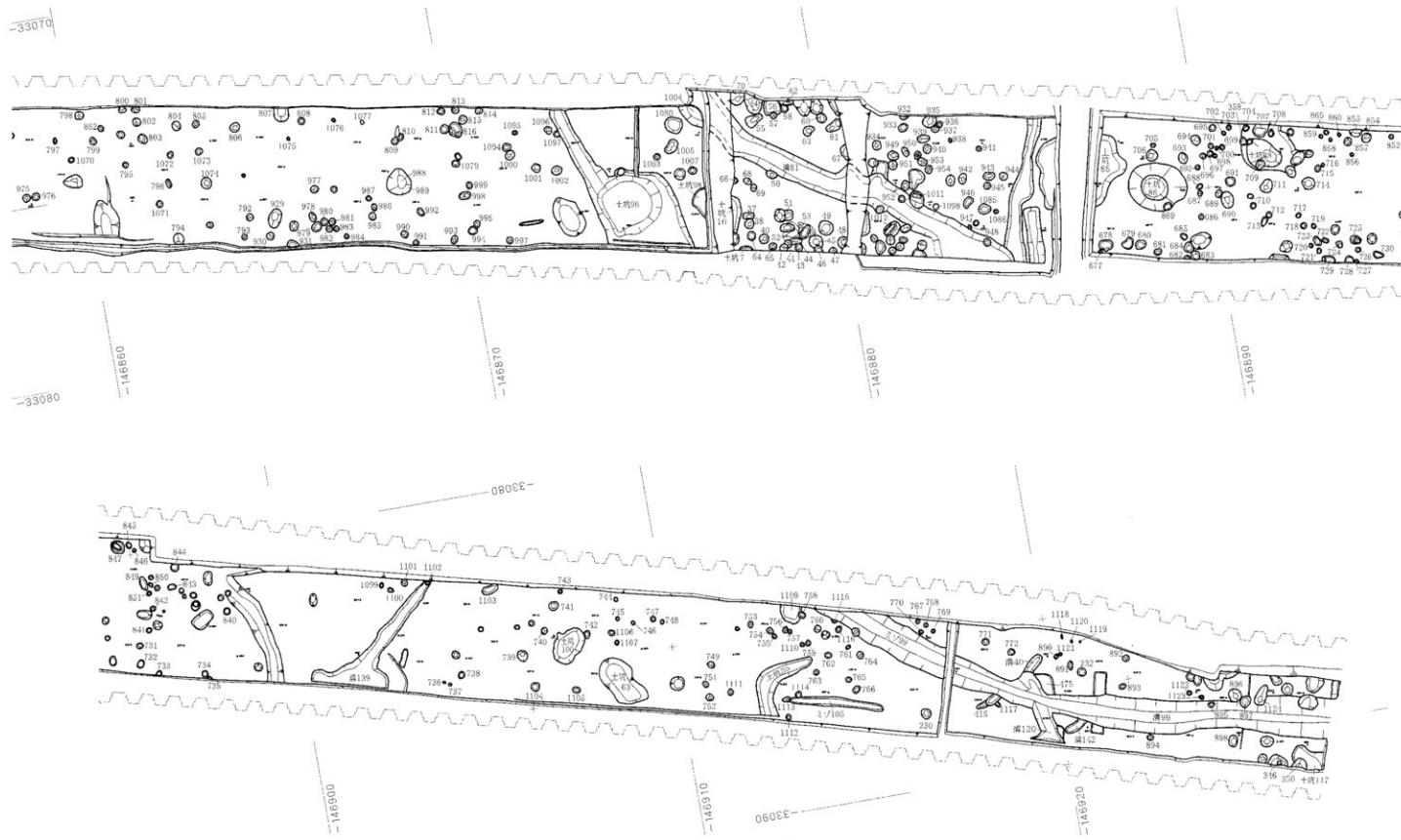
溝134下の第15層上面で検出した。土坑は東西1.5m×南北0.8mのやや細長い楕円形を呈し、土坑内からは頭位をほぼ北西にした仰臥屈葬の成人男性骨（Ⅶ号人骨）が出土した。顔面および上体を仰向けにし、右腕は「く」字状に曲げて手を右胸部におき、左腕は左側部に真直ぐ沿わせていた。両脚は両膝を強く折り曲げ、揃えて左へ倒れていた。顔面は攪乱を受け破損していたが、全体的に残存状況は良好であった。

54・55地区において自然流路5の下からこの時期の自然流路5'を検出した。この流路は自然流路5とほぼ同方向に流れている。検出幅5.4m、深さ0.9mを測るが、中央部上部は自然流路5によって窪み、北側は整地土である第14層が覆っていた。北斜面は南に比して段をなして各斜角度は強く、瀬であったことを示している。上部から黒色中～粗粒砂混じり粘土質シルト（2～5mm大の礫若干含む）・黒色粘土質シルト（粗粒砂と2mm大の礫を若干混）・黒色シルト混細～中粒砂・黒色シルト（中～粗粒砂若干含む）・黒色粘土質シルト（粘性強く、中粒砂若干と灰色粘土質シルト含む）・黒色シルト質細粒砂・黒色粘土質シルト（細～粒砂若干含む）で、弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

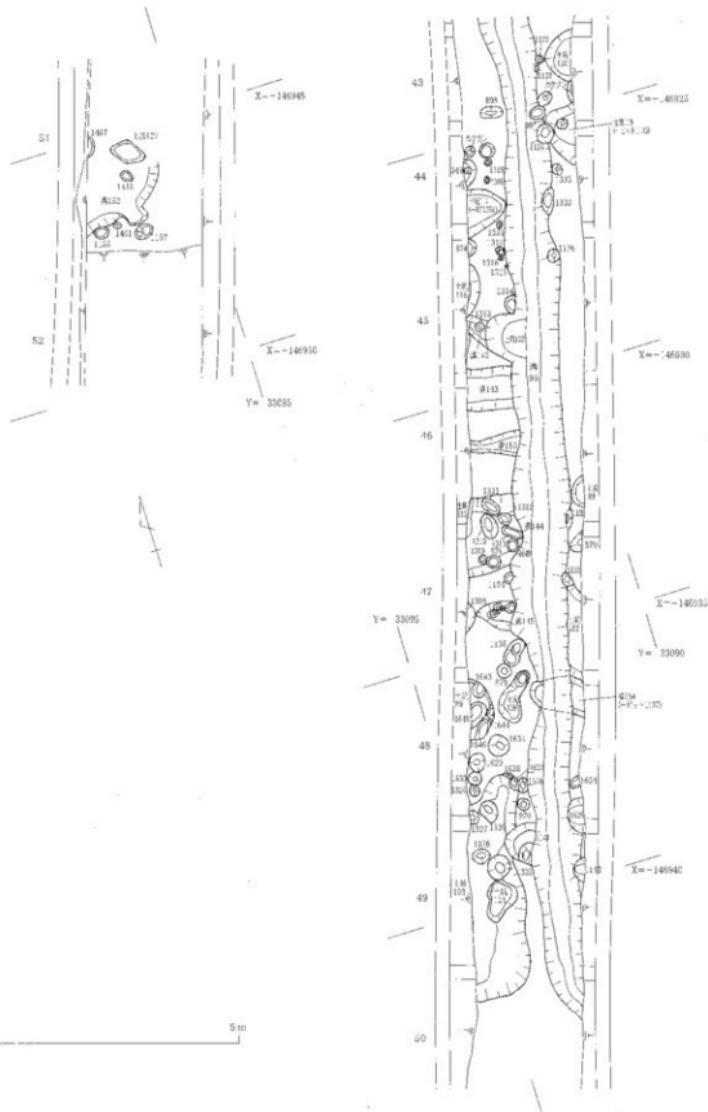
第14層は調査地の52地区以南を除いてほぼ全域に広がっていた整地層で、中粒砂混じり黒色粘土質シルトを主体とし、下部などに細粒砂混じりオリーブ黒色粘土質シルトが見られる混上層であった。層内からは弥生土器、打製・磨製など石器、動物遺体、植物遺体、サヌカイト片などが出土した。



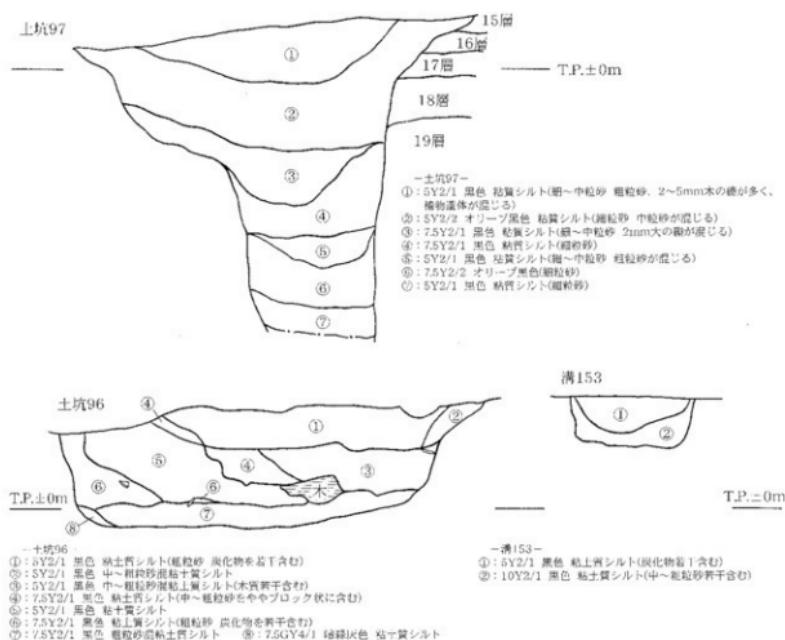
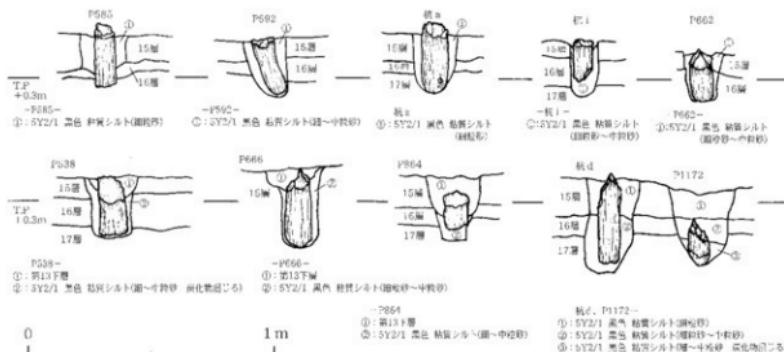
第9図 第15層上面造構平面図(1)



第9図 第15層上面構造平面図(1)



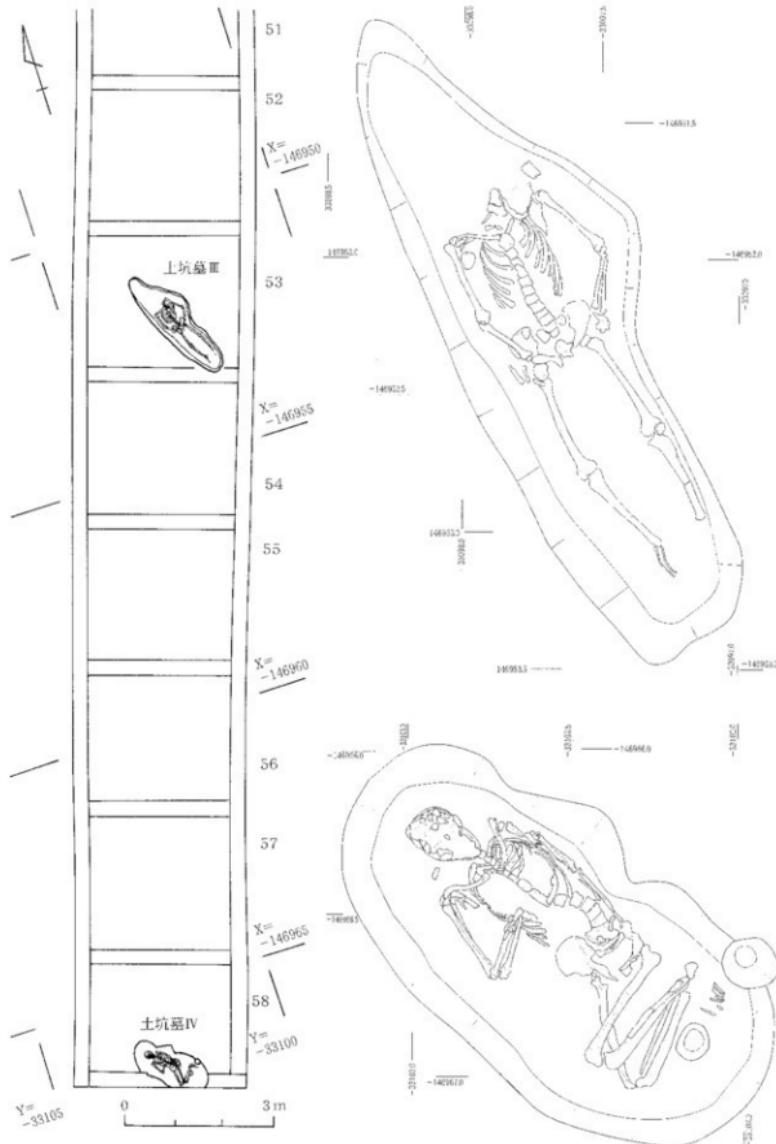
第10図 第15層上面遺構平面図(2)



第11図 第15層上面造構断面・断ち割り断面図

弥生土器は壺 (712～720・909・910・911)・細頸壺 (721・912)・鉢 (722～725・906・907)・高坏 (726・908)・甕 (727～734・913～915)・甕蓋 (709)・壺蓋 (710・711)などであった。

動物遺体としてはイノシシ (資料番号141・144・145・220)・シカ (142・143・220・221)などであった。



第12図 土坑墓III・IV平面図

14層上面遺構（第13図 図版24～39）

柱穴などのピット群、土坑、井戸（深さ1.5m以上）、溝（大溝含む）など検出した。以下、主要な遺構を北側（1地区）から概観して記す。

土坑37（1地区）は、橢円状の西半分で（北側調査地外）、検出長1.95×0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、甕（40）などの弥生土器が出土した。

上坑38（2地区）は、1.6×1.1m、深さ0.16mを測る不整土坑。埋土は植物遺体・炭化物を含む黒色（5Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、石槍（1130）などが出土した。

溝126（1～4地区）は、4・3地区で東西方向（幅4.2m）、3地区西北部で北方向に曲がり（東側のみ検出）南北長8m、幅2～0.6mで、深さ0.2～0.6mを測る。埋土は上部が第13層で、下部は黒色（5Y2/1または7.5Y2/1）植物遺体を含む砂混じり粘土質シルトで、鉢（251～254）・高坏（255～258）・壺（259・264～278）・甕（279～292）・甕蓋（293）などの弥生土器、蛸壺（1044）、石庖丁（1073）・大型蛤刃石斧（1089）・石槍（1126）などの石器、先尖棒（1169）・抉り入り板（1170）などの木製品、イノシシ・トリ？などの動物遺体（資料番号56・57）が出土した。

溝127（2・3地区）は、溝126東西方向分の東沿いに位置し、幅2～0.7m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）細粒砂・小礫混じり粘質シルトで、壺（248）・甕（249・250）などの弥生土器が出土した。

上坑78（4地区）は、検出幅0.8m、深さ0.52mを測る半楕円形（西側調査地外）を呈する。埋土は黒色（5Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで弥生土器などが出土した。

溝85（7地区）は、検出長3.5m、幅0.8m、深さ0.23mを測る東西方向の溝。埋土は黒色（5Y2/1）粘質シルトで、壺（197）・甕（198～200）などの弥生土器、石庖丁（1054）が出土した。

土坑67（9地区）は、1×1.2m、深さ0.12mを測る橢円形土坑。埋土は黒色（5Y2/1）細粒砂・小礫混じり粘質シルトで、甕（122～123）などの弥生土器が出土した。

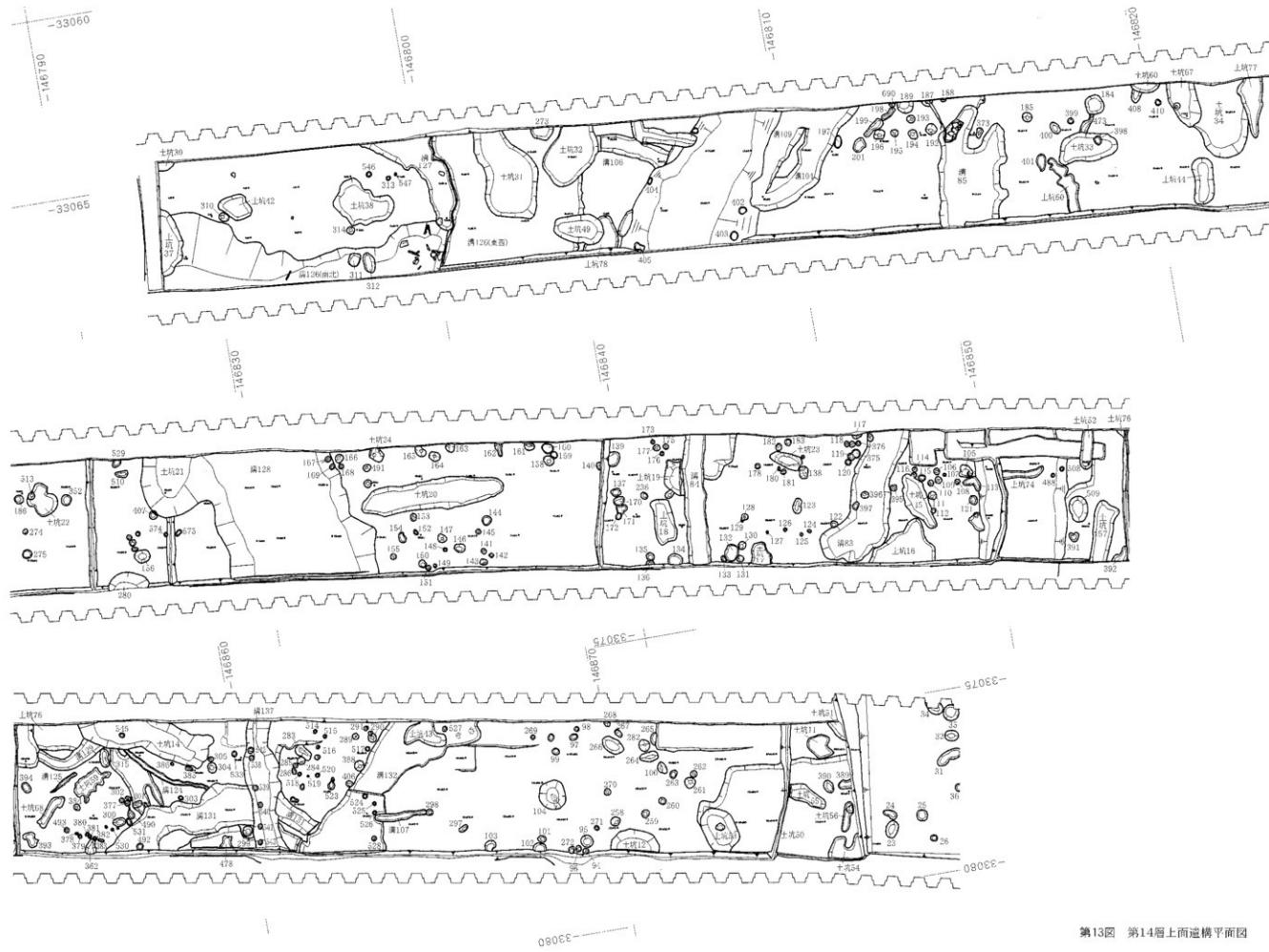
土坑34（9・10地区）は、長楕円形を呈し、東側は上坑67に切られている。検出長1.15×2m、深さ0.16mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）粘質シルトで、細頸壺（38）・甕（39）などの弥生土器が出土した。

土坑77（10地区）は、1.5×0.8m、深さ0.1mを測り、埋土は黒色（5Y2/1）中・粗粒砂粘質シルトで、甕（124）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号22）が出土した。

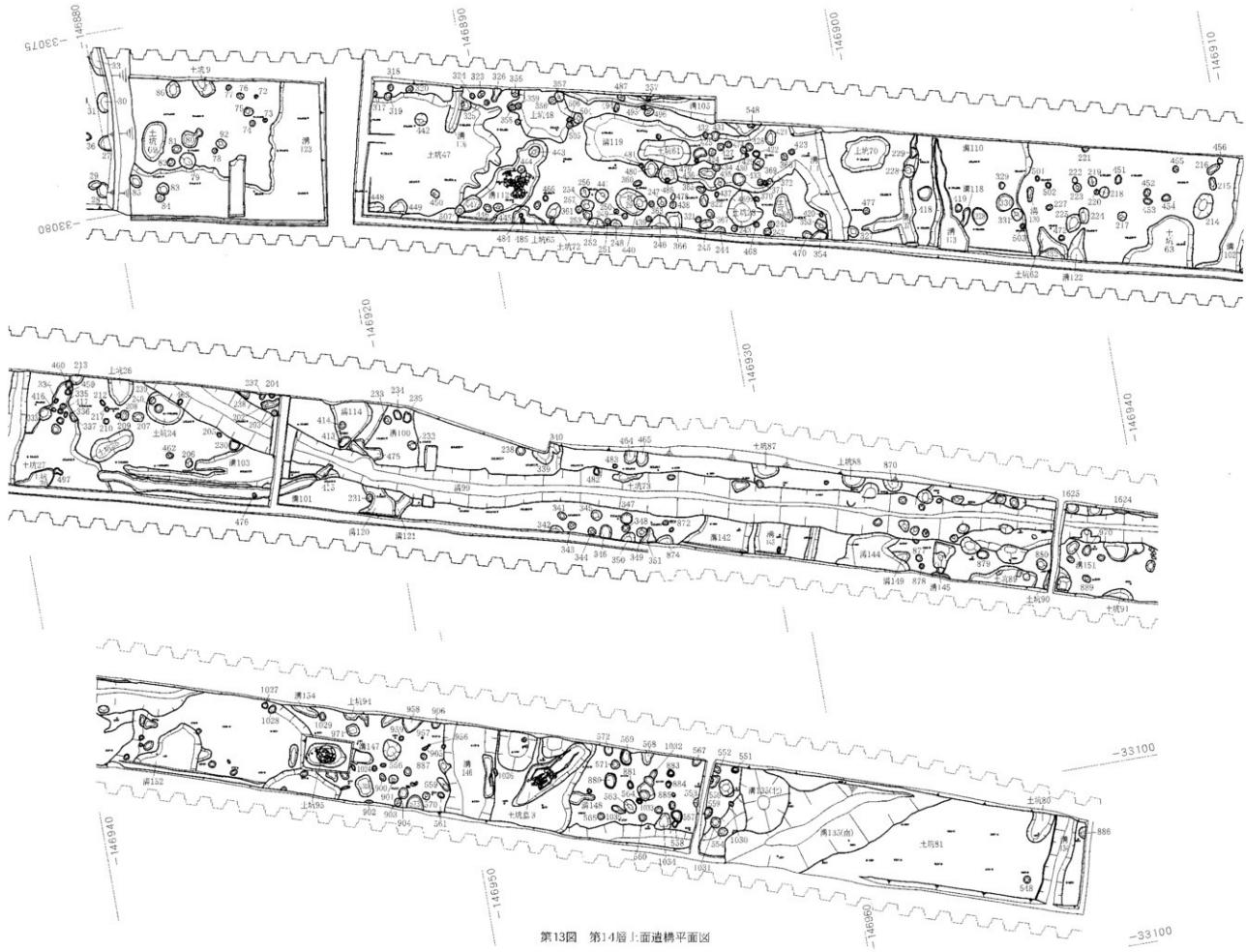
土坑21（11地区）は、1.6×1.5m、深さ0.42mを測る舌状土坑（東未調査）。埋土は黒色（7.5ないし5Y2/1）砂混じり粘質シルトを主体として3層に分かれ、壺（19～23）・甕（24～26）・鉢（27）などの弥生土器、抉り入り棒（1168）などの木製品が出土した。

溝128（12・13地区）は、南北幅4.25m、深さ0.63mを測る東西方向にのびる溝。断面は逆第形状を呈し、上部は第13層で埋没し、下部は黒色粘土質シルトを主体として6層に分かれ（第13図参照）、壺（294～324）・無頸壺（325～327）・細頸壺（328～330）・水差形土器（331）・甕蓋（332～334）・高坏（335～337）・鉢（338～341）・甕（342～370）などの弥生土器、石庖丁（1053）・砥石（1104）などの石器、鍾乳製品（1175）などの木製品、イノシシ・シカなどの動物遺体（59～62）が出土した。

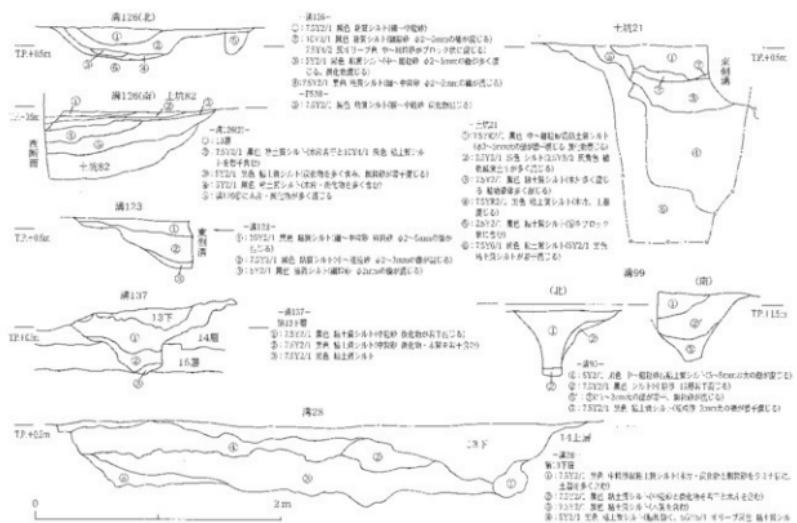
土坑20（13・14地区）は、長辺4m、短辺0.85m、深さ0.24mの南北に細長い楕円形を呈する。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘質シルトで、甕（12～15）・壺（16）・鉢（17）・高坏（18）などの弥生土器、石庖丁（1049）・石槍（1112）・石鎌（1152）など石器、イノシシ・大型哺乳類などの動物遺体（資料番号2・3）が出土した。



第13図 第14層上面造構平面図



第13図 第14層上面造構平面図



第14図 第14層上面構造断面図

溝84（16地区）は、幅0.6m、深さ0.23mを測る東西方向にのびる溝。断面逆台形状を呈し、上部は第13層、下部は黒色（5Y2/1）粘質シルトで、水差形土器（184）・甕（185・186）などの弥生土器、イノシシなどの動物遺体（資料番号39）が出土した。

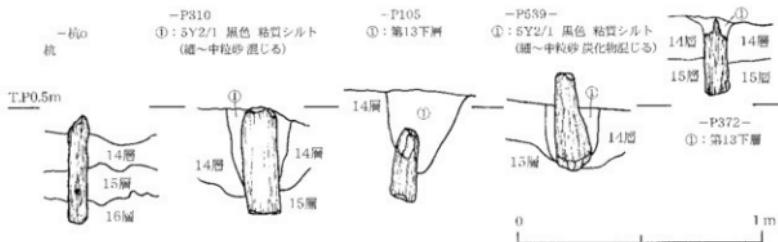
上坑19（16地区）は、南側は溝84により切断されていた。東西0.94m、南北0.5m、深さ0.34mを測り、埋土は黒色（10Y2/1）細・中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、鹿角製品（1202）と壺（29）などの弥生土器が出土した。

土坑57（19地区）は、1.65×0.65m、深さ0.25mを測る長舌状を呈する（西は未調査）。埋土は黒色（10Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、甕（114）・壺（115）などの弥生土器が出土した。

上坑41（19・20地区）は、南北3.2m、東西2.3m、深さ0.13mの不整形を呈する。埋土は黒色（7.5Y2/1）粘質シルトで、壺（51～53）・鉢（54）・高壺（55）・壺蓋（56）・甕（57～60）などの弥生土器、動物遺体片（資料番号8）が出土した。土坑底面から幅0.2m、長さ1m、深さ0.08mの上坑68—埋土は暗灰黄色（2.5Y5/2）粘土質シルト・炭化物含む黒色（7.5Y2/1）粘質シルトで、イヌ（資料番号19）などが出土一があった。

溝129（19・20地区）は、幅0.26～0.6m、深さ0.08mの弧状を呈する。西側は上坑14—長辺3.7m、短辺0.97m深さ0.3mの隅丸長方形で、長骨片（資料番号1）出土—により切断されていた。埋土は植物遺体を含む黒色（5Y2/1）砂混じり粘質シルト。東には南北約2.5×東西0.7m、深さ0.15mの土坑76があり、埋土は黒色（7.5Y2/1）粘質シルト。遺物は壺（371・372）・無頭壺（373）・鉢（374）・甕（375～378）などの弥生土器が出土した。

溝131（20～22地区）は、弧状を呈し、幅0.9m、深さ0.18mを測り、溝137・132により切断されている。埋土は黒色（10Y2/1）細・粗粒砂混じり粘質シルトで、甕（379・389）・鉢（381）などの弥生土器、長骨片（資料番号63）が出土した。



第15図 第14層上面造構断ち割り断面図

この溝の西一内側の堆地状を呈していたのが土坑40で、南北幅3.5m、深さ0.14mを削った。埋土は黒色(7.5Y2/1)粘質シルトで、壺(42)・甕(43)・鉢(44)などの弥生土器が出土した。

溝137(21・22地区)は、幅0.65~1m、深さ0.22mを測る東西方向にのびる溝。土坑39と一連であり、埋土は黒色(10Y2/1)細粒砂混じり粘質シルトで、壺(45)・鉢(46)・甕(47~50)などの弥生土器、シカ(資料番号7)などが出土した。

溝132(22・23地区)は、幅1.1~1.8m、深さ0.12mを測る東南から北西方向にのびていた。埋土は黒色(7.5Y2/1)砂混じり粘質シルトで、壺(385・386)・甕(382~384)などの弥生土器、動物遺体片(資料番号64)が出土した。

土坑50(26・27地区)は、南北4.3m、東西2.9m、深さ0.16mの方形を呈し、土坑53~56、ピット389・390などを内包していた。埋土は炭化物を含む黒色(2.5Y2/1)粘質シルトで、無頭壺(88)・壺(89~96)・甕蓋(97)・甕(98~105)・鉢(106・107)・高杯(108~110)などの弥生土器、石庖丁(1064)、イノシシ・シカ、スッポンなどの動物遺体(資料番号12~14)が出土した。内包されていた土坑55(27地区)は、長辺1.1m、短辺0.3m、深さ0.2mを測るへ状を呈する土坑。埋土は黒色(7.5Y2/1)中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、壺(113)などの弥生土器が出土した。

溝123(30地区)は、同地区南・西の逆L字状を呈し、幅1.5m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色(10~5Y2/1)砂混じり粘質シルトで、壺(222~225)・鉢(226・232・237)・甕蓋(227)・並蓋(228)・甕(229~231)・高杯(233~236)などの弥生土器、イノシシ・シカ・大型哺乳類などの動物遺体(資料番号53・54)が出土した。

土坑47(31・32地区)は、検出径4×3.6m、深さ0.1mの円形土坑の中央に径1.6m、深さ1.5mの円筒部=井戸を有していた。上部は第13層で埋没し、円筒部は黒色粘土質シルトを主体として6層に分かれ、壺(61~71)・無頭壺(72)・甕蓋(73)・高杯(74・75)・甕(76・87)などの弥生土器、石鏃(1146)、シカまたはイノシシの骨などの動物遺体(資料番号9・10)が出土した。

溝112(32・33地区)は、長さ2.95m、幅0.65~1.15m、深さ0.12mを測るやや弧状を呈した溝。埋土は黒色(5Y2/1)中粒砂混じり粘質シルトで、甕・壺など多量の弥生土器、動物遺体片(資料番号50)が出土した。

土坑48(32・33地区)は溝112の東にあり、2.1×1.3m、深さ0.2mの突出部を有する方形を呈し、埋土は黒色(10~2.5Y2/1)砂混じり粘質シルトを主体として5層に分かれ、中ほどには暗紅黄色(2.5Y4/3)砂質土=焼土・炭化物を多く含み、鉢(41)などの弥生土器、シカ(資料番号11)が出土した。

溝111(33~35地区)は、東西方向と北へのびるT字状を呈し、幅0.9~1.2m、深さ0.17mを測

る。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壺蓋（219）・高杯（220・221）などの弥生土器、イノシシなどの動物遺体（資料番号49）が出土した。底面からは土坑61や多くのビットを検出した。

土坑61（33・34地区）は、長辺1.43m、短辺0.53～0.72m、深さ0.18mの瓢箪形を呈し、埋土は暗オリーブ色（5G Y4/1）細粒砂混じり粘土質シルトブロックをふくむ黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、高杯（116）などの弥生土器が出土した。

土坑28（35地区）は、径1m、深さ0.18mの不整円形を呈し、埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壺（31）などの弥生土器、イノシシ（資料番号7）が出土した。

土坑70（35・36地区）は、1.3×0.9m、深さ0.12mを測る不整格円形を呈し、埋土は黒色（5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、イノシシ・シカなどの動物遺体（資料番号20・21）が出土した。

溝117（36地区）は、東西方向と北へ派生するT字状を呈する溝で、幅0.33m、深さ0.17mを測った。埋土は黒色（10Y2/1）細粒砂混じり粘質シルトで、壺（242）などの弥生土器が出土した。

溝110（36地区）は、幅0.8m、深さ0.13mを測る東西方向の溝で、溝113を内包していた。埋土は黒色（5ないし2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壺（216）・壺蓋（217）・妻蓋（218）壺（241）などの弥生土器、ヒト？（資料番号48）・シカ（資料番号51）などが出土した。

土坑63（38地区）は、南北2.35m、東西1.4m、深さ0.15mの不整形土坑（西は未調査）。埋土は黒色（5Y2/1）中・粗粒砂混じり粘質シルトで、壺（120・121）・壺（117・118）・鉢（119）などの弥生土器、イノシシ・シカ・大型哺乳類・スッポン（資料番号15～18）などが出土した。

溝102（39地区）は、長さ1.7m、幅0.52、深さ0.06mを測る東西方向の溝で、溝内からは壺（203）・壺（204）などの弥生土器が出土した。

土坑36（39地区）は、幅0.6m、検出長1.1m（西は未調査）、深さ0.06mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壺（32）などの弥生土器が出土した。

土坑27（39地区）は、南北3.7m、東西3m、深さ0.08mを測る不整三角状を呈し、底面で土坑36やビットなどを検出した。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、壺（33）・壺（34・35）・鉢（36・37）などの弥生土器、石庖丁（1060）・シカ（資料番号7）などが出土した。

土坑26（39地区）は、幅0.68m、検出長0.7m（東は調査地外）、深さ0.07mを測る。埋土は黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、壺（30）などの弥生土器、イノシシ・シカなどの動物遺体（資料番号4）が出土した。

溝103（39～41地区）は、長さ5.9m、幅0.23～1.1m、深さ0.08mを測り、南側は溝99に切断されている。溝内からは壺（214・215）などの弥生土器、石庖丁（1067）・石旗（1142）・シカ（資料番号45）などの動物遺体などが出土した。

溝101（39～41地区）は、幅0.3m、深さ0.09mを測る弧状をなす溝。南側は溝103と溝99により一部切断されている。埋土は黒色（5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、壺（212・213）などの弥生土器、ウマ？・大型哺乳類（資料番号44）などの動物遺体などが出土した。

溝99（40～50地区）は、幅1.1m、深さ0.5～0.6mを測り、検出長は37mを測る。溝はやや西に弧状をなし、断面細長い台形状を呈していた。埋土は上部が第13層、中・下部は黒色（10ないし5Y2/1）砂・小礫混じり粘質シルトで2～3層に区分され、壺（190～193）・高杯（194）・壺（195・196）などの弥生土器、石槍（1122）などの石器、シカ・ヒト（資料番号40）・大型哺乳類（資料番号42）などの動物遺体、サヌカイト片が出土した。

溝120（41・42地区）は、幅0.8m、長さ1.75m、深さ0.15mの東西方向にのびる溝で、溝99で切

断されていた。上部は壺（201・202）が出土した溝100としていたが、埋土は黒色（7.5ないし2.5Y2/1）中・粗粒砂混じり粘質シルトで、甕（238・239）・鉢（240）などの弥生土器、イノシシ（資料番号44）などの動物遺体が出土した。

土坑122－溝142－（45地区）は、幅1.35～1.9m、深さ0.07mを測る東西方向にのびる溝で、東は溝99で切断されていた。埋土は黒色（5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕（142）などの弥生土器が出土した。

土坑89（47・48地区）は、南北1.8m、東西0.5m（西は未調査）、深さ0.13mを測り、埋土は黒色（2.5Y2/1）中粒砂・小礫混じり粘質シルトで、甕（143）などの弥生土器、シカ（資料番号27）などの動物遺体、礫が出土した。

溝152（50・51地区）は、幅1.6m、検出長1.3m、深さ0.2mを測る西から舌状にのびる溝。埋土は黒色（2.5Y2/1）砂混じり粘質シルトで、甕（423）甕（424）などの弥生土器、長骨片（資料番号79）が出土した。

溝146（52・53地区）は、幅4.15～3.6m、深さ0.2～0.5mを測る東西方向にのびる溝で、北側は2段に落ちていた（さらに底面からは前述した土坑104・105・106と土坑墓Ⅲを検出した）。埋土は黒色（5ないし2.5Y2/1）砂・小礫混じり粘質シルトで、壺（407～412）・甕（413～415・421）・甕（416）・鉢（417・418）・高杯（419・420）などの弥生土器、シカ・ヒトなどの動物遺体（資料番号76～78）が出土した。

溝148（53地区）は、幅0.32m、検出長0.7m、深さ0.08mを測る東西方向にのびる溝で、北は溝146で切断されていた。埋土は黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、甕（422）などの弥生土器が出土した。

溝136（53～55地区）は、長さ4.25m、幅0.5、深さ0.07mを測る南北方向にのびる（西は未調査）。埋土は黒色（2.5Y2/1）中粒砂・礫混じり粘質シルトで、凸縁文土器片（4）などが出土した。

溝135（55～57地区）は、幅5.8～5m、深さ0.6mを測る南南東から北北西にのびる溝で、自然流路5の上に位置し、自然流路5によりほぼ中央から南北へえぐられていた。埋土は黒色（7.5ないし5Y2/1）砂混じり粘質シルトで3層にわかれ、壺（392～397）・高杯（398）・甕（399～403）・鉢（404・405）などの弥生土器、イノシシ・ウサギ・タイ？・ヒトなどの動物遺体（資料番号66～68）が出土した。

土坑80（58地区）は、幅0.55m、検出長0.8m、深さ0.11mを測る。埋土は黒色（7.5Y2/1）小礫混じり粘質シルトで、甕（125）などの弥生土器が出土した。

溝134（58地区）は、幅0.6m、深さ0.31mを測る東西方向にのびる溝。埋土は黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘質シルトで、甕（387）などの弥生土器が出土した。

その他多数のビット検出し、P105・310・372・539などには柱根が残存し、杭Oのような杭または杭用と思われる径0.1m未満のビットも多く見られた。

ビットのうち出土遺物を検出した主なものは以下のとおりである。P30からは甕（433）、シカ（資料番号80）。P104からは甕（435）。P165からはイノシシまたはシカ（資料番号81）。P214からは動物遺体片（資料番号82）。P230からは長骨片（資料番号83）。P266からは壺（436）。P280からは甕（437）。P437からは壺（438）。P488からは動物遺体片（資料番号84）。P501からはイノシシ（資料番号85）。P513からは鉢（440）。P546からは大型哺乳類（資料番号86）。P556からは鉢（441）。P568からは甕（442）。

<中期後半>

多量の遺物を包含していた整地層である炭化物や礫を含む中粒砂混じりの黒色粘土質シルトを主体とする第13層は30~60cmにわたりほぼ全域に広がり、上部にぶい黄色橙色粘土質シルトを含む灰色粘土質シルト、下部に灰色粘土質シルトや粗粒砂を含む黒色粘土質シルトがあり、ところによっては砂礫混じり緑灰色シルトなどとったりしていた混土層であった。層内からは弥生土器、打製・磨製など石器、木製品、骨角器、土製品、動物遺体、植物遺体、サヌカイト片などが出土した。

弥生土器は非常に多く、壺（524~574・785~828・833・834）・無頸壺（575~582・829~832）・細頸壺（583~592・835~845）・鉢（593~616・882~890）・高杯（617~643・894~905）・水差形土器（843）・甕（644~696・844~881）・甕蓋（697~703・889）・壺蓋（704~708・892・893）などがあった。

打製石器は石槍・石劍（1113~1117・1119・1120・1123・1124・1126~1129・1131~1134）・石鏟（1135~1137・1139~1141・1144・1145・1147~1151・1154・1155・1157・1158）・小石刀（1160）・石錐（1162・1163）・削器などがあった。

磨製石器は石庖丁（1051・1055・1056・1058・1059・1061~1063・1065・1066・1068~1070・1071・1074・1075・1077~1079）・大型蛤刃石斧（1082~1088・1091）・柱状片刃石斧（1092~1095）・小形石斧（1096）・局部磨製石斧（1097）・有柄式の細形銅劍型・石劍（1098・1099）・不明石器（1100）などがあった。

他の石器に凹石（1101）と砥石（1103・1105~1107・1109~1111）などがあった。

木製品は容器（1164）・杓子（1165）などがあった。

骨角器はイノシシ牙製腕輪（1201）・骨製刺突具（1204・1205）などがあった。

土製品は紡錘車（1026~1032）・円板状土製品（1033~1045）・蜻蛉（1043・1045）・用途不明土製品（1046）・土鍤（1047）・台状土製品（1048）などがあった。

動物遺体の種類は多くないが、多量のイノシシ・シカをはじめ、スッポン（資料番号112・169・214）・サカナ（資料番号168）・トリ（資料番号118）・大型哺乳類（資料番号131・138・157・166・170・171・173~176）などがあった。

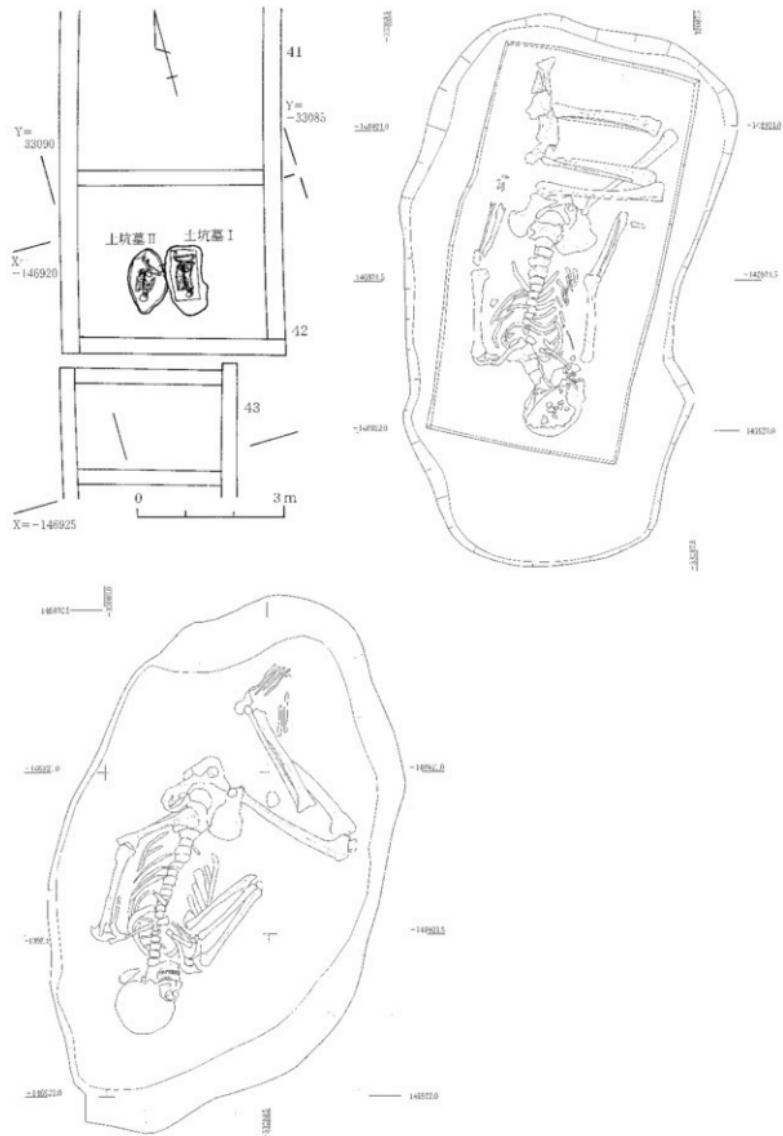
上述したようにこの整地層（第13層）は地域によって異なるが2~3期以上に分かれ、7工区では層内から2基の上坑墓（1基は木棺伴う）と1基の土器棺墓を検出した（各土坑墓図参照）。

上坑墓I = 木棺墓 = I号人骨 - (第16図 図版42)

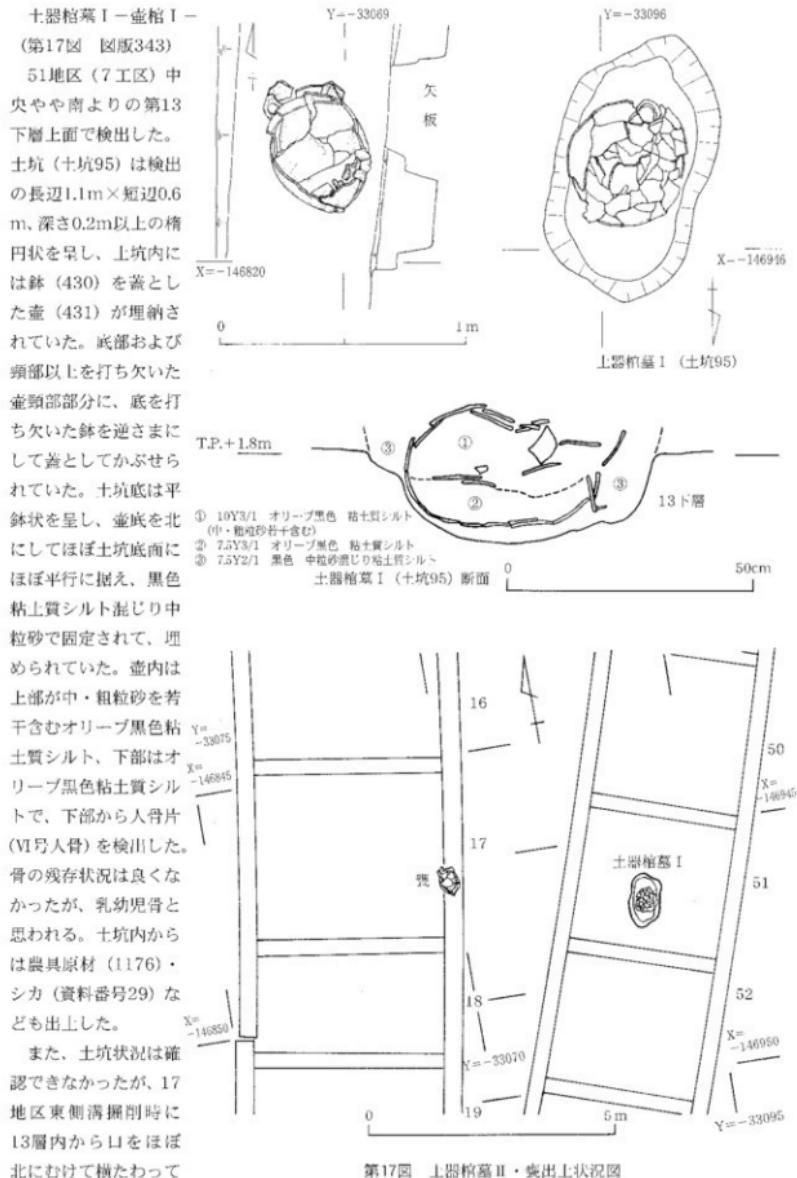
第13中層上面で検出した。上坑内からは頭位をほぼ南にした仰臥屈葬の成人男性の骨などが出土した。東西3.6m×南北2m変形の隅丸長方形土坑に長辺1.6m×短辺0.8mの木棺が埋められたと思われる。木棺はまったく残存していなかった。顔面を右にして上体を仰向けにし、両腕を身体両横にのばして沿わせていた。両脚は右側に倒れた状態で検出したが、本来は足を重ねてあぐら状に立てていたものと考えられる。上坑内からは人骨以外に、壺（425）・無頸壺（428）・鉢（427）・甕（426）などの弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

上坑墓II = II号人骨 - (第16図 図版41)

第13下層上面で検出した。土坑内からは頭位をほぼ南南西にした仰臥屈葬の成人男性の骨などが出土した。土坑は3.4m×2mを測り、楕円状を呈する。顔面を右にして上体を仰向けにし、右腕は肘を強く折り曲げて胸上部付近に手をもってきており、左腕はゆるく「く」字状に曲げて下腹部上においていた。両脚は両膝をわって右側に強くまげていた。左大軀骨は欠損しており、整地作業時に攪乱されてなくなったと考えられる。土坑内からは人骨以外に壺（429）などの弥生土器やサヌカイト片が出土した。



第16図 土坑墓I・II平面図



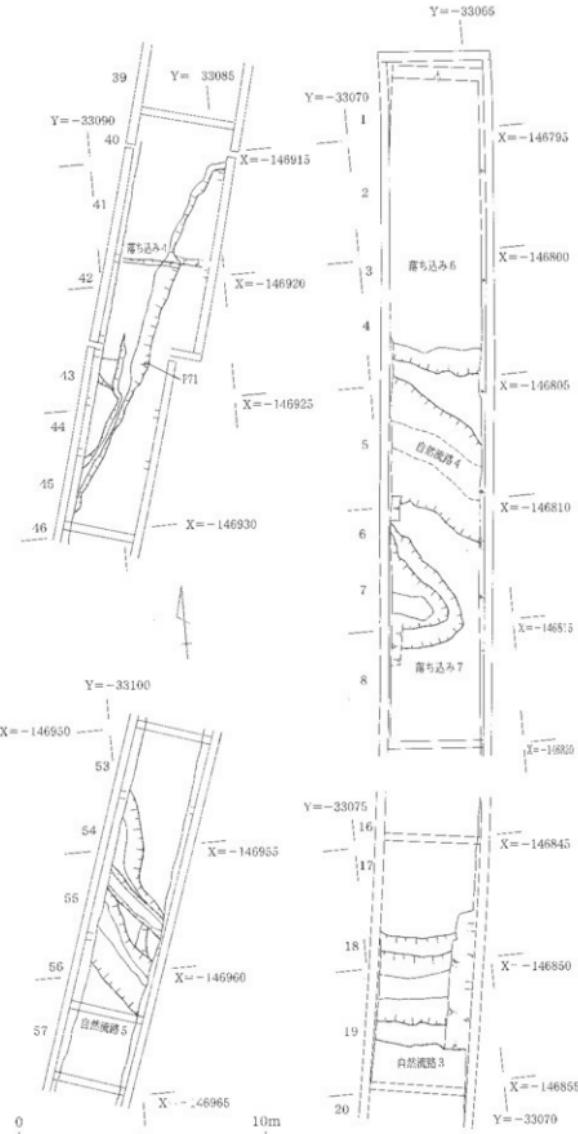
第17図 上器棺墓 II・発出土上状況図

いた裏(767)を検出した—第16図 図版42—。上部は破壊せれており、内部から人骨などは検出されなかつた。

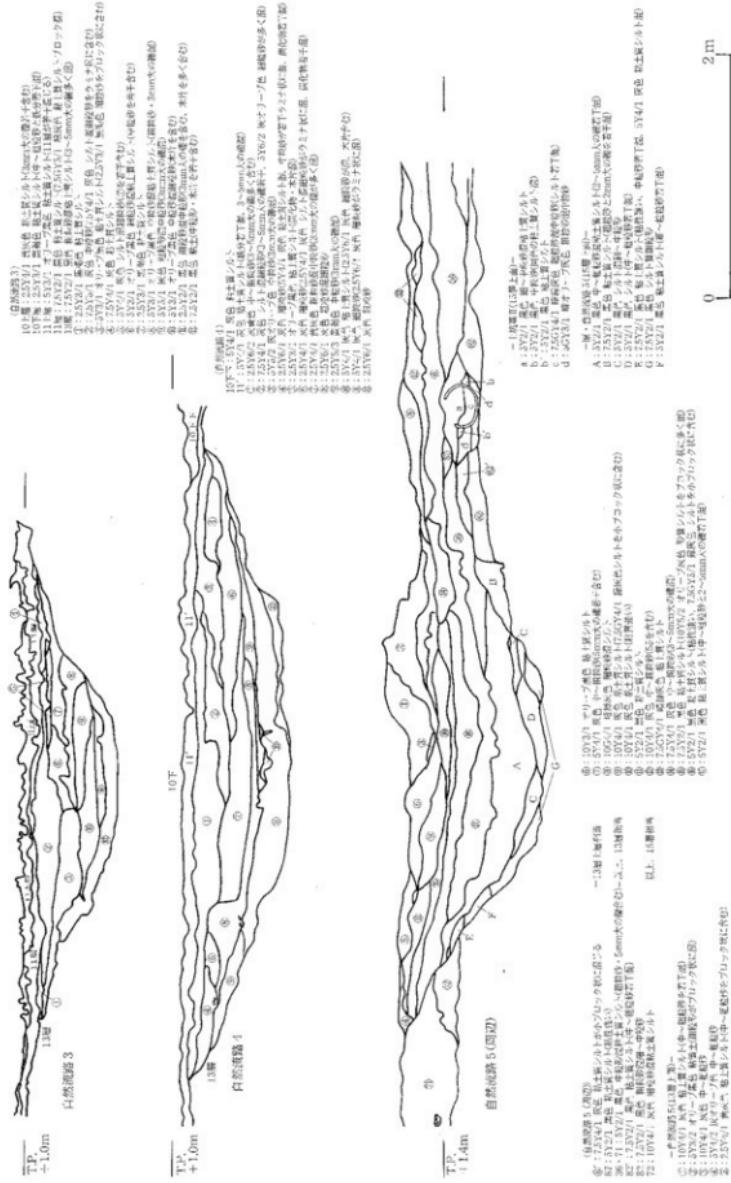
<中期末>

(第18図 図版44~47)
中期末ごろには6工区で2筋(自然流路3・4)、7工区で1筋(自然流路5)のほぼ東西方向に走る自然流路を第13層上面で検出した。

自然流路3は18地区付近で検出した東から西方向に流れている流路である。検出幅4.6m、深さ0.8mを測り、最上部は第11層で埋まっていた。流路内は上部から黒褐色粘土質シルト・灰色中粒砂(灰色シルト混じり細粒砂をラミナ状に含む)・オリーブ黒色粘土質シルト(黒褐色細粒砂をブロック状に含む)・灰色粘土質シルト灰色シルト混じり細粒砂(黒褐色粘土質シルトを若干含む)・オリーブ黒色細粒砂混じり粘土質シルト(中粒砂を若干含む)・黒褐色粘土質シルト・オリーブ黒色中粒砂混じり粘土質シルト(粗粒砂・3mm大の礫含む)・灰色粗粒砂混じ



第18図 第13層上面造構平面図



第19図 自然剖面3・4・5 断面図

り中粒砂(3mm大の礫含む)・オリーブ黒色中粒砂混じり細粒砂(木片を含む)・黒色細粒砂混じり中粒砂(3mm大の礫と木片を多く含む)・黒色粘土(中粒砂・木片を若干含む)で、壺(469・470)・高杯(474~476)・甕(471~473)などの弥生土器やサヌカイト片などが出土した。

自然流路4は5地区付近で検出した東から西方向に流れていた流路である。検出幅5.2m、深さ0.78mを測った。流路内は上部から灰黄色中～粗粒砂(3～5mm大の礫を多く含む)・灰色シルト混じり細粒砂(3～5mm大の礫若干、灰オリーブ色細粒砂が多く含む)・灰オリーブ色中粒砂(3mm大の礫含む)・灰色細粒砂(灰色粘土質シルト混じり中粒砂が若干ラミナ状に、炭化物若干含む)・オリーブ黒色粘土質シルト(炭化物・木片含む)・灰色細粒砂(灰色シルト混じり細粒砂がラミナ状に、炭化物若干含む)・黄灰色粗粒砂混じり中粒砂(3mm大の礫が多く含む)・灰色粗粒砂混じり細粒砂・黄褐色中粒砂(3mm大の礫含む)・灰色粘土質シルト(灰色細粒砂・木片含む)・灰色細粒砂(灰色細粒砂をラミナ状含む)・灰色粗粒砂で、壺(477~482)・高杯(483)・甕(484~492)などの弥生土器、石庖丁(52・76)、石庖丁(1076)、抉り入り先尖板(1166)・舟形木製品(1167)、動物遺体片(資料番号100)、サヌカイト片などが出土した。

自然流路5は54・55地区付近で検出した東から西方向に流れていた流路である。検出幅7.1m、深さ0.9mを測り、とくに北側にオーバーフローしていたようである。流路内は上部から灰色粘土質シルト(中～粗粒砂を若干含む)・黒色粘土質(細粒砂がブロック状に含む)・灰色中～粗粒砂・灰オリーブ色中～粗粒砂・黄灰色粘土質シルト(中～粗粒砂をブロック状に含む)・オリーブ黒色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂(5mm大の礫若干含む)・暗緑灰色細粒砂混シルト・灰色粘土質シルト(緑灰色シルトを小ブロック状に含む)・灰色粘土質シルト(粘質強い)・黒色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂・暗緑灰色粘土質シルト・灰色中～粗粒砂(3～5mm大の礫含む)・黒色粘土質シルト(オリーブ灰色砂質シルトをブロック状に多く含む)・黒色粘土質シルト(粘性強く、緑灰色シルトを小ブロック状に含む)・黒色粘土質シルト(中～粗粒砂と2～5mm大の礫若干含む)で、弥生土器・サヌカイト片などが出土した。

また第13層上面においては、自然流路3・4・5に平行またはその直後に形成されたと考えられる落ち込みなども検出した。

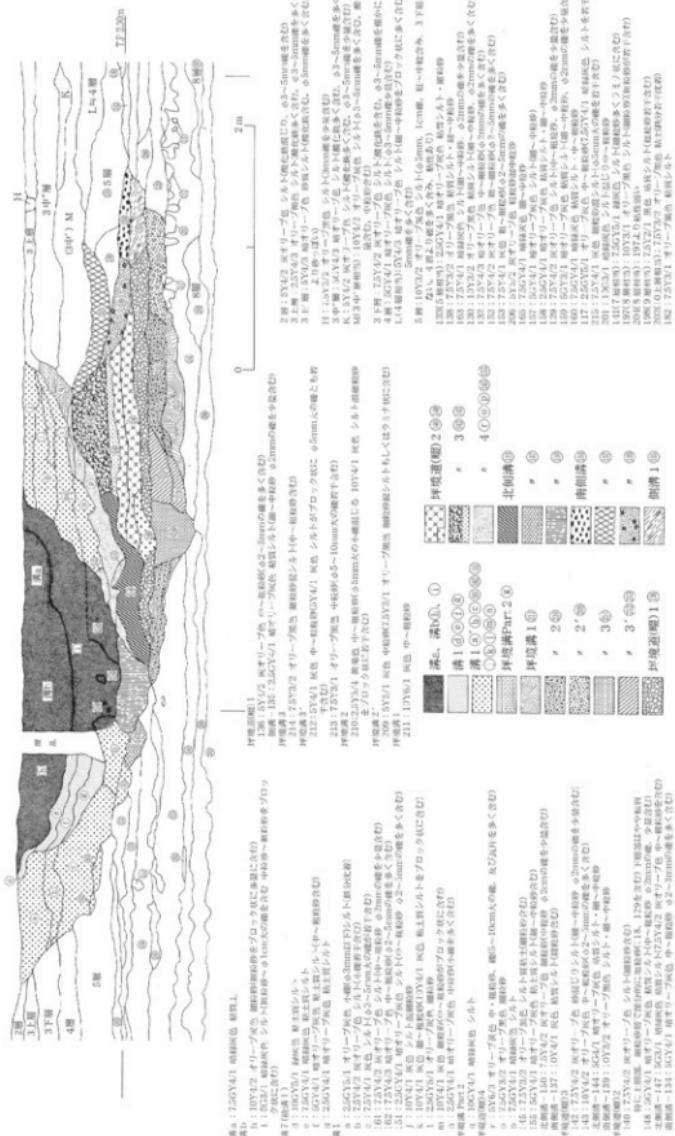
40～46地区(7工区)で、落ち込み1基(落ち込み4)とそれにつながる溝およびピット1(P71)を検出した。

落ち込み4は、41地区北端部から南南東方向に延びる東肩が44地区までつづき、44地区では中央から西にのびる南肩を検出した。南東角からは1条の溝が派生していた。落ち込みの検出長約10m、深さ0.08～0.2mを測り、両肩はゆるやかに傾斜してそれほど深くはなかったが、一部弥生時代の堆積層および遺物包含層(第13層など)をまき上げていた。西・北へは傾めてなだらかに傾上していく。埋土は緑灰色(10G Y4/1)細粒砂まじり粘土質シルトを若干含むオリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルトで、壺(451・452)・高杯(453・454)などの弥生土器とサヌカイトの小細片が出土した。

落ち込み4の南東角より派生していた溝は南南西方向へのび、検出長5m、幅0.35～0.5m、深さ0.1～0.14mを測った。溝内の埋土は落ち込み4と同じで、弥生土器などの小細片が出土したのみであった。

P71は43地区南端、落ち込み4の東肩付近で検出した。径0.2m、深さ0.21mを測り、埋土は小・細礫混じりオリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルトであった。

落ち込み7は、6～8地区(6工区)で検出した変形U字形を呈する落ち込みで、南北5.2m、東西2.9m、深さ0.34mを測った。落ち込み内は段を有して2層に分かれていた。下層は灰オリーブ



第20図 坪境付近断面図

(5 Y5/3) シルト質細粒砂、上層は緑灰色 (7.5G Y5/1) 粘土質シルトで、弥生土器小細片が出上した。

落ち込み6は自然流路4の北、4地区(6工区)で東西方向にのびる南肩を検出した。検出長は12.5m、深さ0.22mを測り、底面はやや凹凸が見られたがほぼ平らで浅い皿状を呈し、北へ傾上していく。埋土は3層に分かれ、上部は第10層にとって乱れていた。上層は緑灰色 (10G Y5/1) 粘土質シルトをブロック状に含む黒色 (5Y2/1) 粘土質シルト、中層は細粒砂と鉄分を含む灰オーリープ (5Y4/1) 粘土質シルト、下層は炭化物を含む灰オーリープ色 ((5Y4/2) 中・粗粒砂で、壺 (456~459)・甕 (460~464)・高坏 (465~468)などの弥生土器・サヌカイト片・植物遺体などが出土した。

これらの落ち込みなどは、先の自然流路とともに弥生時代中期ごろのものと思われる。

後期に相当すると考えられる植物遺体層および植物遺体を多く含むシルト質粘土層(第11層)は、ほぼ全城にわたって見られたが、後世の掘り起こし(第10層など)により搅乱されていたところも少なくなかった。この層の下部はそれほど大掛かりではないが第12・13層が巻き上げられていたところもあり、壺 (493~499・779~782)・無頸壺 (500)・甕 (501~512・783)・鉢 (513・514・519)・高坏 (515~518・520~522・784)・甕蓋 (523)などの弥生土器やサヌカイト片などが出土した。

【古墳～室町時代】

今回の調査地において平安時代以降を記述していくにあたり、大きな役割を果たすと思われるのが条里に伴う坪境の状況といえる。そこで先に24・25地区付近の西断面の一部である第20図によって平安時代から現在に至る坪境状況を概観し、そのち各時代・時期ごとの遺構を見ていくことにする(図版49~51)。

24地区で検出した東西方向の坪境遺構は、七条の十九坪と二十坪(小字では柳田と東間瀬)を南北に区切る東西線にある(第30図の小字切り図参照)。調査地北側を東西方向に流れる新川付近が八条と七条の条境にあたり、これは現在の東大阪市立弥生給食センターと石切生喜病院の間の東西道に相当し、一部切断されながらも東へづき、現在もその遺制が存続しつづけているといえる。

I期は第7層上面の幅0.7m以上(南側欠損)の東西方向の溝(211)。

II期は第6層下層時期に形成された4期(坪境溝2'-209、坪境溝2-210、坪境道と溝3'-212・213、坪境道と溝3-214)の東西方向の溝。

III期は第6層間層時期の坪境道(136)と北側溝(135)。

IV期は第6層上層時期の坪境道(140・148)と北側溝(134)・南側溝(147)。

V期は第5層形成時期の坪境道(142・143)と北側溝(139)、南側溝(144)。

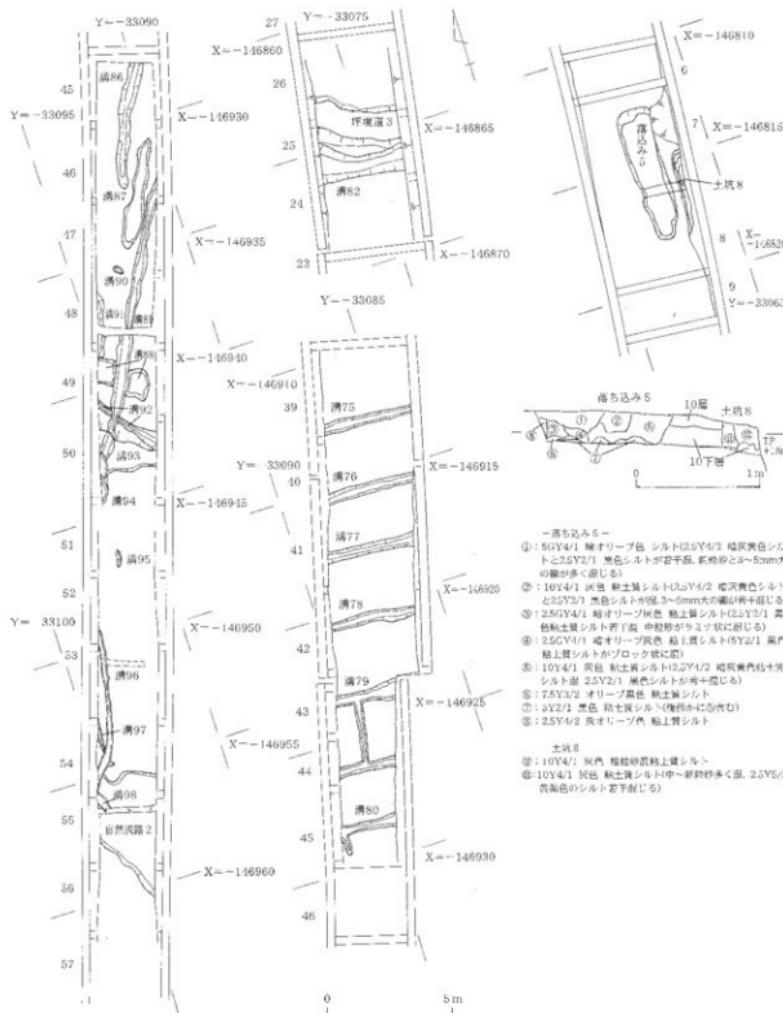
VI期は坪境道(r・o・p・145・155)と北側溝(137)、南側溝(150)。

VII期は第3層時期の溝(q)。

VIII期は第2層以降の掘り上げ田の井路(溝1など)=近世から現代。

〈坪境遺構I期以前〉 第12・13層上面検出遺構(第10図 図版48・53)

7工区の45地区以南では、10~12層の堆積がほとんどなく、前述した弥生時代の整地土である第13層および自然流路5上面で、この時期の数条の溝遺構を検出した。溝などの切り合い関係などから最低4期に分けられる。1期は溝91・92・93、2期が溝88・97、3期が溝86・87・89・90・96・98と第4期が溝94・95である。



第21図 第10層上面遺構平面図

溝91~93はいずれも埋土が砂で、溝92と93はほぼ東西方向に延び、溝92は暗黄灰色 (7.5G Y5/1) 粗・中粒砂、溝93は緑灰色 (10G Y5/1) 中粒砂で埋まっていた。

2期の溝88は灰色 (10Y4/1) 中・細粒砂混じり粘土質シルトで、溝97はオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 中・細粒砂混じり粘土質シルトであった。

3期の溝86・87・89（溝90はこの一部）はほぼ南北方向に走り、溝86は検出長5.2m、幅0.65m、深さ0.11mを測り、埋土は緑灰色（7.5G Y5/1）細粒砂混じり粘土質シルトであった。溝87は検出長4.6m、幅0.8m、深さ0.07mを測り、埋土は暗オリーブ灰色（5 G Y5/1）細粒砂混じり粘土質シルトであった。溝89は西端が溝94に切断されていたが、検出長11.5m、幅0.25～0.6m、深さ0.08mを測り、堆上は2層に分かれ下部は灰色（5 Y4/1）中粒砂で上部は暗オリーブ灰色（5 G Y5/1）細粒砂混じり粘土質シルトで、弥生土器・高杯（188）・鉢（189）一も出土した。溝96・98は下部が灰色（5 Y4/1）粗粒砂で上部はオリーブ黒色（7.5Y3/2）シルトであった。

4期の溝94（95はこの一部）は埋土が砂で、灰色（10Y4/1）中・細粒砂であった。

39～45地区の第10層上面において2～2.5m間隔ではほぼ平行に走る東西方向の7条の溝（溝75～80）を検出した。溝79は2本の東西方向の溝中央に南北方向の溝で連結されてH字形していた。溝80は西端が南へ0.7mほど突出し、L字形を呈していた。溝は幅0.3～0.45m、深さ0.05～0.12mを測った。断面U字形を呈し、2～3mm大の礫を多く含む青灰色（10B G5/1）シルト中・粗粒砂で土師器・須恵器小細片が出土した。

7・8地区の第12層上面で落ち込み5と土坑8を検出した。落ち込み5は北東角が一部欠損しているが、長辺（南北）5.55m、短辺（東西）1.2mの隅丸長方形を呈し、深さ0.3mで底面東側に径0.3m、深さ0.15mのビットが存していた。弥生時代の遺物包含層である第13層を一部掘り上げていた。造構断面は逆台形状を呈し、埋土は暗灰黄色シルト・黒色シルトが若干と粗粒砂・3～5mm大の礫が多く混じる暗オリーブ色シルト、暗灰黄色シルト・黒色シルトと3～5mm大の礫が若干混じる灰色粘土質シルト、黒色粘土質シルト若干と中粒砂がラミナ状に混じる暗オリーブ灰色粘土質シルト、黒色粘土質シルトがブロック状に混じる暗オリーブ灰色粘土質シルト、暗灰黄色粘土質シルトと黒色シルトが若干混じる灰色粘土質シルト、オリーブ黒色粘土質シルト、黒色粘土質シルト、灰オリーブ色粘土質シルトの8層に分かれ、甕（455）などの弥生土器や植物遺体などが出土した。

土坑8は東側溝などで大半が欠損しており形状は不明である。検出長3.4m、最大幅0.35m、深さ0.22mを測った。底はやや凹凸をなし、埋土は灰色粗粒砂混粘土質シルト、中～粗粒砂多く、黄褐色のシルトが若干混じる灰色粘土質シルトの2層に分かれ、弥生土器細片などが出土した。

第9層上面足跡（図版52）

6工区南端の29地区から7工区45地区にかけて広がり、いまだ23～25地区付近には明確な区切り造構は見られなかった。足跡面はT.P.+1.259～1.987mを測った。

（坪境遺構Ⅰ期）

この時期、畝などの歩行域=道ではなく、東西方向に走る1条の溝があった。溝の南側は後世の造構により破壊していた。検出幅1.2m以上、深さ0.17mを測り、埋土は灰色中・粗粒砂であった。この溝を境にして1～41地区の広い範囲で足跡がみられた。

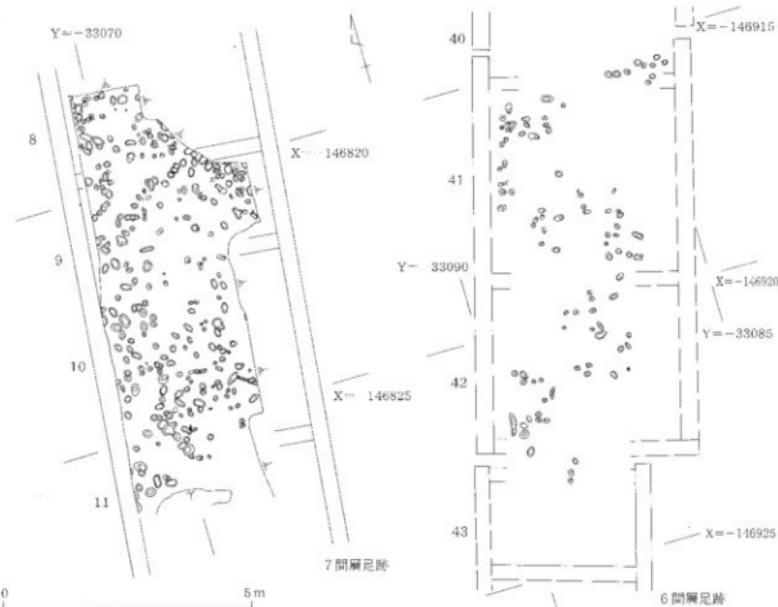
第7・8層上面足跡（第22図 図版52・54）

6工区1地区から7工区41地区にかけて分布し、足跡面はT.P.+1.280～2.112mを測った。

（坪境遺構Ⅱ・Ⅲ期）

Ⅱ期は①灰色中粒砂期、②黄褐色中・粗粒砂期、②を切り込んだ③オリーブ黒色中粒砂と灰色中・粗粒砂期、②③を切り込んだ④オリーブ黒色細粒砂混じりシルト期の4時期に細分される。

Ⅲ期は灰オリーブ中・粗粒砂層を削って形成されていた。幅2.5m以上、高さ0.12mを測る東西方向の道=畝で、北側だけに平行して走る溝（暗オリーブ灰色粘土質シルト）を検出した。南側はV期の南北溝によって切られ不明である。



第22図 第7・6間層上面足跡平面図

第6層内足跡（第22図 図版55～58）

第6層はシルト質粘土・粘土と砂の互層で形成されており、各間層（シルト質粘土・粘土）面において足跡を検出した。

3面目足跡（8～11地区付近平面図）

6工区1地区から7工区38地区にかけて分布し、足跡面はT.P.+1.336～2.103mを測った。

2・3面間層上面足跡

6工区11～14地区付近のみで検出した。足跡面はT.P.+1.610～1.800mを測った。

2面目足跡

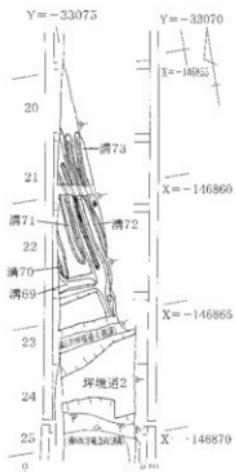
6工区8地区から7工区35地区にかけて分布し、足跡面はT.P.+1.591～2.080mを測った。

1・2面間層上面足跡（40～43地区は平面図）

7工区30地区から43地区にかけて分布し、足跡面はT.P.+2.001～2.225mを測った。

1面目足跡

6工区南端の29地区から7工区30～39地区にかけて広がっていた。足跡面はT.P.+2.056～2.246mを測った。



第23図 第6間層上面
遺構平面図

〈坪境遺構Ⅳ期〉 第6層・6層上面遺構 (第23・24・25図 図版59~61)

Ⅲ期の上に堆積した灰オリーブ色シルトを切り込んで形成された道と北(溝67~暗オリーブ灰色中・粗粒砂)・南(溝68~暗緑灰色中・粗粒砂混じり粘質シルト)側溝の各一部を検出した。道両側および側溝道よりはともにV期の両側溝で切断されていたため、本来の計測値は不明である。道検出上辺1.4~3.1m、高さ0.21mを測った。道上面からは少量の足跡を検出した。

坪境遺構の北は東側の大半がV・VI期の落ち込み2によって切断されており、西肩形成面で2面の遺構を検出した。下面(第6層上面)では幅0.6~0.8m、深さ0.15mのT字状の溝69~埋土は灰オリーブ色シルト混じり砂とその東西にそれぞれ2条づつの南北方向の溝(溝70~73)があった。溝70~73は幅0.25~0.3m、深さ0.06~0.1mを測り、埋土は灰色(5Y6/1)砂混じりシルトであった。

上面では東西方向の溝(溝66)と南北方向の溝2条(溝64・65)を検出した。幅0.12~0.45m、深さ0.03~0.08mを測り、埋土は灰白色(10Y7/1)砂・シルト質砂で、耕作に伴う鰐溝である。

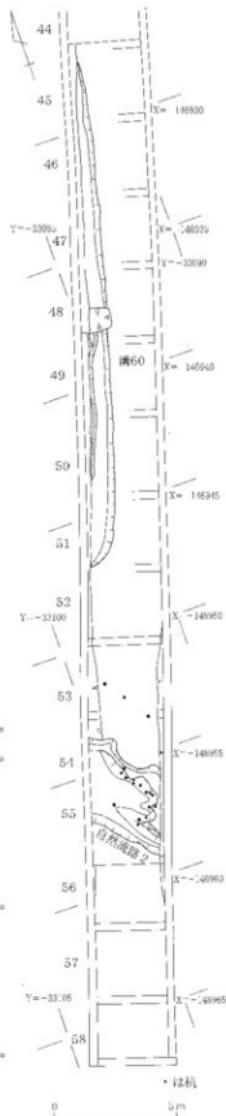
13~18地区では弧状にカーブして2段に落ちる落ち込み3の東側を検出した。14・15地区の底面は方形の樋状に壅んでいた。検出長18.5m、幅3.3m、深さ0.6mを測った。埋土は暗オリーブ灰色(5G Y4/1)細粒砂灰オリーブ色(5Y5/3)細・中粒砂を主体とする砂と灰オリーブ色(5Y5/2)シルトなどであり、土師器・瓦器小細片などが出土した。

坪境遺構の南は26~38地区の東側は溝1により切断されていた。28~44地区でピット3(P20~22)とおもに南北方向に延びる溝群を検出した。P22は径0.42~0.2m、深さ0.07~0.05mを測り、埋土は暗オリーブ灰色(2.5G Y3/1)細粒砂混じりシルトなどであったが遺物は出土しなかった。

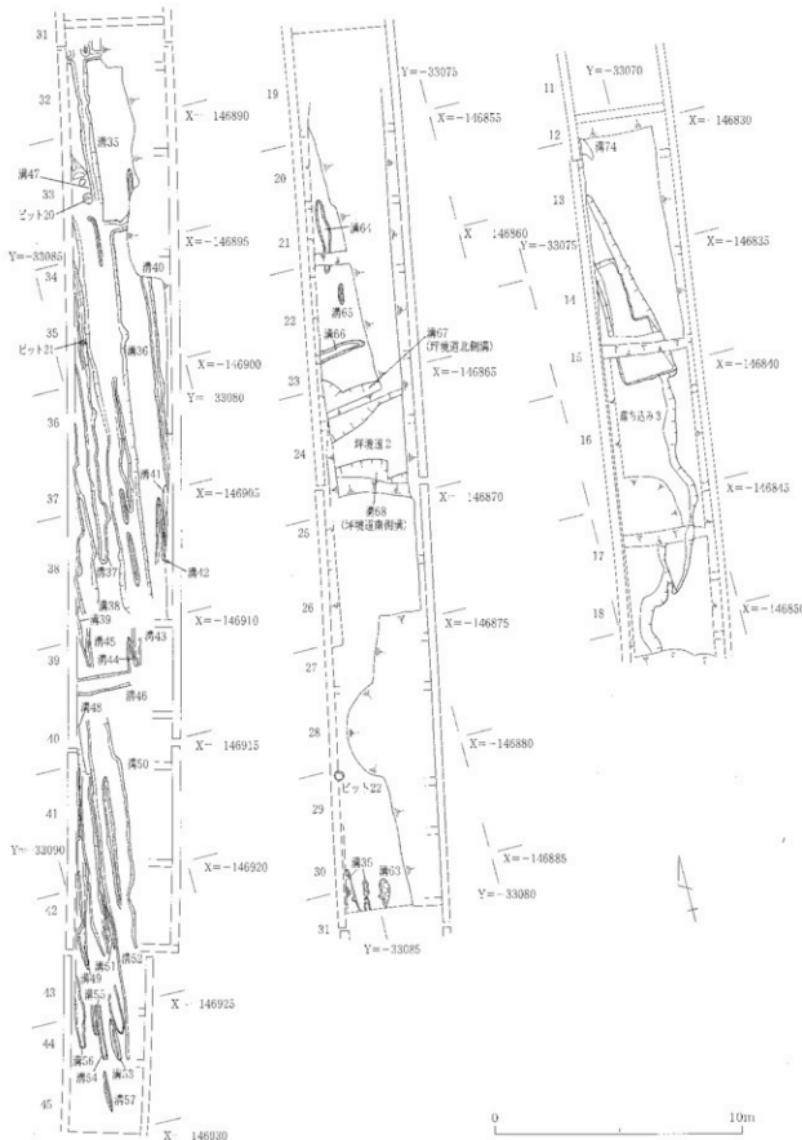
溝群は39地区の東西方向の溝(溝46)を堀にして南・北2群に分かれる。北群は幅広(1m前後)の溝3条(溝36・38・47)と幅0.25~0.5mの溝10条(溝35・37・39・40・41・42・43・44・45・63)とP20・21を検出した。南群は幅広(1m以上)のもの1条(溝50)と幅0.25~5mの溝8条(溝48・49・51~57)を検出した。溝内は灰白色(10Y7/1)砂・シルトで、土師器・瓦器などの小細片が出土した。耕作地に伴う溝である。

45~51地区の西より1条の溝(溝60)を検出した。溝60は検出長20.5m、幅0.9m、深さ0.25mを測る。溝内は上層がオリーブ黒色(10Y3/2)~オリーブ褐色(2.5G Y3/2)細~粗粒砂で埋まり、下層はオリーブ黒色(7.5Y3/2)・暗オリーブ灰色(2.5G Y3/1)・オリーブ黒色(10Y3/2)のシルトが堆積していた。黒色上器(964)・土師器小細片などが出土した。

自然流路2⁷は7工区南側の54・55地区で検出した東西方向の自然流路がある。検出幅3.5m、この流路は東側でM状を呈し、北側の底面は盛り上がっていた。流路方向は東および東南東から西に向かっており、北肩平(3本)および北斜部(9本)と流れに直交するように流路内(6本)に



第24図 第6層上面遺構平面図(1)

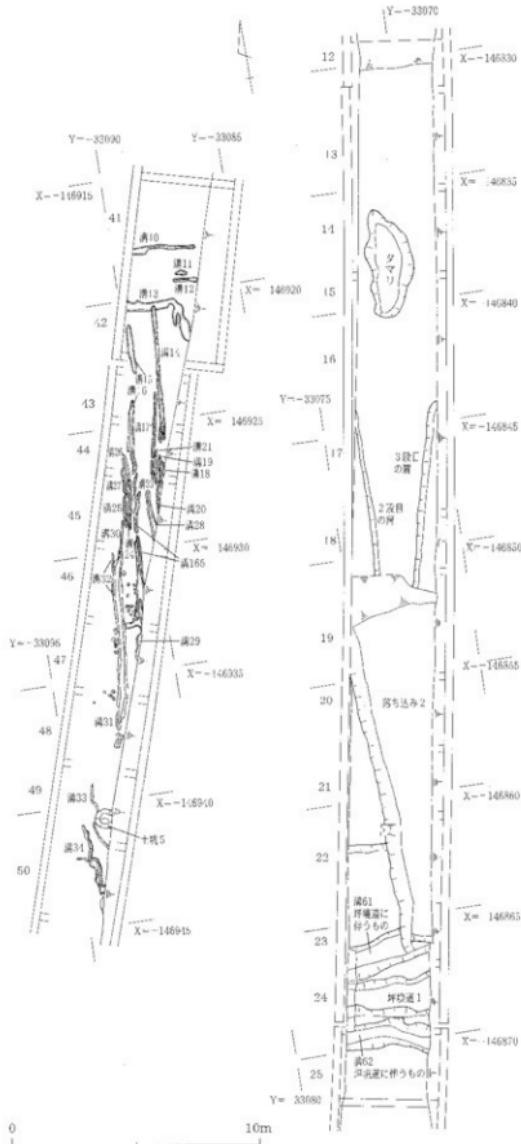


第25図 第6層上面造構平面図(2)

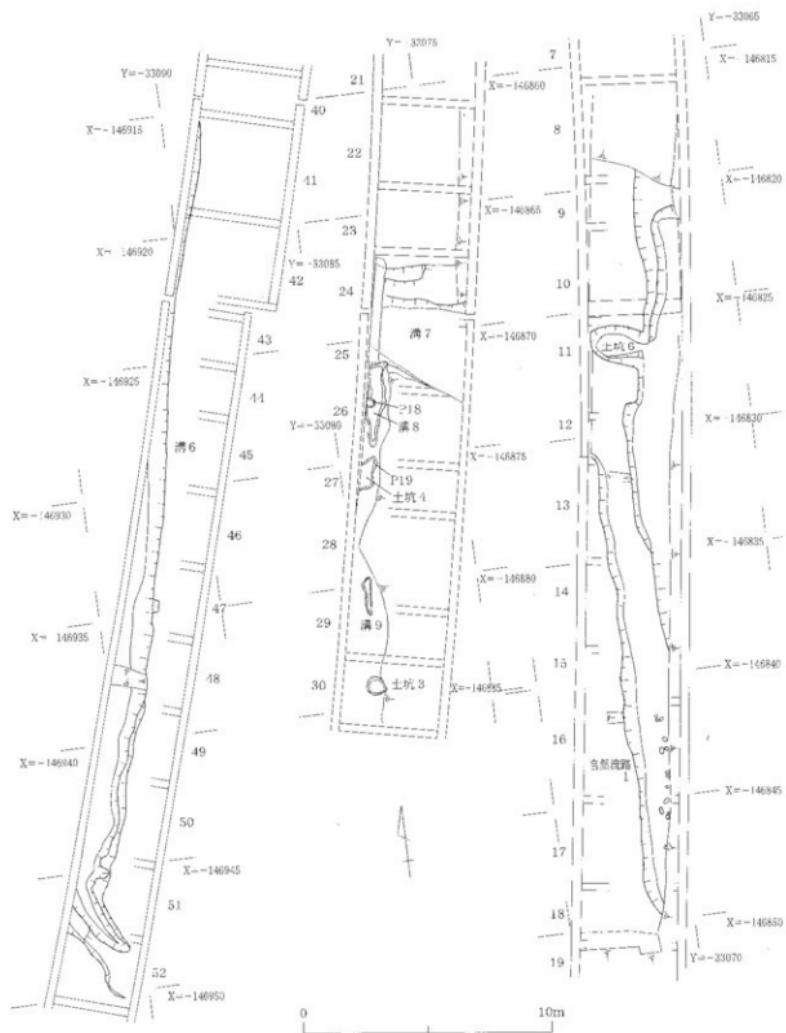
杭が打設されていた。これらの杭は流路活用時に、とくに北斜面部と流路に直行するように杭を打ち込み、流れを弱めてその周辺に砂を堆積させ（M状に堆積）、流路を埋没させたものと考えられる（図版67）。流路内からは18本の杭以外に、須恵器（984～987）・土師器（988）・製塩土器（989）・瓦器小細片・ウマ（資料番号98・99）などが出土した。

〈坪境遺構V・VI期〉第4層上面遺構（第26図 図版61・69）
坪境遺構は23～25地区で両側に側溝（溝61・62）をもつ東西方向の道（堀）を検出した。南側の一部は溝1などの近世以降の溝によって欠損していた。道は盛上一細・中粒砂・小礫混じり灰オリーブ色シルトなどを構成されており、断面台形状を呈す。上幅1～2m以上、下幅1.5～2.5m以上、南側高く、溝最下面まで0.6mとなる。南側溝最下部の堆積砂内からは土師器小細片などとともに板卒塔婆（1185）が出上した（図版51）。

また、この坪境遺構の南側はわりと早く埋没したようで、さらに整えて構築し直されたのが坪境遺構VI期である。V期の道遺構の南側に堆積した暗緑灰色シルトとオリーブ黒色細粒砂の間に深く切って窪ませた南側溝（中粒砂・小礫混じり灰オリーブ細粒砂）があった。道上面は5～10cm大の砾・瓦片を敷きつめていた。北側には幅1.25m、深さ0.3mの溝（灰色細



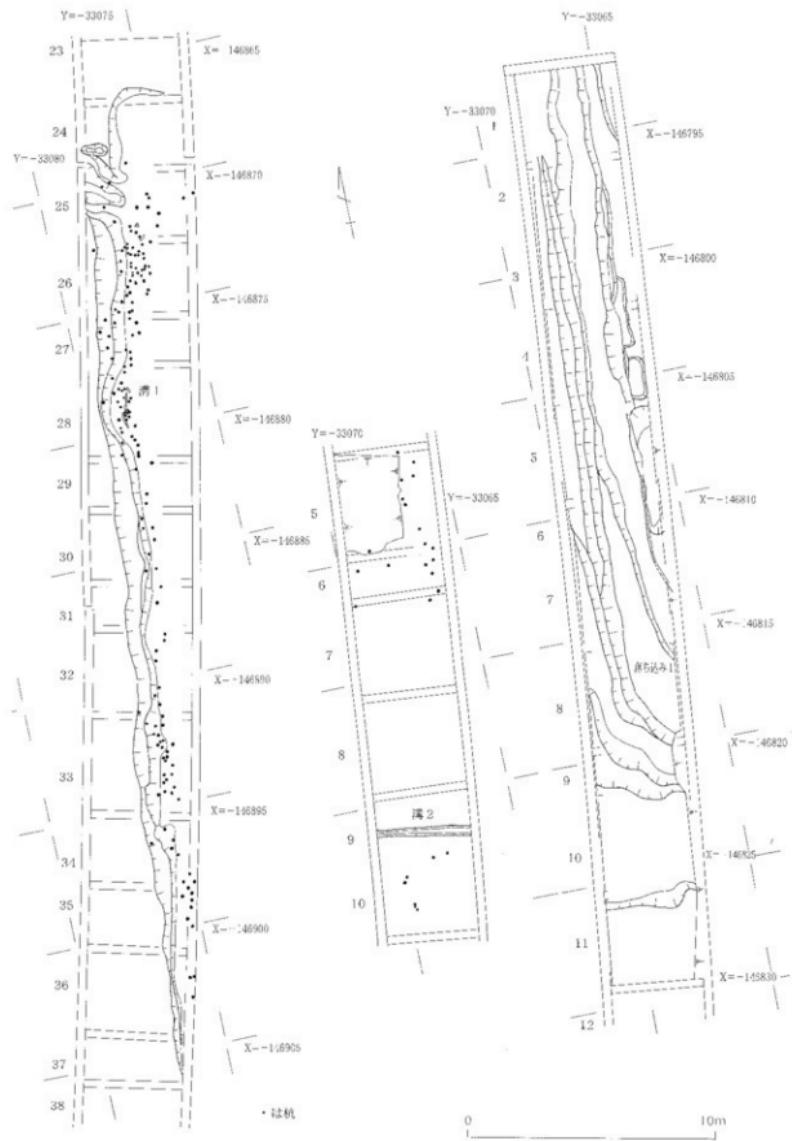
第26図 第4層上面遺構平面図



第27図 第3層上面造構平面図

粒砂混じり粘土質シルト)があった。道の検出上辺は0.7m以上を測ったが、南肩部などが溝1などによって切削されていたため木束の幅は不明である。

坪境造構北側の23地区から以北は落ち込み2は広がっていた。落ち込みはほぼ南北方向にのびる西



第28図 溝1・2・a・b、落ち込み1平面図



第29図 調査地周辺掘り上げ田井路状況図（昭和30年代）

肩付近で、3段以上に落ち、23地区北よりから20地区で1段目、18～16地区で2・3段目の肩・段を、14・15地区の2段目平垣部から土坑状の窪地(4.5×1.7m、深さ0.4m)を検出した。埋土は灰オリーブ色(7.5Y4/2)小穀混じりシルトを主とし、須恵器(977・979)・土師器(978)と陶磁器の小細片などが出土した。坪境北側溝の北の22地区からは落ち込み2によって東側が切断された東西方向の落ちの北肩を検出したが、用途・形状は不明である。

坪境より南では41・42地区で東西方向の溝4条(溝10～13)、42地区以南48地区までにはおもに南北方向にのびる溝19条(14～32・165)と足跡、49・50地区で切り合う南北から北西にのびる2条の溝(溝33・34)と円形土坑1基(上坑5)を検出した。

溝10～32と165は幅0.1～0.3m深さ0.05～0.1mを測り、砂および砂質シルトなどで埋まっていた。これらの溝は耕作に伴う鶴溝である。土坑5は径0.7m、深さ0.17mを測り、溝33は溝34に切られていたがともに浅く、いずれも用途は不明である。

〈坪境遺構VII期〉第3中層上面遺構(第27図 図版62・65・66・69)

坪境遺構は溝のみで、24地区の第3中層上面より切り込まれた東西方向の溝qの北側部分のみを検出した。南側は溝1などによって切断されていたため、本来の幅・深さなどは不明である。北斜面はやや丸みをもって落ち、検出幅0.55m、深0.3mを測った。埋土は暗緑灰色(10G Y4/1)砂混じりシルトであった。溝q底面でIV期の上面である疊を敷いた東西方向の高まりを検出した。

8から18地区にかけての第3層上面で自然流路1を検出し、流路は西側のみで段を有していた。12～18地区にかけて1段目の西肩があり、2段目の肩は8～16地区にわたってあり11地区で西に袋状にふくれ、北は3段になっていた。8地区より以北は落ち込み1によって切断されていた。流路はほぼ南北から北方向にのび、17・18地区的1段目からは足跡を検出した。流路内は灰オリーブ色(7.5Y5/2)細粒砂混じりシルト、灰オリーブ色(7.5Y5/2)小穀混じりシルトをブロック状に含むオリーブ灰色(10Y5/2)細粒砂、灰オリーブ色(7.5Y5/2)シルトを含む暗オリーブ灰色(5G Y4/1)シルトに分かれ、埴輪(983)・須恵器(981)・瓦器(982)・陶器(980)と土師器小片、大型哺乳類(資料番号97)などが出土した。

また、11地区では自然流路埋没後の上面で土坑6を検出した。平面不整形の半円状を呈し(西側調



第30図 遺跡周辺小字切図

査地外)、南北3.12m、深さ0.74mを測った。断面はすり鉢状をなし、埋上は疊・オリーブ黒色(7.5Y3/2) ブロックを含む緑灰色(5G5/1) シルトが主体で、土師器・陶磁器小細片が少量出土した。

6地区南から7地区北-26地区から38地区一の東側の多くは溝1によって切断されていたため、26~30ちくの西側で2基の上坑(上坑3・4)、溝2条(溝8・9)とピット2(P18・19)を検出したのみであった。

土坑3は 0.8×0.7 mの楕円状を呈し、深さ0.6mを測った。埋上は下部が暗オリーブ灰色(5GY3/1) 粘土質シルト、上部が小礫を含む暗オリーブ灰色(5GY4/1) 粘土質シルトであった。土坑4は長辺1.6m、短辺0.6m(西側は査地外)の長方形を呈し、深さ0.1mを測った。埋土はオリーブ灰色(10Y4/2) 粒粒砂混じり粘土質シルトであった。溝8は検出長3.5m、幅0.7m、深さ0.13m、溝9は検出長1.06m、幅0.18m、0.07mを測った。埋土はオリーブ灰色(5GY5/1) 細粒砂混じり粘土質シルトであった。P18は径0.42m、深さ0.09mを測り溝8西方付近、P19は径0.16m、深さ0.1mを測り

十坑4東肩付近でそれぞれ検出した。埋土は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘土質シルトであった。いずれも出土遺物はほとんどなかった。

7工区ではほぼ南北方向の数本の浅い跡溝跡と溝6を検出した。

溝6は40~52地区西より南北方向に走る溝で、52地区で東へ曲がっていた。検出長36m、幅1~2m以上(西肩は不明)、深さ0.1~0.3mを測った。本来は52地区で東から西、向きをかえて南から北方向へと流れていたと思われる。溝内は灰白色(5Y7/1)細~粗粒砂を主体とする砂が堆積し、土師器、瓦器、須恵器、陶磁器の小細片とともに52地区的カーブ地点からは板卒塔婆(1184)が出土した(図版66)。

〔近世以降〕

《坪境遺構VIII期》第3~1層上面遺構(第28図 図版68~70)

この時期の坪境状況は、24・25地区に溝1より派生する東西方向の溝があり、埋没後も現代に至るまで、東西方向の溝は穿きつづかれていた(溝7・a・b)。

落ち込み1 1~10地区の第2層上面から掘り込まれ、検出長35mを測った。調査地内では西南部域を検出し、その斜面は7~9段の不定形な段をなし、1地区の東北隅が最深所となって深さ約3.2mを測ったが、底面のところどころにはさらに不定形の土坑状の窪地が穿たれていた。10地区で検出した1段目はほぼ南北方向になっていたが、2段目以降は東から北方向へ逆さJ字状にカーブし西南域の様相を呈していた。第3図6工区西断面図-7・8地区付近にも見られるように上部は落ち込み1の埋土・堆積土(落1a~1)であり、西肩はさらに西へ延びているが、第44次調査地では検出されていないことから、国道170号線の現道内でおさまっているものと考えられる。斜面などの形態状況は掘り上げ田の井路とは異なり、それに先行して掘られていたため池の一部ではないかと思われる。落ち込み内は12層以上に分かれ、磁器(966~973)・黒色土器(974)・土師器(975・976)・瓦器・須恵器などとともに木製品が出土した。木製品はf層内で杭・桶側板(1193)・曲げ物容器底板(1190)・板状木製品(1196)、g層内で曲げ物容器底板(1189)と漆器椀(1182)があり、他に角材(1194)、有孔板(1197)、有頸板(1198)などがあった。

落ち込み1が上層近くまで埋没した時期に(落ち込み1の機能はすでに果たし終えたあと)4条の溝と-1条は9地区の幅0.4~0.3m、深さ0.1mを測る東西方向に延びる溝2-、溝2の南(5本)および5・6地区(15本)などで打設された杭を検出した。

溝1 掘り上げ田に伴う南北方向の井路で、6工区南から7工区北の24地区から38地区にわたっていた。検出長41m、同最大幅4m、同深さ2m以上を測り、溝の肩および斜面などに多量の杭(径約5cm、長さ70~80cm)が打設されていた。外環状線(国道170号)建設時以降も残存していたが、完全に埋没したのは昭和40年代後半である。溝内からは多量の杭のほか漆器椀(1181・1183)下駄(1186)・容器(1187)・桶底板(1189)などの木製品と、土師器・陶磁器の小細片などが出土した。

25・24地区付近では西方向へ派生していたが、埋没後も溝1より西方向へ東西に走る近・現代の溝が3時期にわたって縱ながっていた-溝7・溝b・溝a-。

第29図は枚岡市時代の地図で、昭和30年代後半までの状況を知ることができる。すなわち、調査地周辺は東西南北に掘られている井路が見られ、いわゆる掘り上げ田による耕作が営まれていたことがわかる。今回の第53次調査地は南北方向の井路(溝1)の一端をかすめたところに位置している。また、第29図と第30図の小字切り図との関係をみておくと、東端は北から植付前・橋口・羅漢山・辻堂(一部)と西端は恩智川沿いの七枚田・智に至る範囲である。

4. 遺物

縄文時代～近世期の遺物が出土した。遺物は土器、上製品、石器、木製品、骨角製品、金属製品などがある。以下、各項目ごとに説明を記す。

1. 上器

縄文時代～近世期の土器がある。各時代の造構及び遺物包含層などに分けて記す。

1) 縄文土器 (第31図)

今回の発掘調査では縄文時代の遺物包含層や遺構は検出されていない。出土した縄文土器は弥生時代の遺物包含層や遺構からである。すべて混入品と考えられる。時期は晩期であり、深鉢（1～10）と浅鉢（11）の器種がある。1は口縁部が外反する。口唇部は丸く終わる。胸部外面はケズリ調整する。2・3・5は口唇部直下に1条の凸帯を廻らす。4は口唇部直下に2条の凸帯を廻らし、上の凸帯に刻め目を施す。6～8は口唇部直下に1条の刻め目凸帯を廻らす。9・10は胸部であり、刻み目凸帯が残る。6～10は所謂、船橋式土器である。11は口縁部と胸部の境に稜が付く。胸部外面はケズリ調整する。口唇部直下に1条の凸帯を廻らす。3は土坑103、4は溝136、7は土坑墓Ⅲ、他は弥生時代の遺物包含層より出土。すべて生駒西麓産である。

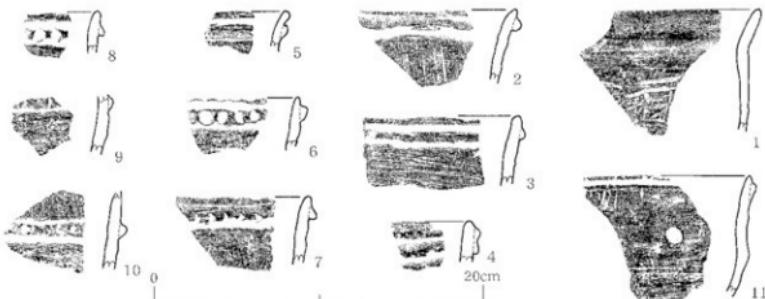
2) 弥生土器

弥生土器はI～V様式に分類する。III様式とIV様式の土器は明確に分類できないのでIII～IV様式として扱う。II～IV様式に分けられない土器は中期と記す。また、II様式の中にはI様式の可能性がある甕や鉢も含まれる。胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉢物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色から灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。また、本文中に調整法を記しているが、口縁部と裾端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

造構出土土器

土坑10 (第33図28)

28は甕である。体部がやや張り、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面と口



第31図 縄文土器実測図

縁部内面をハケメ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑19（第33図29）

29は口縁部を欠損するが無文の壺である。体部がやや張り、頸部がゆるく外反する。内外面をヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑20（第32図12～18）

甕・壺・鉢・高杯の器種がある。

12～15は甕である。12は体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。底部中央に円孔を穿つ。調整法は不明。13～15は体部の張りが大きく、口縁部が外反するものと外折するものがある。口縁端部は面を持つ。13・14は体部外面をハケメ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。15は体部外面をハケメの後ヘラケズリ調整、内面をハケメ調整する。12はII様式、13～15はIII～IV様式。すべて生駒西麓産。

16は壺である。頸部は細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部内外面はハケメの後ヘラミガキ調整する。無文の壺である。II様式。生駒西麓産。

17は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部が尖り気味に終わる。所謂、直口の鉢である。底部は平底でやや直立する。体部外面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。II様式。生駒西麓産。

18は高杯の脚部である。中空の脚部であり、脚部から柱状部の立ち上がりが強い。脚端部は面を持つ。脚部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

上坑21（第32図19～27）

甕・甕・鉢の器種がある。

19～23は甕である。19～21は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、20は刻み目、21は櫛描波状文を施す。19・21は頸部に直線文を施す。22は口縁端部が幅広の面を持つ。ヘラ描羽状文を施す。23は下半部の張りが大きい甕である。頸部が筒状を呈し、口縁部が下方へ外折する。内外面はヘラミガキ調整する。口縁端部に櫛描簾状文、頸部に直線文と簾状文を施す。体部に焼成後の穿孔がある。19～21はII様式、22・23はIII～IV様式。22は非河内産、他は生駒西麓産。

24～26は甕である。24は体部が大きく張り、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。内外面はハケメ調整する。25・26は体部がやや張り、口縁部が外反する。口縁端部はやや丸く終わる。25は内外面をハケメ調整する。体部外面にヘラ描による波状文と口縁端部に刻み目を施す。26は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメ調整する。24はIII～IV様式、25・26はII様式。生駒西麓産。

27は鉢である。張りの少ない体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面に櫛描直線文と波状文を施した後、文様帶間を研磨する。口縁端部は波状文と刻み目を施す。内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑26（第33図30）

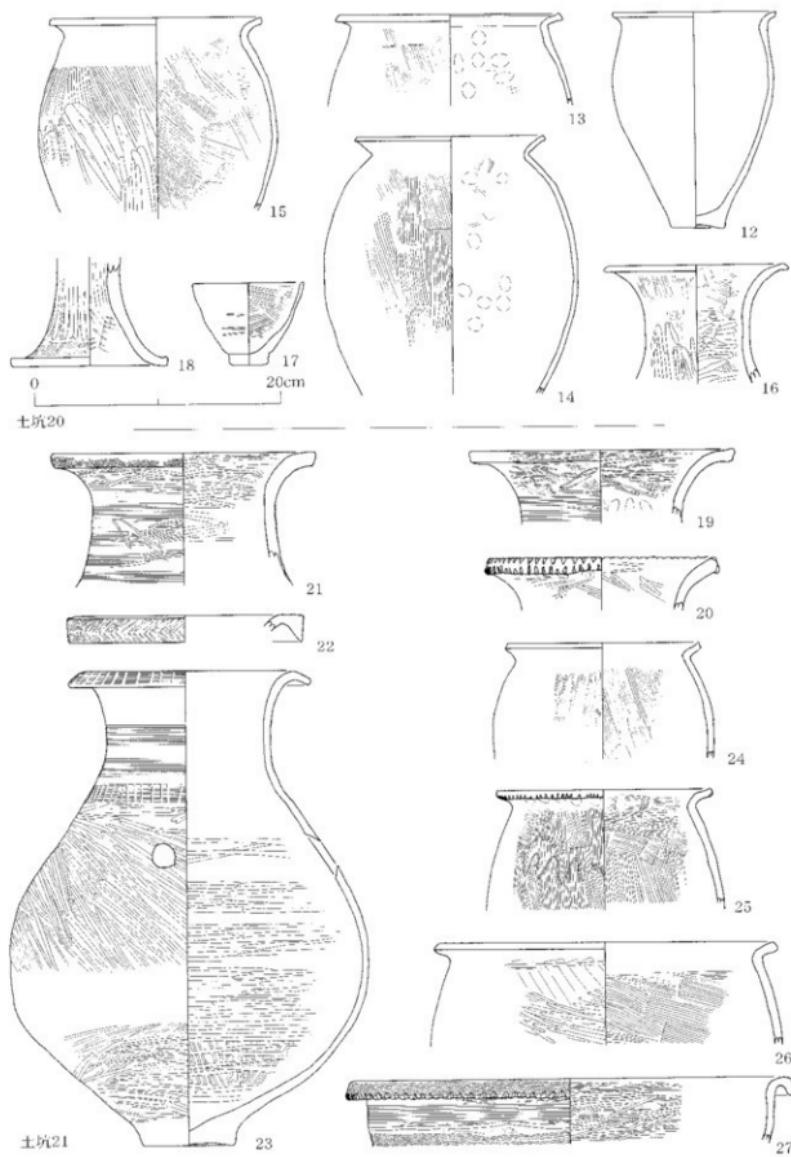
30は甕である。口縁部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面に1条のヘラ描沈線文が残る。口縁端部に刻み目を施す。I様式。生駒西麓産。

土坑27（第33図33～37）

甕・甕・鉢の器種がある。

33は甕である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。調整法は不明。III～IV様式。非河内産。

34・35は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体



第32図 土坑20・21出土土器尖測図

部内外面はナデ調整する。34は体部外面に櫛描直線文が2帯残る。文様帶間は研磨する。II様式。生駒西麓産。

36・37は鉢である。体部は外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。36は外面に櫛描直線文と波状文を施す。II様式。生駒西麓産。

土坑28（第33図31）

31は壺である。口縁端部は下方へ拡張し、幅広の面を持つ。端面に櫛描簾状文を施す。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑34（第33図38・39）

細頸壺と壺蓋の器種がある。

38は細頸壺である。口頸部が直立に伸びた後、内傾する。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描簾状文と直線文を施す。文様帶間は研磨する。III～IV様式。生駒西麓産。

39は壺蓋である。体部の立ち上がりはゆるい。口縁端部は面を持つ。内外面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

土坑36（第33図32）

32は壺である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑37（第33図40）

40は壺である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へやや拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑39（第33図45～50）

壺・鉢・壺の器種がある。

45は壺である。頸部は細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部内外面はハケメの後ヘラミガキ調整する。無文の壺である。II様式。生駒西麓産。

46は鉢である。体部はやや張り、口縁部が下方へ強く外折する。体部外面に櫛描直線文、口縁端部に刻み目を施す。体部内面はハケメの後ナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

47～50は壺である。47～49は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整するものが多い。50は47と形態はほぼ同様であるが口縁端部がやや面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。II様式。50は非河内産、他は生駒西麓産。

土坑40（第33図42～44）

壺・壺・鉢の器種がある。

42は壺である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。内外面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

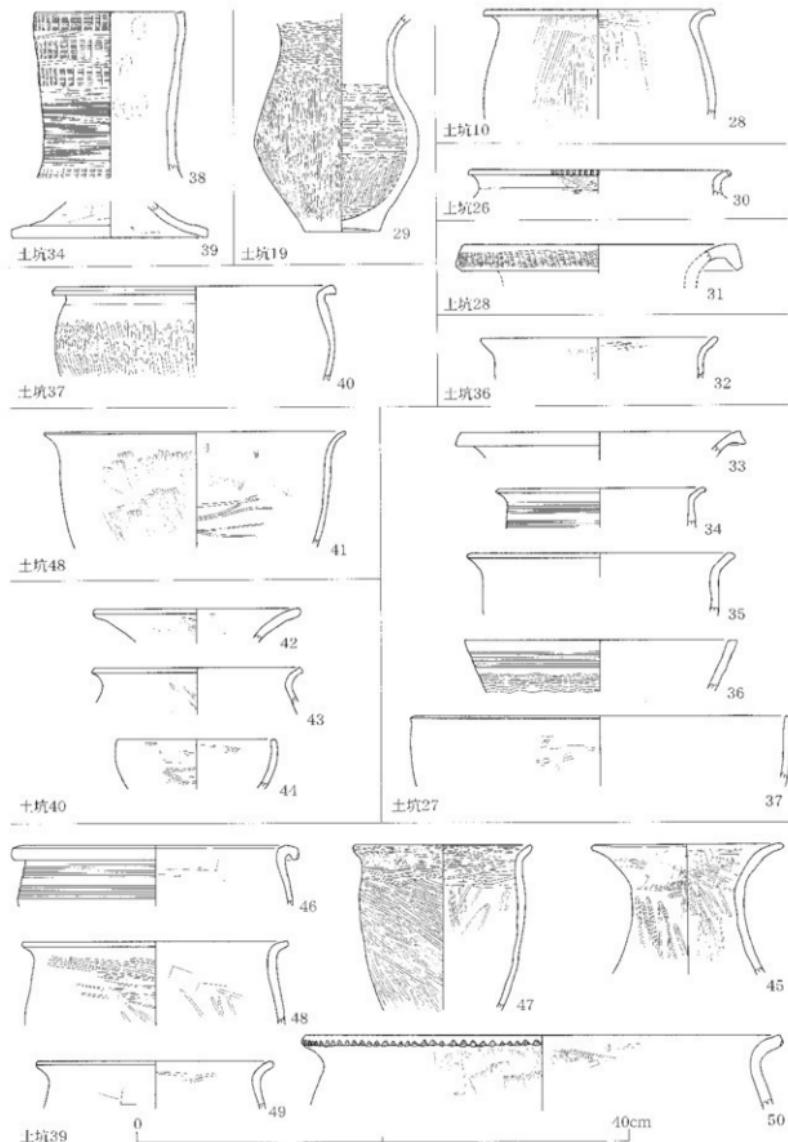
43は壺である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

44は鉢である。口縁部が内湾しながら立ち上がる。口縁端部は面を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

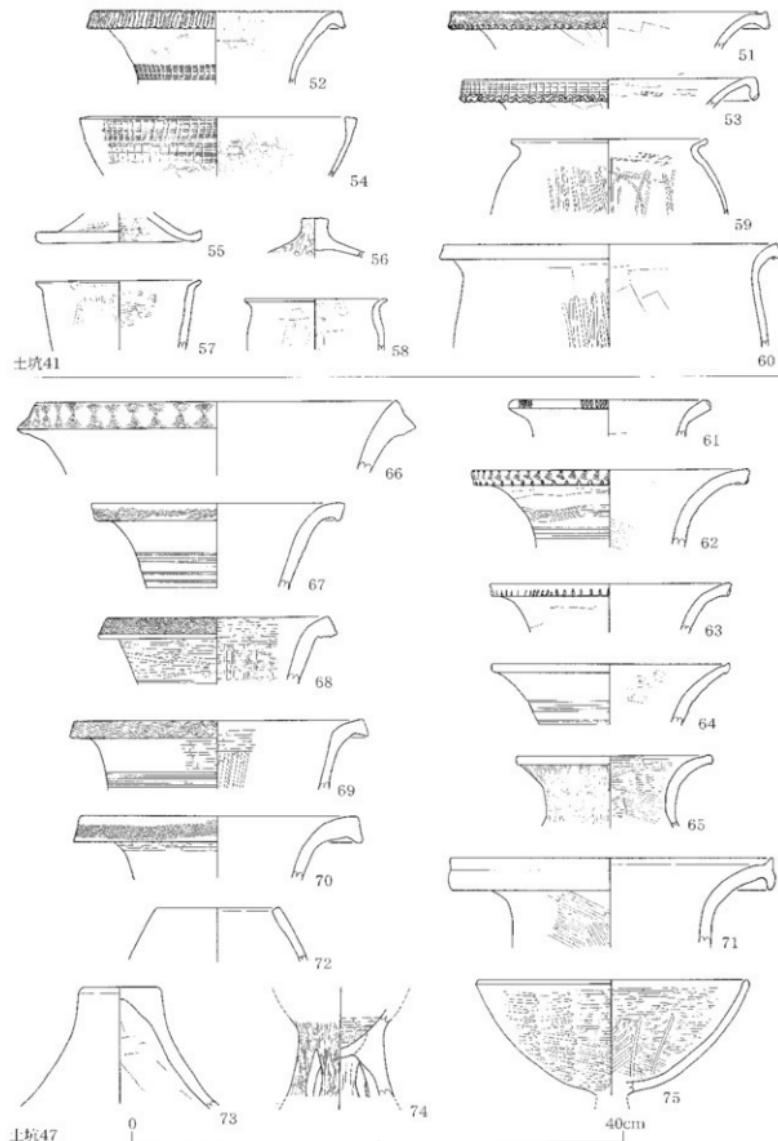
土坑41（第34図51～60）

壺・鉢・高杯・壺蓋・壺の器種がある。

51～53は壺である。51は口頸部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。櫛描波状文と刻み



第33圖 土坑10・19・26~28・34・36・37・39・40・48出土上器實測圖



第34図 土坑41・47出土土器実測図

目を施す。52・53は口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描簾状文と刻み目を施す。52は頭部外面に簾状文が1帯残る。51はⅡ様式、52・53はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

54は鉢である。口縁部が上方へ立ち上がり、口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面に櫛描簾状文が2帯残る。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

55は高杯である。裾部の立ち上がりはゆるい。裾端部は上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。内面にリング状の煤が付着しており、表蓋に転用している。中期。生駒西麓産。

56は壺蓋である。円形を呈するつまみである。小円孔が残る。中期。生駒西麓産。

57～60は甕である。57・58は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。57は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。58は体部外面をハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。59は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整する。60は58と形態がほぼ同様であるが口縁端部を下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。57・58はⅡ様式、59・60はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

上坑47（第34・35図61～87）

壺・無頸壺・甕蓋・高杯・甕の器種がある。

61～71は壺である。61は口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わり、刻み目を施す。62～70は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持ち、櫛描文様や刻み目を施すものと丸く終わるものがある。頭部に櫛描直線文を施すものが多い。71は筒状の頭部より口縁部が大きく外反する。口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。61はⅠ様式、62～70はⅡ様式、71はⅢ～Ⅳ様式。63・65は非河内産、他は生駒西麓産。

72は無頸壺である。口縁部がハ字形に内傾する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

73は甕蓋のつまみ部である。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

74・75は高杯である。74は脚柱部である。内外面はヘラミガキ調整する。梢円形の透かし孔を施す。75は深い椀状を呈する杯部である。口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。74はⅢ～Ⅳ様式。非河内産。75はⅡ様式。生駒西麓産。

76～87は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反するものと短く外反するものがある。口縁端部は丸く終わるかやや面を持つ。76～78は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。76・77は口縁端部に刻み目を施す。79・80は体部外面をハケメ調整、内面をヘラミガキ調整する。81～87は体部外面をヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。77～79は非河内産、他は生駒西麓産。

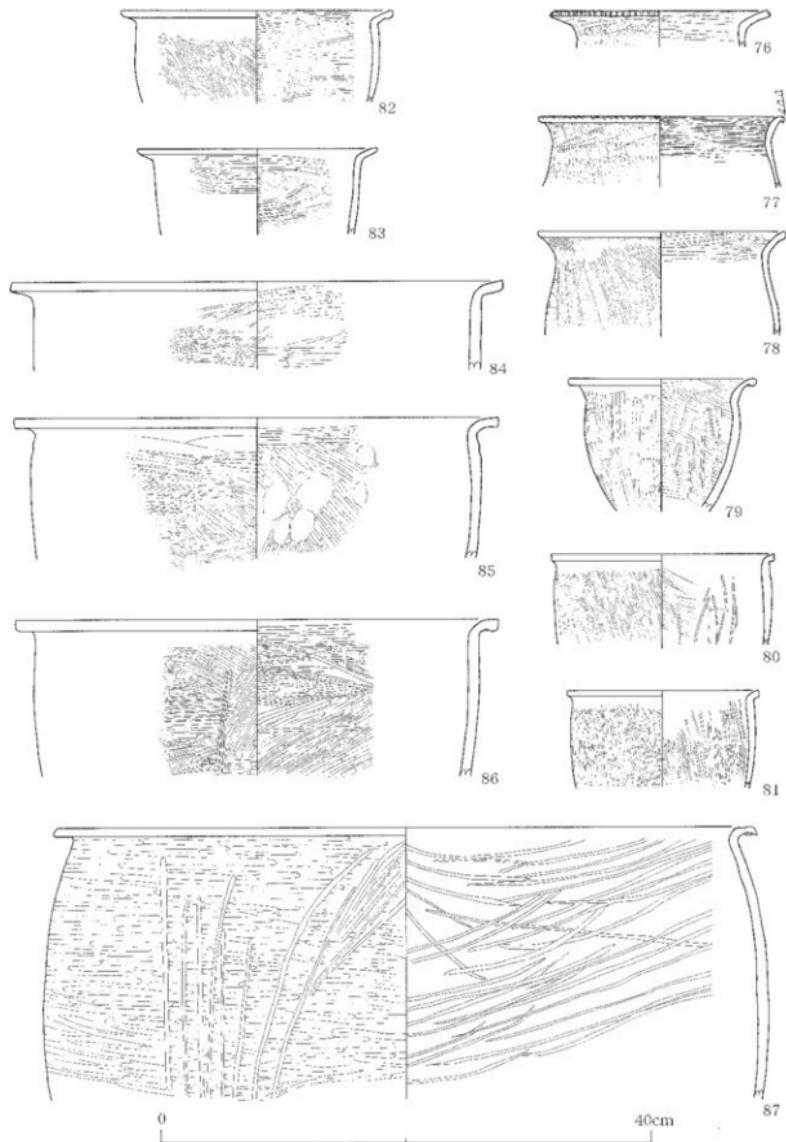
土坑48（第33図41）

41は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後、部分的にヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑49（第37図111・112）

甕と鉢の器種がある。

111は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁



第35図 上坑47出土土器実測図

端部に刻み目を施す。II様式。非河内産。

112は鉢である。体部上半は内傾する。口縁端部に段を持つ。口縁端部に櫛描列点文、体部外面に3帯の籠状文と1帯の波状文を施す。内外面をヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑50（第36図88～110）

無頭壺・壺・甕・甌・鉢・高坏の器種がある。

88は無頭壺である。体部は算盤球形を呈する。口縁部は短く外反し、口縁端部がやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面の下半をヘラミガキ調整、上半をナデ調整する。体部上半に2個1対の小円孔を穿つ。III～IV様式。生駒西麓産。

89～96は壺である。88～91は口頭部が大きく外反する。口縁端部は尖り気味のものと面を持つものがある。90は頭部に櫛描直線文、91は口縁端部に刻み目を施す。92・93は口縁端部を下方へ拡張する。口頭部に櫛描文様を施す。94は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に4条の凹線文、内面に櫛描扇形文を施す。95は口縁端部を上下に拡張する。幅広の面を持つ。櫛描簾状文を2番施す。96は筒状の頭部より口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。内外面はヘラミガキ調整する。無文の壺である。89～91はII様式、他はIII～IV様式。90・91・94は非河内産、他は生駒西麓産。

97は甕である。器高は高く、口縁端部が丸く終わる。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

98～105は甌である。98～100・102・103は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。99は体部外面をヘラケズリ調整、他はヘラミガキ調整やハケメ調整する。102は口縁部直下に瘤状の握手を施す。101・104は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。101は体部内外面をヘラミガキ調整する。104は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。105は口縁部が強く下方へ折れ曲がる。口縁端部はやや丸く終わり、刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。98～100・102・103はII様式、他はIII～IV様式。101は非河内産、他は生駒西麓産。

106・107は鉢である。106は体部が浅く、口縁部が外折する。口縁端部は面を持ち、刻み目を施す。体部内外面はハケメ調整する。107は体部が外上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。106はIII～IV様式、107はII様式。生駒西麓産。

108～110は高坏である。108・109は浅い壺状を呈する坏部である。口縁端部は面をもつ。108は内外面をヘラミガキ調整する。109は調整法不明。口縁端部に櫛描波状文、杯部に直線文を施す。110は脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、柱状部が中央である。外面はヘラミガキ調整する。108・109はIII～IV様式、110はII様式。生駒西麓産。

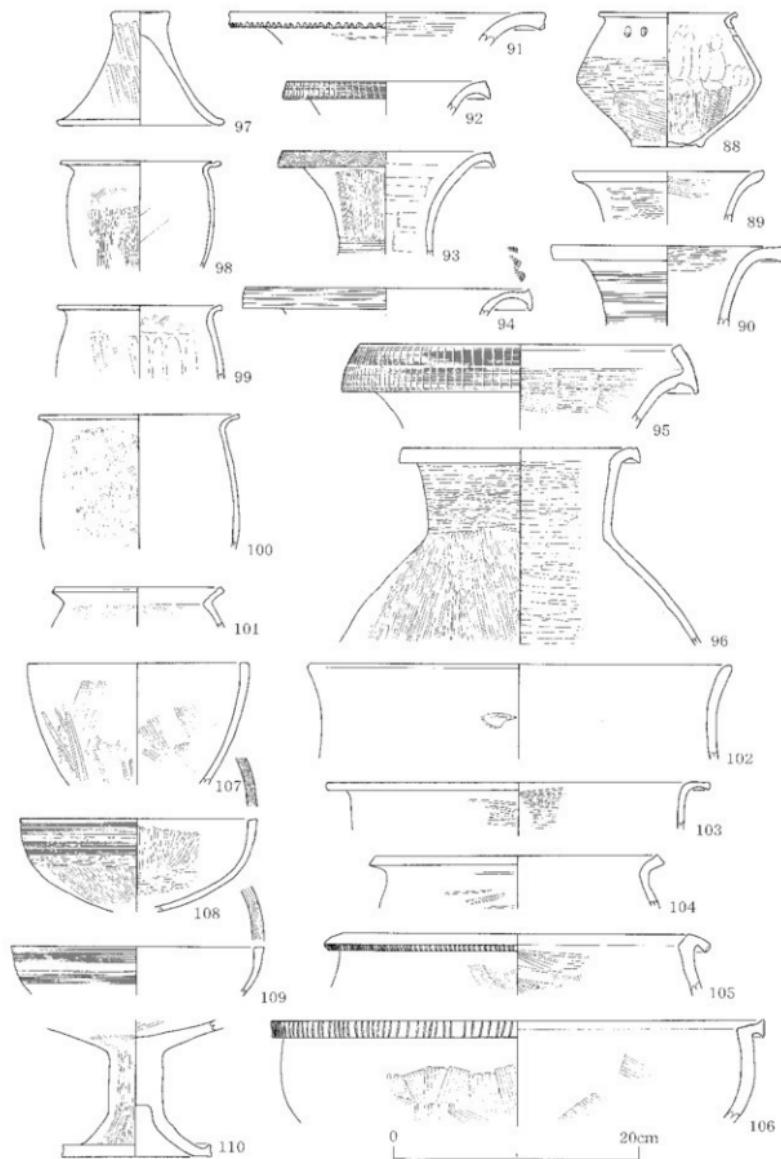
土坑55（第37図113）

113は壺である。口頭部が大きく外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。頭部外面はハケメ調整の後、櫛描直線文を施す。4帯が残る。文様帶間に研磨する。内面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑57（第37図114・115）

甕と壺の器種がある。

114は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。



第36圖 土坑50山土器実測図

115は壺である。口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描縞状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

土坑61（第37図116）

116は高杯である。口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

土坑63（第37図117～121）

壺・鉢・甕の器種がある。

117・118は甕である。口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。Ⅰ様式。生駒西麓産。

119は鉢である。体部が内湾気味に上方へ伸び、口縁部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

120・121は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑67（第37図122・123）

122・123は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。123は口縁端部に刻み目を施す。122は体部外面をナデ調整する。123は体部外面をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

上坑71（第37図126～128）

鉢・甕の器種がある。

126は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

127・128は壺である。127は口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。128は頸部が細く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。無文の甕である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑77（第37図124）

124は壺である。体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

上坑80（第37図125）

125は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

七坑82（第37図131～138）

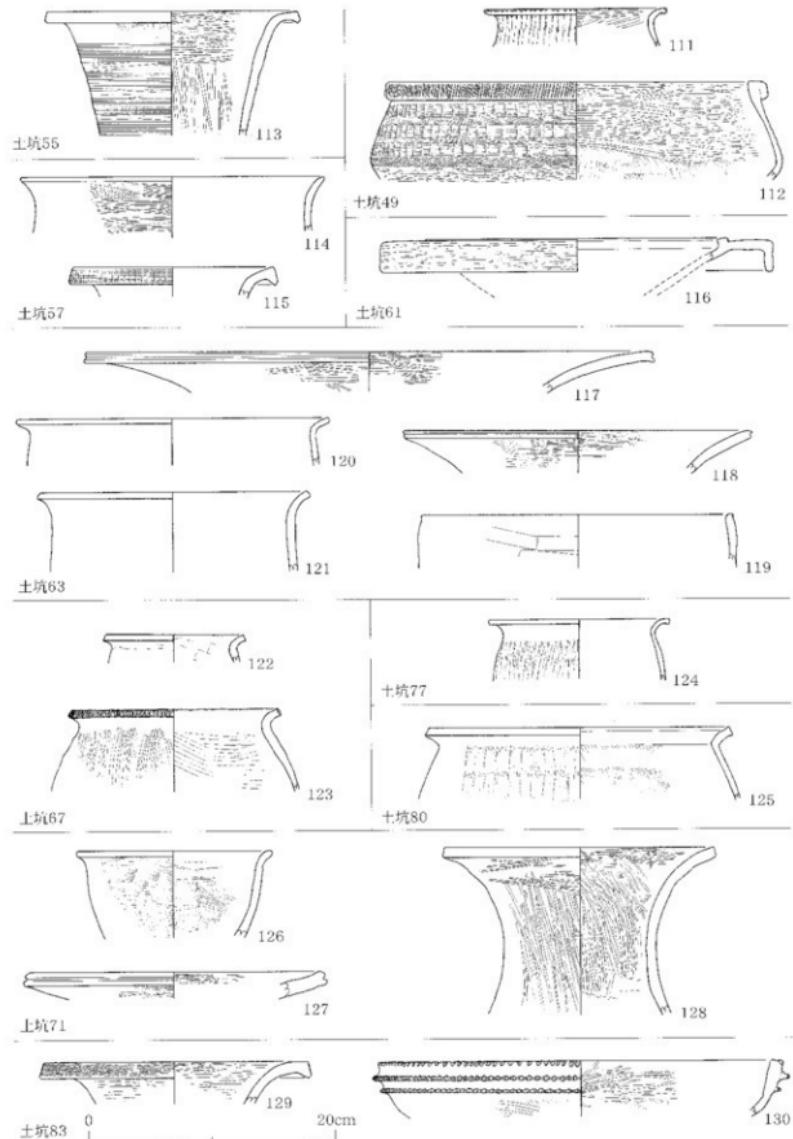
鉢・壺・甕蓋・壺蓋・甕の器種がある。

131・135は鉢である。体部が内湾気味に上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。135はミニチュアの鉢である。直口を呈する。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

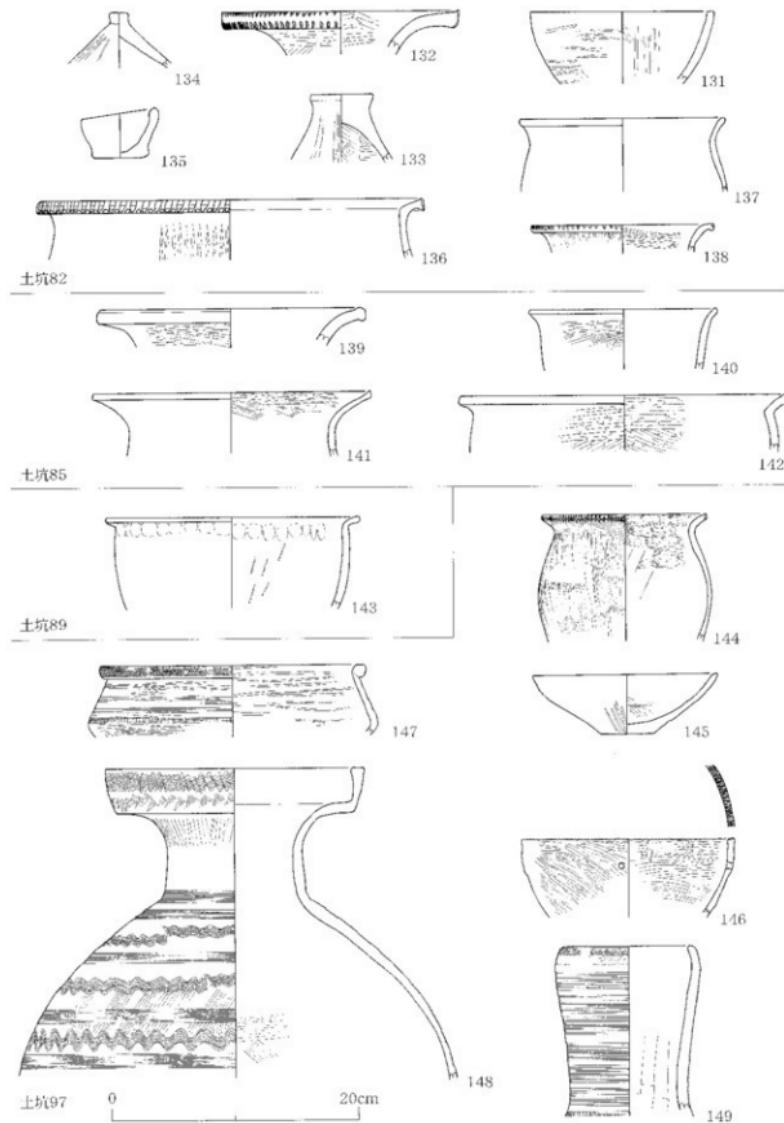
132は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

133は甕蓋のつまみ部である。外面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

134は壺蓋のつまみ部である。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。



第37圖 土坑49・55・57・61・63・67・71・77・80・83出上器実測図



第38圖 土坑82·85·89·97出土器物實測圖

136～138は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。136は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁端部に刻み目を施す。137は体部内外面をナデ調整する。138は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。II様式。136は生駒西麓産。他は非河内産。

土坑83（第37図129・130）

壺・鉢の器種がある。

129は壺である。口縁部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に1条の横描波文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

130は鉢である。浅い椀状を呈し、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁部直下に2帯の凸帶を貼り付ける。凸帶と口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。III～IV様式。非河内産。

土坑85（第38図139～142）

壺・甕の器種がある。

139は壺である。口縁端部がやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

140～142は甕である。口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑89（第38図143）

143は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整するが、指頭圧痕が頗著に残る。II様式。生駒西麓産。

土坑96（第39図150～165）

細頸壺・無頸壺・壺・甕・鉢の器種がある。

150は細頸壺である。底部は平底であり、体部が球形を呈する。頸部は外上方に直線的に伸び、口縁端部が丸く終わる。外面に横描文様を施し、文様帶間を研磨する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

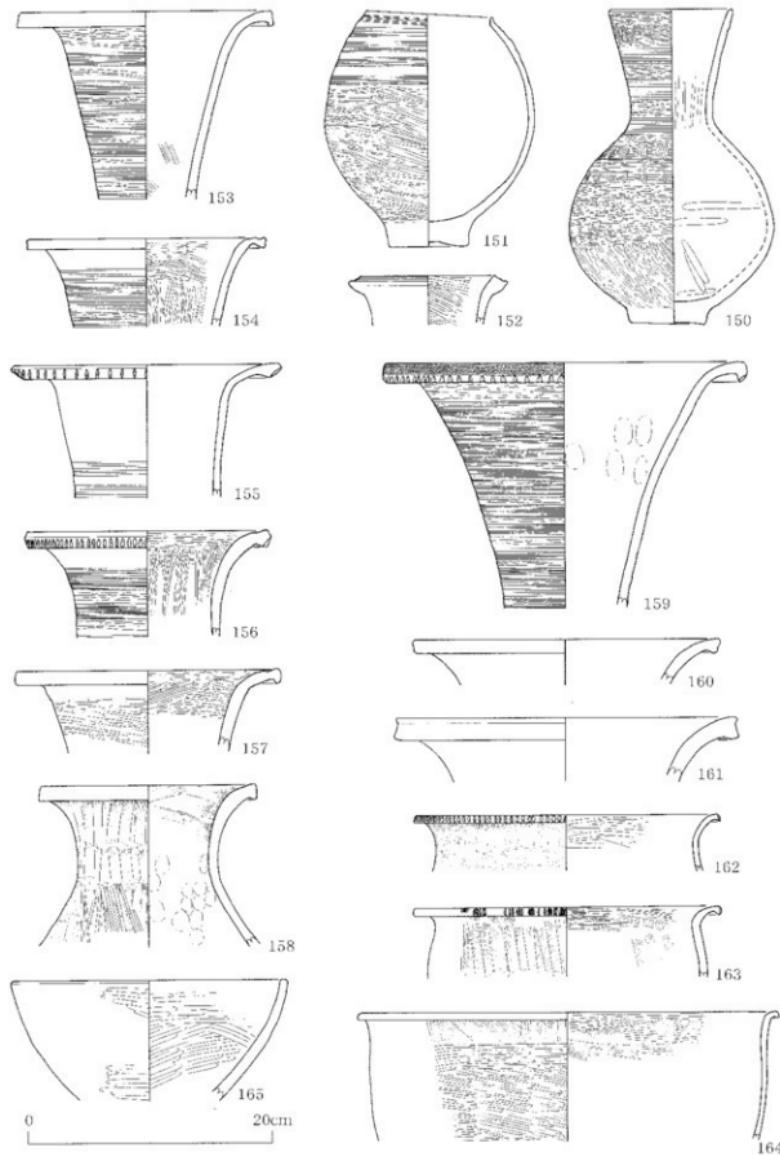
151は無頸壺である。底部はやや凹む平底である。体部は綾長の球形を呈する。口縁端部は丸く終わる。外面に5条の横描直線文を施す。外面の上半はナデ調整、下半はヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

152～161は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部には横描文様や刻み目を施すものと無文のものがある。頸部も有文と無文のものがある。II様式。158・160は非河内産。他は生駒西麓産。

162～164は甕である。162・163は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。164は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや丸く終わる。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。II様式。非河内産。

165は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。内外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑97（第38図144～149）



第39圖 土坑96出土十件器物實測圖

甕・鉢・壺・細頸壺の器種がある。

144は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。II様式。非河内産。

145～147は鉢である。145は平底の底部より体部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はナデの後、部分的なヘラミガキ調整する。内面はハケメの後ナデ調整する。146は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面をもつ。所謂、直口の鉢である。体部に小円孔を穿つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。147は体部が内傾する。口縁端部は段に持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。外外面はヘラミガキ調整する。145・147はIII～IV様式、146はII様式。生駒西麓産。

148は壺である。張りのある体部より頸部が筒状を呈する。口縁端部は上方へ拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部と体部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。III～IV様式。非河内産。

149は細頸壺である。筒状を呈する頸部より口縁部が内湾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描直線文を施す。調整法は不明。III～IV様式。非河内産。

土坑99（第40図166～168）

甕・壺・高坏の器種がある。

166は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

167は壺である。口縁部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。外外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

168は高坏の脚部である。裾部がゆるく立ち上がる。裾端部は面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はヘラケズリ調整する。中期。生駒西麓産。

土坑100（第40図171）

171は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。外面にヘラ描沈線文を施す。4条が残る。口縁端部には刻み目を施す。I様式。生駒西麓産。

土坑103（第40図172～175）

壺・甕の器種がある。

172～174は壺である。細い頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。174は頸部に櫛描直線文を施す。II様式。生駒西麓産。

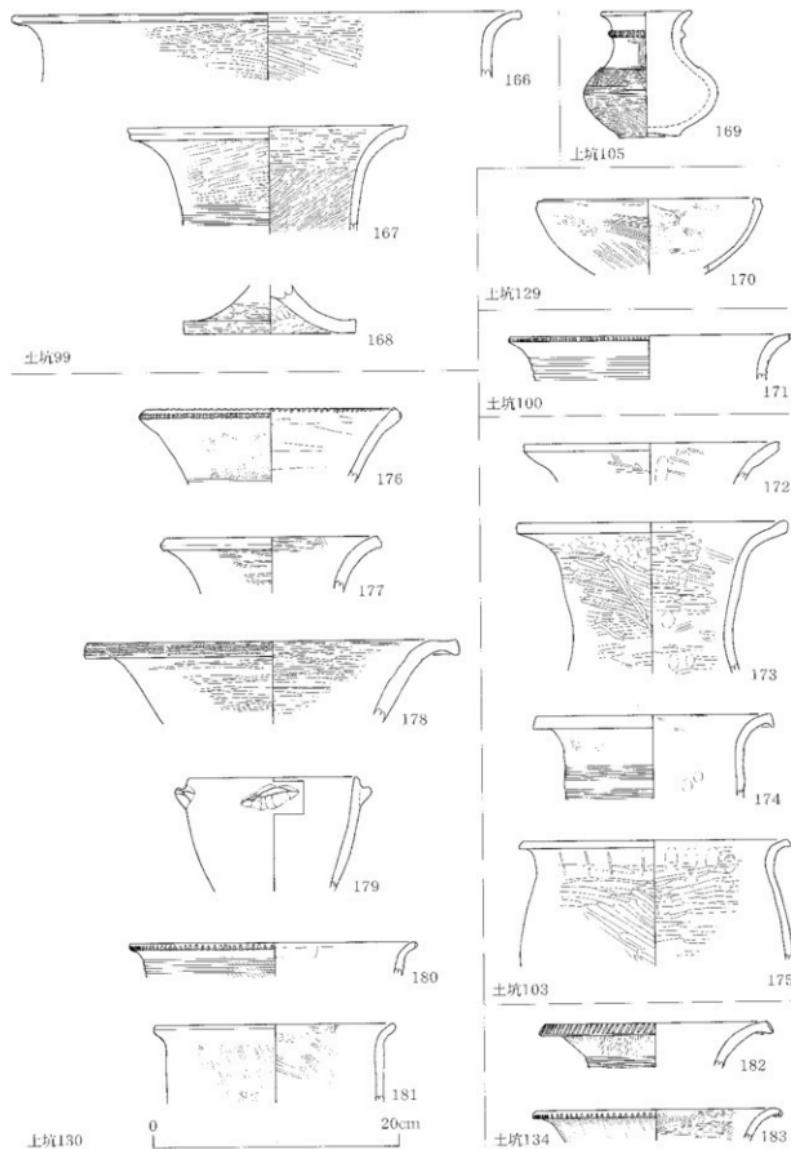
175は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑105（第40図169）

105は小型の甕である。体部の張りが大きい。所謂、扁球形を呈する。口縁部は大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。頸部に1条の貼付け凸帯を廻らした後、刻み目を施す。体部上半は3条1組のヘラ描沈線文を2帯施し、文様帶間に鮫歯文を描く。I様式。生駒西麓産。

土坑129（第40図170）

170は高坏である。坏部はやや深い椀状を呈する。口縁端部が少し内傾する。外面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。



第40図 土坑99・100・103・105・129・130・134出土土器実測図

上坑130（第40図176～181）

壺・鉢・甕の器種がある。

176～178は甕である。176は口縁部が外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部の上下に刻み目、頸部に1条の沈線文を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。177・178は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。178は口縁端部に櫛描波状文を施す。176はI様式、177・178はII様式。生駒西麓産。

179は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁部がやや内湾する。口縁端部は丸く終わる。口縁部直下に瘤状の握手を施す。調整法は不明。I様式。生駒西麓産。

180・181は甕である。180は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に3条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。181は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメ調整する。180はI様式、181はII様式。生駒西麓産。

土坑134（第40図182・183）

壺と甕の器種がある。

182は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目、頸部に櫛描直線文を施す。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

183は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。II様式。非河内産。

溝64（第41図187）

187は甕である。体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝84（第41図184～186）

水差形土器・甕の器種がある。

184は水差形土器である。底部は平底であり、体部が算盤弓形を呈する。口縁部は上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。握手は欠損する。口縁部に3条の円線文を施す。調整法は不明。III～IV様式。非河内産。

185・186は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。185は口縁端部が面を持つ。調整法は不明。186は口縁端部を下方へ拡張する。体部内外面をハケメ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝85（第41図197～200）

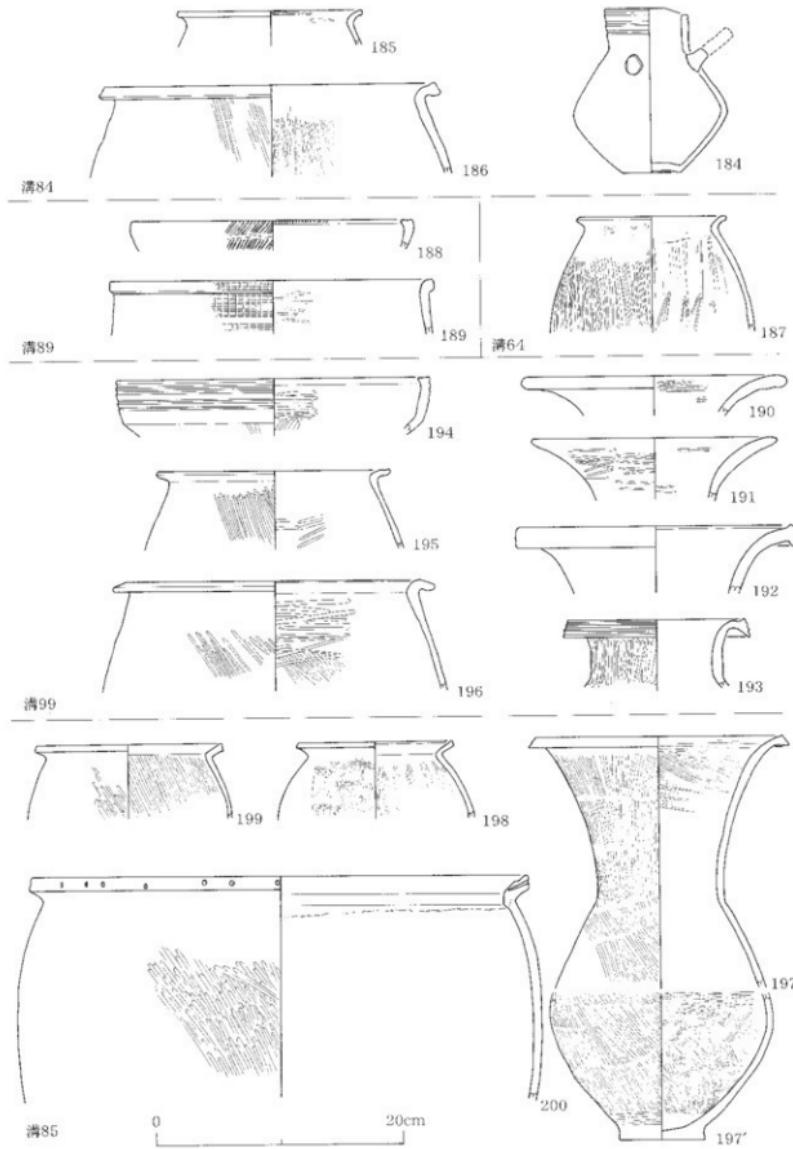
壺と甕の器種がある。

197は壺である。体部より上半と下半に分かれているが同一個体と考えられる。底部は平底であり、体部の張りは少ない。口頸部が大きく外上方に外反し、口縁端部を下方へ拡張する。頸部下半と体部上半の内面をナデ調整、他はハケメ調整する。無文の壺である。III～IV様式。生駒西麓産。

198～200は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。185は口縁端部が面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整する。200は口縁端部に小円孔を穿つ。III～IV様式。生駒西麓産。

溝89（第41図188・189）

高坏と鉢の器種がある。



第41図 满64・84・85・89・99出土土器実測図

188は高坏である。浅い楕状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部外面向て櫛描列点文を施す。文様帶間は研磨する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

189は鉢である。体部が上方へ伸び、口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

溝99（第41図190～196）

壺・高坏・簾の器種がある。

190～193は壺である。190・191は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。190は外面をナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。191は外面をヘラミガキ調整する。192は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。調整法は不明。193は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に3条の凹線文を施す。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。190・191はⅡ様式、193・194はⅢ～IV様式。生駒西麓産。

194は高坏である。浅い楕状を呈する坏部である。口縁端部は面を持つ。体部外面に4条の凹線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

195・196は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部が面を持つ。体部外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

溝100（第42図201・202）

201・202は壺である。201は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。頸部外面に櫛描直線文を施す。文様帶間は研磨する。内外面はヘラミガキ調整する。202は筒状の頸部より、口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に櫛描簾状文、頸部に直線文を施す。調整法は不明。201はⅡ様式、202はⅢ～IV様式。生駒西麓産。

溝101（第42図212・213）

212・213は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部をやや上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。内外面はハケメの後ナデ調整する。213は口縁端部が面を持つ。内外面はハケメ調整する。212は中期、213はⅡ様式。生駒西麓産。

溝102（第42図203・204）

壺と甕の器種がある。

203は甕である。口縁部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅰ様式。非河内産。

204は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

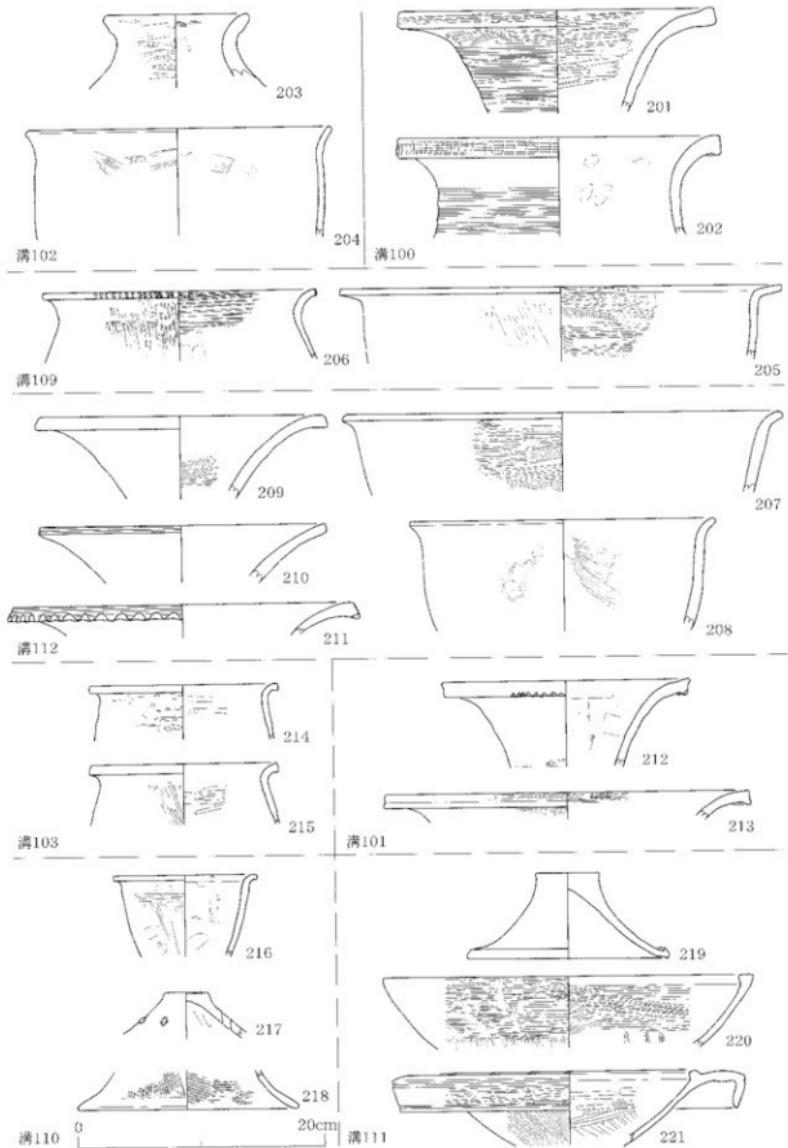
溝103（第42図214・215）

214・215は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。214は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。215は体部内外面をヘラミガキ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

溝109（第42図205・206）

205・206は甕である。205は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。206は体部がやや張り、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。205は生駒西麓産、206は非河内産。

溝110（第42図216～218）



第42図 溝100~103・109~112出土土器実測図

甕・壺蓋・甕蓋の器種がある。

216は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

217は壺蓋のつまみ部である。小円孔を穿つ。調整法は不明。中期。生駒西麓産。

218は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝111（第42図219～221）

甕蓋と高杯の器種がある。

219は甕蓋である。体部は急に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。内外面はナデ調整する。つまみ部の上面に木葉痕が残る。中期。生駒西麓産。

220・221は高杯である。220は浅い椀状を呈する杯部である。口縁端部は面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。221は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に1条の凸帯を刻らす。断面形がコの字形を呈する。口縁端部に2条の凹線文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝112（第42図209～211）

鉢・甕・壺の器種がある。

207は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

208は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

209～211は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。210は口縁端部に櫛描直線文、211は直線文を施す。211はさらに指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。II様式。生駒西麓産。

溝113（第43図241）

241は壺である。口頭部が大きく外上方へ伸びる。口縁端部はやや丸く終わる。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

溝117（第43図242）

242は甕である。体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面の調整法は不明。内面はハケメ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝120（第43図238～240）

甕と鉢の器種がある。

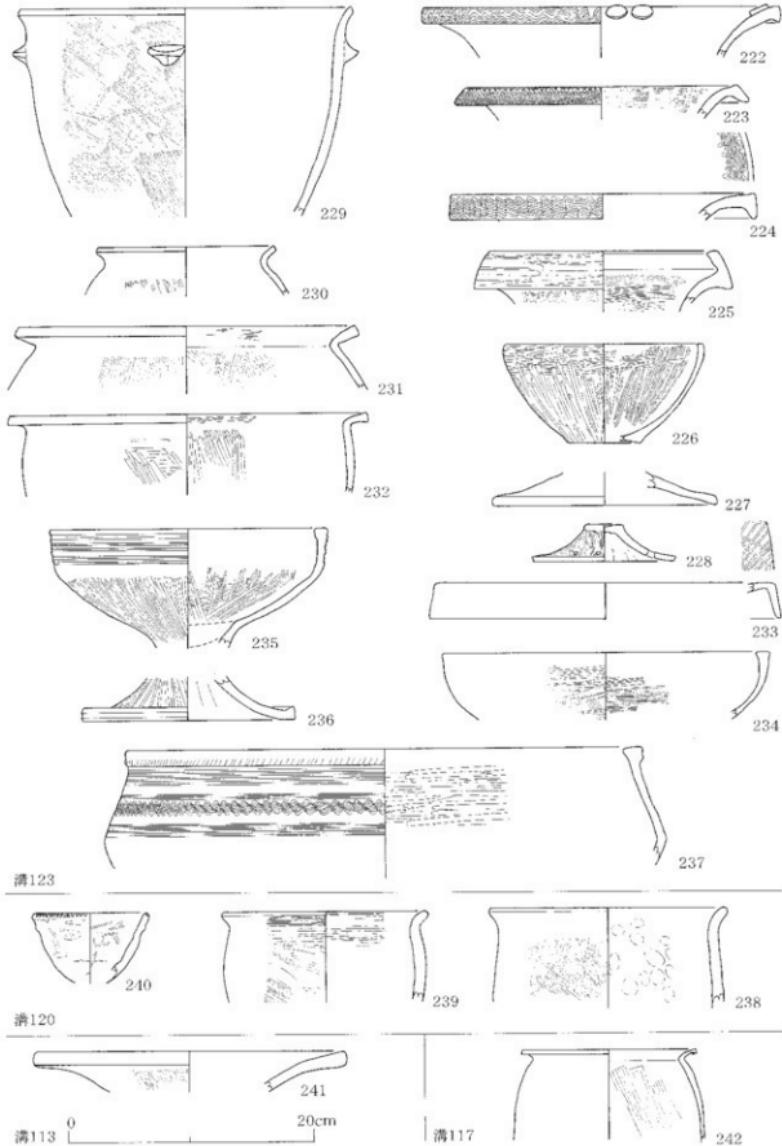
238・239は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

240は鉢である。ミニチュアである。体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はハケメの後ナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。作りは粗雑である。II様式。生駒西麓産。

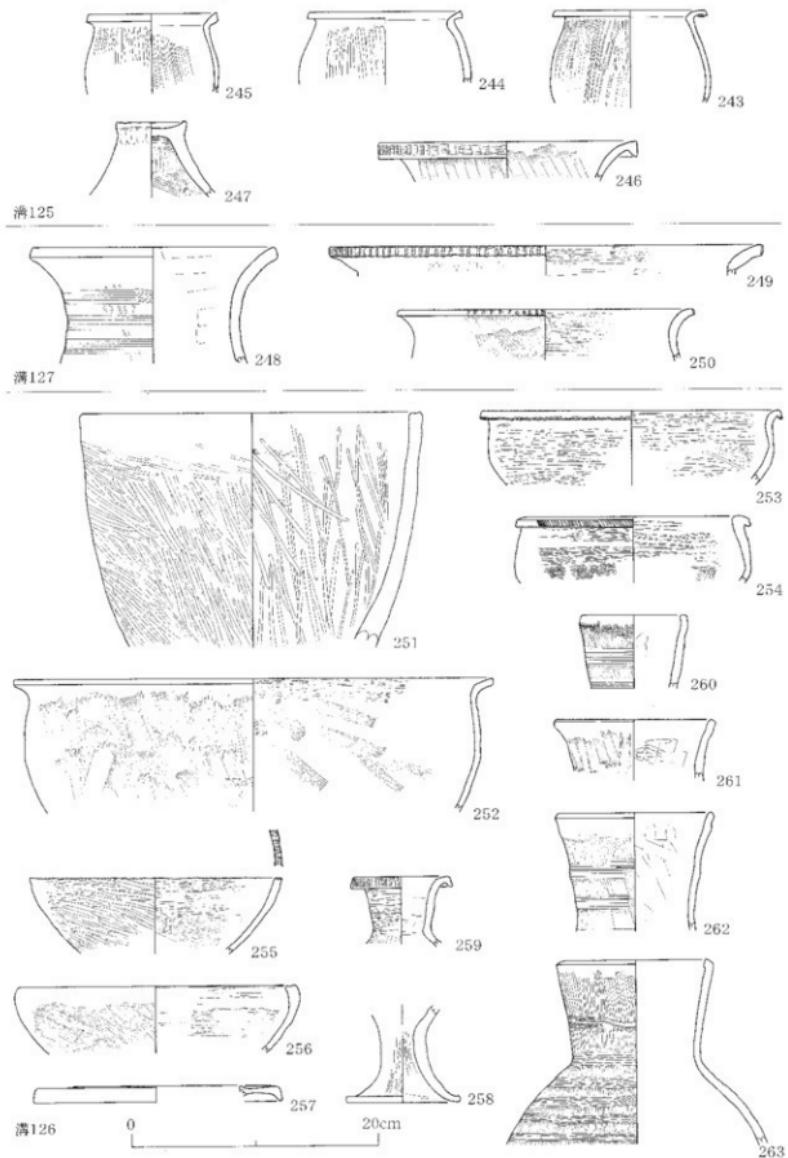
溝123（第43図222～237）

壺・鉢・甕蓋・壺蓋・甕・高杯の器種がある。

222～225は壺である。222～224は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文を施す。222は内面に円形浮文を貼り付ける。223は波状文を施す。225は口端縁部を上方へ拡張するがやや内傾



第43図 溝113・117・120・123出土土器実測図



第44図 溝125~127出土土器実測図

する。幅広の面を持つ。口縁部外面はヘラミガキ調整する。頸部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。223は非河内産、他は生駒西麓産。

226・232・237は鉢である。226は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部内外面はヘラミガキ調整する。232は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整する。内面に赤色顔料が残る。237は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に刻み目、体部に柳描直線文と波状文を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。226は中期、232はⅡ様式、237はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

227は壺蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

228は壺蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縁端部は面を持つ。つまみ部はやや凹む。2ヶ1対の小円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

229～231は甕である。229は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部上半に瘤状の握手を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。231・232は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。230は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。231は体部内外面をハケメ調整する。229はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

233～236は高坏である。233は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。水平部分に斜格子の暗文を施す。234・235は浅い椀状を呈する杯部である。口縁端部は面を持つ。234は内外面をハケメの後ヘラミガキ調整する。235は5条の円線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。236は匣部がゆるく立ち上がる。匣端部は上方へ拡張する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝125（第44図243～247）

壺・壺・甕の器種がある。

243～245は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が外折する。口縁端部は面を持つ。243は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。244は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。245は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

246は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に柳描簾状文を施す。内外面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

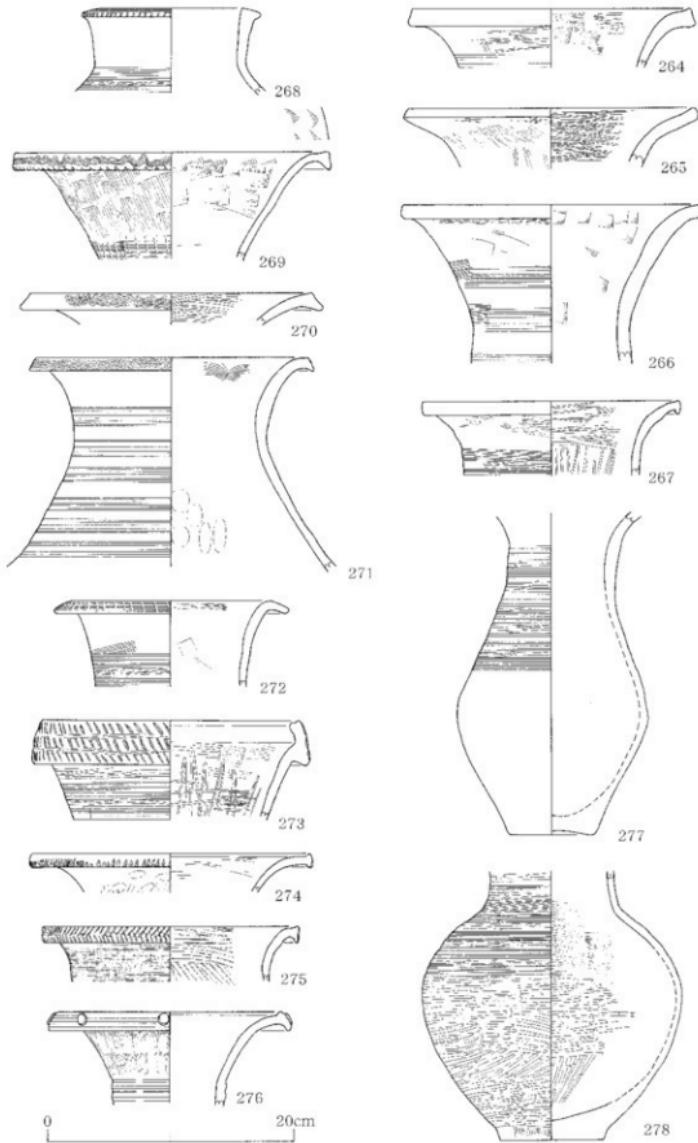
247は甕蓋のつまみ部である。上面は凹む。外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝126（第44～46図251～293）

鉢・高坏・壺・細頸壺・甕・甕蓋の器種がある。

251～254は鉢である。251は体部が外上方へ伸びる。口縁端部はやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。252は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。253・254は体部の張りは少なく、口縁部が強く下方へ折れ曲がる。体部外面はヘラミガキ調整する。253は口縁端部に刻み目を施す。254は口縁端部に刻み目、体部に柳描直線文と波状文を施す。251は中期、252はⅡ様式、253・254はⅢ～Ⅳ様式。254は非河内産、他は生駒西麓産。

255～258は高坏である。255はやや深い椀状を呈する坏部である。口縁端部は面を持ち、刻み目を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。256はやや深い椀状を呈する坏部である。口



第45図 溝126出土土器実測図

縁端部は面を持つ。内外面はハケメ調整する。257は口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。258は脚部である。柱状部は中空であり、裾部の立ち上がりは急である。縁端部はやや面を持つ。外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。柱状部内面にしぶり痕が残る。255はII様式、他はIII~IV様式。生駒西麓産。

259・264~278は壺である。259は小形である。頸部が外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と体部に櫛描文を施す。調整法は不明。264~267は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施すものが多い。268は細頸壺にちかい壺である。口縁端部は上方に面を持つ。口縁端部に櫛描直線文と刻み目、頸部に直線文を施す。文様帶間は研磨する。内面はナデ調整する。269~272は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部には櫛描文様を施す。273は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描列点文、頸部に直線文を施す。文様帶間は研磨する。内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。274~276は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。274は口縁端部に刻み目、275は口縁端部に櫛描列点文と頸部に直線文を施す。276は口縁端部に凹線文と円形浮文、頸部に凹線文を施す。277と278は底部から体部の破片である。体部に櫛描直線文を施す。264~267・277・278はII様式、他はIII~IV様式。264・270・276は非河内産、他は生駒西麓産。

260~263は細頸壺である。口頸部がやや外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。頸部には櫛描直線文や波状文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

279~292は甕である。279~281は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。282は体部がやや張り、口縁部が強く外反する。口縫端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をハケメの後ナデ調整する。口縫部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縫端部に刻み目を施す。283・284・286~292は体部の張りが大きく、口縫部が強く外反する。口縫端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。285は体部の最大径が下半部にある。体部の張りは少ない。口縫部はゆるく外反する。口縫端部は面を持ち、刻み目を施す。体部上半部にJ字形の櫛描文様を施す。体部外面はヘラケズリの後ハケメ調整、内面はナデ調整する。279~281はII様式、285は中期、他はIII~IV様式。282・285・286は非河内産、他は生駒西麓産。

293は甕蓋である。体部はゆるく立ち上がる。口縫端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

溝127（第44図248~250）

壺と甕の器種がある。

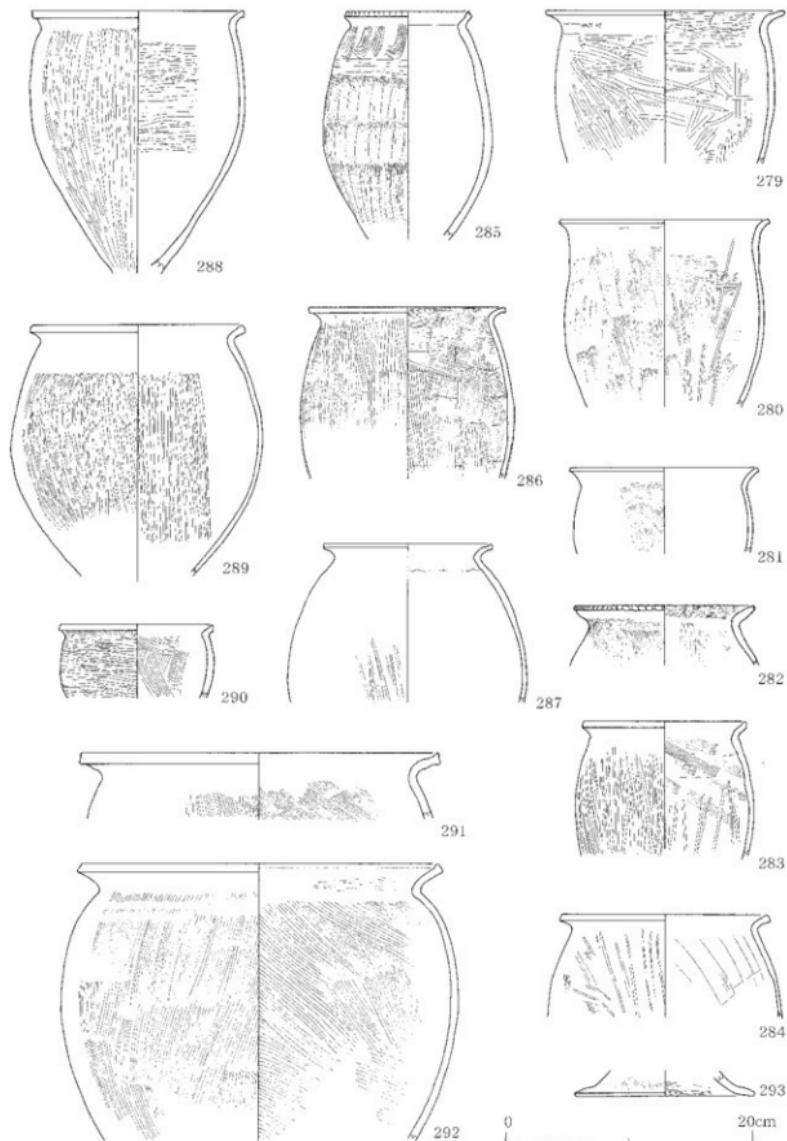
248は壺である。筒状を呈する頸部より口縫部がゆるく外反する。口縫端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

249・250は甕である。体部の張りは少なく、口縫部が大きく外反する。口縫端部は丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面はナデ調整する。口縫部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縫端部に刻み目を施す。II様式。生駒西麓産。

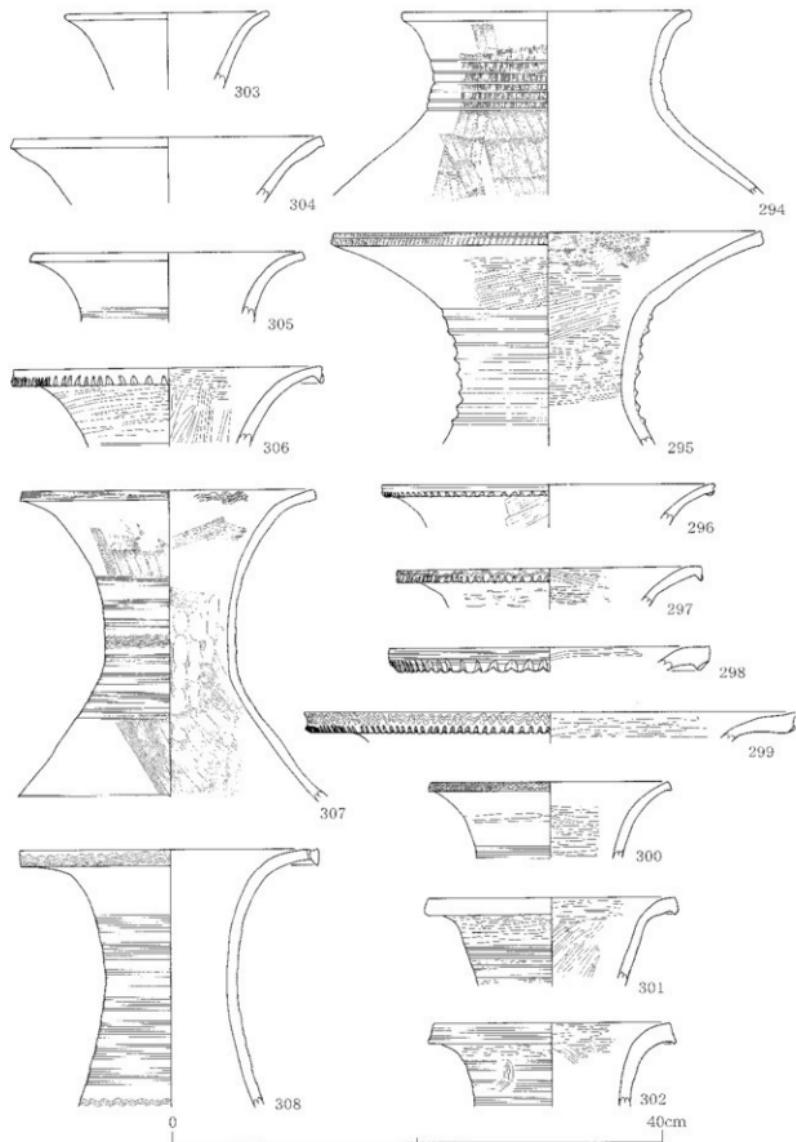
溝128（第47~51図294~370）

壺・無頸甕・細頸甕・水差形土器・甕蓋・高坏・鉢・甕の器種がある。

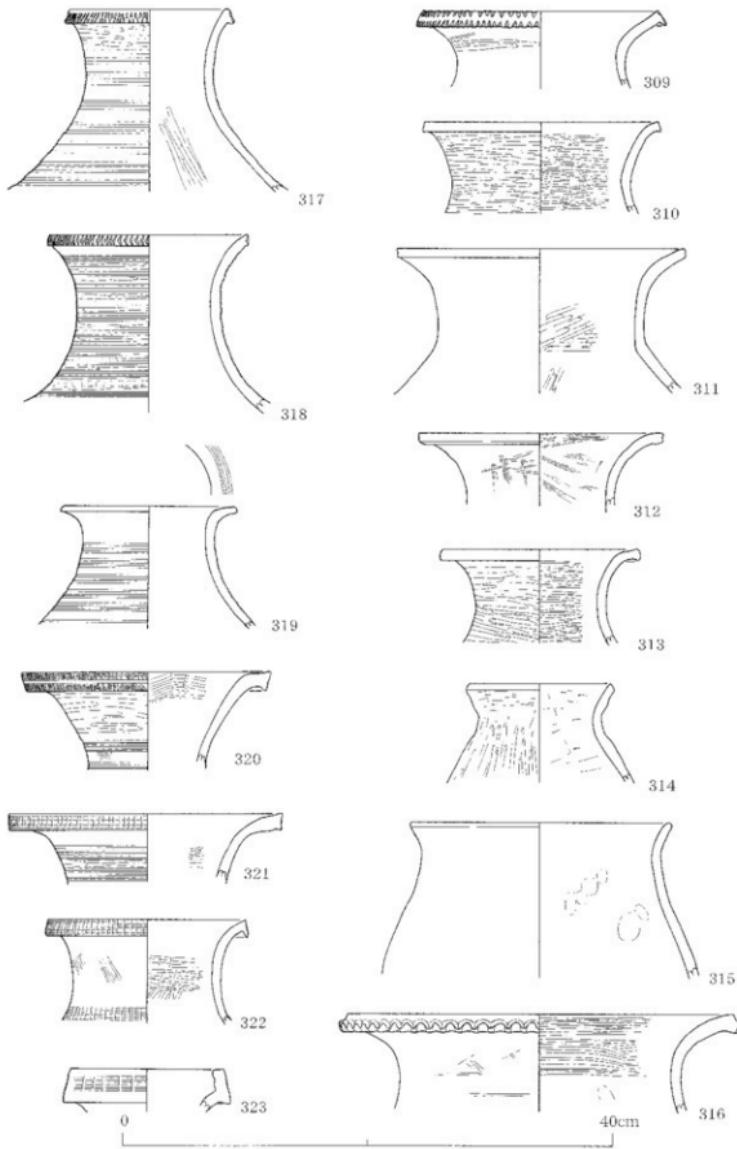
294~324は壺である。294は体部が大きく張り、頸部が短い。口縫部はゆるく外反し、口縫端部は丸く終わる。頸部に6条のヘラ描沈線文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。295は頸



第46図 溝126出土土器実測図



第47図 满128出土土器実測図



第48図 溝128出土土器実測図

部が纏く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラ描沈線文と刻み日、頸部に8条の凸帯文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面は口縁部をハケメ調整、他をヘラミガキ調整する。296は口縁端部に1条のヘラ描沈線と刻み日を施す。295～308は頸部が長く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面をもつものが多いが、丸く終わるものもある。口縁端部と頸部に櫛描文様や刻み目を施すものが多い。307は内面に部分的な波状文を施す。内外面はヘラミガキ調整が多い。308は口縁部に小円孔を穿つ。309～319は口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。無文のものが多いが、口縁端部に刻み日を施すものや頸部に櫛描文様を施すものもある。316は指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。319は内面に櫛描直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整が多い。320～322は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。内外面はヘラミガキ調整するものが多い。323は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描麻状文を施す。324は体部から頸部である。櫛描直線文を施す。294～296はI様式、297～319はII様式、320～323はIII～IV様式、324は中期。297・312・316・320・324は非河内産、他は生駒西麓産。

325～327は無頭蓋である。325・326は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に櫛描文様を施す。325は体部外面をハケメの後ナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。326は体部外面をナデ調整する。327は体部の張りは大きく、算盤五形を呈する。口縁端部は丸く終わる。口縁部に小円孔を穿つ。調整法は不明。325・326はII様式、327は中期。326は生駒西麓産、他は非河内産。

328～330は細頸蓋である。口縁部がやや外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。頸部には櫛描文様を施す。内外面はナデ調整するものが多い。II様式。生駒西麓産。

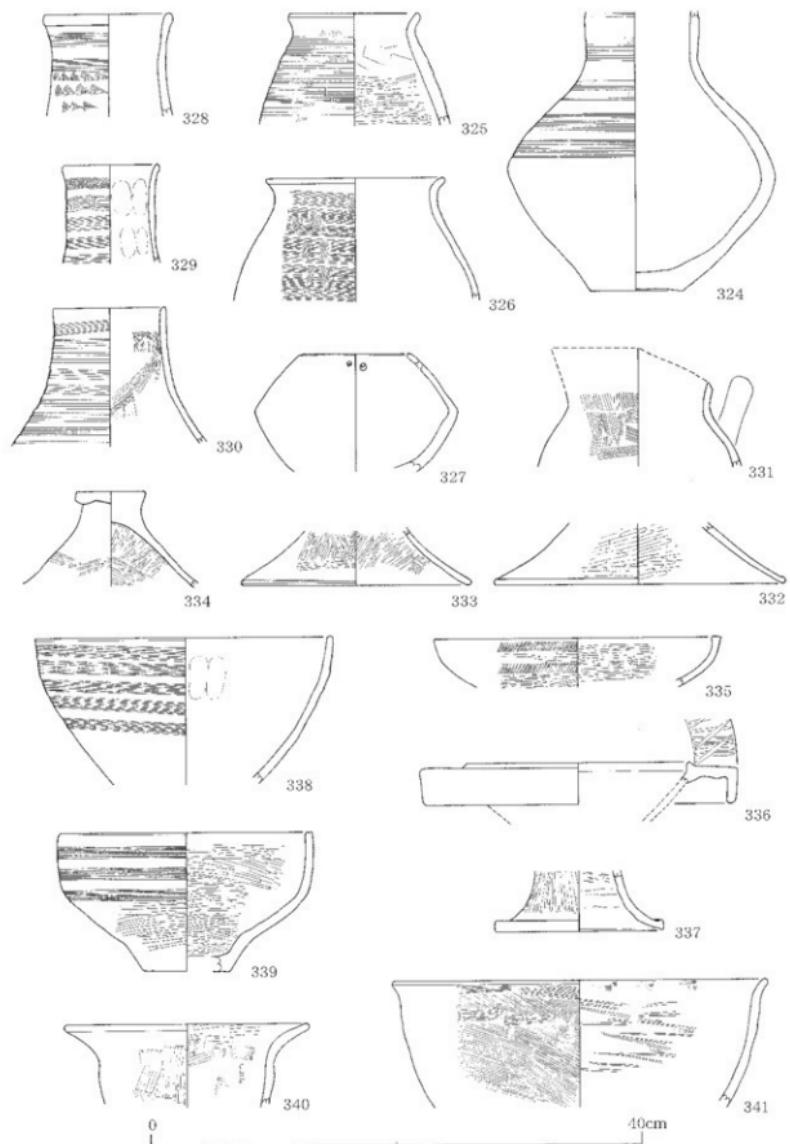
331は水差形上器である。握手部と口縁部の一部である。体部外面に櫛描波状文と直線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

332～334は甕蓋である。332・333は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。334はつまみ部である。内外面はヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

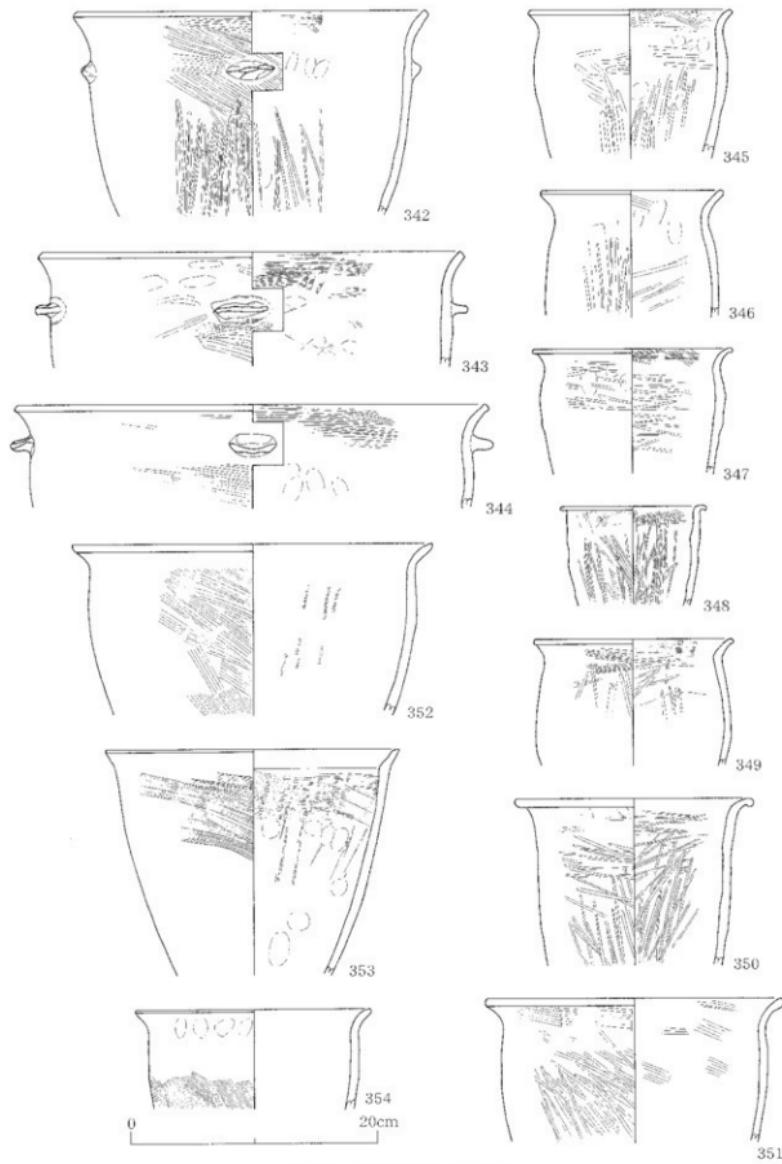
335～337は高杯である。335は浅い椀状を呈する杯部である。口縁端部は面を持つ。外面に櫛描簾状文を2帯施す。文様帶間は研磨する。内外面はヘラミガキ調整する。336は口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。水平部分に斜格子の暗文を施す。337は握部の立ち上がりが急であり、握端部が面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。内面にリング状の模が付着しており、甕蓋に転用したと考えられる。III～IV様式。生駒西麓産。

338～341は鉢である。338・339は体部が内湧気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面に櫛描直線文を施す。338は内外面をナデ調整、339は内外面をヘラミガキ調整する。340・341は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。340は内外面をハケメ調整する。341は外面をハケメ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。II様式。338・341は生駒西麓産、他は非河内産。

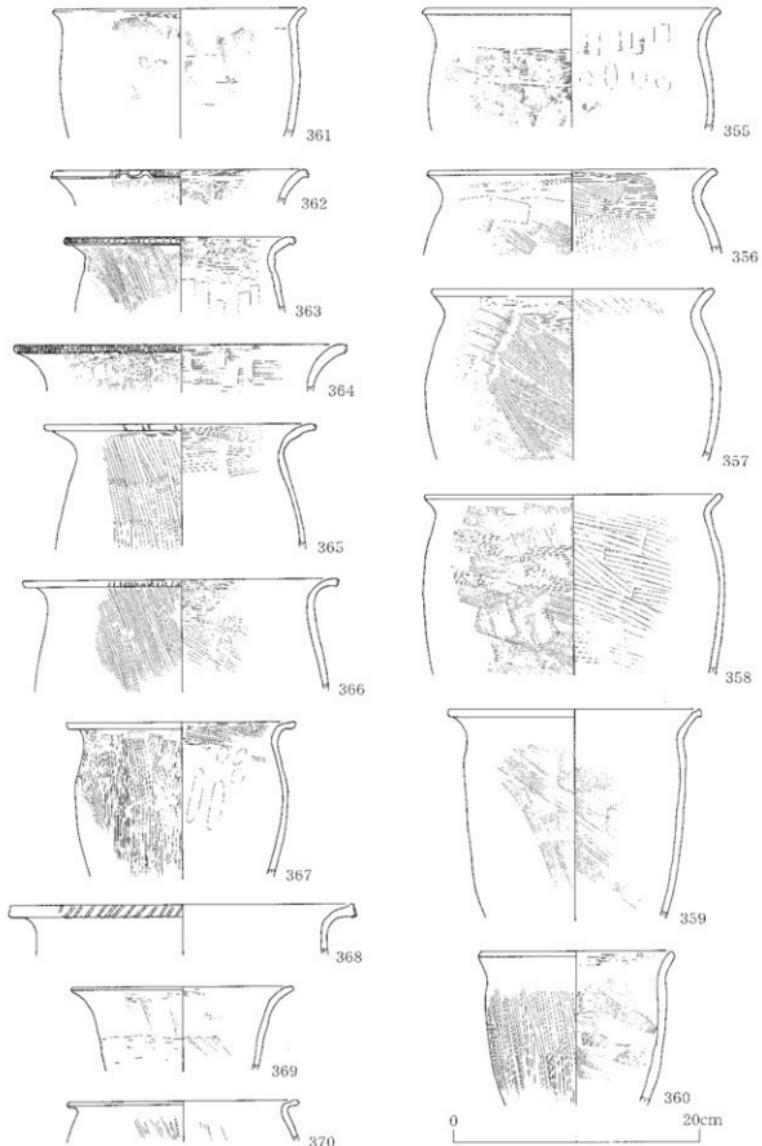
342～370は甕である。342～347は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁部直下に瘤状を呈する握手を施す。体部内外面はハケメ調整かヘラミガキ調整するものが多い。345～361は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反するものが多い。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整かヘラミガキ調整するものが多い。362は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目と山形の押圧を施す。体部外



第49図 满128出土土器実測図



第50図 溝128出土土器実測図



第51図 溝128出土上器実測図

面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。363～368は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。368は調整法不明。369は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。370は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。342～369はⅡ様式、370はⅢ様式。346・359・362～365・368は非河内産、他は生駒西麓産。

溝129（第52図371～378）

壺・無頸壺・鉢・甕の器種がある。土坑14・76の土器を含む。

371・372は壺である。371は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に櫛描箋状文と刻み目を施す。調整法は不明。372は小形の壺である。頸部が外上方に伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に櫛描波状文と刻み目、頸部から体部に直線文、箋状文、扇形文を施す。外面はハケメの後ナデ調整、内面は部分的なヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

373は無頸壺である。体部が大きく内傾する。口縁端部が丸く終わる。体部外面に櫛描直線文とその間に扇形文を施し、擬似流水文とする。内面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

374は鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

375～378は甕である。375は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。376は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。377は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部に櫛描波状文を施す。体部外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後横方向のハケメ調整する。378は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部外面はハケメの後ナデ調整する。375・376はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。375・378は生駒西麓産、他は非河内産。

溝131（第52図379～381）

甕と鉢の器種がある。

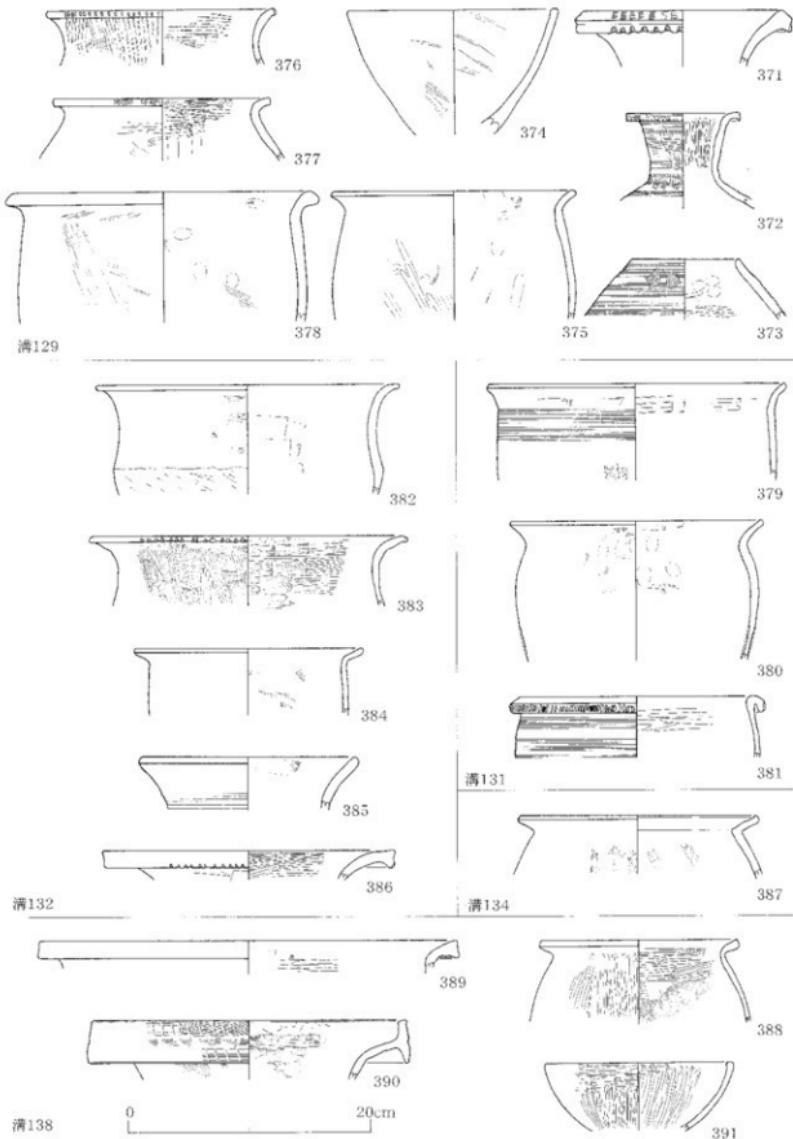
379・380は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。379は体部外面に2帯の櫛描直線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。380は体部外面をハケメの後ナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

381は鉢である。体部がやや内傾する。口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝132（第52図382～386）

甕と壺の器種がある。

382～384は甕である。382は体部の張りが少なく、口縁部が長く外反する。口縁部と体部の境に稜が残る。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラケズリ調整、内面はナデ調整する。383は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。384は体部の張りは少なく、口



第52図 溝129・131・132・134・138出土器実測図

縁部がやや強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はナデ調整する。II様式。384は生駒西麓産、他は非河内産。

385・386は壺である。385は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。頸部に櫛描直線文を施す。386は口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。II様式。385は生駒西麓産、386は非河内産。

溝134（第52図387）

387は甕である。体部の張りが大きく、口縁部がくの字形に外折する。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝135（第53図392～405）

壺・高坏・甕・鉢の器種がある。

392～397は壺である。392は口縁部が大きく外方に伸びる。口縁端部を上方へ拡張するがやや内傾する。幅広の面を持つ。口縁端部に縦方向の櫛描直線文と扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。393・394は口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。393は口縁端部に3条の凹線文と刻み目を施し、円形浮文を貼り付ける。内面は櫛描扇形文を施す。394は口縁端部に5条の凹線文を施し、円形浮文を貼り付ける。体部外面に櫛描直線文、口縁部内面に列点文を施す。395・396は口縁部が大きく外方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。395は口縁端部に櫛描波状文、396は頸部に直線文を施す。397は口縁部が短く外反する。口縁端部は面を持つ。無文の甕である。内外面はヘラミガキ調整する。392～396はIII～IV様式、397は中期。393・394は非河内産、他は生駒西麓産。

398は高坏である。鋸部はゆるく立ち上がり、鋸端部が面を持つ。柱状部は長く、中空である。坏部は外方に伸びる。口縁部は水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形を呈する。外面はヘラミガキ調整、内面は調整法不明。III～IV様式。非河内産。

399～403は甕である。399は体部の張りは少なく、口縁部が強く外折する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。400は体部の張りが大きく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。401は体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。402は体部の張りは少なく、口縁部が下方へ強く折れ曲がる。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。403は底部が平底を呈する。体部の張りは少なく、口縁部が長く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はタタキ調整、内面はハケメ調整する。口縁部内面はハケメ調整する。399・400・402はIII～IV様式、401はII様式、403はV様式。生駒西麓産。

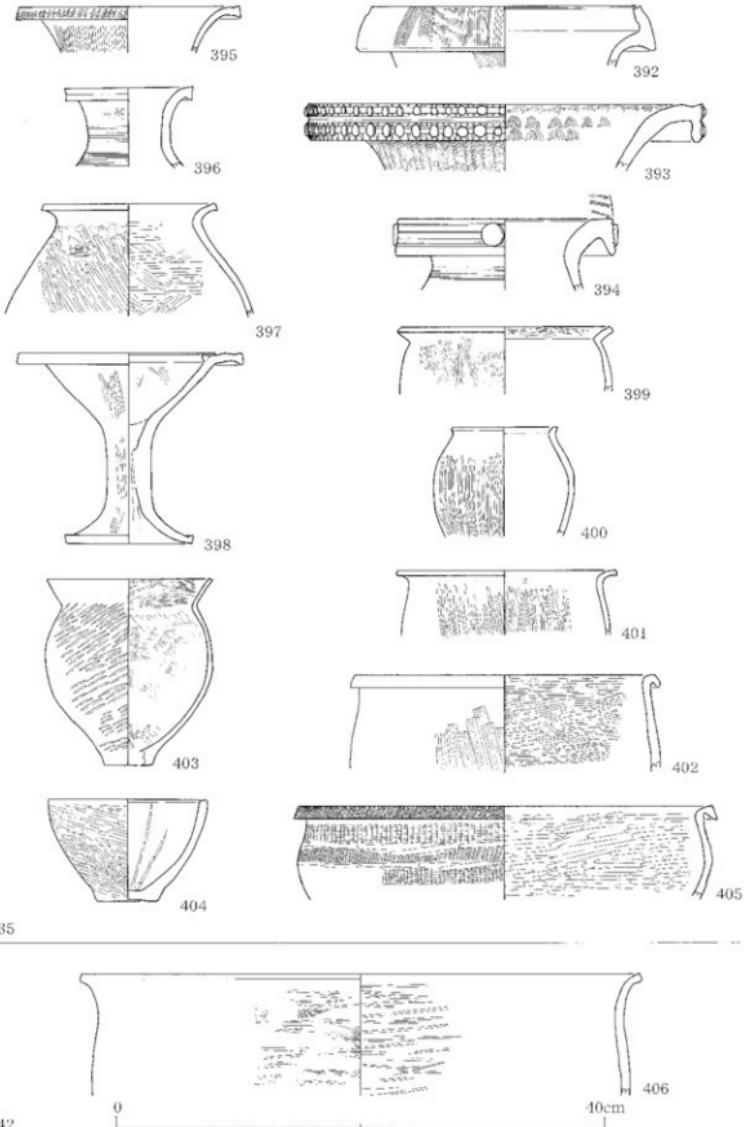
404・405は鉢である。404は体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデの後部分的なヘラミガキ調整する。405は体部が内傾する。口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に櫛描波状文と刻み目、体部に簾状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

溝138（第52図388～391）

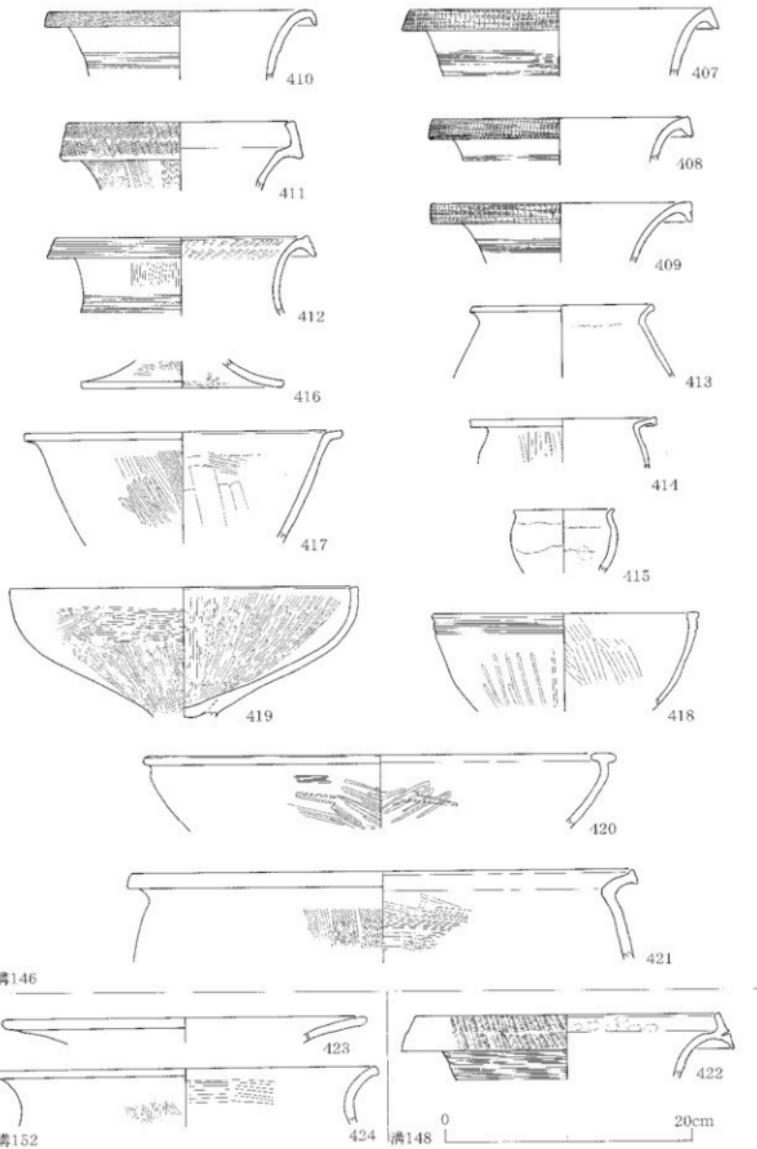
甕・壺・鉢の器種がある。

388・389は甕である。体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。389は口縁端部を下方へ拡張する。内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

390は壺である。頸部が外上方に伸び、口縁端部を上下に拡張する。口縁端部は幅広の面を持つ。



第53圖 满135·142出土土器実測図



第54図 溝146・148・152出土上器実測図

口縁端部に櫛描彫状文を2帯とその間に扇形文を施す。内面はハケメ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

391は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部はやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝142（第53図406）

406は甕である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部内外面はヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

溝146（第54図407～421）

壺・甕・甕蓋・鉢・高杯の器種がある。

407～412は壺である。407～410は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。408は口縁端部に刻み目、409は円形刺突文を加える。411は頸部が外上方に伸び、口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描波状文を2帯施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。412は筒状の頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に3条の凹線文、頸部に櫛描直線文を施す。口縁部内面に扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。412は非河内産、他は生駒西麓産。

413～415・421は甕である。413は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。414・421は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。414は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。421は体部内外面をハケメ調整する。415は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。415は中期、他はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

416は甕蓋である。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

417・418は鉢である。417は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。418は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面に3条の凹線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。417はⅡ様式。生駒西麓産。418はⅢ～Ⅳ様式。非河内産。

419・420は高杯である。浅い皿状を呈する杯部である。419は口縁端部が面を持つ。420は口縁端部を左右に拡張し、幅広の面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。419は生駒西麓産、420は非河内産。

溝148（第54図422）

422は壺である。口頸部が大きく外反し、口縁端部を上下に拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描彫状文を2帯施した後、円形刺突文を施す。頸部には櫛描直線文が2帯残る。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

溝152（第54図423・424）

壺と甕の器種がある。

423は甕である。口縁部が大きく外方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。Ⅰ様式。生駒西麓産。

424は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

土坑墓I（第55図425～428）

壺・甕・鉢・無頭壺の器種がある。

425は壺である。口縁端部が面を持つ。外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

426は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部に2条のヘラ描沈線文が残る。体部内外面はナデ調整する。I様式。生駒西麓産。

427は鉢である。体部は内傾する。口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帶間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

428は無頭壺である。体部が大きく内傾する。口縁端部は面を持つ。体部外面に櫛描直線文とその上に扇形文を施す。文様帶間は研磨する。内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑墓II（第55図429）

429は壺である。口頭部が大きく外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

壺棺I〔土坑95〕（第55図430・431）

鉢と壺の器種がある。

430は鉢である。431とセットである。底部は打ち欠く。張りの少ない体部より口縁端部が大きく外反する。口縁部に2ヶ1対の逆U字形を呈する握手が付く。体部外面はタタキの後、部分的なハケメ調整する。内面はナデ調整する。IV～V様式。生駒西麓産。

431は壺である。430とセットである。頭部より上を打ち欠く。底部はやや凹底である。体部は大きく張り、扁球形を呈する。体部上半はヘラミガキ調整、下半はハケメの後ナデ調整する。内面は上半をハケメ調整、下半をナデ調整する。IV～V様式。生駒西麓産。

壺棺II〔土坑128〕（第55図432）

432は壺である。体部の張りが大きい。所謂、扁球形を呈する。口縁部は強く外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。頭部に3条、体部上半に4条のヘラ描沈線文を施す。I様式。生駒西麓産。

ピット30（第56図433）

433は甕である。体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメの後ナデ調整する。II様式。非河内産。

ピット57（第56図434）

434は壺である。口頭部が大きく外上方に伸び、口縁端部がやや丸く終わる。内外面の調整法は不明。II様式。生駒西麓産。

ピット104（第56図435）

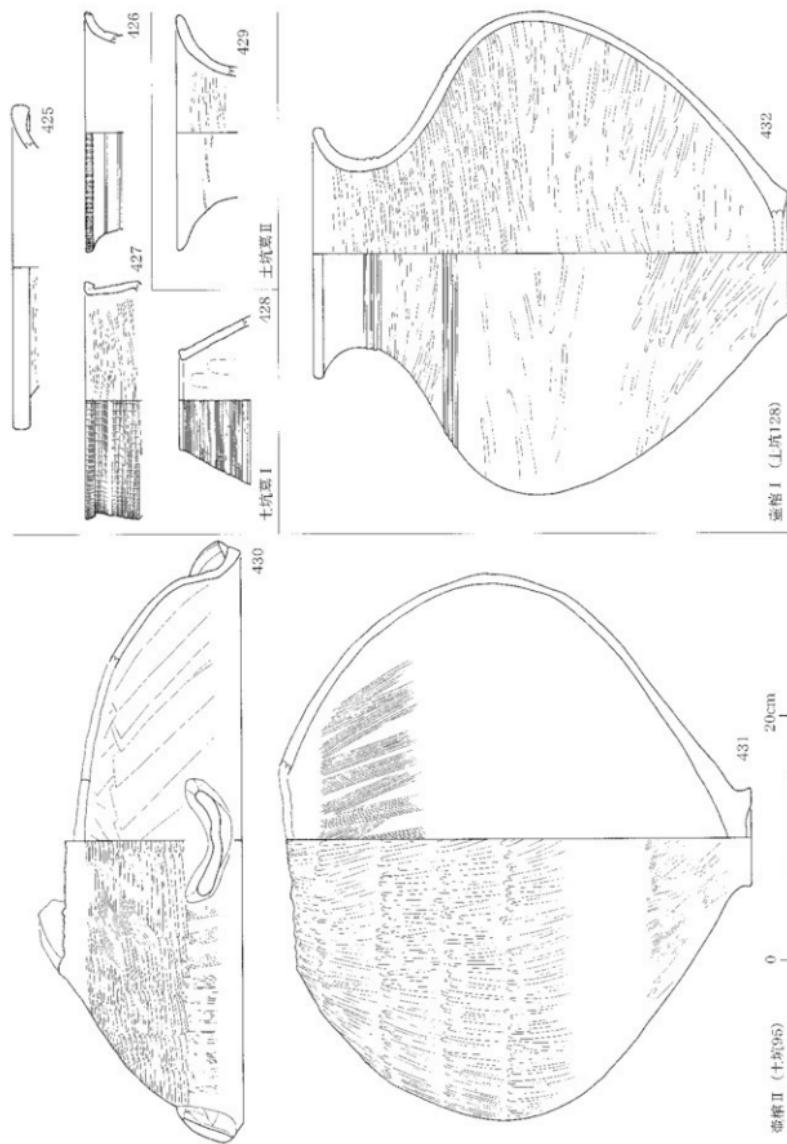
435は壺である。口頭部が大きく外上方へ伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に櫛描列点文、口縁部内面に刻み目と円形浮文を施す。頭部には櫛描簾状文を施すが、原体船は不明である。III～IV様式。生駒西麓産。

ピット266（第56図436）

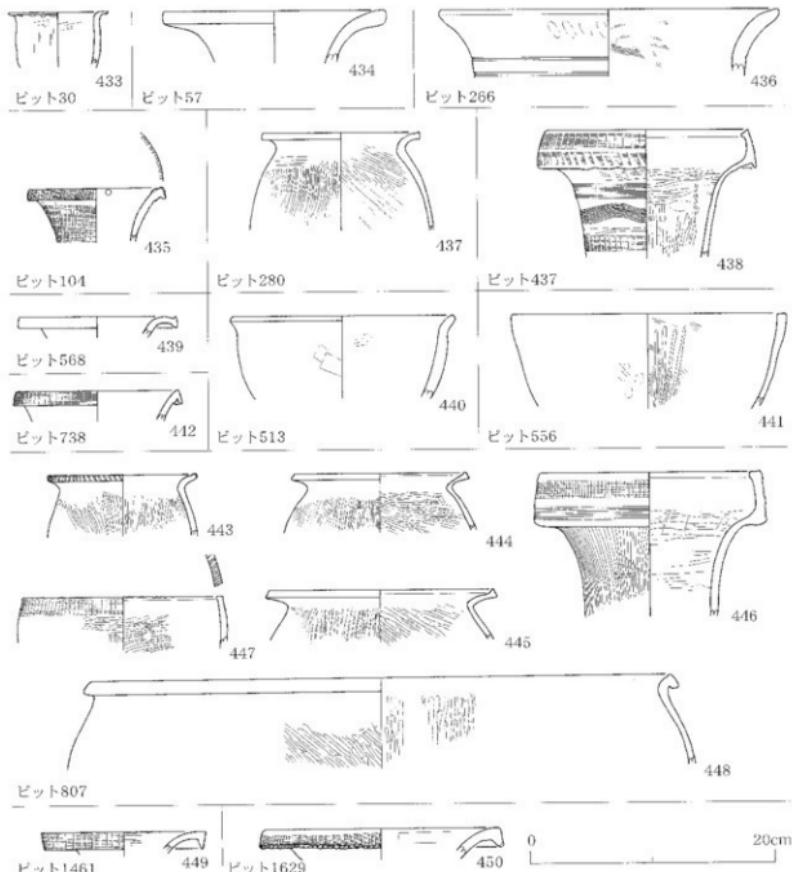
436は壺である。口頭部が短く外反し、口縁端部が丸く終わる。外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。頭部にヘラ描沈線文が2条残る。I様式。生駒西麓産。

ピット280（第56図437）

437は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。



第55圖 土坑墓 I · II、土棺 I (土坑128) · II (土坑95) 出土土器實測圖



第56図 ピット30・57・104・266・280・437・513・556・568・738・807・1461・1629出土土器実測図

ピット437 (第56図438)

438は壺である。口頸部が外上方へ伸び、口縁端部を大きく上方へ拡張し、幅広の面を持つ。頸部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁端部には柳描簾状文とその下に扇形文を施す。頸部には2帯の直線文と1帯の簾状文が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット513 (第56図440)

440は鉢である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

ピット556 (第56図441)

441は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外

面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

ピット568（第56図439）

439は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット738（第56図442）

442は壺である。口頸部が外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描箋状文を施す。調整法は不明。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット807（第56図443～448）

壺・壺・鉢の器種がある。

443～445・448は甕である。443は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面はヘラミガキ調整する。444・445は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げる。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。448は口縁部を下方へ折り曲げる。体部内外面はヘラミガキ調整する。内面に赤色顔料が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

446は壺である。口頸部が衡状を呈し、口縁端部を大きく上方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に櫛描箋状文と直線文を施す。頸部にヘラ記号が残る。頸部外面はハケメ調整、内面はハケメの後部分的なヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

447は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁端部に刻み目、体部に櫛描箋状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット1461（第56図449）

449は壺である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描箋状文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

ピット1629（第56図450）

450は壺である。口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に1帯の櫛描箋状文と下端に刻み目を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

落ち込み4（第57図451～454）

壺と高坏の器種がある。

451・452は壺である。451は口縁部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。452は口縁端部を下方へ拡張する。451はⅠ様式、452はⅢ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

453・454は高坏である。453は柄部がゆるく立ち上がる。柄端部は上方へ拡張し、面を持つ。外面上はナデ調整する。454は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。内外面はヘラミガキ調整する。453はⅢ～Ⅳ様式、454はⅡ様式。生駒西麓産。

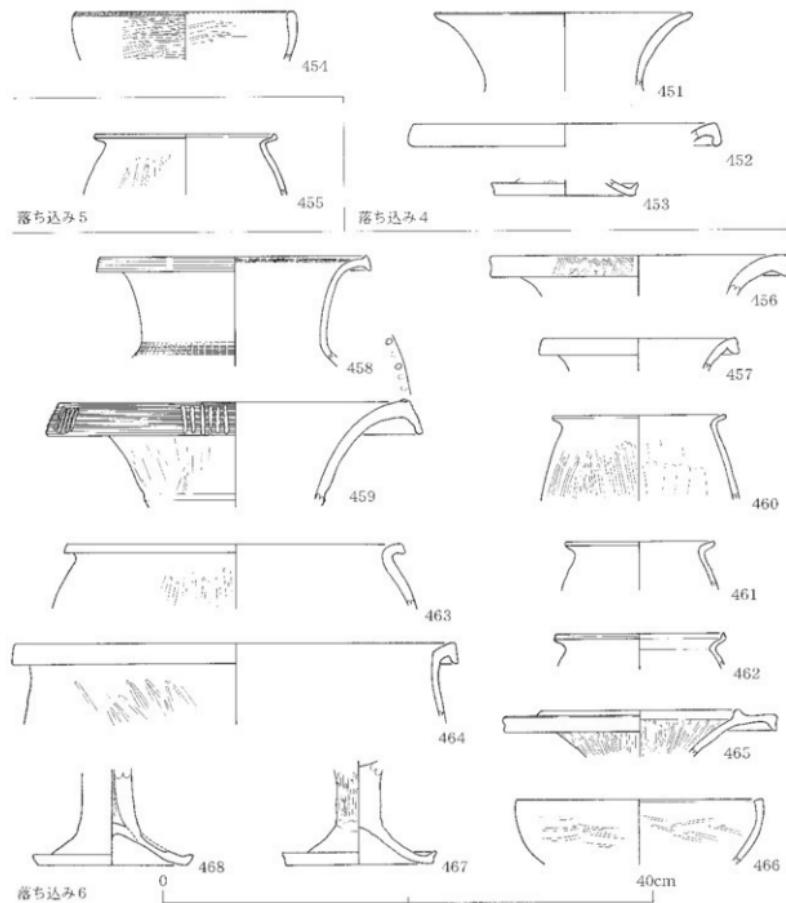
落ち込み5（第57図455）

455は甕である。体部の張りは大きく、口縁部が外折する。口縁端部は摘み上げ気味に終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

落ち込み6（第57図456～468）

壺・甕・高坏の器種がある。

456～459は壺である。456・457は口縁端部を下方へ拡張する。456は口縁端部に櫛描波状文を施す。458は口縁部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に4条の凹線文と頸部に櫛描箋状文を施す。口縁部内面に波状文を施す。内外面はナデ調整する。459は



第57図 落込み4~6出土土器実測図

口縁部が大きく外反する。口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に凹線文を施した後棒状浮文を貼り付ける。頸部は凹線文を施す。口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。459は非河内産、他は生駒西麓産。

460~464は甕である。460・461・463は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。460・463は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。461は調整法不明。462は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。内外面の調整法は不明。464は体部の張りは少ない。口縁端部を下方へ拡張する。体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

465～468は高坏である。465は口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形がやや丸いコの字形を呈する。内外面はヘラミガキ調整する。466は浅い楕状を呈する坏部である。口縁端部はやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整する。467・468は脚部である。裾部はゆるく立ち上がる。裾端部は上方へ拡張する。柱状部は長く、467が中実、468が中空である。内面にリング状の煤が付着しており、甕蓋に転用したと考えられる。467は中期、他はⅢ～IV様式。生駒西麓産。

自然流路3（第58図469～476）

壺・高坏・甕の器種がある。

469・470は壺である。469は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部にヘラ描格子文を施す。内面にV字形のヘラ記号が残る。470は頸部が筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。頸部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。469はⅡ様式、470はⅢ～IV様式。469は生駒西麓産、470は非河内産。

471～473は甕である。471は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。472・473は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。472は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。473は体部外面をタタキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

474～476は高坏である。474は坏部である。体部と口縁部の境に段がつく。口縁部は外上方に伸びる。口縁端部を左右にやや拡張する。内外面はヘラミガキ調整する。475・476は脚部である。裾部の立ち上がりは急である。476は裾端部を上方へ拡張する。475は外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をヘラケズリ調整する。他の器種の可能性がある。476は外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

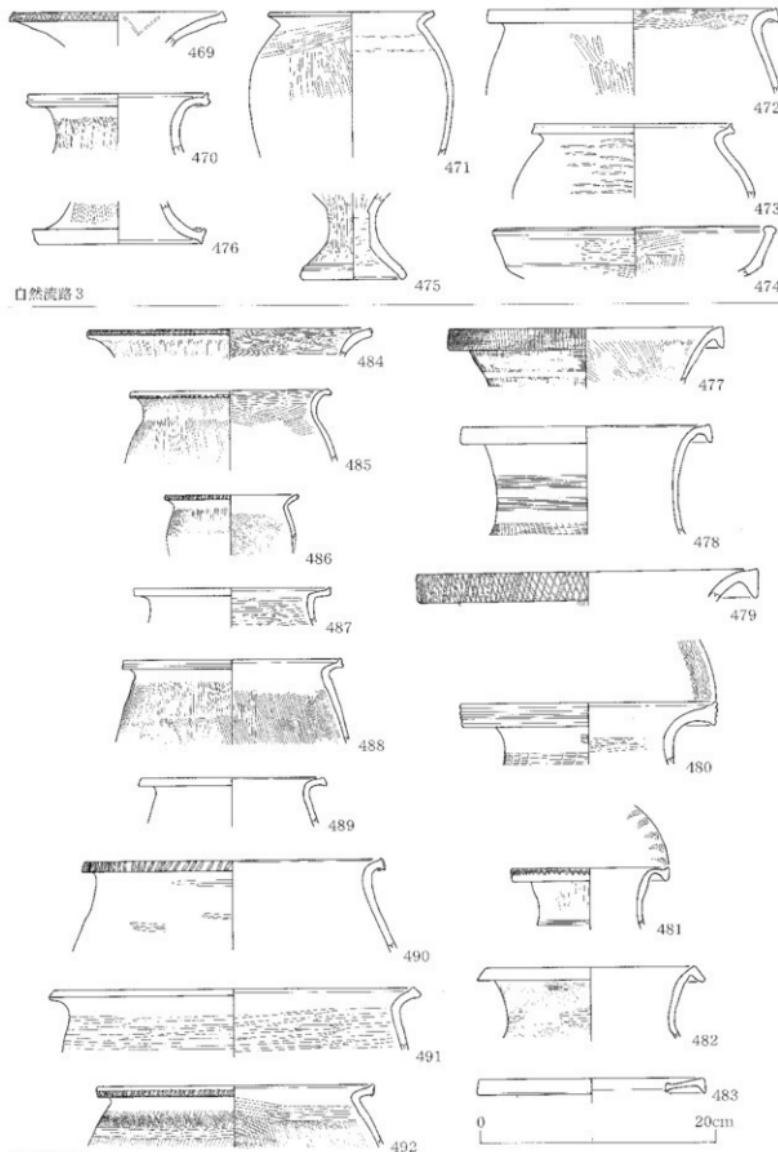
自然流路4（第58図477～492）

壺・高坏・甕の器種がある。

477～482は壺である。477～479は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に飾描文様を施すものが多い。480・481は筒状の頸部より口縁部が強く外反する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。480は口縁端部に3条の凹線文、頸部に柳描簾状文、口縁部内面に波状文を施す。外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。481は口縁端部に柳描波状文、頸部に直線文、口縁部内面に扇形文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。482は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。無文の壺である。外面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

483は高坏である。口縁部が水平方向に伸びた後、短く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が二角形を呈する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

484～492は甕である。484・485は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。486は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部内外面をハケメ調整する。487・488は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。487は体部外面をナデ調整、内面をヘラミガキ調整する。488は体部外面をタタキの後ハケメ調整、内面をハケメ調整する。490・491は体部の張りが大きく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。490は口縁端部に



第58图 自然流路3·4出土十器尖测图

刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。491は体部内外面をヘラミガキ調整する。492は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部に刻み目、体部に柳描波状文を施す。体部内外面はハケメ調整する。Ⅲ～IV様式。492は非河内産、他は生駒西麓産。

遺物包含層出土十器

6工区第11層（第59・60図493～523）

壺・無頸壺・甕・鉢・高杯・甕蓋の器種がある。

493～499は壺である。493～497は口縁部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部に柳描文様を施すものが多い。496・497は口縁端部に刻み目を施す。497は内面に円形浮文を貼り付ける。498は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に縱方向の柳描直線文と2列の円形刺突文を施す。499は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に凹線文とその上に柳描波状文を施す。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

500は無頸甕である。体部は内傾する。口縁部は下方へ強く折れ曲がる。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

501～512は甕である。501は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。502は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。503は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に終わる。体部内外面はハケメ調整する。504～510は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。505は口縁端部に刻み目を施す。511・512は体部の張りは少なく、口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目や円形刺突文を施す。511は体部外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。512は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメの後ヘラミガキ調整する。501・502はII様式、他はⅢ～IV様式。501は非河内産、他は生駒西麓産。

513・514・519は鉢である。513は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。514は体部が上方に伸び、口縁部が強く下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目、体部に柳描直線文を施す。調整法は不明。519は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。口縁端部に柳描瓣状文を施す。体部外面はヘラミガキ調整する。513はII様式、他はⅢ～IV様式。生駒西麓産。

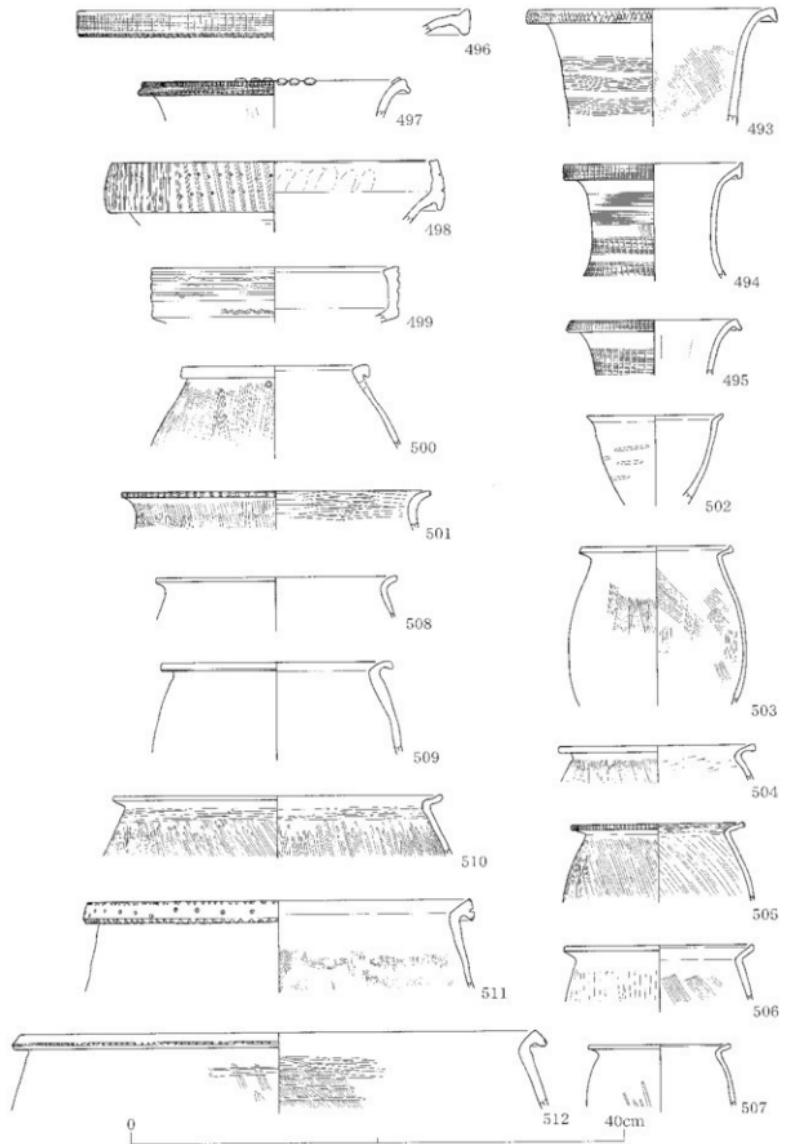
515～518・520～522は高杯である。515～518は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。浅い皿状を呈する杯部である。有文と無文のものがある。520～522は脚部である。520・521は裾部の立ち上がりがゆるい。裾端部は面を持つ。522は裾部の立ち上がりが急である。他の器種の可能性もある。520・521は内面にリング状の煤が付着しており、甕蓋に転用したと考えられる。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

523は甕蓋である。体部の立ち上がりはやや急である。裾端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

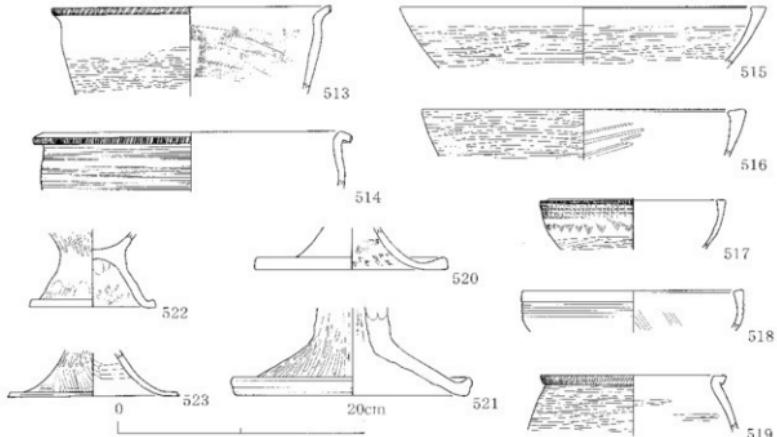
6工区第13層（第61～70図524～708）

壺・無頸壺・網頸壺・鉢・高杯・甕・甕蓋・壺蓋の器種がある。

524～574は壺である。524は頸部が筒状を呈し、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部外面に段とヘラ描沈線文を施す。525～537は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は刻み目や円形刺突文を施すものもあるが、無文が多い。535は指による押圧を加え、口縁端



第59図 6工区第11層出土土器実測図

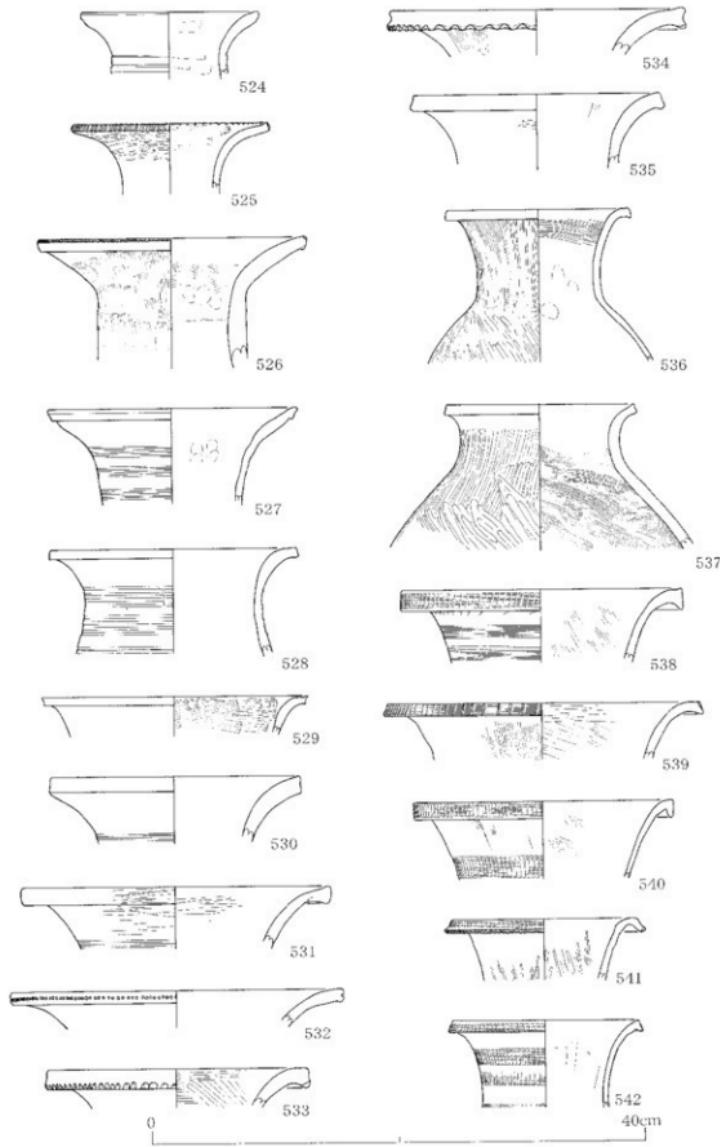


第60図 6 T.区第11層出土十種実測図

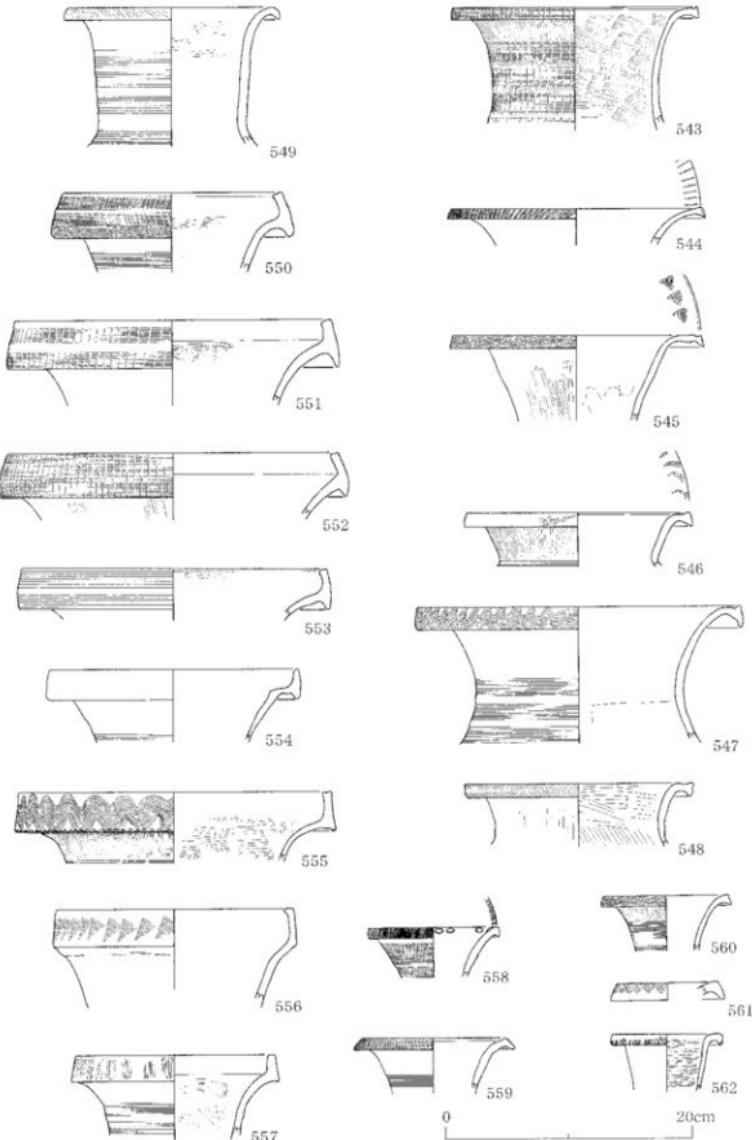
部が波状を呈する。頸部は櫛描直線文が多い。536・537は無文の壺である。538～544・549・558～562は口縁部大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部は櫛描箇状文を施すものが多い。558は口縁部内面に円形浮文を貼り付ける。558～562は小形の壺である。545～548は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部は刻み目や櫛描文様を施す。545・546は口縁部内面に扇形文を施す。550～554は口縁端部を上下に大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描文様を施すが、554は無文である。556・557は口縁端部を上方へ大きく拡張し、幅広の面を持つ。口縁端部は櫛描文様を施す。563～566は口縁端部下方へやや拡張するものや大きく拡張するものがある。口縁端部に凹線文を施す。563は頸部に凸帯を貼付け、その上に櫛描列点文を施す。567は口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部と口縁部内面に竹管文を施す。568は頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。無文の壺である。571～572は口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。574は口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。524はI様式、525～537はII様式、538～574はIII～IV様式。534・547・563・565・567・570・571は非河内窯、他は生駒西麓窯。

575～582は無頸壺である。575は体部が内傾する。口縁端部は面を持つ。所謂、擬口縁である。口縁端部に刻み目、体部に櫛描文様を施す。外面はハケメ調整する。576～580は体部が内傾する。口縁部は外反し、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。口縁部直下に円孔を穿つ。577・580は無文の無頸壺である。577は体部に櫛描文様と刻み目を施した後、棒状浮文を貼り付ける。棒状浮文には刻み目を施す。581は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。無文の無頸壺である。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。582は体部が深い椀状を呈し、口縁端部が内傾する。口縁部直下に小円孔を穿つ。体部に5条の凹線文を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。575は中期、他はIII～IV様式、生駒西麓窯。

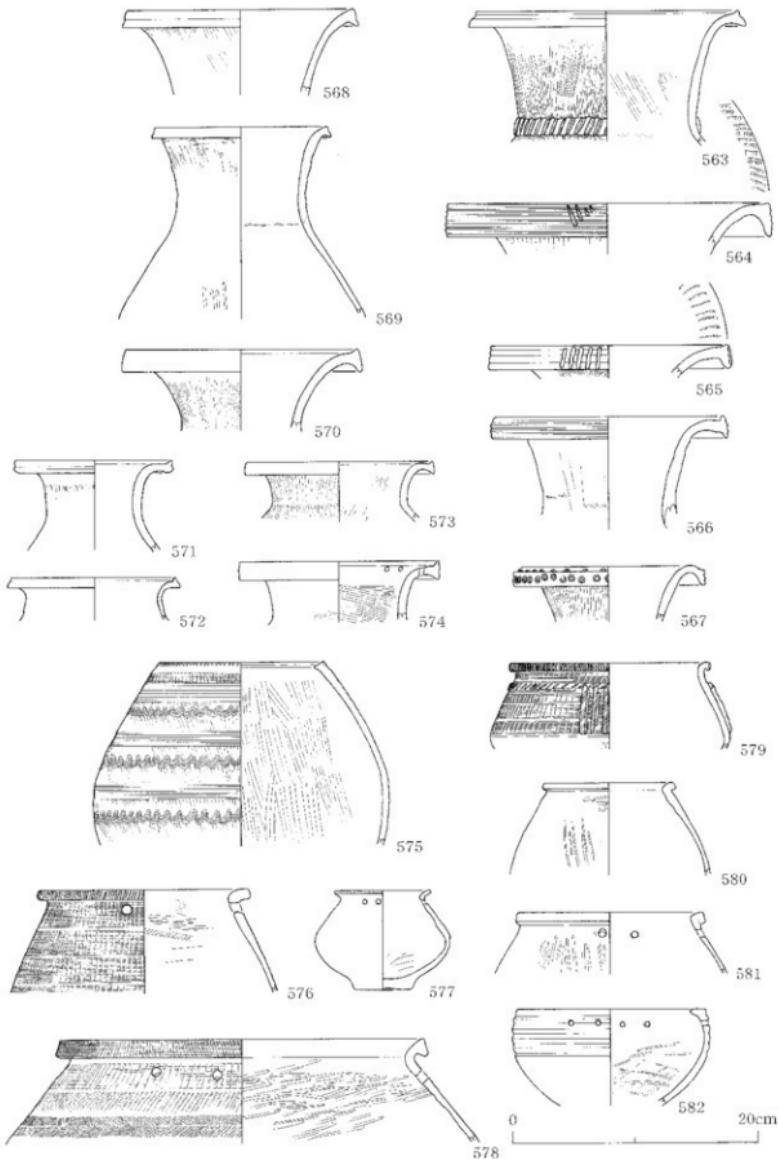
583～592は細頸壺である。583は頸部が外上方に伸びる。口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描直線文を施す。584・585は頸部が外上方に伸び、口縁端部が面を持って内傾する。外面に櫛描直線文と刻み目凸帯を施す。586～589は口縁部が上方に伸びた後、やや内傾する。口縁端部は面を持つ。外面は櫛描文様を施す。590は口縁部が強く内湾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描波状文を



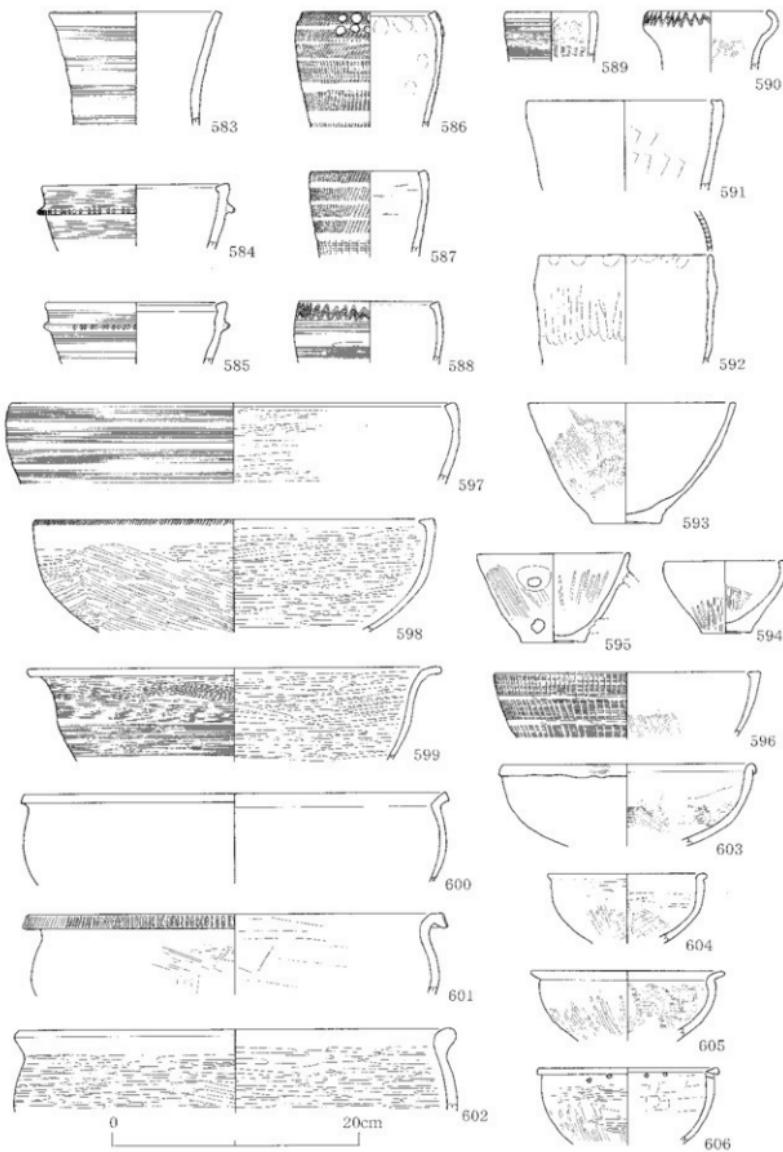
第61図 6工区第13層出土土器実測図



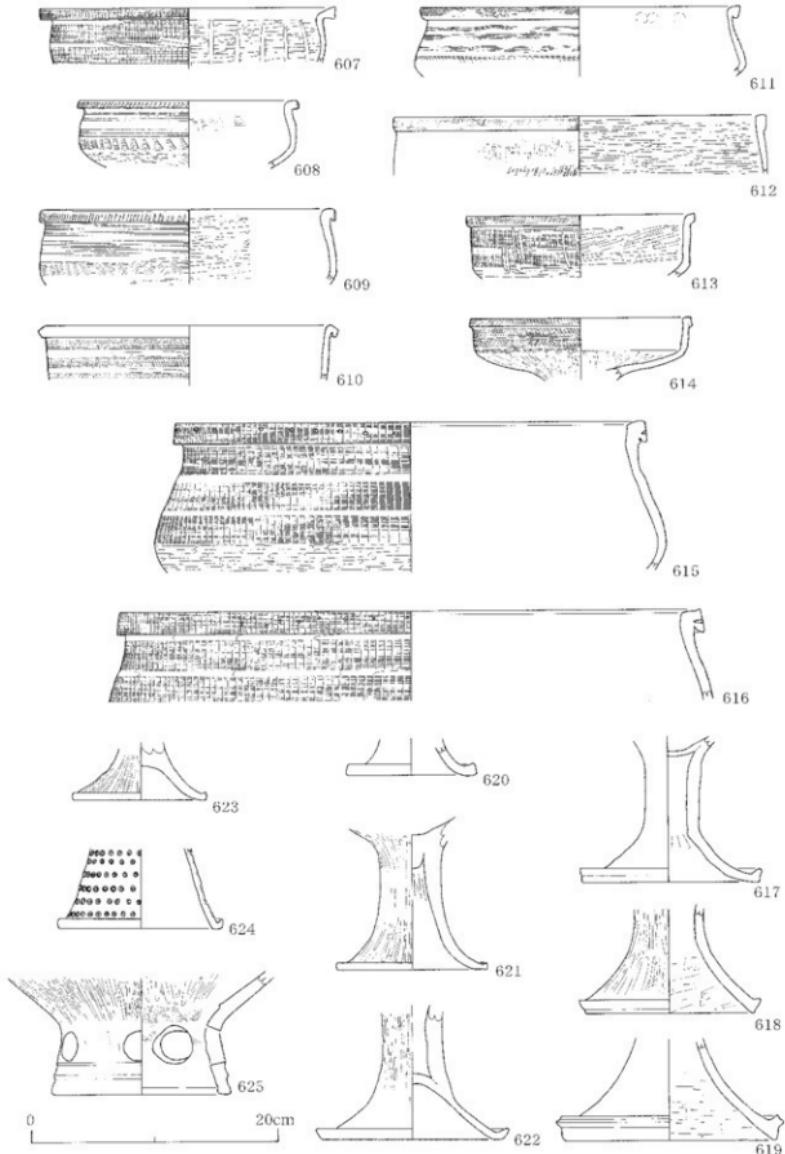
第62図 6工区第13層出土土器実測図



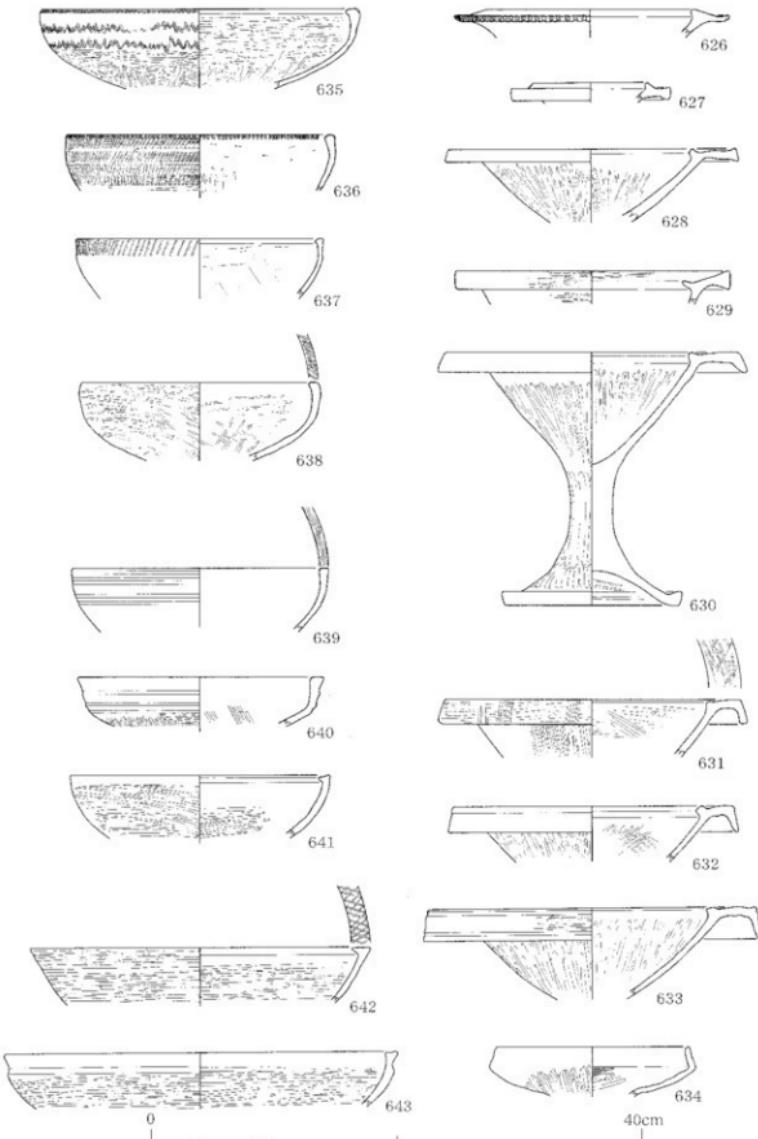
第63図 6工区第13層出土土器実測図



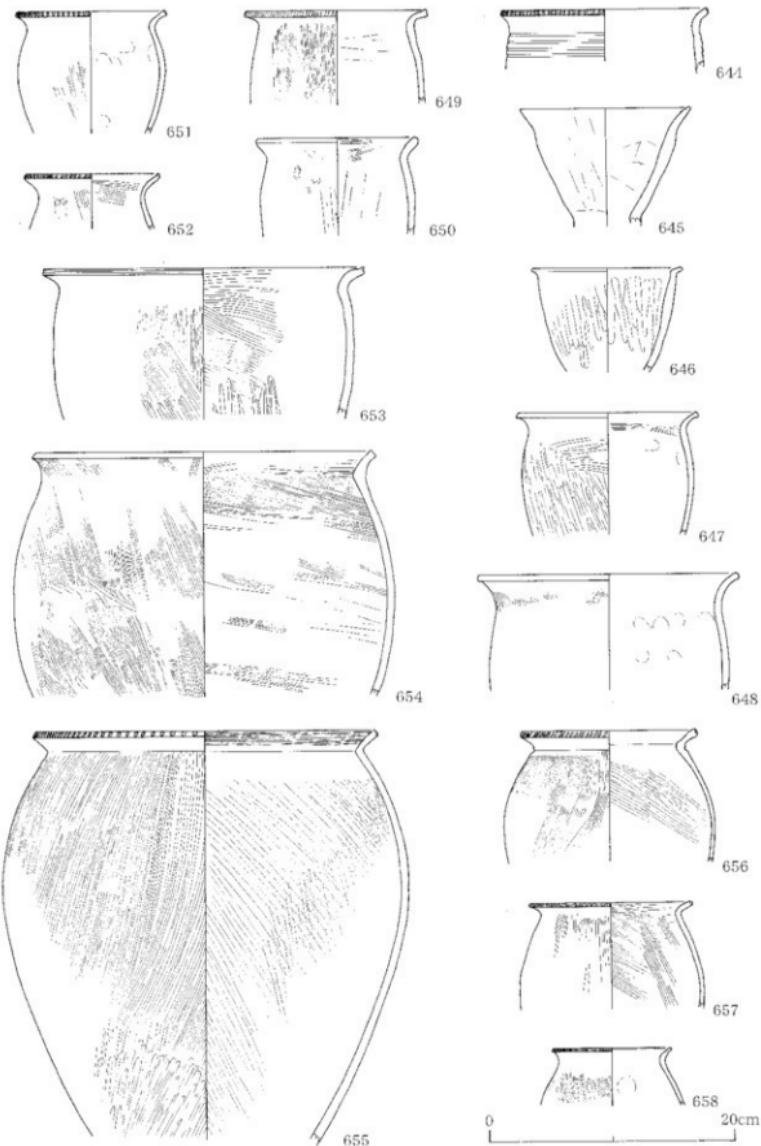
第64図 6工区第13層出土土器実測図



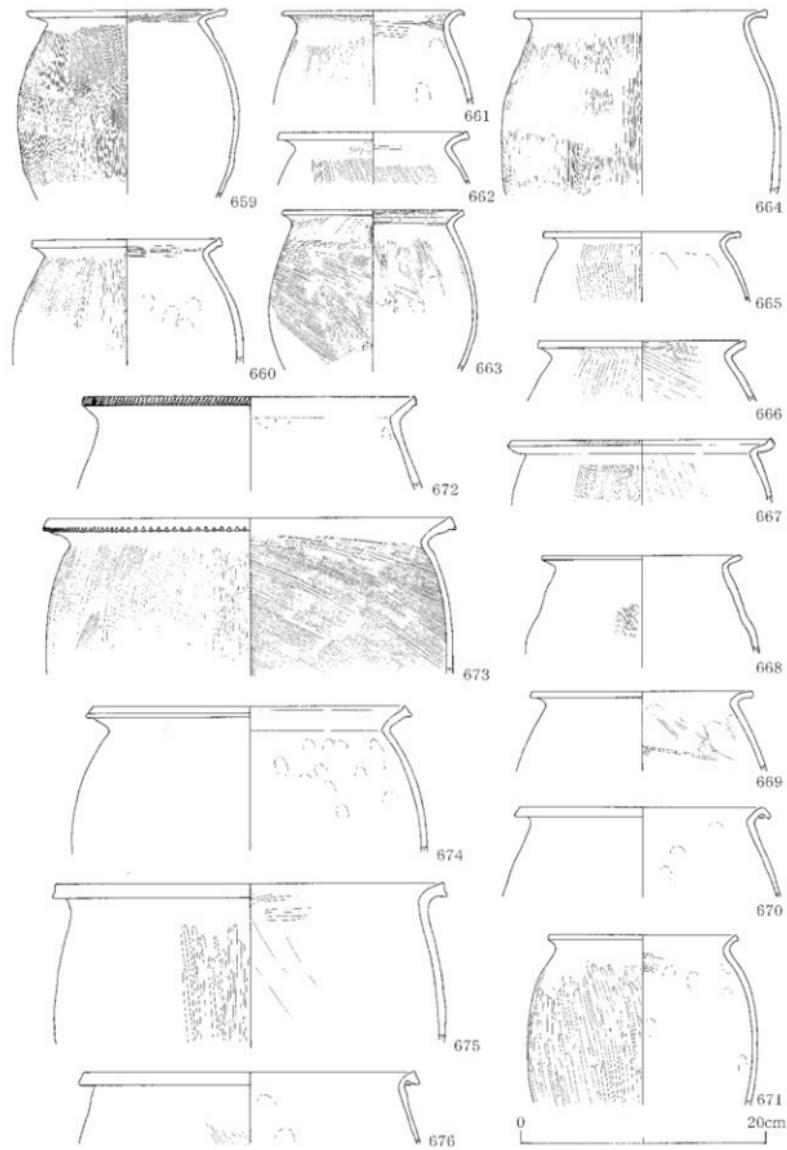
第65図 6工区第13層出土器尖測図



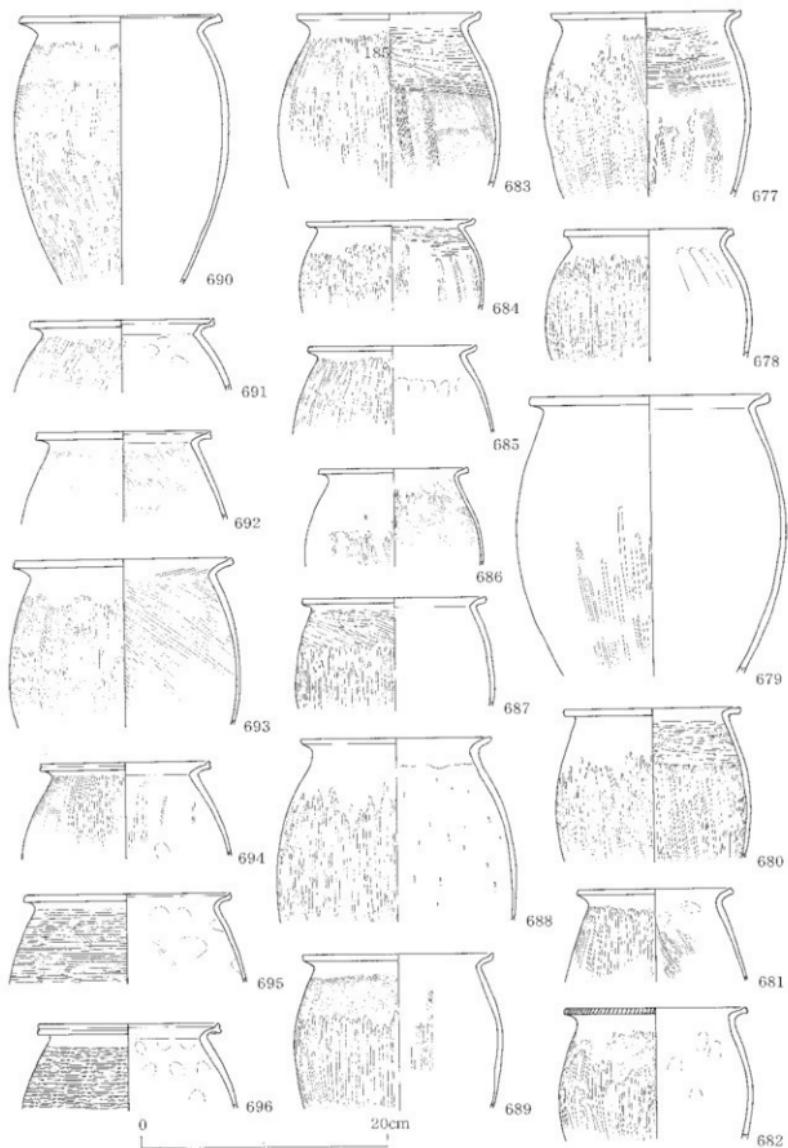
第66図 6工区第13層出土土器実測図



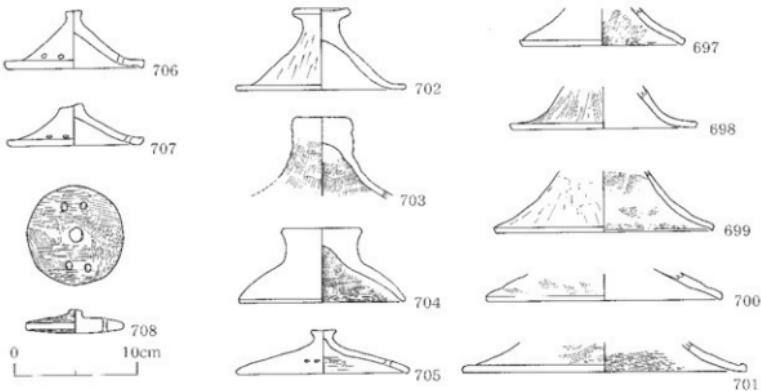
第67図 6T区第13層出土土器実測図



第68図 6工区第13層出土土器実測図



第69図 6工区第13層出土土器実測図



第70図 6丁区第13層出土上器実測図

施す。591・592は無文の細頸壺である。口縁端部は591が面を持ち、592が丸く終わる。583はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。584・585は非河内産、他は生駒西麓産。

593～616は鉢である。593は平底の底部より体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。594～598は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つものが多い。所謂、直口の鉢である。595は握手が付く。596・597は櫛描文様を施すが、他は無文である。598は口縁端部に刻み目を施す。599は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面は櫛描直線文を施す。内面はヘラミガキ調整する。600～606は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。601は口縁端部に刻み目を施す。606は口縁部直下に小円孔を穿つ。607～611は体部が内傾するものが多い。口縁部は強く折れ曲がる。口縁端部や体部に刻み目や櫛描文様を施す。612～616は体部が内傾するものが多い。口縁端部は段を持つ。口縁端部や体部に櫛描文様を施す。615・616は口縁端部に円形刺突文を施す。593・599はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。599・602・611は非河内産、他は生駒西麓産。

617～643は高坏である。625は脚付無形壺であるが高坏の中で扱う。また、623・624も他の器種の可能性もある。617～622は脚部である。柱状部は中空である。椎端部は面を持つものが多い。623は裾部の立ち上がりが短い。624は筒状を呈する脚部である。外面に竹管文を施す。625は脚部が短く立ち上がり、体部が大きく聞く。脚部に円形の透かしと四線文を施す。626～633は体部が外上方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びる626～629とさら長く垂下する630～633がある。内面に1条の凸帶を廻らす。断面形が三角形とコの字形を呈するものがある。626は口縁端部に刻め目を施す。634～639は体部が内湾気味に立ち上がる。浅い皿状を呈する坏部である。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。櫛描文様を施すものと無文のものがある。640～643は浅い皿状を呈するが口縁端部がやや幅広の面を持つ。640は凹線文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。618・619・625・628・633は非河内産、他は生駒西麓産。

644～696は壺である。644は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に4条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面はナデ調整する。645～654

は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。649・651・652は口縁端部に刻み目を施す。655～674・677～690は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。655～658・667・672・673・682は口縁端部に刻み目を施す。体部はハケメ調整やヘラミガキ調整が多いが、一部にヘラケズリ調整するものもある。675・676は口縁端部を下方へ拡張する。691～696は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。695は体部外面をタタキの後ハケメ調整、696はタタキ調整する。644はI様式、645～654はII様式、655～696はIII～IV様式。674は非河内産、他は生駒西麓産。

697～703は斐蓋である。体部はゆるく立ち上がる。つまみ部は円形を呈する。口縁端部はやや面を持つか丸く終わるものが多い。内面にリング状の煤が付着するものが多い。中期。生駒西麓産。

704～708は壺蓋である。704～707は体部がゆるく立ち上がり、円形のつまみが付く。704はつまみ部が大きい。2ヶ1対の小円孔を穿つ。708は体部の立ち上がりがほとんどなく、平坦に終わる。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。円形のつまみが付く。口縁端部はやや丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。中期。生駒西麓産。

6工区第14層（第71図709～734）

斐蓋・壺蓋・壺・縦・横・鉢・高杯・斐の器種がある。

709は斐蓋である。体部はゆるく立ち上がった後、急になる。つまみ部は上面がやや凹む。口縁端部は面を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

710・711は壺蓋である。710は体部の立ち上がりがやや急である。711は体部の立ち上がりがゆるく、棒状のつまみが付く。小円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

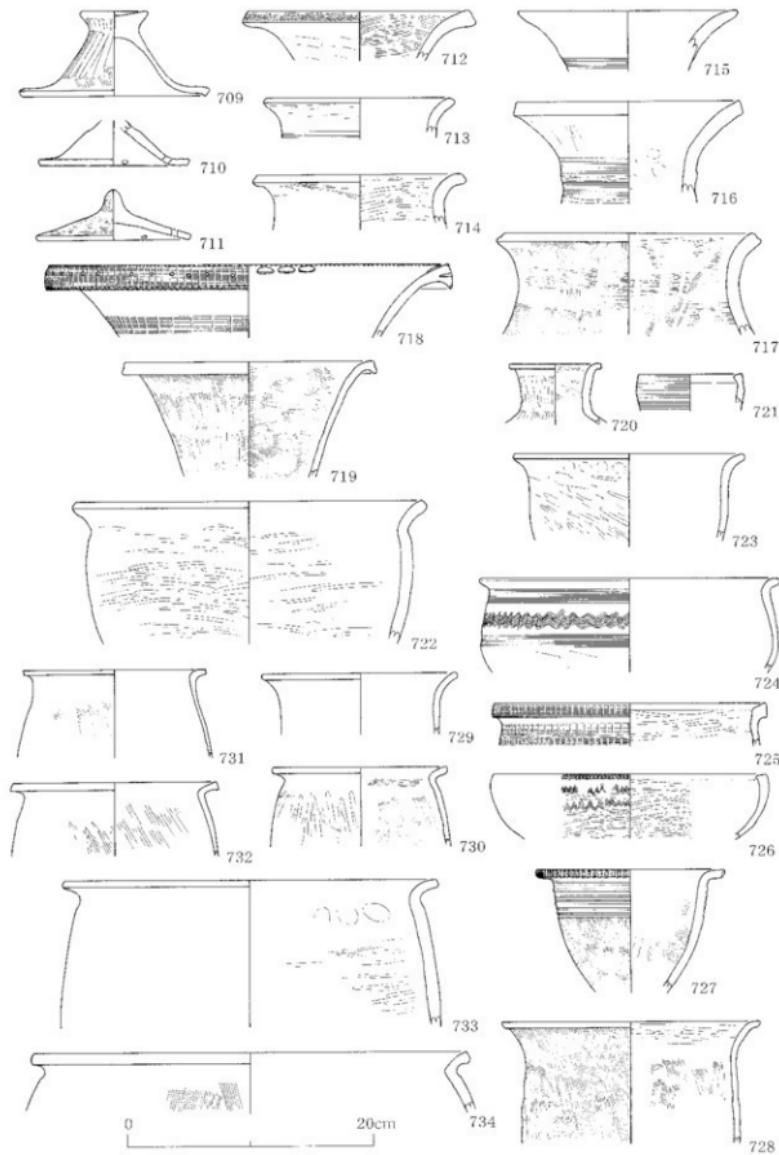
712～720は壺である。712～717・720は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。712は口縁端部に櫛描波状文を施す。頸部は有文と無文がある。720は小形の壺である。718・719は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。718は口縁端部に刻み目と櫛描簾状文を施した後、円形刺突文を加える。口縁部内面には円形浮文を貼り付ける。頸部には簾状文を施す。719は無文である。718・719はIII～IV様式、他はII様式。712・715・717は非河内産、他は生駒西麓産。

721は細頸壺である。口縁部が内湾する。口縁端部は面を持つ。口縁部外面に櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。III～IV様式。非河内産。

722～725は鉢である。722・723は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。722は体部外面をヘラミガキ調整する。723は体部外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。724は体部が内傾する。口縁部はゆるく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面に櫛描文様を施す。体部外面はナデ調整する。725は口縁端部が段を持つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。内面はヘラミガキ調整する。722・723はII様式、他はIII～IV様式。生駒西麓産。

726は高杯である。体部が内湾気味に立ち上がる。浅い椀状を呈する杯部である。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描波状文を施す。内外面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

727～734は斐である。727は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部に7条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。728～730・733は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。731・732・734は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁



第71図 6工区第14層出土土器実測図

端部は面を持つものと丸く終わるものがある。727はI様式、728～730・733はII様式、731・732・734はIII～IV様式。生駒西麓産。

6 工区第11～14層（第72～74図735～778）

壺・無頸壺・細頸壺・水差形土器・壺蓋・有孔鉢・甕・高坏・鉢の器種がある。

735～748は壺である。735・736は底部が平底を呈する。体部は下半で張り、頸部が細い。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。無文の壺である。737～740は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部と頸部に刻め目や櫛描文を施す。741・747・748は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部に刻め目、円形浮文、櫛描文様を施す。747・748は小形の壺である。742は口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部の縦方向の櫛描直線文と円形刺突文を施す。743は頸部が筒状を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部を下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に原体数2本の櫛描直線文を施した後、縦方向の直線文と円形浮文を施す。頸部にも直線文を施す。744は体部の張りが大きく、頸部が短い。口縁部は強く外反し、口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に櫛描簾状文を施す。745・746は口縁部を上方に大きく拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。745は口縁端部に凹線文を施す。X状のヘラ記号が残る。746は凹線文と櫛描文様を施す。735～740はII様式、他はIII～IV様式。741・744～746は非河内産。他は生駒西麓産。

749・750は無頸壺である。749は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。体部に櫛描直線文を施す。体部外面はナデ調整する。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。750は小形の無頸壺である。底部は平底であり、体部は下半で張る。口縁部は強く外反する。体部外面はナデ調整する。III～IV様式。749は非河内産、750は生駒西麓産。

751～753は細頸壺である。751・752は口縁部が上方に伸びた後、やや内傾する。口縁端部は面を持つ。751は無文である。752は外面に櫛描文様と円形浮文を施す。753は口縁部が強く内傾する。口縁端部は丸く終わる。外面に櫛描波状文を施す。III～IV様式。751は生駒西麓産、他は非河内産。

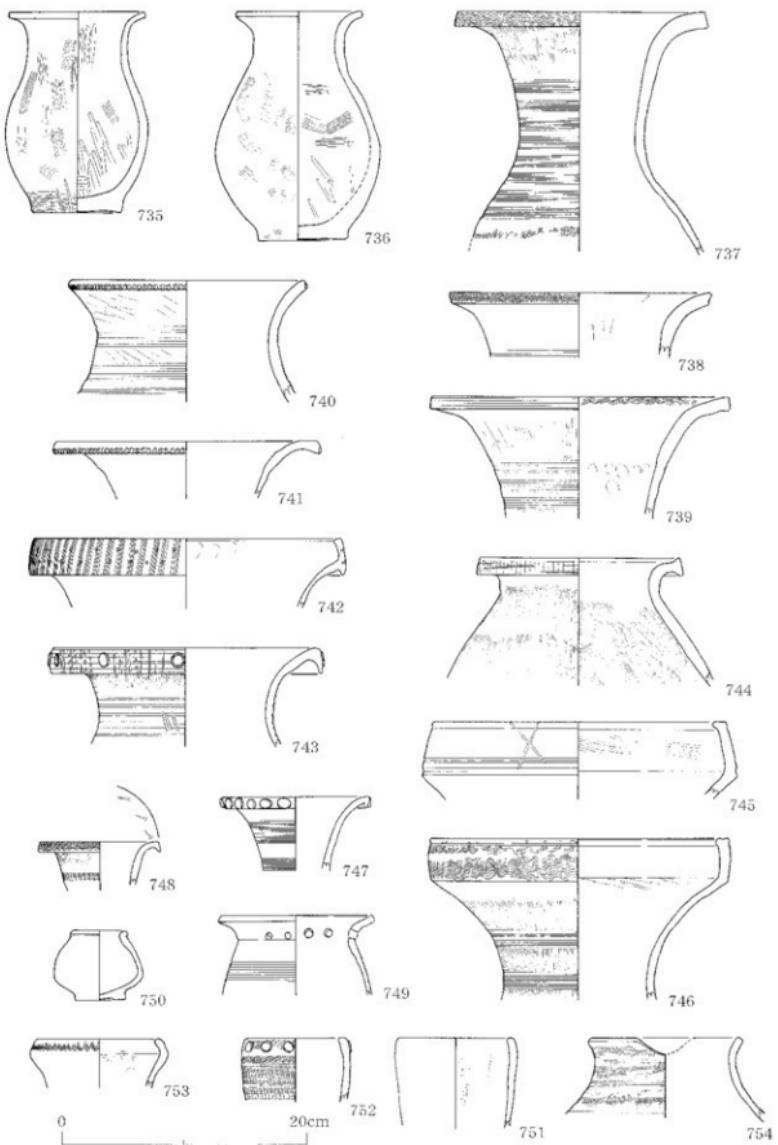
755・756は壺蓋である。755は半円球を呈する。口縁端部は丸く終わる。口縁部に小円孔を穿つ。756は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。円形のつまみが付く。755はI様式、752は中期。生駒西麓産。

757是有孔鉢である。平底の底部より体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。底部と体部に多くの円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

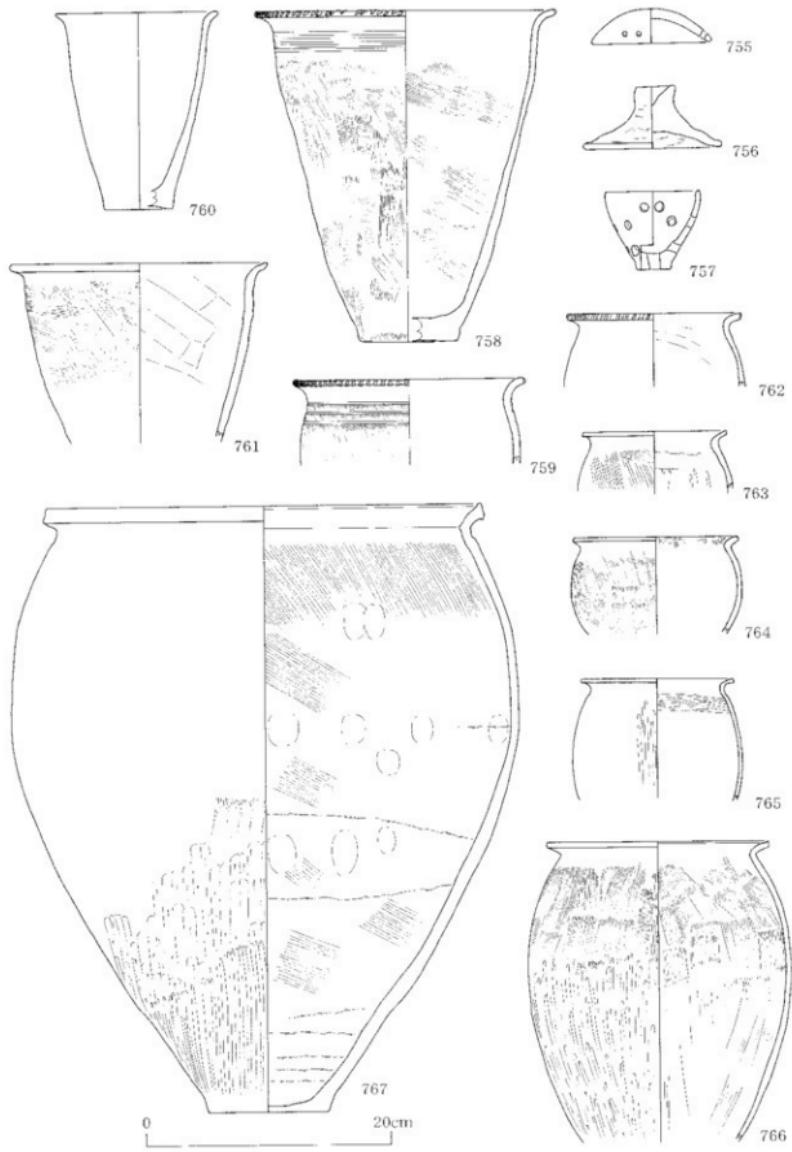
758～767は壺である。758・759は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。760～763は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。764～767は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。758・759はI様式、764～763はII様式、764～767はIII～IV様式。759は非河内産、他は生駒西麓産。

768～771・776は高坏である。768は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。浅い椀状を呈する坏部である。外面に櫛描直線文と扇形文を施す。内外面はナデ調整する。769～771は口縁部が水平方向に伸びた後、垂下する。内面に1条の凸帶を廻らす。断面形がコの字形を呈する。771は坏部内面に棒状粘土を貼り付け、区切りとしている。776は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。やや深い椀状を呈する坏部である。768はII様式、他はIII～IV様式。生駒西麓産。

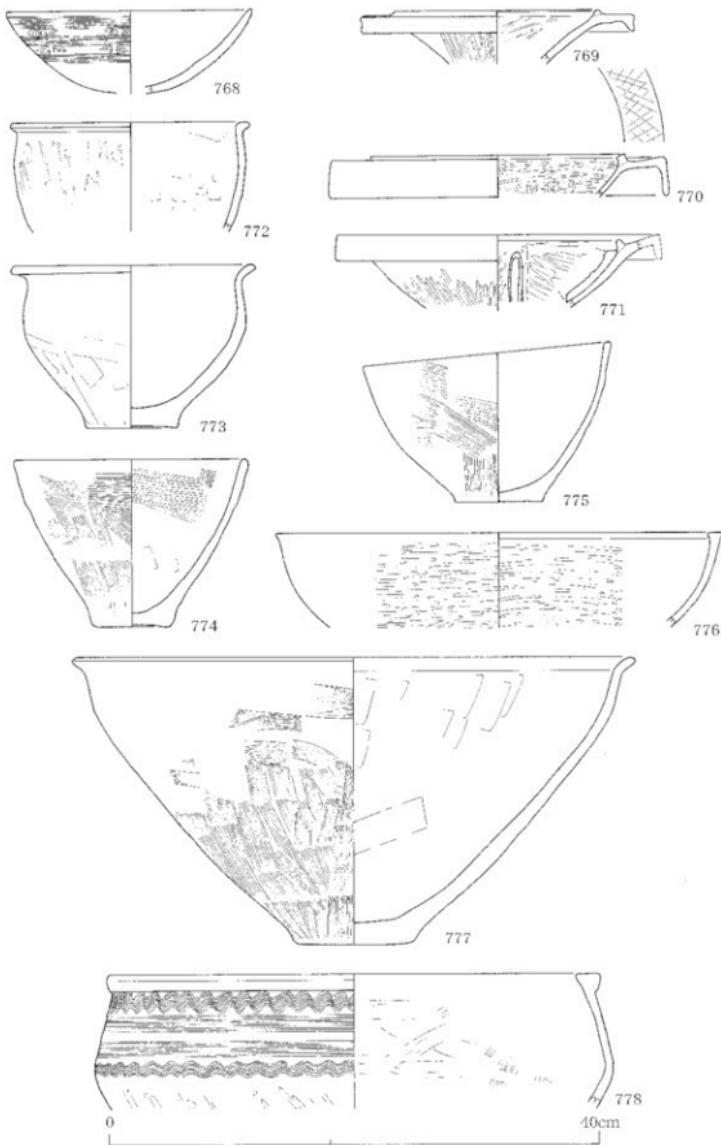
772～775・777・778は鉢である。772・774は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。773は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く



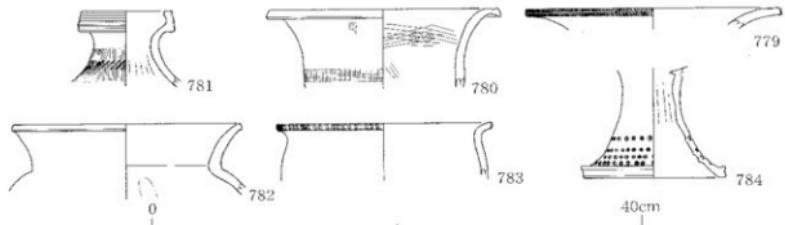
第72図 6工区第11~14層出土土器実測図



第73図 6工区第11~14層出土上器実測図



第74図 6工区第11~14層出土土器実測図



第75図 7工区第11層出土土器実測図

終わる。774・775は平底の底部より体部が外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。778は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。772・774・775・777はII様式、他はIII～IV様式。生駒西麓産。

7工区第11層(第75図779～784)

壺・甕・高坏の器種がある。

779～782は壺である。779は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描沈線文と刻み目を施す。780は筒状を呈する頸部より口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。頸部に櫛描簾状文を施す。外面はハケメの後ナデ調整、内面はハケメの後、部分的なヘラミガキ調整する。781は体部がやや張り、口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に4条の凹線文、頸部に列点文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。782は体部が強く張り、口縁部が長く外反する。口縁端部はやや面を持つ。調整法は不明。779はI様式、780・781はIII～IV様式、782はV様式。生駒西麓産。

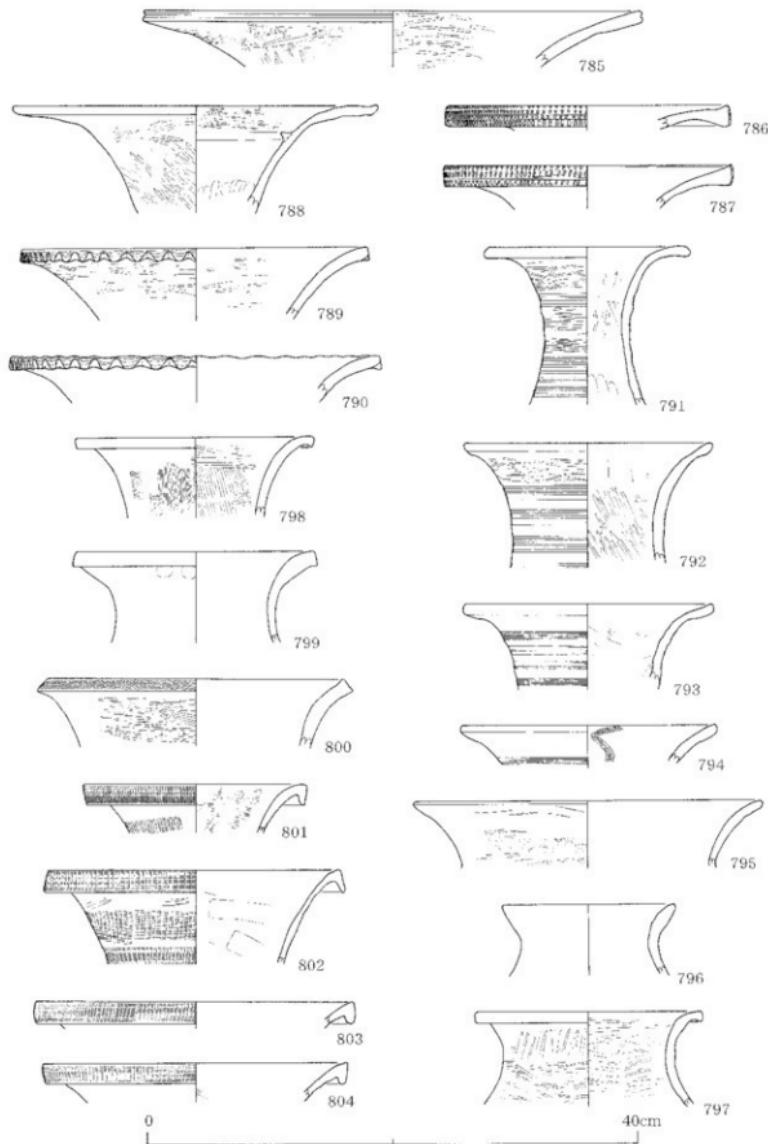
783は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。調整法は不明。II様式。生駒西麓産。

784は高坏である。裾部の立ち上がりが急である。裾端部は上方へ拡張する。裾部に竹管文を施す。調整法は不明。他の器種の可能性もある。

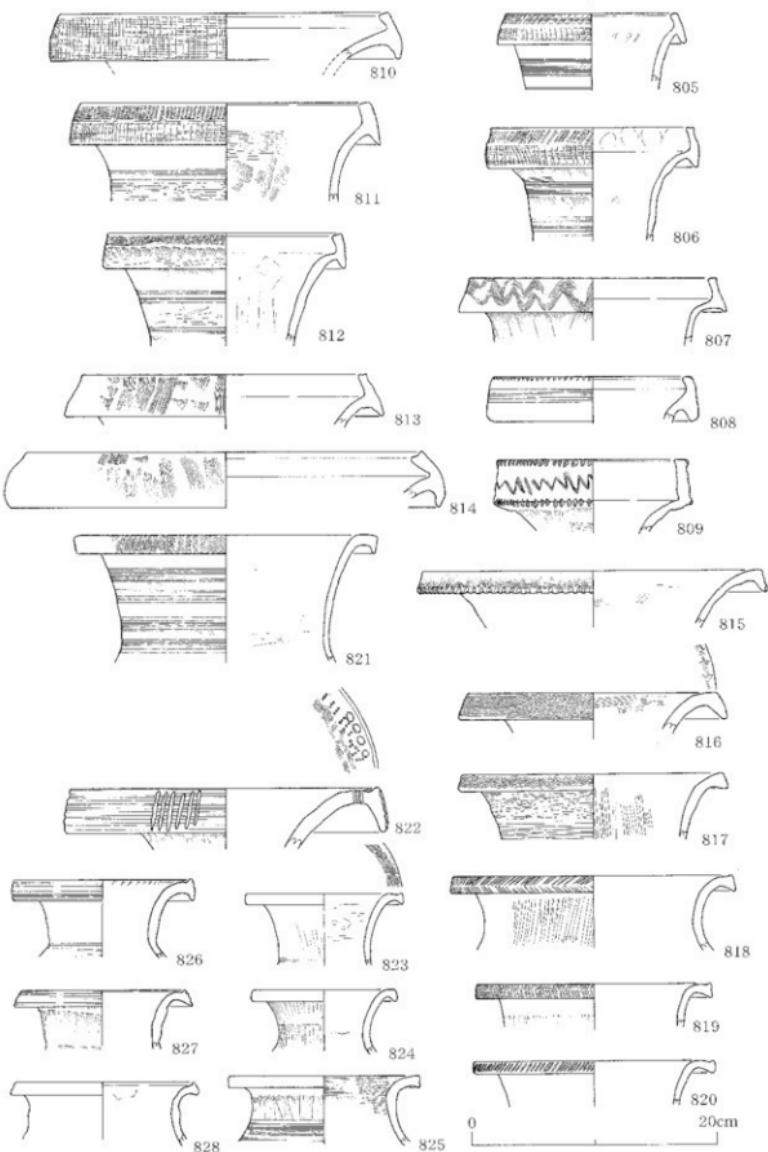
7工区第13層(第76～81図785～905)

壺・無頬甕・細頬甕・水差形土器・甕・鉢・甕蓋・壺蓋・高坏の器種がある。

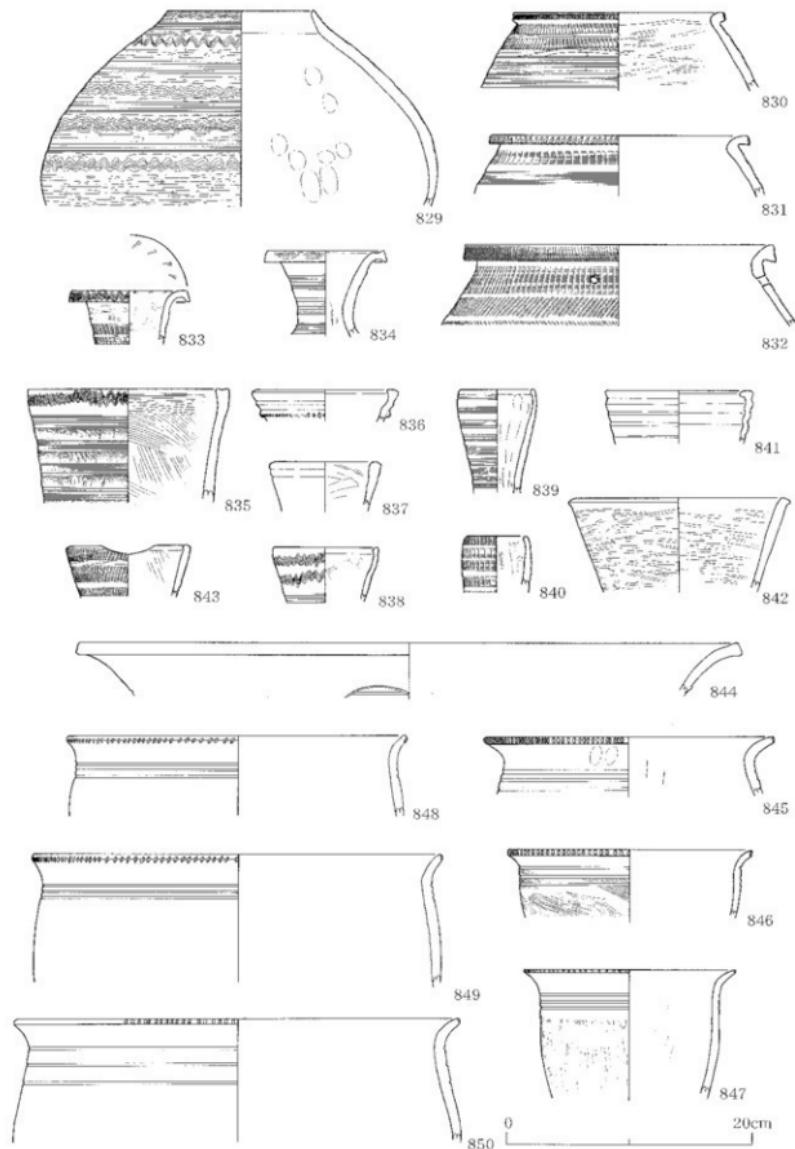
785～828・833・834は壺である。785～787は口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。785は1条のヘラ描沈線文、786・787は沈線文と刻み目を施す。788は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。頸部内面に1条の凸帯を廻らす。789～800は口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。口縁端部と頸部に刻み目や櫛描文様を施すものが多いが、無文のものもある。789・790は指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。794は口縁部内面にS字形の櫛描文様を施す。801～804・815～817・821・833・834は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。833・834は小形の甕である。805～808・810～814は口縁端部を上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には櫛描文様や刻み目を施す。809は頸部が大きく外上方に伸びる。口縁端部は上下へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に刻み目と櫛描直線文を施す。818～823・826～828は頸部が短い筒状を呈し、口縁部が強く外反する。口縁端部が上方に擴み上げ氣味に拡張する。口縁端部に刻み目、櫛描文様、凹線文などを施すが、無文のものもある。822は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ長く拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に5条の凹線文と棒状浮文を貼り付ける。内面は櫛描波状文、円形浮文、3個



第76図 7工区第13層出土土器実測図



第77図 7工区第13層出土土器実測図



第78図 7工区第13層出土上器実測図

1単位の小円孔を施す。小円孔は貫通するものが多い。824・825は頭部が短く、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。785～788はI様式、789～800はII様式、801～828・833・834はIII～IV様式。809・816・821・822・825・826は非河内産、他は生駒西麓産。

829～832は無頸壺である。829は体部が大きく張り、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に柳描直線文と波状文を施す。830～832は体部が内傾する。口縁部は外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部や体部に刻み目や柳描文様を施す。832は口縁部直下に小円孔を穿つ。III～IV様式。生駒西麓産。

835～842は細頸壺である。細頸壺で記す中には水差形土器の可能性のあるものも含まれる。835・837～847は口縁部が上方へ伸びるものとやや内湾するものがある。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。口縁部に柳描文様や四線文を施す。836は口縁部が外上方に伸び、口縁端部がやや内傾する。口縁部に四線文と刻み目凸帯を施す。842は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。無文である。842は中期、他はIII～IV様式。836・841は非河内産。他は生駒西麓産。

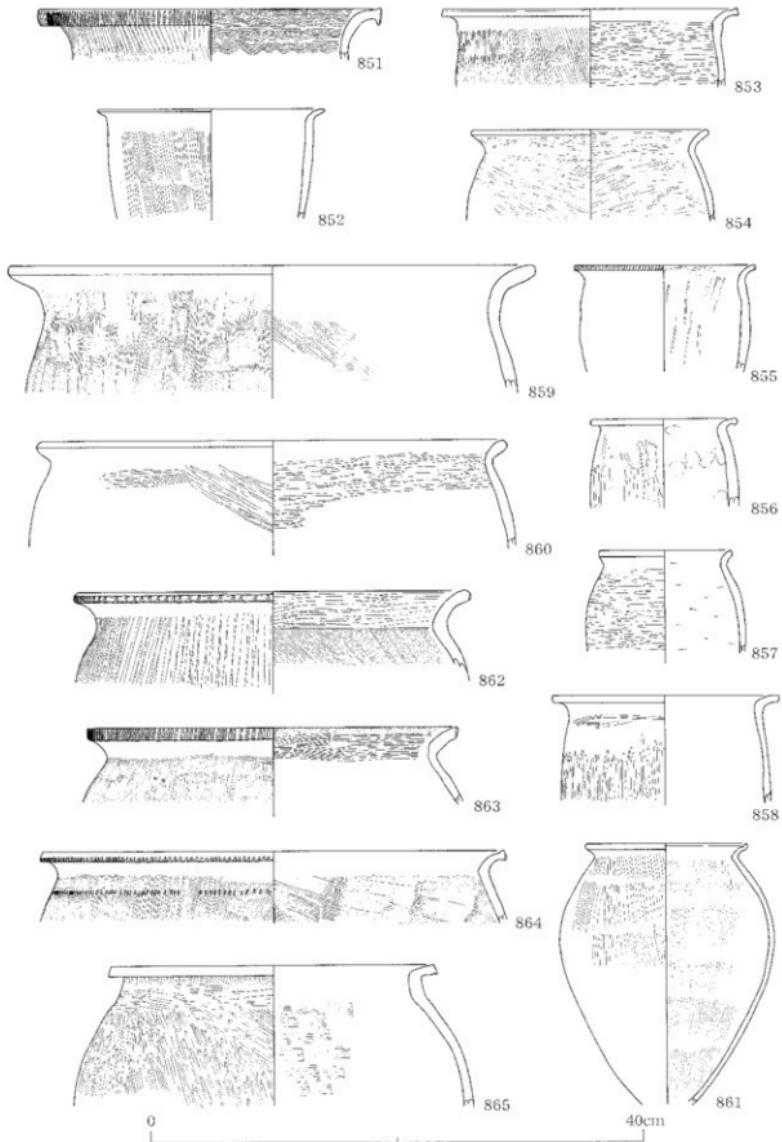
843は水差形土器である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部がやや丸く終わる。口縁端部に半円形の切込みを入れる。外面に柳描簾状文を施す。文様帶間は研磨する。内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

844～881は壺である。844は口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁部直下に握手を貼り付けた痕跡が残る。845～850は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。851は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に柳原体による刻み目を施す。外面はハケメ調整する。口縁部内面は横方向のハケメ調整の後、柳描波状文を施す。852～860は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部内外面はハケメ調整とヘラミガキ調整するものが多い。855は口縁端部に刻め目を施す。862は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。862～871・875～881は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はハケメ調整やヘラミガキ調整が多い。862～864は口縁端部に刻み目を施す。864は体部にも刻み目を施す。872～874は口縁端部を下方へ拡張する。872・873は口縁端部に刻み目を施す。845～850はI様式、851～860はII様式、861～881はIII～IV様式。847・851は非河内産、他は生駒西麓産。

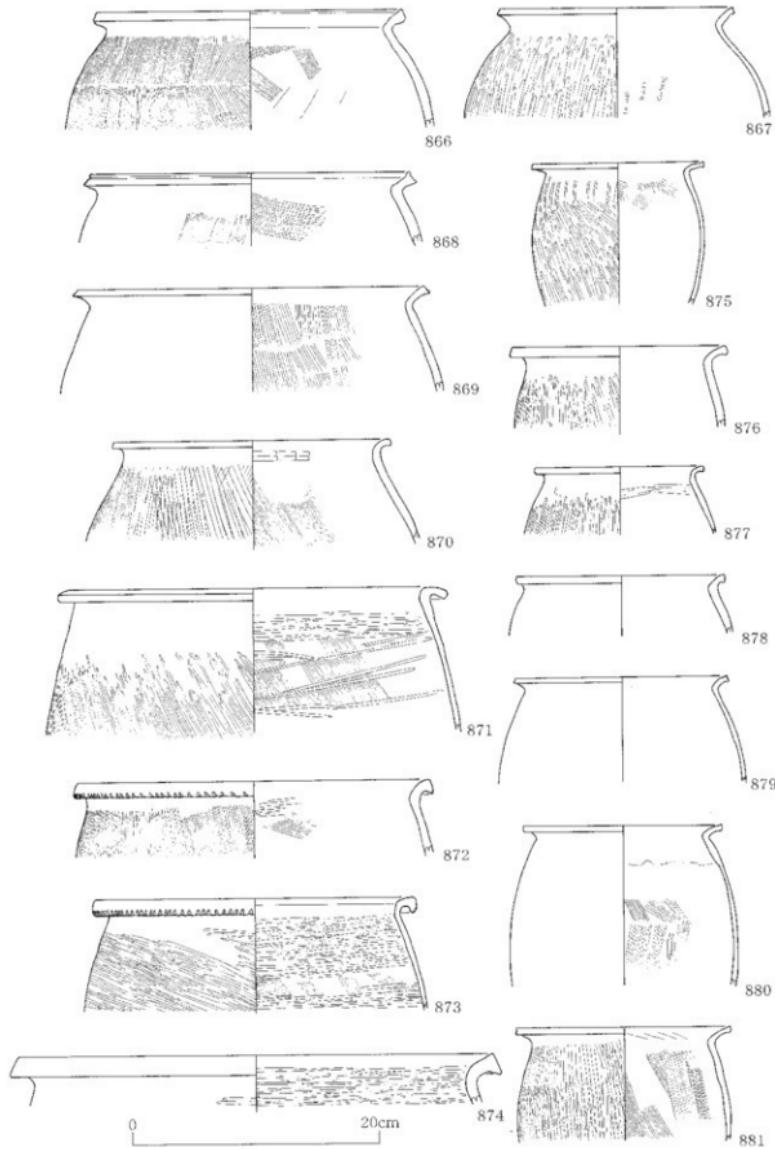
882～890は鉢である。882～884は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。882は口縁部直下に瘤状を呈する握手が付く。885・886は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。887は体部が外上方に伸び、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。888・889は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部外面に柳描文様や四線文を施す。890は口縁部が外反するミニチュアの鉢である。882・883・887はII様式、885・886・888・889はIII～IV様式、890は中期。生駒西麓産。

891は壺蓋である。体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。体部外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

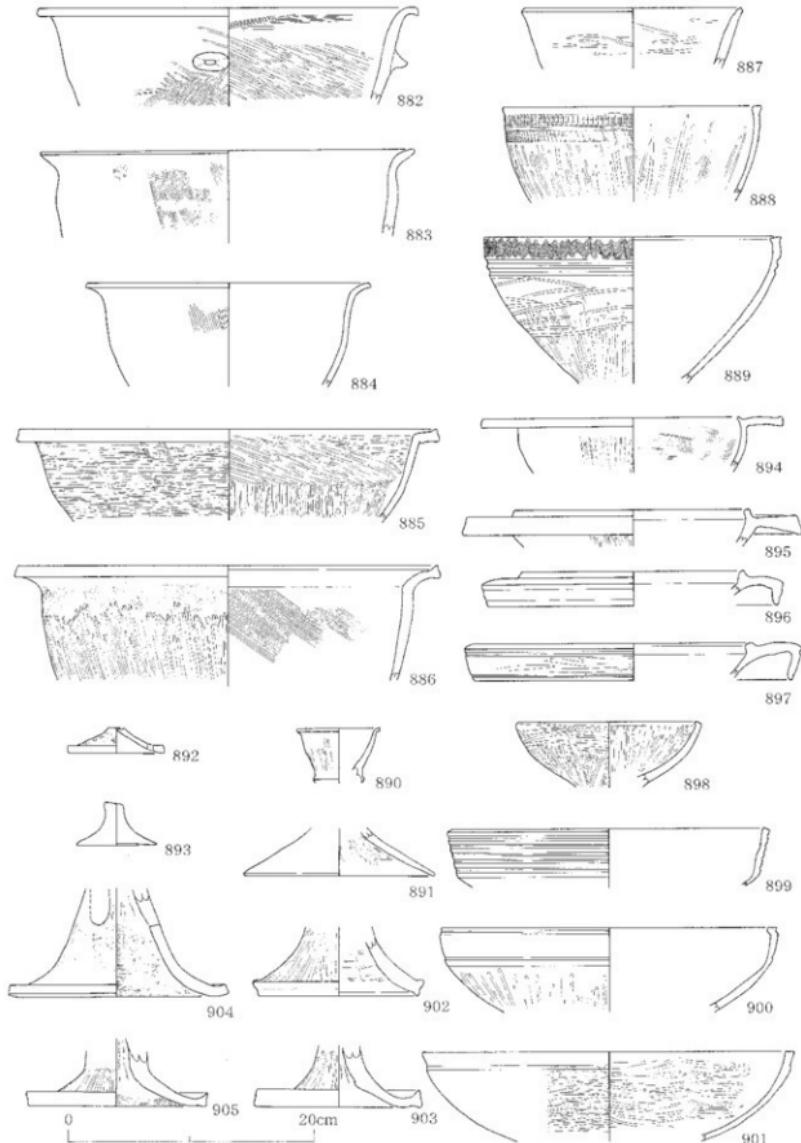
892・893は壺蓋である。892は体部の立ち上がりがゆるく、口縁端部が面を持つ。円形のつまみが付く。小円孔を穿つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。893は体部の立ち上がりが急であり、口縁端部が丸く終わる。円形の長いつまみが付く。中実である。他の器種の可能性がある。中期。生駒西麓産。



第79図 7工区第13層出土土器実測図



第80図 7上区第13層出土土器実測図



第81図 7工区第13層出土土器実測図

894～905は高坏である。894は体部が内湾気味に立ち上がる。口縁部は水平方向に伸びる。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が円形を呈する。895～897は体部が外上方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びる895とさらに長く垂下する896・897がある。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形がコの字形を呈する。898～901は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部に凹線文を施すものと無文のものがある。901は体部に段が付く。902～905は裾部の立ち上がりが急であり、裾端部を上方へ拡張するものと面をもつものがある。904は椭円形と考えられる透かし孔を穿つ。Ⅲ～IV様式。904は非河内産、他は生駒西麓産。

7工区第14層（第82図906～915）

鉢・高坏・壺・甕の器種がある。

906・907は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に7条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はナデ調整する。907は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。906はI様式。生駒西麓産。907はII様式。非河内産。

908は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

909・910・911は壺である。909・911は口縁部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部にヘラ描沈線文を施す。910は口縁端部が面を持つ。指による押圧を加え、口縁端部が波状を呈する。909・911はI様式、910はII様式。生駒西麓産。

912は細頸壺である。頸部が上方に伸び、口縁部が強く内湾する。口縁端部はやや面を持つ。外面に櫛描波状文と直線文を施す。Ⅲ～IV様式。非河内産。

913～915は甕である。913は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。914は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整、内面はヘラケズリ調整する。915は体部の張りは少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。913はII様式、他はⅢ～IV様式。913は非河内産。他は生駒西麓産。

7工区第15層（第82図916～925）

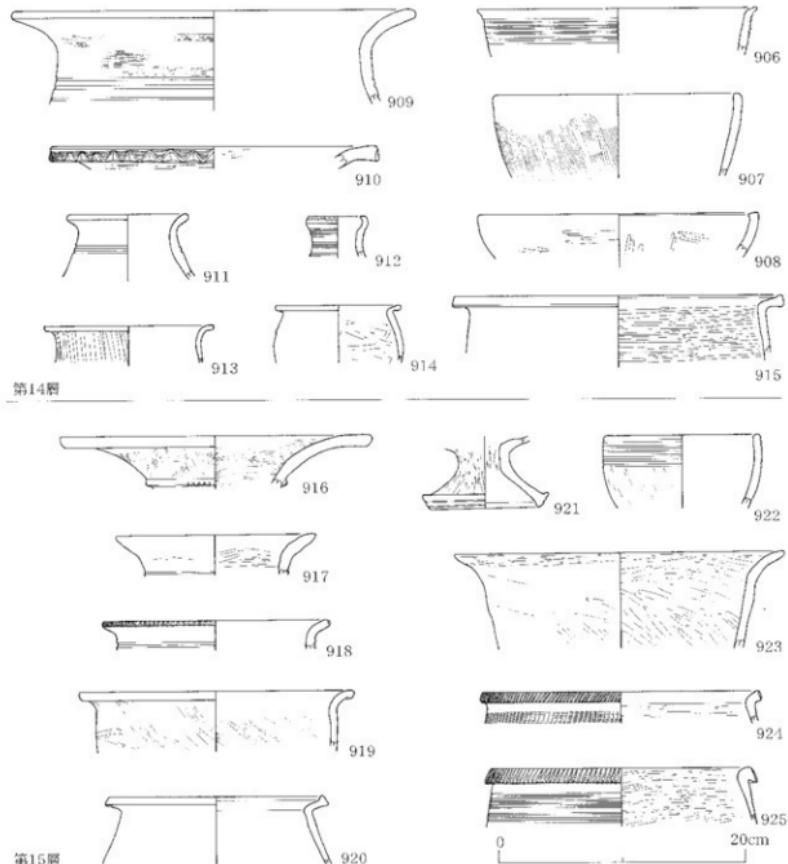
壺・甕・高坏・鉢の器種がある。

916・917は壺である。916は口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや丸く終わる。頸部に刻み目凸帯を施す。内外面はハケメ調整する。917は口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。頸部にヘラ描沈線文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。I様式。生駒西麓産。

918～920は甕である。918は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部にヘラ描沈線文を施す。体部外面はナデ調整する。919は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。920は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。調整法は不明。918はI様式、919はII様式、920はⅢ～IV様式。920は非河内産、他は生駒西麓産。

921は高坏である。他の器種の可能性もある。裾部の立ち上がりは急であり、柱状部は短い。裾端部は面を持つ。裾端部に凹線文を施す。外面はヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

922～925は鉢である。922は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の

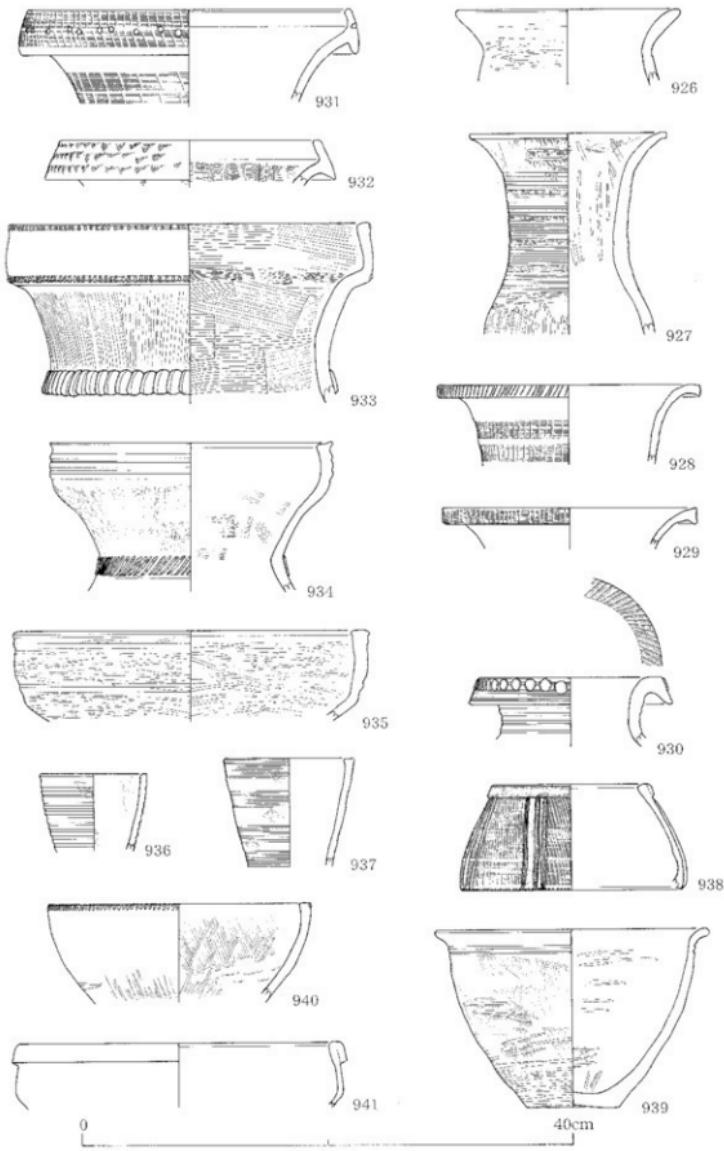


第82図 7工区第14・15層出土土器実測図

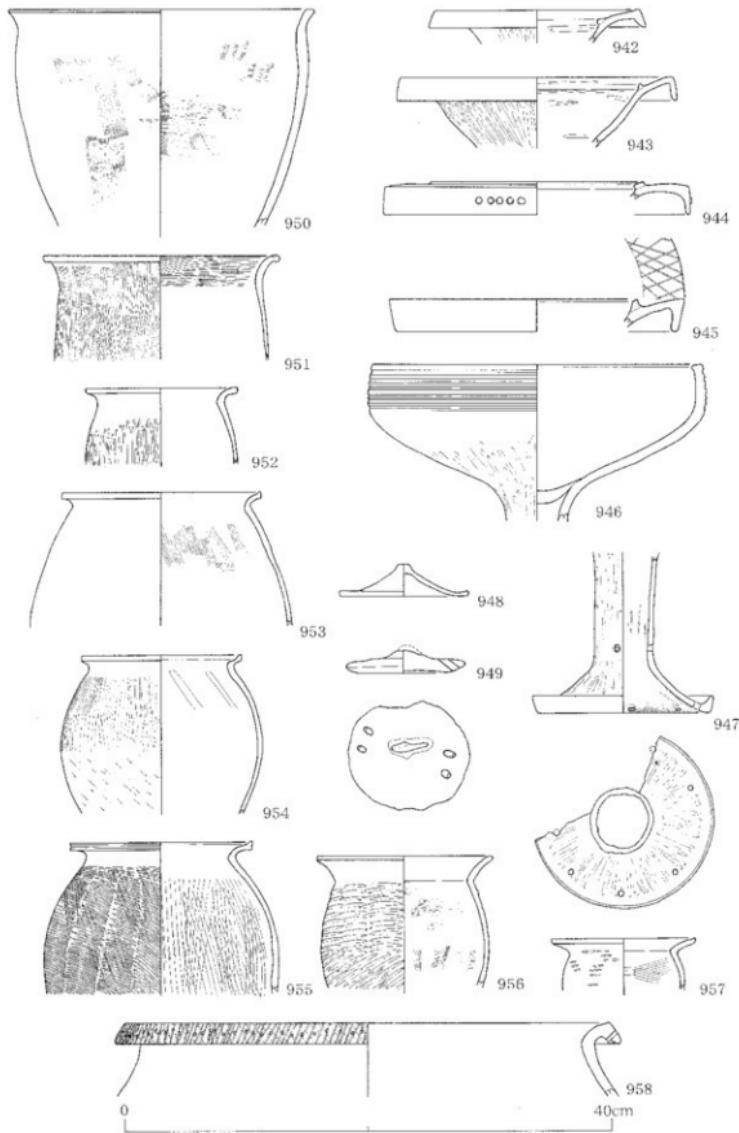
鉢である。体部に6条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。923は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はヘラミガキ調整する。924・925は体部が内傾する。口縁部は折れ曲がる。口縁端部と体部に刻み目や櫛描文様を施す。内面はヘラミガキ調整する。922はI様式、923はII様式、924・925はIII~IV様式。生駒西麓産。7工区第11~15層（第83・84図926~958）

壺・細頭壺・無頭壺・鉢・高坏・壺蓋・壺の器種がある。

926~935は壺である。926は体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。927は体部がやや球形を呈し、頸部が長い。口縁部は大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。頸部外面はハケメ調整、内



第83図 7工区第11~15層出土土器実測図



第84図 7工区第11～15層出土土器実測図

面はハケメの後ヘラミガキ調整する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。928・929は口縁部が大きく外方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と頸部に櫛描文様を施す。930は頸部が短く、口縁端部が下方へ大きく折れ曲がる。幅広の面を持つ。口縁端部は凹線文と円形浮文、頸部は凹線文、口縁部内面は櫛描列点文を施す。931・932は口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部と頸部に櫛描文様と円形刺突文を施す。933～935は口縁端部を上方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部には刻み目や凹線文を施す。933・934は体部と頸部の境に刻み目を施した凸帯を貼り付ける。926・927はⅡ様式、他はⅢ様式。930・933は非河内産、他は生駒西麓産。

936・937は細頸壺である。口縁部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。936は凹線文、937は櫛描直線文を施す。Ⅲ～IV様式。936は非河内産、937は生駒西麓産。

938は無頸壺である。体部は内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に櫛描列点文、体部に簾状文を施す。体部には刻み目を入れた棒状浮文を貼り付ける。体部の中位にも刻め目を施す。内面はナデ調整する。Ⅲ～IV様式。生駒西麓産。

939～941は鉢である。939は底部が平底を呈する。体部は張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に2条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメの後、ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。940は口縁部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後、ヘラミガキ調整する。941は体部が内傾する。口縁端部が段を持つ。無文である。調整法は不明。939はⅠ様式、他はⅢ～IV様式。生駒西麓産。

942～947は高杯である。942～945は体部が外方に伸びる。口縁部が水平方向に伸びた後、長く垂下する。内面に1条の凸帯を廻らす。断面形が三角形のものとコの字形を呈するものがある。944は口縁端部に円形浮文を貼り付ける。945は水平部分に斜格子の暗文を施す。946は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部に6条の凹線文を施す。947は裾部の立ち上がりが急であり、裾端部を上方へ拡張する。柱状部は長く、中空である。柱状部と裾部に小円孔を穿つ。Ⅲ～IV様式。944は非河内産、他は生駒西麓産。

948・949は壺蓋である。948は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。円形のつまみが付く。小円孔を穿つ。949は体部が扁平である。口縁端部は丸く終わる。つまみは橢円形を呈する。2ヶ1対の小円孔を穿つ。中期。生駒西麓産。

950～958は甕である。950・952は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。951は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。953は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。954・955は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は摘み上げ気味に上方へ拡張する。954は体部外面の上半をハケメ調整、下半をヘラケズリ調整する。内面はナデ調整する。955は体部外面をタタキの後、部分的なハケメ調整する。内面はハケメ調整する。956・957は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はタタキ調整、内面はハケメ調整する。958は口縁端部が下方へ折れ曲がる。口縁端部にヘラ描斜格子文と円形刺突文を施す。950～952はⅡ様式、953～955・958はⅢ～IV様式、956・957はV様式。951・957は非河内産、他は生駒西麓産。

3) 古墳時代以降の土器

古墳時代～近世の土器がある。須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・陶器などがあり、弥生時代の遺物包含層より上の遺構と遺物包含層より出土した。

遺構出土土器

溝1（第85図959）

959は陶器の椀である。高台の底面と体部を欠損する。体部外側に染付けの線を施す。内外面に施釉する。近世。

溝6（第85図960・961）

瓦器と須恵器がある。

960は瓦器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は低い。内外面の調整法は不明。中世。

961は須恵器の壺である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

溝7（第85図962・963）

962・963は須恵器の壺である。962は口縁部が外反する。口縁端部は面を持つ。963は口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

溝60（第85図964）

964は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台はやや高い。内面を黒く焼す。所謂、内黒である。外側はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

溝67（第85図965）

965は体部を欠損するが須恵器の壺である。底部は上方へ膨らむが焼成時の変形である。断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

落ち込み1（第85図966～976）

陶器・黒色土器・土師器がある。

966～973は陶器である。椀と皿がある。966～971は椀である。体部内外面に絵柄を施す。内外面に施釉する。972は皿である。口縁部が外反する。内面に線の絵柄を施す。所謂、染付けである。973は皿の底部である。底部は糸切り底である。底部と体部外側の下以外は施釉する。色調が淡緑灰色を呈する。近世。

974は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が台形の高台を貼り付ける。高台はやや高く、ハの字形に広がる。内面を黒く焼す。所謂、内黒である。調整法は不明。平安時代。

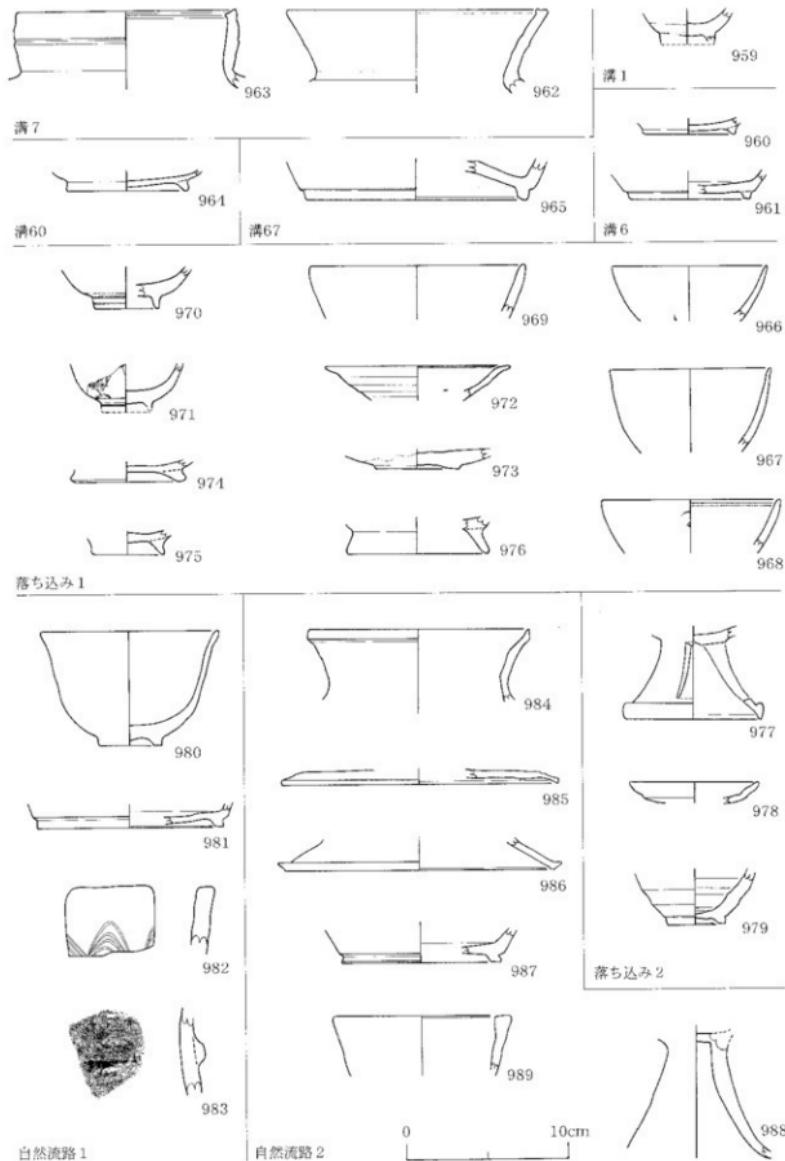
975・976は土師器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は高い。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

落ち込み2（第85図977～979）

須恵器と土師器がある。

977・979は須恵器である。977は高壺の脚部である。所謂、短脚一段透かしの高壺である。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。979は小形の壺である。断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

978は土師器の皿である。口縁部やや外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世。



第85図 溝 1・6・7・60・67、落ち込み 1・2、自然流路 1・2 出土土器実測図

自然流路1（第85図980～983）

陶器・須恵器・瓦器・埴輪がある。

980は陶器の椀である。深い体部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。底部は断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。底部の外面以外は施釉する。色調が淡紫灰色を呈する。二次焼成を受け、煤が付着する。近世。

981は須恵器の壺である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

982は瓦器の火舎である。細片のため形態は不明である。口縁端部がやや面を持つ。外面に波状文を施す。調整法は不明。中世。

983は埴輪である。円筒埴輪のタガの部分である。タガは低く、断面形がやや丸い台形を呈する。外面の調整法は不明。古墳時代。

自然流路2（第85図984～989）

須恵器・土師器・製塩土器がある。

984～987は須恵器である。甕・蓋壺・高杯・壺がある。984は甕である。口縁部が外上方へ大きく伸び、口縁端部が上方へ尖り気味に終わる。外面は回転ナデ調整する。985は蓋壺である。天井部は低く、口縁端部が面を持つ。外面は回転ナデ調整する。986は高杯の脚部である。裾端部を上方へやや拡張する。外面は回転ナデ調整する。987は壺である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。外面は回転ナデ調整する。984・986は古墳時代。985・987は奈良～平安時代。

988は土師器の高壺である。壺部と裾部を欠損する。外面はヨコナデ調整する。古墳時代。

989は製塩土器である。体部が外上方へ伸び、口縁端部がやや面を持つ。外面は本調整で指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。奈良～平安時代。

遺物包含層出土上器

6工区第2層（第86図990）

990は陶器の椀である。体部を欠損する。断面形がコの字形の高台を削りだす。高台は低い。外面は回転ナデ調整する。底部と体部の下外面以外は施釉する。色調が淡緑褐色を呈する。近世。

6工区第5層（第86図991～993）

991～993は土師器の皿である。口縁部が内傾しながら立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。外面はナデ調整する。中世。

6工区第6層（第86図994～997）

土師器・黒色土器・須恵器がある。

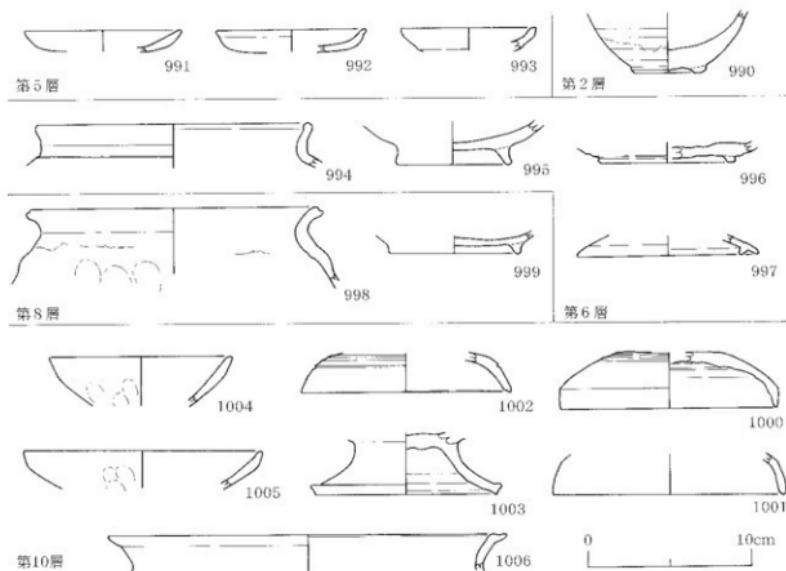
994は土師器の甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部が内側へやや肥厚する。外面はヨコナデ調整する。平安時代。

995は黒色土器の椀である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は高い。内面を黒く焼す。所謂、内黒である。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

996・997は須恵器である。壺と蓋壺がある。996は壺である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。997は蓋壺である。天井部はやや丸い。口縁端部は丸く終わり、内面に受部が付く。外面は回転ナデ調整する。古墳時代。

6工区第8層（第86図998・999）

土師器と黒色土器がある。



第86図 6工区第2・5・6・8・10層出土土器実測図

998は土師器の甕である。体部の張りは大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面は未調整で指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。平安時代。

999は黒色土器の楕である。体部を欠損する。底部に断面形が三角形の高台を貼り付ける。高台は低い。内面を黒く焼す。所謂、内黒である。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。平安時代。

6工区第10層(第86図1000~1006)

須恵器と土師器がある。

1000~1003は須恵器である。蓋坏と高坏がある。1000~1002は蓋坏である。天井部はやや丸い。口縁端部は丸く終わる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、他を回転ナデ調整する。1003は高坏の脚部である。脚部は短い。裾端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。古墳時代。

1004~1006は土師器である。坏と甕がある。1004・1005は坏である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。体部外面は未調整。指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。1006は甕である。口縁部が外反し、口縁端部が上方に面を持つ。内外面はヨコナデ調整する。平安時代。

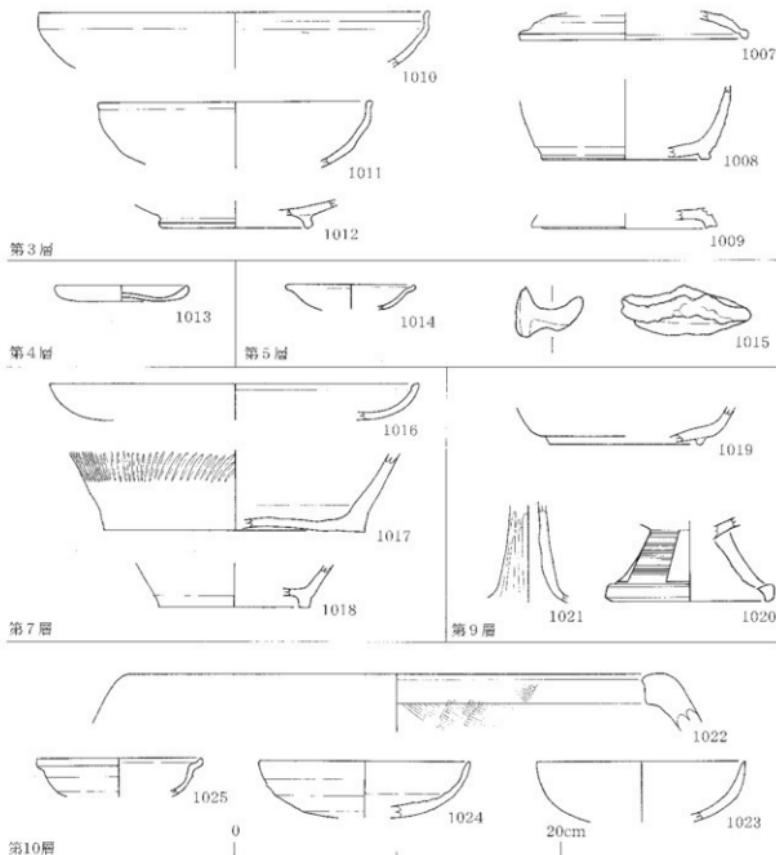
7工区第3層(第87図1007~1012)

須恵器・土師器・緑釉陶器がある。

1007~1009は須恵器である。蓋坏と甕がある。1007は蓋坏である。天井部はやや丸く、口縁端部が内側へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。1008・1009は甕である。断面形がコの字形の高台を削りだす。1008は体部の張りが少ない。内外面は回転ナデ調整する。奈良~平安時代。

1010・1011は土師器の鉢である。体部が内傾しながら立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は1010が丸く終わり、1011が外側へやや肥厚する。体部内外面はナデ調整する。奈良~平安時代。

1012は緑釉陶器の楕である。断面形がコの字形の高台を貼り付ける。内外面に施釉する。色調が淡



第87図 7工区第3～5・7・9・10層出土器実測図

緑色を呈する。平安時代。

7工区第4層（第87図1013）

1013は土師器の皿である。底部は凹底であり、口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中世。

7工区第5層（第87図1014・1015）

1014・1015は土師器である。皿と鍋がある。1014は皿である。体部がやや丸く、口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へやや肥厚する。内外面はナデ調整する。1015は鍋の握手である。外面に指頭圧痕が残る。平安時代。

7工区第7層（第87図1016～1018）

土師器・陶器・須恵器がある。

1016は土師器の皿である。口縁部が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は内側へ肥厚する。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

1017は陶器の壺である。平底の底部より体部が外上方に伸びる。外面は平行のタタキ調整、内面はナデ調整する。

1018は須恵器の壺である。体部は外上方へ伸び、断面形がコの字形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。余良～平安時代。

7 工区第9層（第87図1019～1021）

須恵器と土師器がある。

1019・1020は須恵器である。壺と高杯がある。1019は壺である。体部を欠損する。断面形が台形の高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。1020は高杯の脚部である。巻端部はやや肥厚する。所謂、短脚一段透かしの高杯である。外面はカキメ調整、内面は回転ナデ調整する。古墳時代。

1021は土師器の高杯である。壺部と据部を欠損する。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。古墳時代。

7 工区第10層（第87図1022～1025）

土師器と須恵器がある。

1022・1023は土師器である。壺と壺がある。1022は壺である。口縁部が内側へ大きく内傾する。口縁端部が面を持つ。外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。詳細な時期は不明。1023は壺である。体部は丸く、口縁部が上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。奈良～平安時代。

1024・1025は須恵器の杯である。1024は体部が丸く、口縁部が上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。体部外面は回転ヘラケズリ調整、内面は回転ナデ調整する。古墳時代。1025は体部が丸く、口縁部が外反する。口縁端部は面を持つ。内外面は回転ナデ調整する。奈良～平安時代。

2. 土製品（第88図1026～1048）

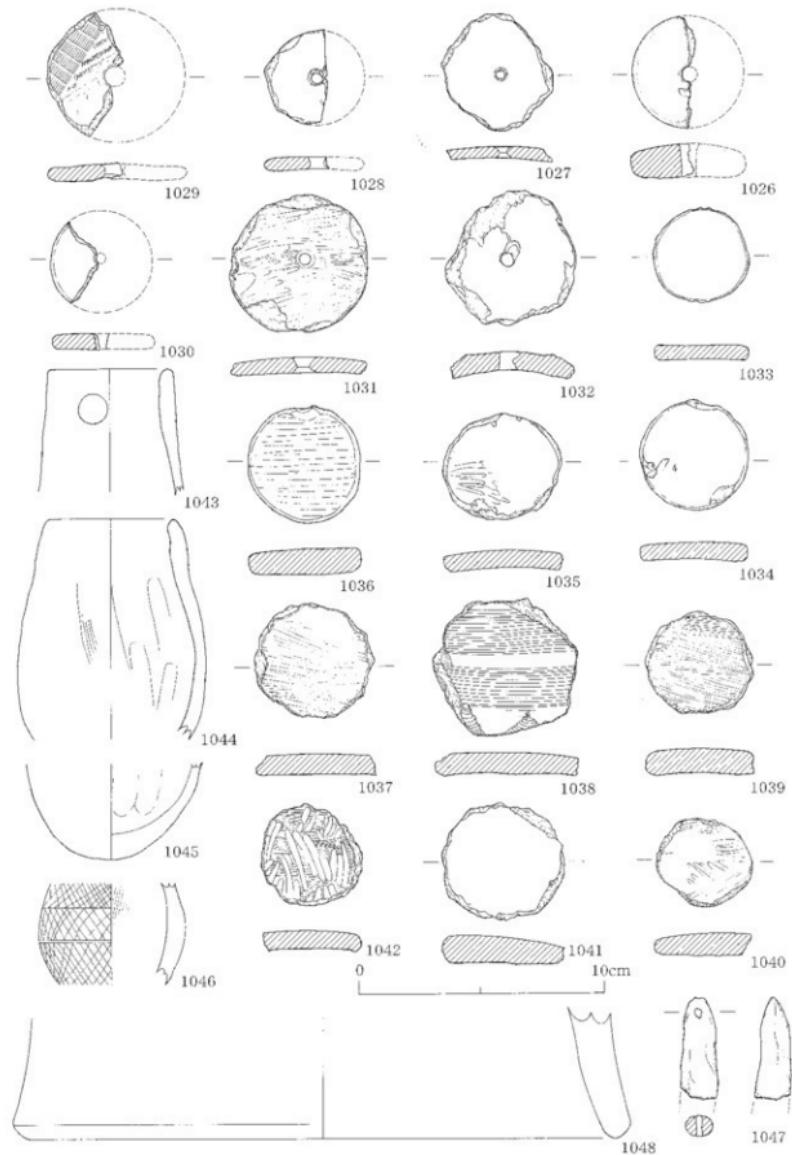
弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。紡錘車・円板状土製品・婧壺・不明土製品・土錐・台状土製品がある。

1026～1032は紡錘車である。1026と1030は紡錘車として焼成前に作られている。円の中央に棒輪の孔を穿つ。全体はナデ調整で丁寧に仕上げる。1027～1029・1031・1032は土器を転用する。円周部を打ち欠いただけのものや部分的に研磨するものがある。中央に孔を穿つ。径が約4～6cmを測る。遺物包含層より出土。

1033～1042は円板状土製品である。破損した土器の円周部を打ち欠いて円形に加工する。打ち欠いただけのものが多いが、円周部を研磨するものもある。上器の器種に関係なく利用されている。径が約4～6cmを測る。一部は前記した紡錘車として使用されたと考えられる。木掲載の資料も多量にあり、紡錘車の製作途中のものとしてはやや量が多い。遺物包含層より出土。

1043～1045は婧壺である。底部は丸底であり、体部が内傾しながら上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。口縁部直下に紡孔を一孔穿つ。内外面はナデ調整する。口径が約5cm、推定高11cmを測る。色調は乳灰色を呈し、非河内産である。1043と1045は遺物包含層より出土。1044は満126より出土。

1046は用途不明の土製品である。形状は婧壺の体部に似る。外面は横の直線を施した後、斜格子文で、全面を飾る。内面はナデ調整で仕上げる。鋤型土製品の可能性を考えられる。色調は淡灰色を呈



第88圖 土製品実測図

し、非河内産である。遺物包含層より出土。

1047は土錘である。先端部がやや尖った棒状を呈する。端部に小円孔を穿つ。下部を欠損するので断定できないが、土錘と思われる。遺物包含層より出土。

1048は台状土製品である。体部がハの字形を呈する。裾端部はやや丸く終わる。内外面はナデ調整する。遺物包含層より出土。

3. 石器

弥生時代の遺構や遺物包含層よりおもに出土した。打製石器、自然石を利用した石器、磨製石器などがある。中世期の砥石が1点ある。

1) 磨製石器（第89～92図1049～1110）

石庖丁・大型始刃石斧・柱状片刃石斧・小形石斧・局部磨製石斧・石劍・不明石器がある。

1049～1081は石庖丁である。背は半月形。刃は直線的であり、片刃で終わるものが多い。背に2孔の紐穴を穿つ。本来の位置より移動して穿たれた穴もある。また、製作時の敲打痕を残すものもある。1055は大型石庖丁からの転用と考えられる。1049は土坑20、1050は土坑97、1052・1076は自然流路4、1053は溝128、1054は溝85、1057・1072は土坑96、1060は土坑27、1064は土坑50、1067は溝103、1073は溝126、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1082～1091は大型始刃石斧である。両面より刃部を磨いて作る。石斧製作時と破損後の転用による敲打痕が残るものが多い。1089は溝126、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1092～1095は柱状片刃石斧である。全形の残るものはないが長方形を呈する。紐掛けの挟りを施すものもある。弥生時代遺物包含層より出土。

1096は小形石斧である。形態は大型始刃石斧に似るが小形の石斧である。弥生時代遺物包含層より出土。

1097は局部磨製石斧である。打製石槍を転用したと考えられる。部分的に研磨によって刃部などを整える。扁平片刃石斧にした可能性が高い。弥生時代遺物包含層より出土。

1098・1099は有柄式の石劍である。1098は下部に長方形の茎を磨いて作る。身は上部を欠損する。身両面に2条の溝を入れ、柄とする。下部に小円孔を2孔穿つ。1099は茎部分である。弥生時代遺物包含層より出土。

1100は不明石器である。上部を欠損するが研磨した薄い板状の石器である。弥生時代遺物包含層より出土。

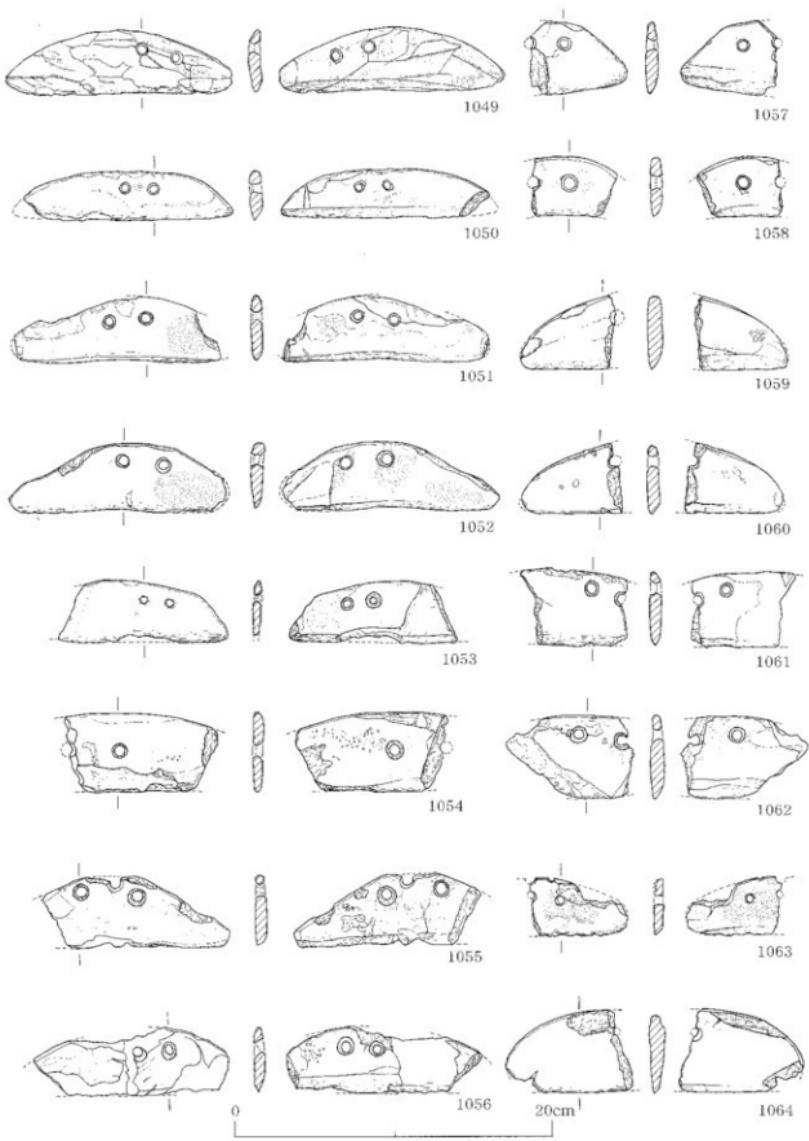
2) 自然石を利用した石器（第92・93図1101～1111）

凹石と砥石がある

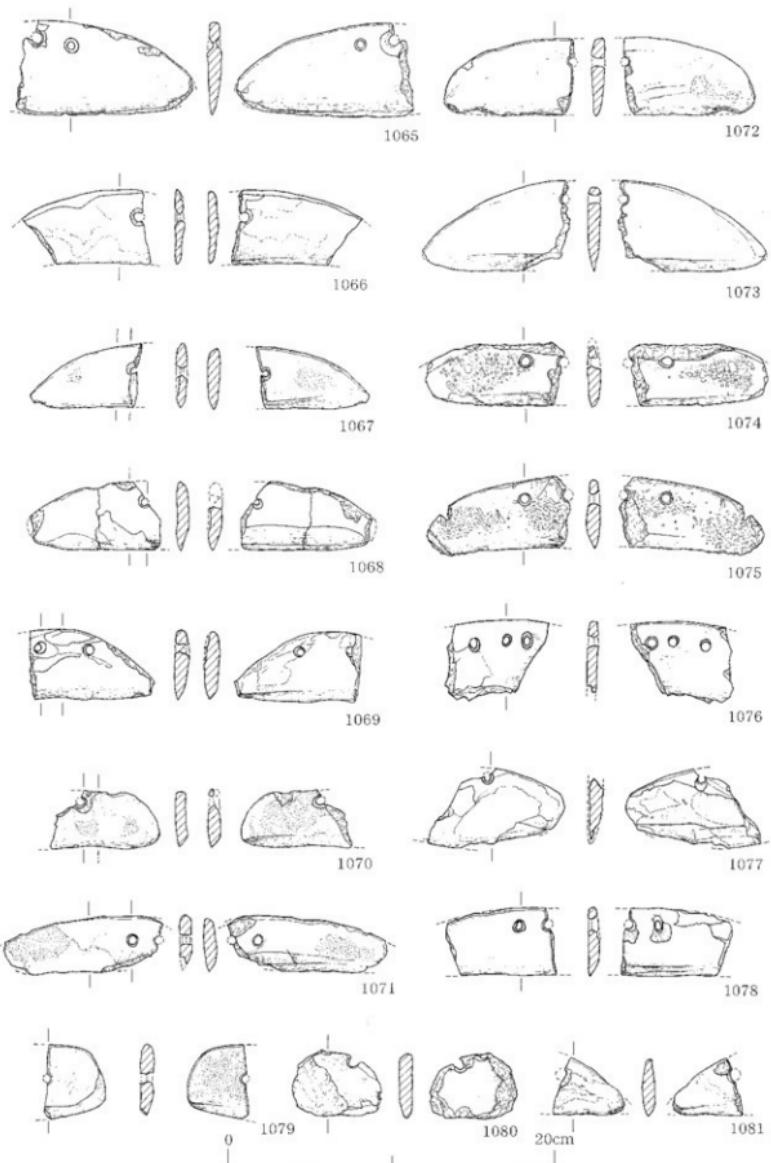
1101は凹石である。扁平な円形を呈する自然石の円周部に溝状の磨り痕がある。また、一面の中央部が磨り痕によって凹む。弥生時代遺物包含層より出土。

1102～1111は砥石である。1102は凝灰岩製の砥石である。長方形を呈し、4面に使用痕が残る。1103～1111は形態に企画性のない砥石である。1102は中世遺物包含層、1104は溝128、1108は落ち込み6、他は弥生時代遺物包含層より出土。

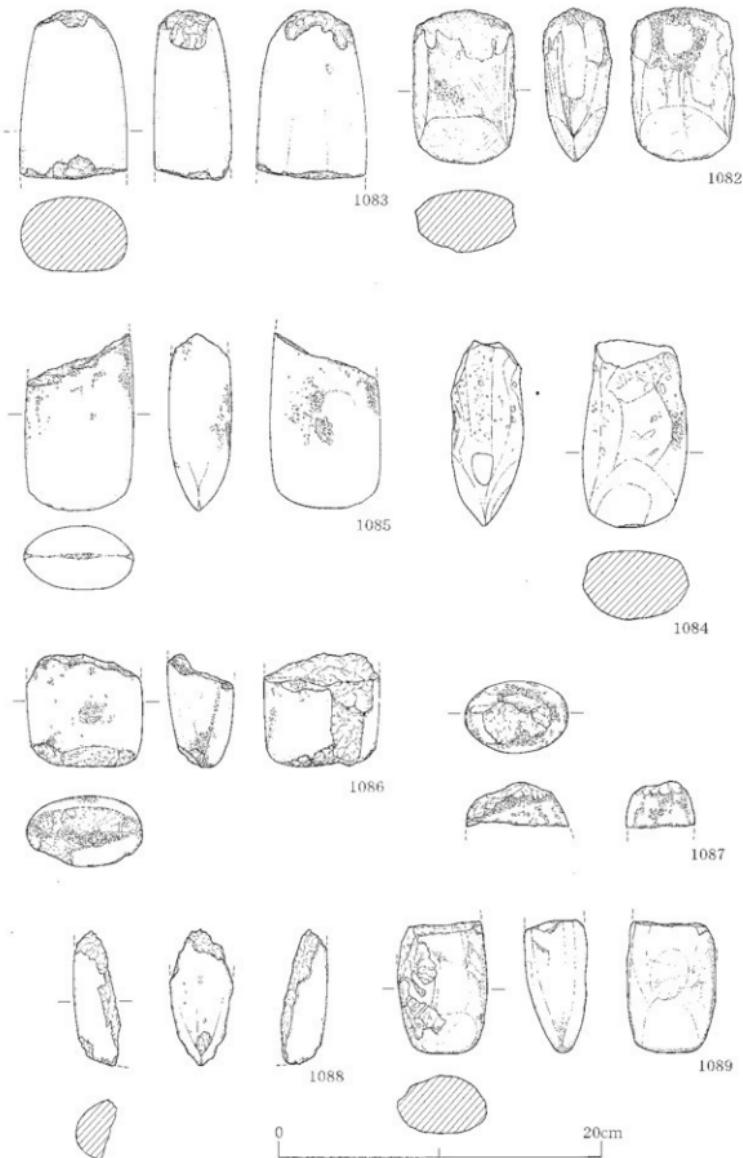
3) 打製石器（第93～96図1112～1163）



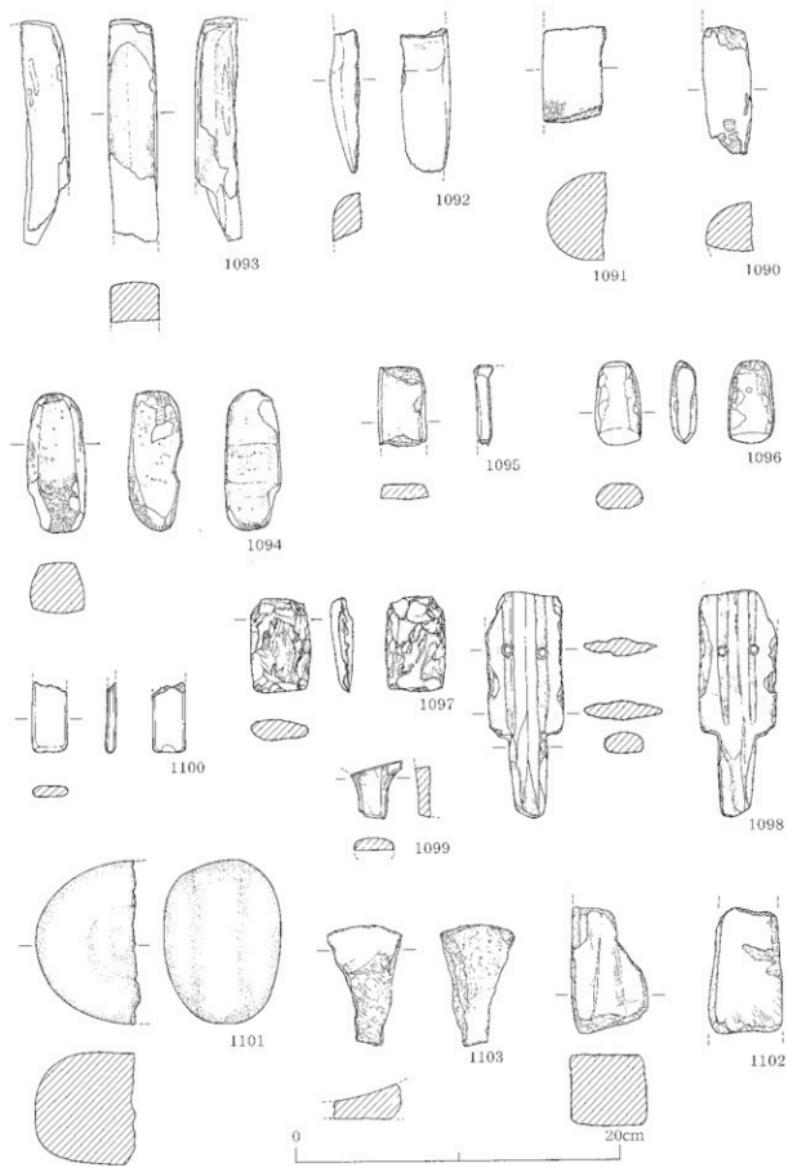
第89図 石器実測図



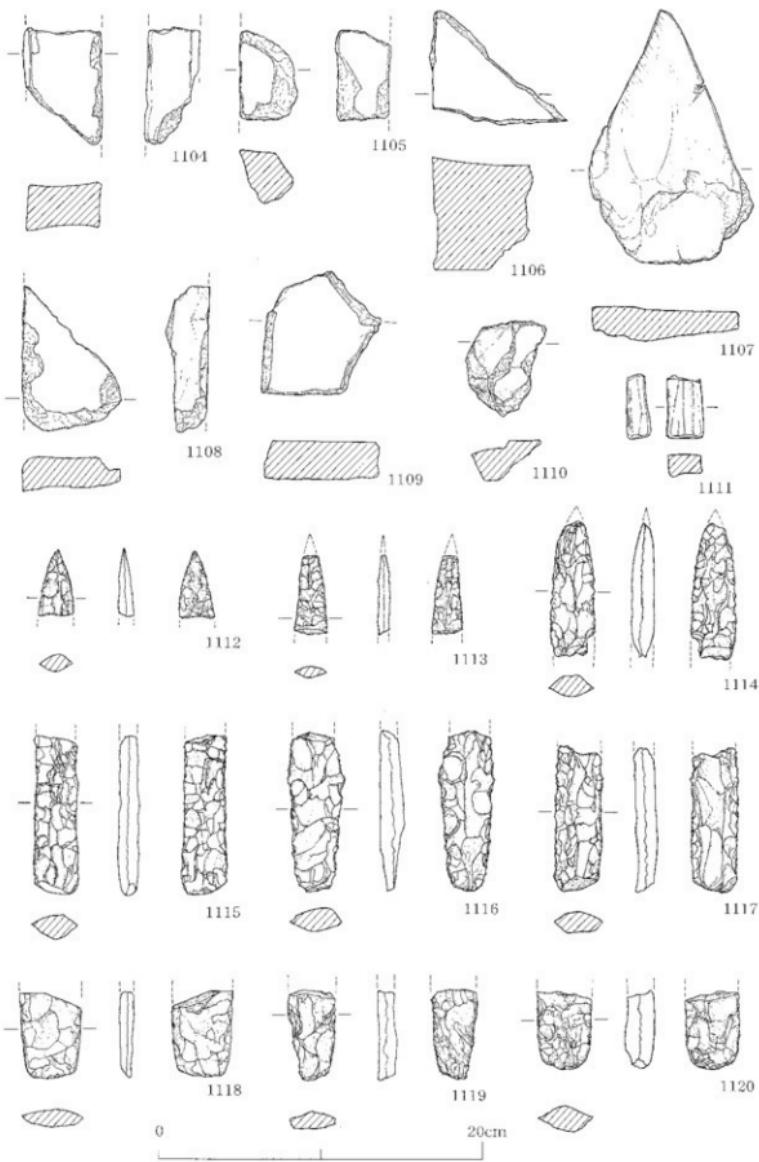
第90図 石器実測図



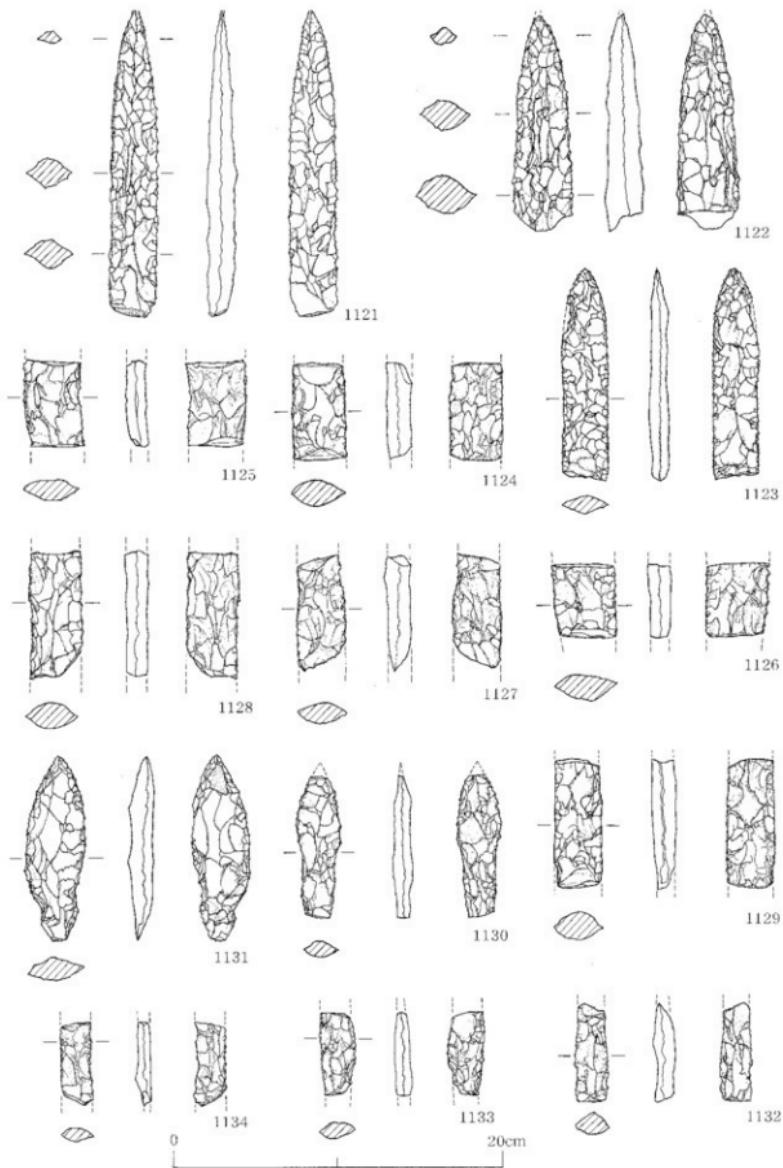
第91図 石器実測図



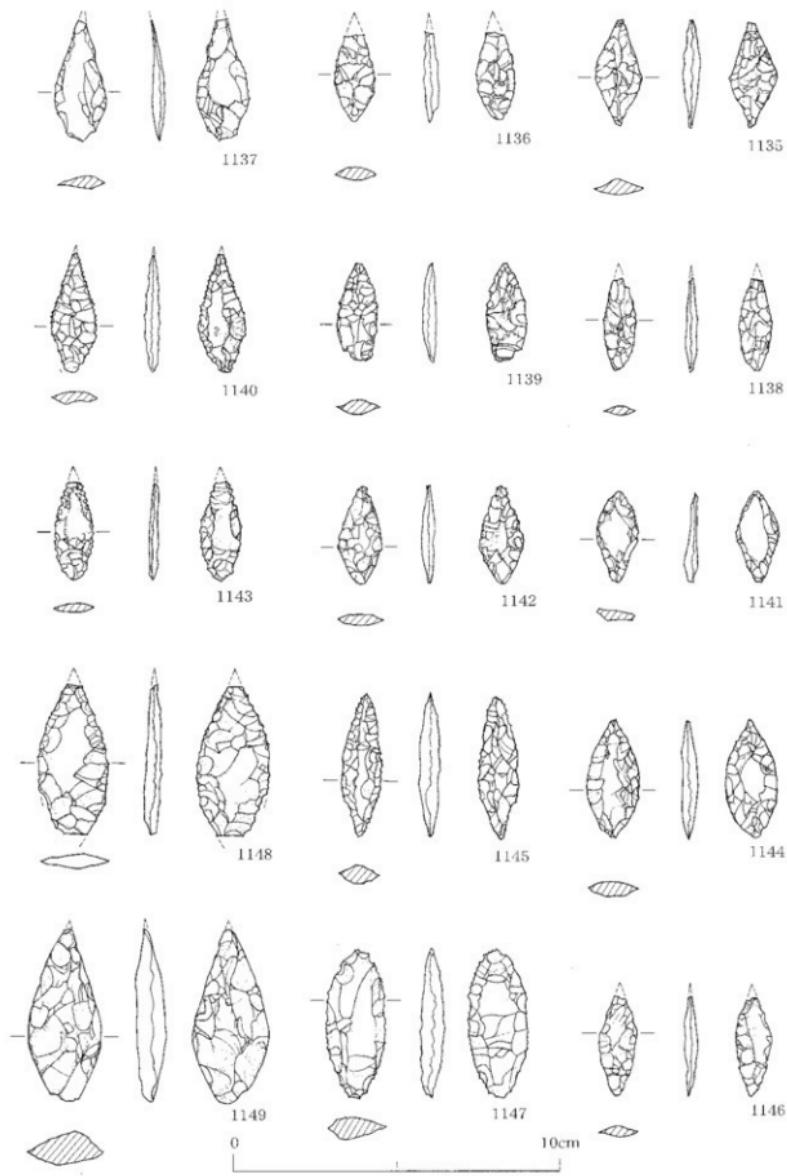
第92図 石器実測図



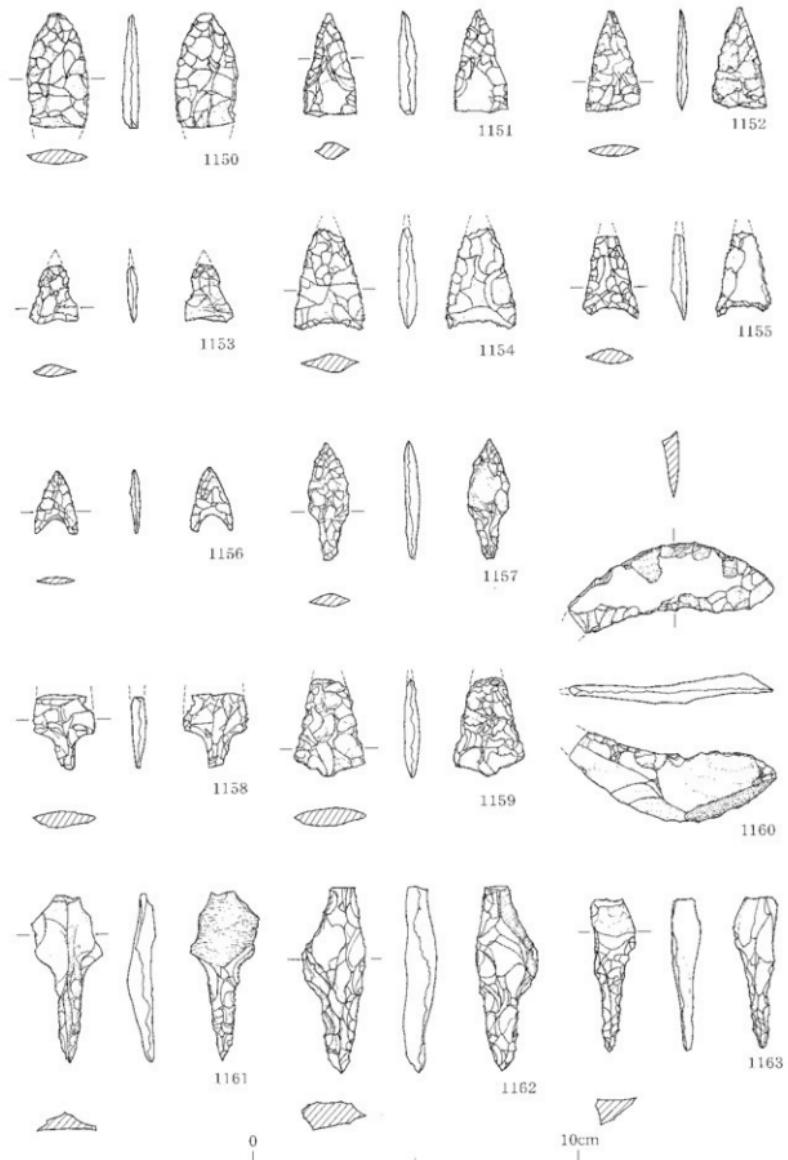
第93図 石器実測図



第94図 石器実測図



第95図 石器実測図



第96図 石器尖端図

石槍・石鎌・石小刀・石錐がある。石材はサヌカイトである。

1112～1134は石槍である。近年、研究が進み石劍として扱われているものもあるが、石槍として記す。1121・1123・1131・1132はほぼ全形の判る資料である。大きく分けて幅が広く長いものと幅が狭く短いものがある。1131と1132は下部で両側縁に抉りを入れる。局部的に研磨するものもある。1112は土坑20、1118は土坑96、1121・1125は溝126、1122は溝99、1130は土坑38、他は弥生時代遺物包含層より出土。

1135～1159は石鎌である。細部は押圧剥離で整える。1135～1149は柳葉形の石鎌である。大きさや幅にも大小がある。また、1137や1141などは荒削りの面を残す。1150～1156は三角形の石鎌である。基部は平基や凹基などがある。1156は形態及び出土状況から考えると縄文時代の資料の可能性が高い。1157～1159は茎を有する石鎌である。1142は溝103、1146は土坑47、1152は土坑20、1153は土坑墓Ⅲ、他は弥生時代遺物包含層より出土。1138・1143・1156・1159は中世遺物包含層より出土しており、混入品と考えられる。

1160は石小刀である。刃部先端を欠損するがJ字形を呈する。細部調整はやや荒い。弥生時代遺物包含層より出土。

1161～1163は石錐である。基部は荒削りの状態であり、先端部を細長く押圧剥離で整える。1162は原材面が残る。1161はピット874、1162・1163は弥生時代遺物包含層より出土。

4. 木製品

弥生時代と中世の木製品が遺構と遺物包含層より出土した。文中に針葉樹と広葉樹を記すが、専門家による樹種同定ではなく、筆者の肉眼観察によるものである。一部、樹種同定をおこなったものもある。横断面の弧は木取りを表す。

1) 弥生時代の木製品（第97～100図1164～1180）

1164は容器である。体部を欠損するが、円形を呈する。底部は柱状を呈する脚を4ヶ所に削り出すが、2脚を欠損する。作りは丁寧である。綾木取りである。材はヤマグワである。遺物包含層より出土。

1165は杓子である。柄と身を欠損する。身は大きく湾曲し、外面中央から柄に向けて帯状の突起を削り出す。作りは丁寧である。横木取りである。材はヤマグワである。遺物包含層より出土。

1166は抉り入り先尖板である。武器形木製品の劍に抉りを入れた形状を呈する。先端部は銛利に削り出し、下部の1ヶ所に三角形の抉りを入れる。横断面が薄い凸レンズ状を呈する。作りは丁寧である。柾目材を使用する。材はバラ科である。自然流路4より出土。

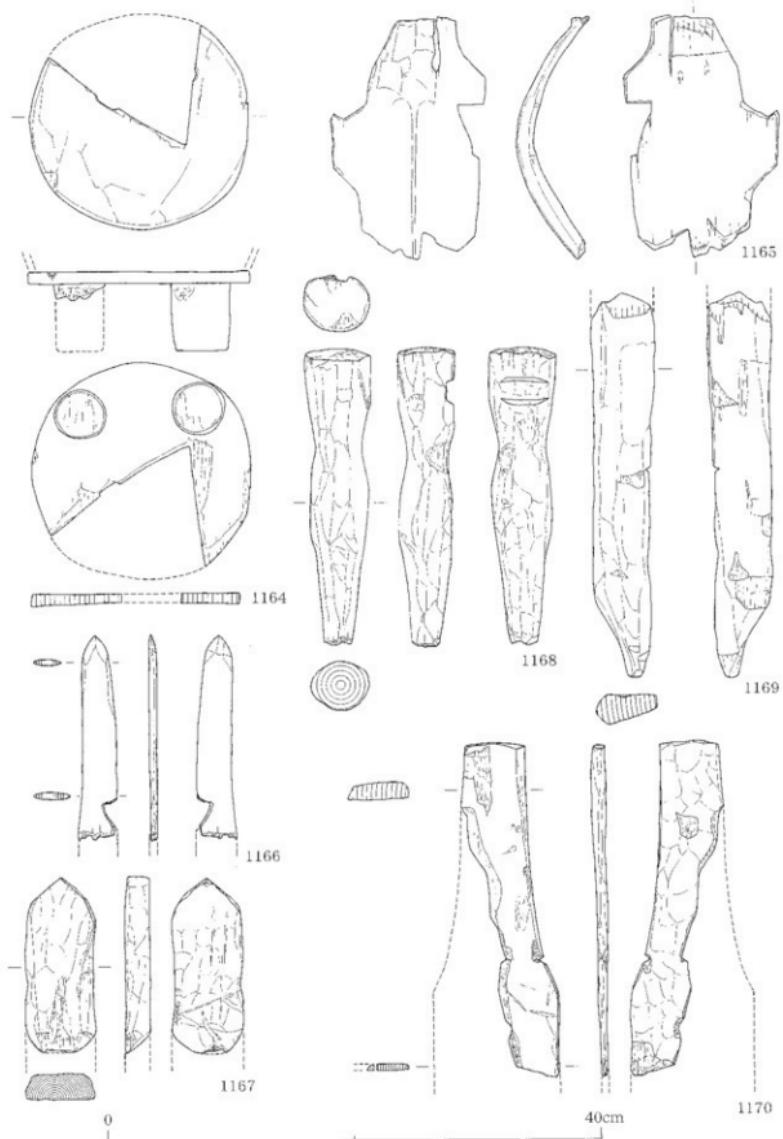
1167は舟形木製品である。木口の一端を丸く、他の一端を尖らせており、舟の形を呈する。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。自然流路4より出土。

1168は抉り入り棒である。木口の一端を握り部状に細く削る。円周部には抉りと溝状の窪みを入れる。削り痕が顯著に残る。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。土坑21より出土。

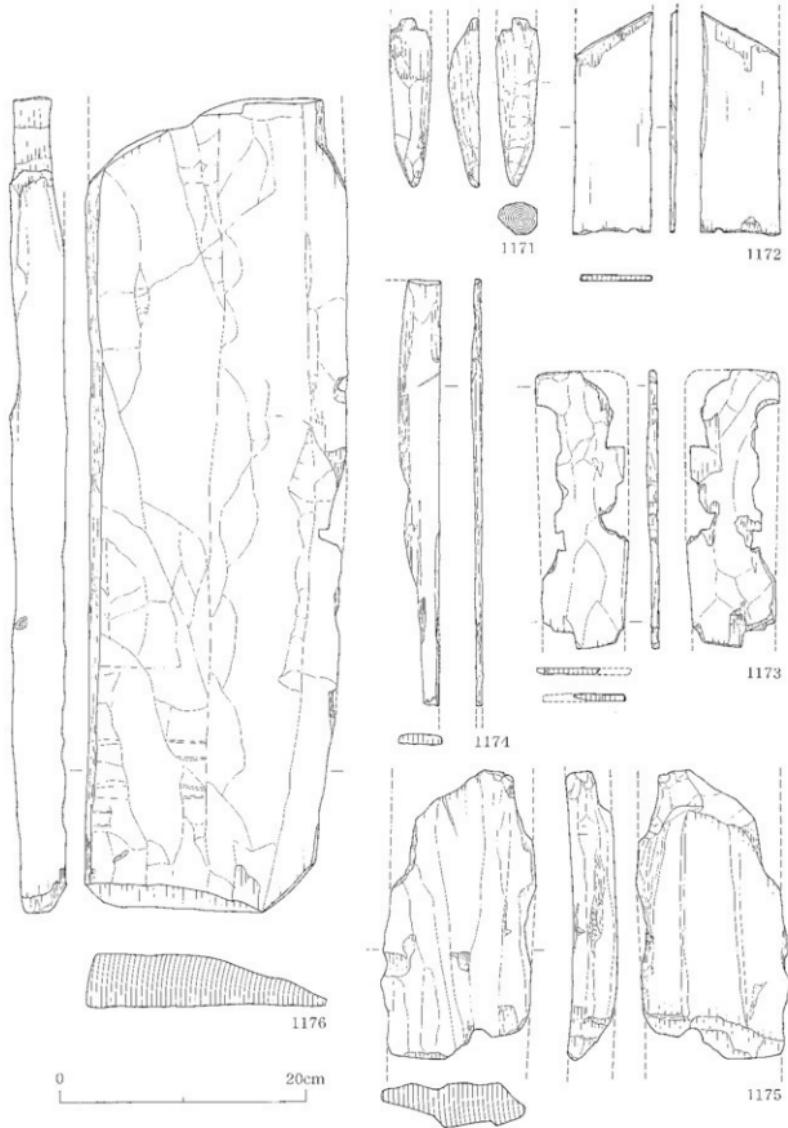
1169は尖頭棒である。木口の一端を細く削る。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。溝126より出土。

1170は抉り入り板である。側面をJ字形に削り出す。下部は幅広になる。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。溝126より出土。

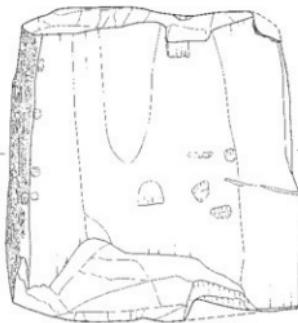
1171は尖頭棒である。木口の一端を杭の先端のように尖らせる。上部は欠損しているので不明である。芯持ち材を使用する。材は広葉樹と考えられる。土坑83より出土。



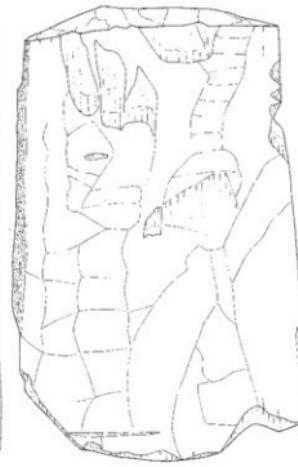
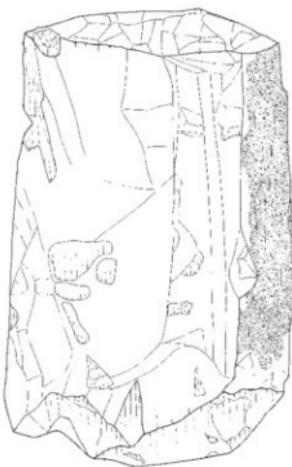
第97図 木製品実測図



第98図 木製品実測図

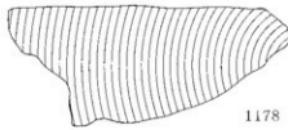


1177



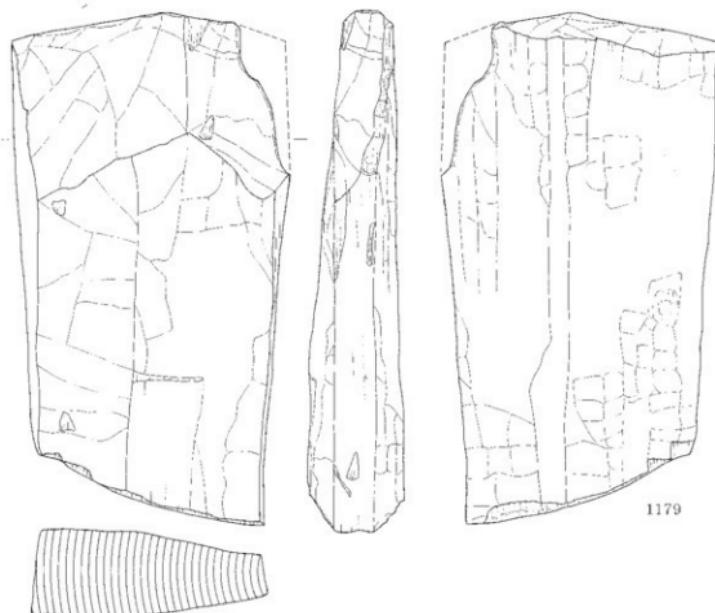
0

20cm

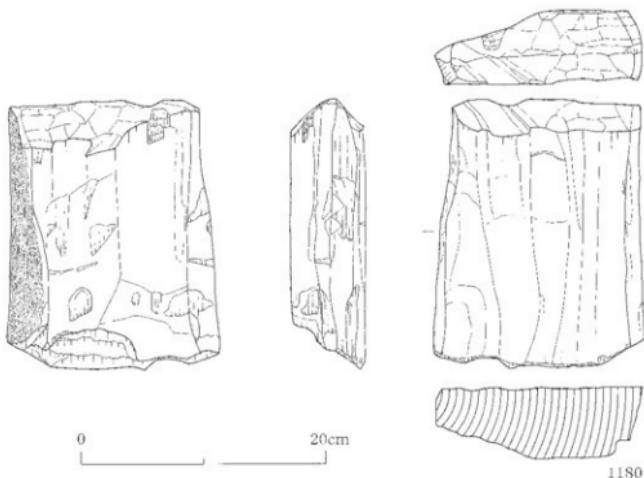


1178

第99図 木製品実測図



1179



1180

第100図 木製品実測図

1172～1174は板である。全形の判るものはないが、長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。1172は土坑130、1173は土坑83、1174は溝138より出土。

1175は農耕具の鍔未成品である。一面の中央部に長方形を呈する突起を削り出す。柾目材を使用する。材はアカガシ科である。溝128より出土。

1176～1180は農具の原材料である。横断面形がみかんの房状を呈する。割り材の段階である。円周部に樹皮が残るものが多い。木口の両端は削られており、大きさから考えると鍔に加工される可能性が高い。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。1176は土坑95、1177・1179・1180は土坑83、1178は土坑96より出土。

2) 中近世の木製品 (第101・102図1181～1200)

1181～1183は漆器柄である。1181は全形が判る資料である。全体的に器歴は薄い。高台は高く、柶部はやや浅い。底面に吉の文字を施す。1182は休部、1183は底部である。1183は高台が低い。体部外面に植物の絵を描く。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。1181・1183は溝1より出土。1182は出土地不明。

1184・1185は卒塔婆である。1184は上部を欠損する。上部より台形、円形の順で削り出し、下部が長方形を呈する。長方形部分の中央に小円孔を1孔穿つ。1ヶ所に口奉為妙蓮口の墨書（解説は当文化財課菅原卓太による）が残る。柾目材を使用する。材はスギである。溝6より出土。1185の形態は1184とほぼ同様である。破損部分が多く、一部接合が出来ない所がある。一面に口南口阿口施佛口、他の一面に口佛の墨書が残る。柾目材を使用する。材はスギである。溝62より出土。

1186は下駄である。大部分を欠損するが齒と身を組合せるタイプである。鼻緒の孔が2孔残る。先端部は使用によって磨り減る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1187は容器である。上部は欠損する。円形を呈する底板の外側に曲げ物を施す。曲げ物は桜の櫛で止める。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1189は桶の底板である。組合せのタイプである。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。

1189・1190は曲げ物容器の底板である。円形を呈する。1189は中央に小円孔を穿つ。1189は板目材、1190は柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。

1191・1192は有頭棒である。1191は木口の一端を球形に削る。下部は細い棒状を呈する。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝1より出土。1192は木口の一端を方形に削り出し、他の一端を尖らせる。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。出土地不明。

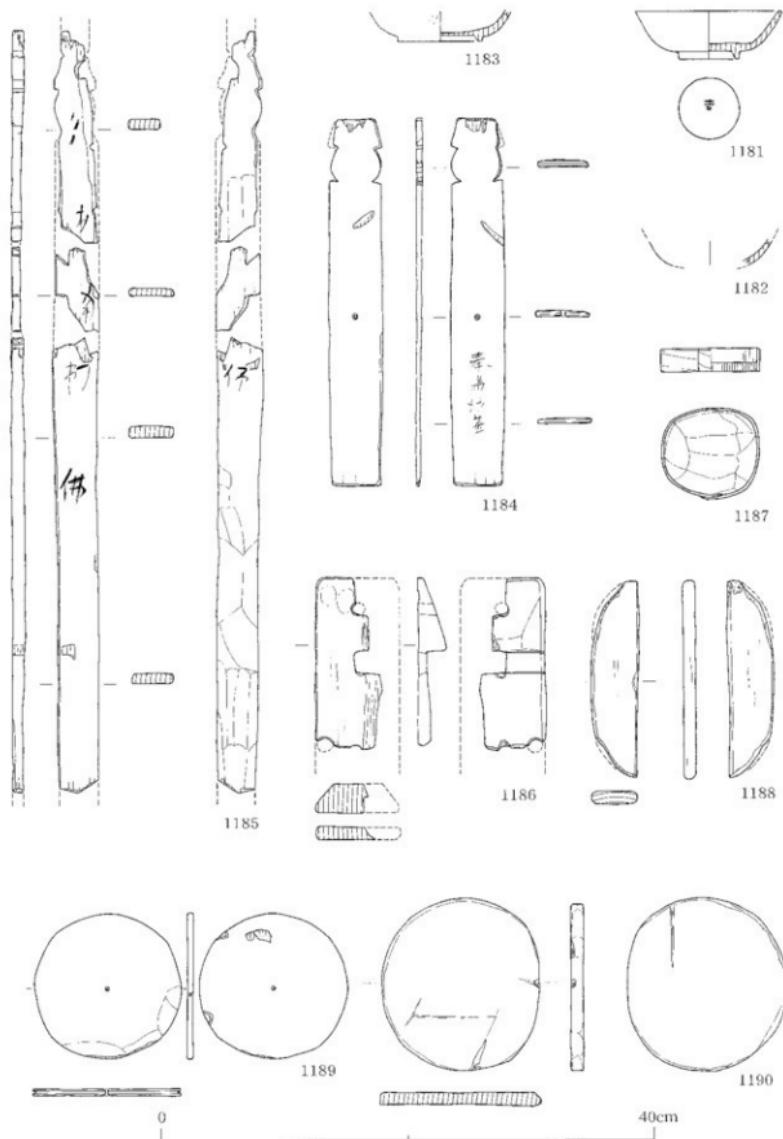
1193・1195は桶の側板である。長方形を呈する。横断面がゆるいU字形である。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。1193は落ち込み1より出土。1195は出土地不明。

1194は角材である。長方形を呈する。横断面が方形である。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。

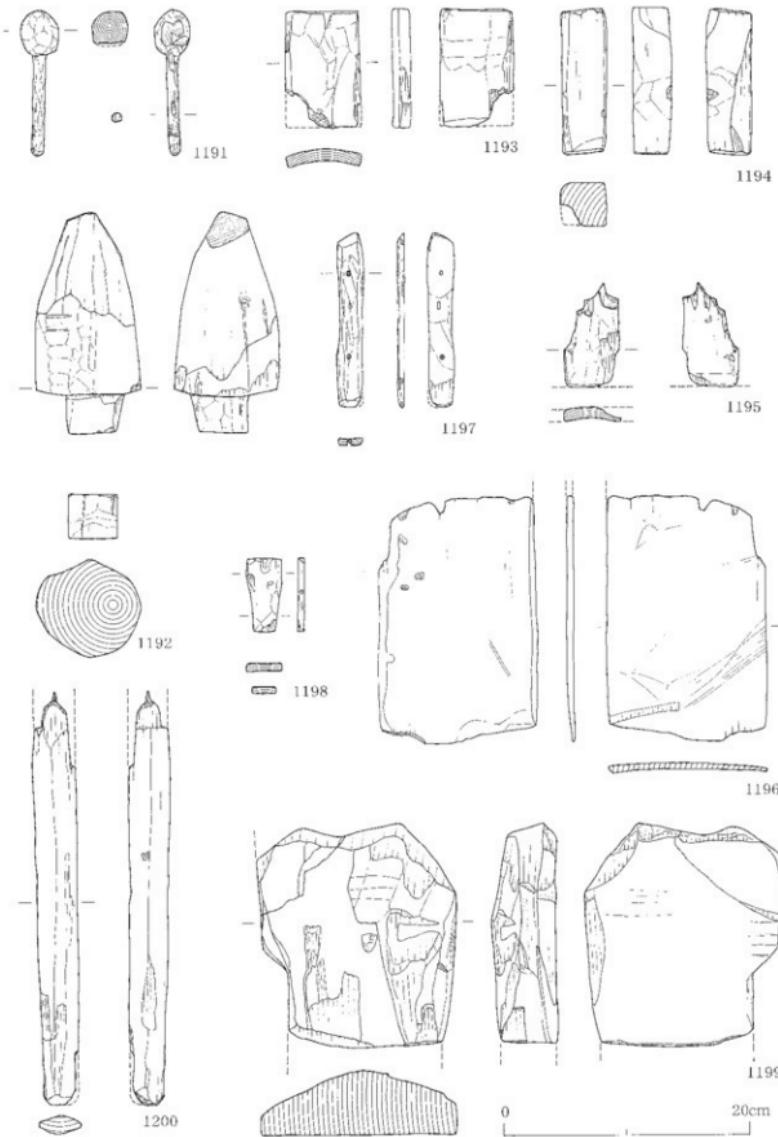
1196は板である。長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。

1197は有孔板である。やや細長い板材の2ヶ所に小円孔を穿つ。円孔の1ヶ所には木釘が残る。板目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。

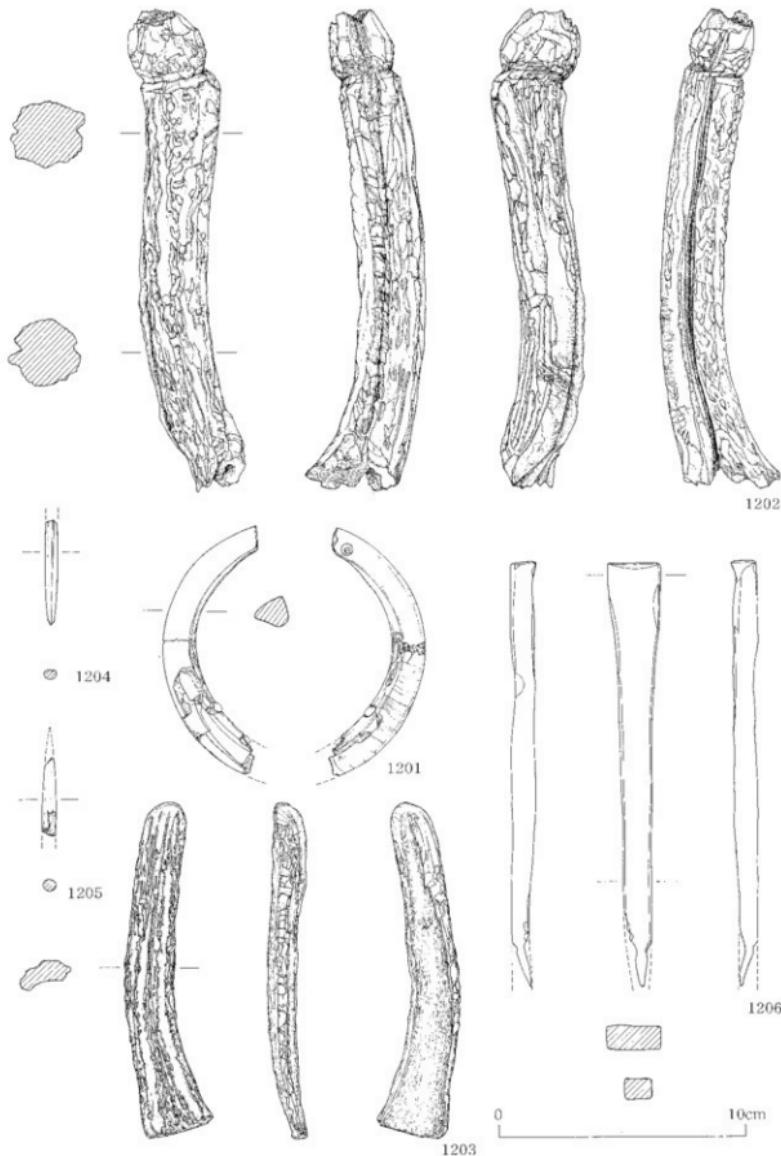
1198は有頭板である。木口の一端を幅広く削り、下部をやや細くする。板目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。落ち込み1より出土。



第101図 木製品実測図



第102図 木製品実測図



第103図 骨角製品・金属製品実測図

1119は抉り入り板である。側辺の一端にL字形の抉りを削り出す。柵目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。出土地不明。

1200は棒である。横断面が梢円形を呈する。板目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。7工区第10層より出土。

5. 骨角製品（第103図1201～1205）

弥生時代の遺構と遺物包含層より出土した。

1201はイノシシの牙製で作った腕輪である。先端部を欠損するが半円形を呈する。小円孔を基部に1ヶ所、中央部に2ヶ所穿つ。先端部にも1ヶ所穿っていたと考えられる。遺物包含層より出土。

1202は鹿の角製品である。製作段階の未成品と考えられる。角の両端を削り落す。上端部よりやや下の円周部に溝を入れる。有頭棒状を呈する。また、長辺の相対する部分に溝を入れる。削り痕が明瞭に残る。土坑19より出土。

1203は鹿の角製品である。角を半裁したものである。上端部は使用による磨り減りがあり、丸くなる。下端部は直線的に終わる。側縁に明瞭な削り痕が残る。土坑82より出土。

1204は骨製の刺突具基部である。細長く削り、横断面が円形を呈する。遺物包含層より出土。

1205骨製の刺突具である。形態は1204と同様である。遺物包含層より出土。

6. 金属製品（第103図1206）

大形の鉄釘がある。先端部は腐食する。頭部ややL字形を呈する。横断面が長方形である。時期は中世である。7工区の第7層より出土。

IV. 自然科学

1. 出土人骨の鑑定

53次調査で出土した人骨

大阪府東大阪市に位置する鬼虎川遺跡から弥生時代前期後半～中期後半の人骨が8体出土し、このうち上坑墓から4体・土坑内から2体の成人、土器棺からは乳幼児と胎児と思われる人骨が出土している。

I号人骨(土坑墓I)

I号人骨の頭位は南、顔面は右を向き、体幹は仰臥位である。上肢は左右とも体幹に添わせ伸展し、左の前腕は回内している。下肢は両膝をそろえ右方向に屈曲しているが、足の骨格は左側が右側の下から出上しているため、埋葬時の姿勢は両膝を立て、足を組みあわせていたと思われる。

出土時にコンベックスを用い体格の計測を行った結果、肩幅に相当すると思われる左右上腕骨の外側縁間の幅は約40cm、右上腕骨近位端から尺骨遠位端までが約54cm、左大腿骨長が約45cmであった。

骨の保存状態は非常に悪かったためクリーニング後に骨計測と観察ができた部位は歯のみであった(表2)。

年齢と性：年齢は右下顎第3大臼歯が崩出し咬頭に磨耗が見られること、第1大臼歯の咬頭面の磨耗が大きいことより20才台後半と推定される。性は、出土時に観察した寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と推定される。

病変：齶歯は右上顎第1大臼歯と第2大臼歯で、第1大臼歯は遠位の側面に見られその程度はC3である。第2大臼歯は第1大臼歯の齶歯に向き合って近位側面にあり、その程度はC2である。

II号人骨(土坑墓II)

II号人骨の頭位は南で顔面は右を向き、体幹は仰臥位である。上肢は左側が前腕を回内させた状態で手を骨盤の上に置き、右側は肘関節を強屈させたうえで手を胸骨上に置いている。下肢は膝を揃えた状態で右に屈曲しているため、埋葬時の姿勢は両膝をゆるく立てていたと思われる。左大腿骨が遺失しており、骨盤上に乗せられていた手の骨が散乱していることより、埋葬後、土坑の上層のみ搅乱された可能性がある。

出土時に計測の結果、頭頂から坐骨結節までが約80cm、左右上腕骨の外側縁間の幅は約37cm、左上腕骨最大長が約31cmで右が33cm、左右とも橈骨最大長約25cm、右大腿骨最大長が約43cm、右脛骨最大長が約35cmであった。

骨の保存状態は非常に悪かったため、土とともにブロック状に切り出しバラロイドで固定された頭骨の顔面部のみが観察ができた。歯は頸骨に釘植した状態で出土し、計測が出来た。(表2)

年齢と性：年齢は第3大臼歯がすべて崩出していること、第1大臼歯の磨耗が咬頭全体に見られ象牙質もわずかに露出していること、第3大臼歯の咬頭にもわずかに磨耗が見られることなどから、25才前後と推測される。性は、出土時に観察した寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と推定される。

病変：齶歯は右下顎第2大臼歯の上面にみられ、その程度はC2である。

III号人骨(土坑墓III)

出土状況：III号人骨は頭位が北西で体幹は仰臥位、四肢骨は伸展している。頭骨は平坦な場所に埋

葬された場合の位置より下方にずれ、さらに胸骨も本来の位置より下方にあることにより、埋葬時に上半身はやや傾斜のある所に埋葬されたと推測される。

生前に受けたと思われる石鎚が腰部から出土している。また、頸部には材質は不明であるが細い棒状のものが後方から差し込まれたと思われる状態で遺存している。この加工品は鎌などを伴わず、人為的に折られた痕跡があった。

出土部位

頭骨：脳頭蓋は破損され出土していないが、顔面頭蓋は右頬骨と左右上頸骨の一部、下頸骨が遺存している。上頸の歯はほとんど遺存していないが、左第1大臼歯と第2大臼歯の歯根と左右第3大臼歯が釘植している。下頸骨はほぼ完全に出土しているが右第1大臼歯と第2大臼歯は歯槽が閉鎖し、これらの歯が脱落してからの時間経過が長いと考えられる。

椎骨：環椎は左外側塊が遺存し、軸椎は椎体と歯突起のみが出土している。第5、第6頸椎はほぼ完全な形で遺存している。その他の椎骨の椎体はすべて遺存しているが、椎弓は破損しているものが多い。仙椎は椎体の癒合がみられず、第1仙椎は腰椎化している。

肋骨：出土時にはほぼ完全に出土していたが、復元は出来なかった。

上肢：左鎖骨、左右の上腕骨がほぼ完全な形で出土し、桡骨は左の遠位端と右の近位端が、尺骨は左の両骨端と右の遠位端が破損している。手根骨は左右大菱形骨、左小菱形骨が消失し、中手骨は左第1中手骨のみが出土していない。指の骨格は左右の第1、第3基節骨と左右不明の第2、第4、第5基節骨がそれぞれ1点出土している。中節骨と末節骨は左右不明であり、3点と1点遺存している。

下肢：寛骨は左右とも腸骨と坐骨が遺存し、右恥骨枝の恥骨結合面も出土している。左右の大腿骨と膝蓋骨、右脛骨はほぼ完全な形であり、遠位端には蹠蹠面が見られる。左脛骨の遠位端と左右腓骨の両骨端は破損している。足根骨は右距骨、右内側楔状骨、左右中間、外側楔状骨が遺存し、中足骨は右側全ての中足骨底が遺存している。距骨は破損が大きいため蹠蹠面の観察は出来なかった。指骨は左右不明の基節骨が2点出土している。

骨計測の結果と身長の推定：上腕骨の長厚示数は左右ともに23.04ある。大腿骨の長厚示数は左20.18、右20.04で、頑丈示数は左12.7である。扁平示数は左右ともに扁平であることを示した。脛骨の扁平示数は左が中脛に近い扁平脛骨であるが、右は中脛である（表1）。

身長の推定には左右上腕骨と大腿骨、右脛骨の最大長をもちい、ピアソンの身長推定式で推定身長を算出した。その結果、最も大きい値は右大腿骨の166.5で、最も小さい値は左上腕骨の162.4cmである。身長を最もよく繁荣していると思われる大腿骨と脛骨に関する算定値は、166cmでこれを推定値とした。

四肢骨の計測値を土井ヶ浜と北九州の弥生人と比較すると、Ⅲ号人骨は弥生の中でも高身長である。上腕骨は土井ヶ浜や三津より頑丈で、西北九州人と同程度の頑丈さである。しかし、大腿骨と脛骨は三津や西北九州人より著しく大きい。

年齢と性：年齢は歯の磨耗状態と全身骨格の状態から推定した。歯の磨耗は第3大臼歯で大きく高年齢に思えるが、腸骨稜にわずかに骨端線が見られ、恥骨結合面の状態は20歳代を示している。また、仙骨が未癒合であり、椎骨の椎体の骨端板も若い。これらの観察結果から、歯の磨耗の状態は何らかの目的で大臼歯を使用したか重労働などの環境による変化と思われ、年齢の推定には適さない。したがって、全身骨格の状況による判断より20才台前半と推定される。

性は、寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性と判定する。

病変：左上頸第3大臼歯にはC2程度の龋齒がみられ、左下頸第2大臼歯の歯根周辺に程度は軽いが

歯周病と思われる病変が見られる。

第4、第5胸椎の椎体の前方がわずかに低くなっている。その程度は第5胸椎のほうが第4腰椎よりも大きい。この2つの椎体は圧迫による骨折と思われる。

IV号人骨(土坑105)

出土部位は左頭頂骨の冠状縫合の外側に近い部位とそれと縫合する前頭骨の一部、下頸骨の左下頸孔周辺のみが出土している。出土した頸骨片の縫合の状態と骨片の断面の厚みからも成人であることが推定される。

V号人骨(土坑104)

出土部位は右脛骨のみで、栄養孔より近位は破損している。出土骨は成人のものであり、遠位の下関節面前縫には蹲踞面が見られた。遠位端の計測値は矢状径が36.98mm、横径が44.89mmであった。

VI号人骨(土坑95・土器棺I)

土器棺から出土した人骨は細片で、緻密質の状態は胎児もしくは乳幼児の可能性を示唆している。

VII号人骨(土坑128・土器棺II)

土器棺から出土した人骨はほぼ全身の骨格が遺存していると思われる。頭骨は側頭骨がほぼ完全に形成されている。四肢骨は骨幹の骨化が見られるのみであり、大腿骨の骨幹長は約7cmである。骨格の大きさや骨質の状態から胎児の可能性が高いと推測される。

VIII号人骨(土坑墓IV)

VIII号人骨は出土時の保存が良く、ほぼ全身の骨格が遺存している。頭位は北で顔面は正面を向き、体幹は仰臥位である。しかし、脊柱は腰部で大きく左に曲げられている。上肢は左側が前腕を回内させた状態で体幹に添わせ、右側が肘関節を屈曲させ、手を胸骨下部に置いている。下肢は左右とも膝を揃えた状態で右側に屈曲しているため、埋葬時の姿勢は両膝を立てていたと思われる。

出上部位：

頭骨は前頭骨から顎面頭蓋にかけての破損が大きかったが、額頭蓋は、比較的保存が良かった。下頸骨保存は良かったが左右の犬歯歯槽から切歯部にかけての破損が大きかった。

椎骨は頸椎、軸椎とともに出土しているが、保存状態はあまり良くない。その他の椎骨は椎体3点クリーニングができた。

上肢は左右の肩甲骨が関節窓周辺が、鎖骨は両骨端が破損した状態で左側のみが出土している。右上肢は右側の方が左側より保存状態がよく、右上腕骨と桡骨はほぼ完全な形で出土している。左上腕骨は骨幹1/2から遠位が遺存し、左橈骨は骨幹の一部が破損し、左右尺骨は尺骨頭が破損している。手根骨は左が有頭骨の一部と豆状骨が、右は小菱形骨と有鈎骨を除くすべての骨が出土している。中手骨は右第4中手骨を除くすべての骨が出土しているが、左第2、第4、第5中手骨と右第3、第5中手骨の骨頭が破損している。

下肢は左右寛骨の腸骨から坐骨にかけて遺存し、右側は恥骨枝の一部も遺存している。左大腿骨の骨幹の一部と遠位部は破損していたが右の大腿骨と左右の膝蓋骨は完全な形で出土している。左右の脛骨と右腓骨は近位端が破損し左腓骨は骨幹の約1/2が遺存している。足根骨は左が距骨、踵骨、中

第1表 四肢骨の計測値

部位	計測項目	III号人骨		IV号人骨	
		L		R	
		L	R	L	R
鎖骨	鎖骨長	154.17	—	—	—
上腕骨	1 最大長	316.89	317.70	—	279.50
	3 上端幅	—	48.59	—	49.93
	4 下端幅	—	—	60.27	60.16
	5 骨体中央最大径	24.39	23.54	—	22.87
	6 骨体中央最小径	16.53	17.95	—	18.06
	7 骨体中央周	73.00	73.00	—	70.00
	7 a 骨体最小径	65.00	62.00	66.00	64.00
	長厚指数 7/1	23.04	22.98	—	25.04
	骨体横断示数 6/5	67.77	76.25	—	78.97
橈骨	3 骨体最小周	45.00	43.00	—	—
	4 骨体横径	14.90	14.13	16.44	—
	4 a 骨体中央横径	12.20	12.22	11.38	—
	4(1) 骨頭横径	22.87	—	21.13	20.93
	5(6) 下端幅	—	33.65	—	—
尺骨	2 a 生理学長	—	229.46	—	—
	2(1) 肘頭骨頭長	—	247.28	—	—
	3 骨体最小周	—	39.50	—	43.00
	5(1) 近位関節面高	39.54	39.21	—	36.13
	5(2) 滑車関節面高	26.58	25.43	—	27.82
	6 肘頭幅	26.77	23.03	—	25.55
	7 肘頭深	22.60	—	—	24.97
	11 骨体矢状径	—	13.78	14.77	14.86
	12 骨体横径	—	16.50	14.85	14.53
	長厚指数 3/(2)	—	15.97	—	—
	長厚指数 6/2(1)	—	9.31	—	—
	長厚指数 5(1)/2(1)	—	15.86	—	—
大腿骨	1 最大長	448.15	453.30	—	410.55
	2 自然長	443.60	446.66	—	404.90
	6 中央矢状径	29.41	29.00	27.71	28.03
	7 中央横径	27.14	27.51	28.31	25.56
	8 中尖周	89.50	89.50	90.50	86.50
	21 上頸幅	84.84	86.74	—	—
	9 上部横径	32.87	32.16	—	29.66
	10 上部矢状径	25.23	25.68	—	23.05
	長厚指数 8/2	20.18	20.04	—	21.36
	両丈示数 (6+7)/2	12.75	12.65	—	13.24
	骨体中央断面示数(柱状示数) 6/7	108.36	105.42	97.88	109.66
	骨体1/2断面示数(扁平示数) 10/9	76.76	79.85	—	77.71
脛骨	1 全長	—	353.60	—	—
	1 a 最大長	—	363.55	—	—
	3 上端幅	79.52	78.60	—	—
	6 下端幅	—	56.07	—	—
	8 中央最大径	27.40	—	31.88	31.22
	9 中央横径	20.59	—	18.57	19.81
	10 中央周	79.00	—	81.00	82.50
	8 a 宗義孔位最大幅	34.54	36.70	34.76	34.34
	9 a 宗義孔位横径	22.24	25.34	20.90	21.87
	10 a 宗義孔位周	—	95.00	91.50	91.50
	10 b 最小周	76.00	75.50	81.00	78.50
	長厚指数 10b/1	—	21.35	—	—
	中尖断面示数(柱状示数) 9/8	75.15	—	58.25	63.45
	胫(扁平)示数 9a/8a	64.39	69.05	60.13	63.69
腓骨	1 最大長	—	—	—	—
	2 中央最大径	—	—	—	17.45
	3 中央最小径	—	—	—	11.56
	4 中央周	—	—	—	54.00
	4 a 最小周	—	—	—	40.00

単位はmm

第2表 齒の計測値

人骨番号	I号人骨		II号人骨		III号人骨		IV号人骨	
	左	右	左	右	左	右	左	右
上顎	頬舌径	6.68	6.77	—	—	6.35	—	—
	近遠心徑	8.50	8.51	—	—	6.43	—	—
I2	頬舌径	6.41	6.51	—	—	—	6.20	—
	近遠心徑	6.20	7.21	—	—	—	4.67	—
C	頬舌径	8.89	8.45	—	—	—	—	—
	近遠心徑	8.37	8.32	—	—	—	—	—
P1	頬舌径	9.22	9.19	9.88	9.48	—	9.44	—
	近遠心徑	7.00	7.31	6.82	7.41	—	7.86	—
P2	頬舌径	9.00	—	8.91	9.56	—	9.39	—
	近遠心徑	6.15	—	7.63	7.43	—	7.19	—
M1	頬舌径	—	11.07	10.87	11.05	—	11.64	10.78
	近遠心徑	—	9.78	11.84	10.71	—	10.15	10.69
M2	頬舌径	—	10.77	10.34	10.80	—	11.26	11.19
	近遠心徑	—	9.55	9.92	9.34	—	10.24	9.25
M3	頬舌径	—	—	10.37	10.06	—	11.38	8.58
	近遠心徑	—	—	9.57	9.33	12.69	8.74	7.35
下顎								
II	頬舌径	5.23	—	—	—	—	—	—
	近遠心徑	5.15	—	—	—	—	—	—
I2	頬舌径	5.97	—	6.10	—	—	—	—
	近遠心徑	5.66	—	5.88	—	—	—	—
C	頬舌径	6.76	8.17	7.14	7.11	—	—	—
	近遠心徑	7.12	7.00	7.86	7.74	—	—	—
P1	頬舌径	7.47	7.47	7.69	7.81	8.30	—	—
	近遠心徑	7.42	6.84	6.98	6.85	6.60	—	—
P2	頬舌径	8.17	7.86	8.31	8.50	7.92	—	—
	近遠心徑	7.44	7.92	7.89	7.23	7.42	—	—
M1	頬舌径	—	11.33	10.29	10.44	—	—	11.54
	近遠心徑	—	11.74	11.28	11.20	10.65	—	10.76
M2	頬舌径	—	10.10	10.09	10.10	9.09	—	10.40
	近遠心徑	—	9.54	9.79	—	11.06	—	10.37
M3	頬舌径	—	10.27	9.71	10.04	9.86	9.19	10.06
	近遠心徑	—	9.57	10.13	11.47	10.77	12.15	10.42

単位はmm

第3表 箔の出土表

*: 遊離歯、-: 不明、☆: 畸歯、●: 脱落後の歯槽または閉鎖した歯槽

—：不明、☆：齶齒、●：脱落後の歯槽または閉鎖した歯槽

第4表 身長の推定値

	III号人骨		VII号人骨
	左	右	右
上腕骨	162.35	162.58	151.53
大腿骨	165.56	166.53	158.49
脛骨	—	165.04	—
大腿骨+脛骨1	—	165.94	—
大腿骨+上腕骨	163.90	164.55	154.20
上腕骨と大腿骨の平均値	163.95	163.95	156.35
大腿骨と脛骨の平均値	—	165.84	—

第5表 北部九州・山口地方の弥生人の計測値

推定身長	長厚示数		
	上腕骨	大腿骨	脛骨
土井ヶ浜	21.20	20.10	21.40
二津	22.00	22.45	25.45
西北九州	23.24	21.33	22.31

問楔状骨が、右は全ての骨が出上しているが、部分的に破損しているものが多い。中足骨は左が第1.2中足骨、右第3.5中足骨が骨幹中央から遠位端まで遺存している。

蹲踞面は左右の脛骨の前面と距骨の滑車前縁の内側前方に見られた。

骨計測の結果と身長の推定：上腕骨の長厚示数は25.04である。右大腿骨は長厚示数が21.36、柱状示数が109.66であった。また扁平示数は77.71で扁平に分類される。脛骨の扁平示数は左が60.13で扁平脛骨に分類されるが、右は63.69で、扁平脛骨ではあるが中脛に近い。

身長の推定には右上腕骨と右大腿骨の最大長を用い算出した結果、最も大きい値は右大腿骨の158.5cm、最も小さな値は右上腕骨の151.5cmで、この両者の平均値は156.35cmであるが、身長をより繁栄していると思われる大腿骨の推定値を本人骨の身長とする。

四肢骨の計測値を土井ヶ浜と北九州の弥生人と比較すると、VII号人骨はやや低身長であるが、上腕骨は他の弥生人より頑丈で、大腿骨は三津より華奢ではあるが西北九州とほぼ同程度の頑丈度である。

年齢と性：年齢は、第3大臼歯がすべて崩出し咬頭の磨耗も大きいことよ30才前後と思われる。

性は寛骨の大坐骨切痕の角度が狭いことより、男性の確立が高いと推定される。

病変：左上頸第1大臼歯は釘植しているが歯槽は骨の吸収が始まり中等度または重度の歯肉炎を起こしていたと思われる。右下頸第3大臼歯は咬合面にC1程度の齲歯が見られる。

この人骨の土坑からシカの右下頸骨の切歯部が出土している。

まとめ

- 性の判定が出来た人骨はすべて男性で、年令は壯年である。
- 歯の観察できたすべての人骨からは、1から数本の齲歯が見られた。
- 脛骨と距骨が観察できたIII,V, VII号人骨には蹲踞面が見られた。
- 四肢骨の計測できたIII号とVII号人骨を土井ヶ浜や北九州の弥生人と比較すると、III号人骨は高身長でありVII号人骨はやや低身長であるが、ともに上腕骨は頑丈である。一方、下肢は大腿骨、脛骨とともにやや華奢である。

2 動物遺体の同定

鬼虎川遺跡の弥生時代中期から出土した動物遺体はイノシシ、シカ、ウサギ、イヌの哺乳類のほかに、わずかではあるがスッポンやタイなどの爬虫類と魚類が遺存している。奈良時代から平安時代にかけての自然流路と8層からはウマが、近世の溝からはウシとカメが出土している。

弥生時代中期

この時期に最も多く出土した種は66点のイノシシで、次いで42点のシカである。最も多く出土した部位はイノシシの下頸骨とシカの距骨、踵骨で、最小個体数はイノシシ、シカともに4である。その他にウサギとイヌが各1点、スッポンやタイなどの魚類が少数ではあるが出土している。この時期の遺構ごとに出現頻度を示した(第9表)。

なお、出現頻度表の中に掲載している人骨は土坑墓の人骨の可能性が高い。

11層からはカモの仲間と思われる左手根中手骨の手根部のみが出土している。

13層はイノシシ、シカとともに最も多く骨片が出土し、出土比はイノシシがシカのほぼ2倍である。イノシシの出土部位は全身におよぶがシカは四肢骨が多い。ほかに、サカナの頭骨と思われるものとスッポンの腹甲板と肋骨板の破片が数点出土している。

15層イノシシとシカのみが数点出土している。

土坑から出土したイノシシとシカの総数の比は5：4でイノシシのほうが多い。出土部位は、イノシシが頭骨や椎骨の遺存率が高いのにに対しシカは四肢骨のほうが多い。各土坑から出土する種数はほとんどのものが1種類であるがシカまたはイノシシが供出するものもある。また、土坑63からイヌの軸椎とスッポンの腹甲板の破片が、土坑502からはスッポンの肋骨板が出土している。

ピットからはイノシシとシカのみ出土しているが、その数量は少ない。

包含層からはトリと思われる骨片とイノシシとシカが出土し、シカとイノシシの出土比は1：2である。この層でもイノシシの骨格の出土部位は全身におよんでいる。

溝から出土したイノシシの出土数は13層に次いで多いがシカは非常に少ない。各溝から出土する種はシカかイノシシのうちのいずれか1種である。しかし、溝126はイノシシ以外にトリと思われる焼骨片が出土し、溝135はイノシシ以外にウサギの下頸骨の一部とタイの第1背鱗軸が出土している。

古墳から奈良

10層からヒトの右上腕骨の骨幹中央約5cmが出土している。

奈良から平安

自然流路からはウマの右上顎第3大臼歯片が、8層からはウマの後肢の左基節骨が1点出土している。

中世から近世

溝7から大型哺乳類の左脛骨が出土しているが、種の特徴を表す部位が遺存していないため、同定できない。

近世

近世の溝からはウシの右上腕骨が出土し、近位端は破損しているが遠位端は未癒合で、若い個体である。爬虫類では、イシガク科の腹側板が1点出土している。

第6表 動物遺体同定表

資料 名	地区	層位・洗浄	時期	種名	出土部位		詳細	工数等	割合
					番号	部位名			
128 6-29	13層	鶴生・中期	L?						
103 6-8	11層	鶴生・中期	カモの仲間	左	手和中手骨	半根遺存、カルガモ種の大きさ			
166 7-38	12層	鶴生・中期	カモの仲間	右	頭骨の骨の うちの一つ				
189 7-43	13層	鶴生・中期	スズボン	頭片	2				
214 7-43	13層	鶴生・中期	スズボン	胸甲板の破片	1				
112 6-28	13層	鶴生・中期	スズボン	肋骨板の破片	1	残っている			
118 6-29	13層	鶴生・中期	トリ(中型)	不明	脛骨	骨質遅存、キジ羽根の太さ			
192 7-43	13層	鶴生・中期	ヒコ	不明	大足				
216 7-42	13層	鶴生・中期	ヒコ	頭片	8				
173 7-41	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	頭骨	頭骨片			
190 7-35-36	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	側歯骨	側歯骨ののみ遺存			
211 7-37	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	上2?				
172 7-41	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	TII	歯片			
166 7-51	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	M1				
213 7-49	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	EII	遊離歯			
166 7-51	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	MEI				
213 7-49	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	ML2	身懸骨			
195 7-43	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	M1				
192 7-43	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	ML1	太脚骨			
172 7-41	13層	鶴生・中期	イノシシ	不明	ML1	破片			
209 7-42	13層	鶴生・中期	イノシシ	不明	第三臼歯	未認出の歯は、歯冠の一部			
134 6-24	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	歯の断片				
217 7-39	23層	鶴生・中期	イノシシ	左	?	P2~M1までの食歯部のみ遺存、残っている			
158 7-40	13層	鶴生・中期	イノシシ	不明	下歯骨	臼歯部の一部の遺存			
128 6-21	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	下歯骨	臼歯部の遺存			
207 7-56	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	下歯骨	側歯骨のみ遺存			
217 7-36	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	下歯骨	K1~M1までの前歯、M3前歯達に、3より後			
153 6-26	13層	鶴生・中期	イノシシ	-	下歯骨	下歯骨弁部の下部遺存、下歯結合部見られる、古い、残っている			
122 6-26	13層	鶴生・中期	イノシシ	頭骨		左外脚腕骨			
159 7-36	13層	鶴生・中期	イノシシ	頭骨		後ろののみ遺存			
219 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	脚骨				
104 6-13	12層	鶴生・中期	イノシシ	左	第11胸椎	歯突起部切削	歯突起部のみ切削		
218 7-37	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	尾甲骨	歯突起部切削			
197 6-26	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	上納骨	上尾骨			
191 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	上納骨	遠位尾節部遺存			
219 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	月状骨	遠位端遺存			
199 7-35~36	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	二角骨				
165 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	三角骨	一部破損			
114 6-26	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	肩骨	肩骨の全骨体遺存			
198 7-33	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	大結節骨	後位部ののみ残存、施している			
189 7-47	13層	鶴生・中期	イノシシ	左	腕骨	遠位部ののみ遺存、内側部に骨質が残存			
202 7-41~42	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	蝶骨				
199 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	蝶骨	蝶骨の全骨体遺存			
120 6-16	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	翼骨	翼骨の全骨体遺存			
219 7-39	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	翼骨	遠位端細胞の一部遺存			
127 6-20	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	中節骨	近位端細胞C、基節骨と同一回転			
203 7-35	13層	鶴生・中期	イノシシ	右	下肱骨	1			
140 6-29	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨				
208 7-46	13層	鶴生・中期	シカ	左	角骨	体中央より遠位端遺存			
120 6-16	13層	鶴生・中期	シカ	右	角骨	距骨底の骨茎			
207 7-56	13層	鶴生・中期	シカ	右	角骨	1			
202 7-41~42	13層	鶴生・中期	シカ	右	中節骨	遠位端細胞			
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	右	中節骨	遠位端細胞A、中節骨と同一回転			
120 6-16	13層	鶴生・中期	シカ	右	中節骨	遠位端細胞B、中節骨と同一回転			
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	右	中節骨	近位端細胞C、基節骨と同一回転			
127 6-20	13層	鶴生・中期	シカ	右	中節骨	1			
203 7-35	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨				
193 7-33	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨				
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	角骨				
136 6-30	13層	鶴生・中期	シカ	左	角骨				
207 7-56	13層	鶴生・中期	シカ	左	中節骨	中・後位部切削			
202 7-41~42	13層	鶴生・中期	シカ	左	中節骨	遠位端細胞			
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	中節骨	遠位端細胞A、中節骨と同一回転			
120 6-16	13層	鶴生・中期	シカ	左	中節骨	遠位端細胞B、中節骨と同一回転			
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	中節骨	遠位端細胞C、基節骨と同一回転			
109 6-25	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	1			
196 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨			
212 7-40	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨の骨茎			
172 7-41	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨の骨茎			
219 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨の骨茎			
109 6-25	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨			
119 6-30	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
133 6-19	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
157 7-38	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
197 7-41	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
113 6-30	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
202 7-41~42	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
182 7-41	13層	鶴生・中期	シカ	右	蝶骨	蝶骨底の骨茎			
183 7-39	13層	鶴生・中期	シカ	左	蝶骨	蝶骨底の骨茎			

資料番号	地区	編集・選唱	時期	種名	出土品目		説明	加: 標号	新規性
					左方	右方			
169 6-25	13層	佐幸・中間	シカ	右	頭骨	一頭頭骨			
192 4-13	13層	佐幸・中間	シカ	左	前伏位右方骨	立正位のみ遺存			
219 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	前伏位右方骨	立正位のみ遺存			
219 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	右	前伏位右方骨	立正位のみ遺存			
177 7-15	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭状骨	1 抽出している			
116 6-19	13層	佐幸・中間	シカ	不明	半下顎+左下顎骨	運び回遊の片側のみ遺存	切断面あり		
131 6-29	13層	佐幸・中間	シカ	不明	半下顎+左下顎骨	運び回遊の片側のみ遺存			
209 7-37	13層	佐幸・中間	シカ	不明	半下顎+左下顎骨	運び回遊の片側のみ遺存			
159 6-17	13層	佐幸・中間	シカ	不明	半下顎+左下顎骨	運び回遊の片側のみ遺存			
138 6-16	13層	佐幸・中間	シカ	不明	頭骨	近似頭顱骨のみ遺存			
138 7-69	13層	佐幸・中間	シカ	不明	頭骨	近似頭顱骨のみ遺存			
122 6-30	13層	佐幸・中間	シカ	不明	頭骨	近似頭顱骨			
187 7-13	13層	佐幸・中間	シカ	不明	頭骨	近似頭顱骨			
111 6-27	13層	佐幸・中間	シカ	右	頭骨	上顎骨			
174 7-42 + 43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
162 7-44	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
185 7-40	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
135 6-2	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
197 7-41	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
178 7-33	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
129 6-7	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
129 6-25	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
117 6-25	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
120 6-16	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
167 7-38	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
139 6-22	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
170 7-40	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
175 7-31	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
170 7-49	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
131 6-29	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
176 7-27	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
133 6-22	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
166 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
173 7-41	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
144 6-42 + 43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
216 7-42	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
157 7-38	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
171 7-42	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
106 6-26	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
214 7-43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
187 6-24	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
198 7-33	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
114 6-56	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
122 6-20	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
161 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
178 7-30	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
184 7-43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
216 7-43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
105 6-24	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
108 6-22	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
109 6-25	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
112 6-29	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
114 6-26	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
115 6-30	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
111 6-25	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
119 6-30	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
128 6-16	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
124 6-3	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
126 6-24	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
127 6-20	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
133 6-29	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
132 6-14	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
136 6-38	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
144 6-29	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
156 7-63	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
158 7-63	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
169 7-36	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
160 7-51	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
164 7-38	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
165 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
107 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
177 7-14	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
179 7-44	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
182 7-41	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
185 7-40	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
186 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
188 7-44	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
191 7-28	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
192 7-43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
197 7-41	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
206 6-42	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
201 7-33	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
203 7-41 + 42	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
204 7-43	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
206 7-37	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
206 7-40	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			
210 7-39	13層	佐幸・中間	シカ	左	頭骨	上顎骨			

資料 番号	地区	年月/遭難	時相	種名	出土箇所		説明	加工前等	計測値
					発見 部位名	発見 箇所名			
190 7-35・36	13層	出生・中頸	不明		?	接着している			
195 7-39	13層	出生・中頸	不明		?				
215 7-40	13層	出生・中頸	不明		1				
219 7-39	13層	出生・中頸	不明		2	うち1点は接着している			
159 6-27	13層	出生・中頸	骨?						
223 7-48	14層	出生・中頸	ヒト?	不明	脛骨	薄竹板の延長部			
145 6-24	14層	男児・中頸	イノシシ	一	第三腰椎	骨付車両骨と木板合			
145 6-24	14層	男児・中頸	イノシシ	右	下脚骨	右側部と骨付車両骨、若い			
141 6-24	14層	男児・中頸	イノシシ	左	踵骨	近位部に破損			
144 6-10	14層	男児・中頸	イノシシ	左	距骨	開拓面の1部破損			
220 7-03	14層	出生・中頸	イノシシ	不明	髄頭骨	付け込み遺存			
146 6-27	14層	男児・中頸	シカ	右	前脚骨	角突	切削痕あり		
142 6-27	14層	男児・中頸	シカ	左	下脚骨	M3～M4で軽打、切削痕複数			
143 6-25	14層	男児・中頸	シカ	右	下脚骨	M3～M4で軽打、M3の前部のみみが、未完成			
220 7-03	14層	出生・中頸	シカ?ホコノシシ	不明	肩甲骨	開拓面周辺遺存			
231 7-33	14層	出生・中頸	シカ	左	距骨	戴防盾部・後脚部存			
220 7-33	14層	出生・中頸	シカ	左	中脚骨	戴防盾部・後脚部存			
222 7-46	14層	誕生・中頚	不明		脛骨	1. 一部接着している			
232 7-51	15層	死生・中頸	ヒト		趾骨	付け込み遺存			
227 7-67・58	15層	死生・中頸	ヒト		距骨	左の足底の跡のみ遺存			
232 7-63	15層	死生・中頸	ヒト	小羽	腓骨	骨部のみ遺存			
230 7-53	15層	死生・中頸	イノシシ	左	脛骨	後遺物周辺破損			
231 7-56	15層	死生・中頸	シカ	左	脛骨	後遺物周辺破損			
229 7-51	15層	誕生・中頚	シカ	左	距骨	後遺物周辺破損			
228 7-46	15層	誕生・中頚	大袋哺乳類	不明		1			
223 7-48	15層	死生・中頚	不明		脚骨	?			
225 7-66	15層	死生・中頚	不明		脛骨	?			
228 7-64・65	15層	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	?			
100 6-5	自然遺跡	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	?			
7-28	上坑100	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	?			
37 7-48・49	七郎103	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	?			
96 7-31	土坑136	死生・中頚	イノシシ	左	腰椎骨	夏豆頭～内側約5cm遡り			
3 6-14	土坑20	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	遠位脚部遺存			
2 6-21	土坑20	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	遠位脚部遺存			
4 7-39	土坑26	死生・中頚	イノシシ	一	腰椎骨	肋骨突出部と脚起破損、椎体根部未発達			
4 7-39	土坑26	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	付近骨部のみ遺存			
6 7-35	土坑27	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	付近骨部のみ遺存			
7 6-51・22	土坑39	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	付近骨部のみ遺存			
8 6-19	土坑41	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	付近骨部のみ遺存			
9 7-31・32	土坑47	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	付近骨部のみ遺存			
10 7-31・32	土坑47	死生・中頚	不明		腰椎骨	3			
11 7-08	土坑48	死生・中頚	シカ	一	腰椎骨	後脚部・右脚脚部は接着している			
16 6-26	土坑49	死生・中頚	イノシシ	左	中脚骨	後脚部・右脚脚部は接着している			
12 6-26	土坑50	死生・中頚	イノシシ	左	大腿骨	右脚脚部のみ遺存			
13 6-27	土坑50	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	右脚脚部のみ遺存			
14 6-26	土坑50	死生・中頚	シカ	左	中脚骨	右脚脚部のみ遺存			
16 7-98	土坑52	死生・中頚	スッパン	?	腰椎骨	?			
16 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
16 7-98	土坑53	死生・中頚	イノシシ	左	腰椎骨	M3			
16 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	腰椎骨の一部のみ遺存			
17 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	腰椎骨の一部のみ遺存			
17 7-98	土坑53	死生・中頚	大型哺乳類	?	腰椎骨	?			
17 7-98	土坑53	死生・中頚	人型乳頭類	?	腰椎骨	?			
15 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
17 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
18 7-98	土坑53	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
20 7-35・36	土坑70	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
29 7-35・36	土坑70	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
29 6-14	土坑77	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	?			
3 6-14	土坑82	死生・中頚	イノシシ	右	下脚骨	C後～M3腰骨1/3まで遺存 オス			
3 6-14	土坑82	死生・中頚	イノシシ	左	腰椎骨	腰椎骨～腰椎1/3まで遺存、後脚根部未発達			
24 6-23・3	土坑82	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	近位部に破損			
7 7-31	土坑82	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	遠位部の外側部のみ遺存			
27 7-45・46	土坑87	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	歩行骨			
27 7-48	土坑89	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	下脚部のみ遺存			
28 6-19	土坑93	死生・中頚	イノシシ	右	腰椎骨	起屈した腰椎骨段			
29 7-51	土坑95	死生・中頚	シカ	左	P4				
31 6-26	土坑96	死生・中頚	イノシシ	左	下脚骨	C～M3後縦部まで遺存、歯は遺失 メス			
31 6-26	土坑96	死生・中頚	大型哺乳類		長骨骨	1			
31 6-26	土坑96	死生・中頚	大型哺乳類		肱骨骨	1			
30 6-26	土坑96	死生・中頚	大型哺乳類		腓骨骨	1			
32 7-59	土坑99	死生・中頚	大型哺乳類	?	腰椎骨	4. うち3点は接着している			
32 7-63	土坑99	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	?			
1 6-29	土坑14	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	1			
2 6-21	土坑14	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	遠位部のみ遺存、骨質の遺伝部を発見			
80 6-28	ピット24	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	多數、一部接着している			
81 6-13	ピット163	死生・中頚	シカ	右	腰椎骨	水平骨?			
82 7-38	ピット214	死生・中頚	シカ	左	腰椎骨	1			

資料 番号	地区	性別・年齢	時期	種名	出上部位		詳細	加工場等	計測値
					左耳	右耳			
83 7-41	ビート230	雄生・中齢	不明	飛行片	1	飛いている			
84 6-19	ビート488	雄生・中齢	不明	飛行片	1	飛いている			
85 7-37	ビット501	雄生・中齢	イノシシ	左 下襟骨		X2曲根部脛骨	飛んでいる		
86 6-21	ビット516	雄生・小齢	大型哺乳類	左 鼻骨片	1				
87 7-32	ビット569	雄生・中齢	イノシシ	左 上口					
88 7-37	ビット738	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	下顎片		破片 破けている			
89 7-39	ビット756	雄生・中齢	大型哺乳類	左 鼻骨片	1				
90 6-23	ビート807	雄生・中齢	不明	飛行片	1				
91 7-34	ビット87	雄生・中齢	人型哺乳類	右 飛行片	3				
92 6-24	ビット911	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 飛行片	1				
93 6-24	ビット988	雄生・中齢	不明	左 鼻骨片	1				
94 6-22	ビート1001	雄生・中齢	不明	左 鼻骨片	1				
95 6-29	ビット1010	雄生・中齢	シカ	左 遮骨					
96 7-13	ビート1453	雄生・小齢	シカ	右 下顎骨		下顎骨遺存			
96 7-43	ビット1453	雄生・中齢	シカ	右 T3		X4頭の二ナメ耳質遺存			
99 7-43	ビット1453	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		多枚			
239 7-40	六合駒	雄生・中齢	トド	右 飛行片		骨質			
233 7-40	六合駒	雄生・中齢	イノシシ	左 上口		鼻羽の一部遺存			
153 6-13	六合駒	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	左 LM2		扁毛少はない			
241 7-39	六合駒	雄生・中齢	イノシシ	右 胸甲骨		鳥口突起のみ遺存			
235 7-41	六合駒	雄生・中齢	イノシシ	右 上頸骨		X1鼻端部のみ遺存			
246 7-37	六合駒	雄生・中齢	イノシシ	左 頭骨		動物骨盤			
152 6-28	六合駒	雄生・中齢	シカ	左 頭骨		頭骨突起周辺のみ遺存			
146 6-23	六合駒	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	左 臀骨		最終突起部周辺のみ遺存			
941 7-39	六合駒	雄生・中齢	シカ	右 頭骨		前脚半分のみ遺存			
154 6-21	六合駒	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 頭骨					
244 6-26 - 26	六合駒	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 頭骨					
247 7-34	六合駒	雄生・中齢	シカ	右 鼻骨片	1				
236 7-37	六合駒	雄生・中齢	シカ	左 鼻骨片		乗出			
240 7-26	六合駒	雄生・中齢	シカ	左 頭骨					
237 7-35	六合駒	雄生・中齢	シカ	左 頭骨		右の前頭突起部遺存			
148 6-25	六合駒	雄生・中齢	シカ	右 頭骨		舟状立方面			
152 6-28	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 齧突立方面					
940 7-36	名古屋	雄生・中齢	シカ	不明 中頭骨					
243 7-35	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 中足骨		這位部外側のみ遺存			
151 6-14	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨					
236 7-37	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨	1				
211 7-43	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨		約2cm遺存			
248 7-33	名古屋	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	左 頭骨		突起している			
246 7-36	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 大頭骨		骨質の1部			
237 7-35	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 大頭骨		骨質の一端			
238 7-37	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 大頭骨		骨質の一部			
238 7-41 - 42	名古屋	雄生・中齢	シカ	左 大頭骨					
234 7-42	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨	4				
239 7-40	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨		8.うち2角は抜けている			
240 7-26	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨		抜けている			
241 7-39	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨		2			
247 7-34	名古屋	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 角骨	2				
152 6-28	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 角骨					
235 7-41	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 下顎骨		抜けている			
233 7-40	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		面構の一部のみ遺存			
149 6-22	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片					
150 6-29	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		骨質			
154 6-25 - 26	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		骨質			
136 6-9	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		骨質			
235 7-41	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		骨質			
240 7-36	名古屋	雄生・中齢	シカ	右 飛行片		骨質			
39 6-17	酒井	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 下顎骨		下顎骨山沿線			
39 6-17	酒井	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 下顎骨		圓錐部から後端約5cm遺存			
39 6-17	酒井	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 下顎骨					
42 7-16 - 47	酒井	雄生・中齢	シカガゼイノシシ	右 下顎骨					
40 7-11 - 44	酒井	雄生・中齢	シカ	右 下顎骨					
43 7-48	美濃99	男生・中齢	シカ	右 口	1			表面を研磨	
40 7-41 - 42	美濃99	男生・中齢	シカ	右 飛行片	1				
41 6-15	美濃99	男生・中齢	シカ	右 飛行片	1				
44 6-41	瀬戸101	男生・中齢	ウマ	不明 下顎骨		下顎骨下縫のみ遺存			
44 6-41	瀬戸101	男生・中齢	人型哺乳類	右 飛行片	1				
46 7-40	瀬戸103	男生・中齢	シカ	左 飛行片		骨質の斑状端遊存、右両耳は末分化			
45 7-40 - 41	瀬戸103	男生・中齢	シカ	左 角骨	1				
45 7-40 - 41	瀬戸103	男生・中齢	シカ	左 飛行片	1				
46 7-40	瀬戸103	男生・中齢	シカ	左 角骨	1				
47 7-40 - 41	瀬戸103	男生・中齢	シカ	左 角骨	1				
48 7-36 - 37	瀬戸10	男生・中齢	ヒト	不明 飛行片		骨質?			
49 7-34 - 35	瀬戸11	男生・中齢	シカガゼイノシシ	左 飛行片	1	TM2?			
50 7-32 - 33	瀬戸12	男生・中齢	シカ	左 飛行片	1	骨質?			
51 7-31	瀬戸13	男生・中齢	シカ	左 飛行片	1	骨質			
52 7-49	瀬戸120	男生・中齢	イノシシ	右 飛行片		骨質			
53 6-30	瀬戸123	男生・中齢	イノシシ	右 飛行片		骨質と飛翔片			

資料番号	地区	性別	年齢	時期	種名	咀嚼部		詳細	加江南等	計測値
						左右	部位名			
55	6-30	雄	23	幼生・中期	イノシシ	左	上歯骨	過齧過作用大結節と小結節		
54	6-30	雄	23	幼生・中期	大カバ乳歯	右	側片			
51	6-30	雄	23	幼生・中期	シカホイノシシ	下頬骨	垂嚢の一部遺存			
54	6-30	雄	23	幼生・中期	シカホイノシシ	下頬骨	垂嚢起の一部遺存			
57	6-12・2	雄	26	雄牛・中齢	イノシシ	不明	下頬骨	下張角のみ遺存 一部残っている		
58	6-3・4	雄	26	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
59	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
60	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
61	6-11・12	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
60	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
60	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
59	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
62	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	イノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
62	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	シカホイノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
63	6-12	雄	28	雄牛・中齢	シカホイノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
55	6-12・13	雄	28	雄牛・中齢	シカホイノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
63	6-20・21	雄	31	雄牛・中齢	イノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
63	6-20・21	雄	31	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存 強けている		
65	6-23	雄	32	雄牛・中齢	上歯					
64	6-23	雄	32	雄牛・中齢	不規					
69	7-6	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	:		
70	7-6	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
70	7-6	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
69	7-6	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
66	7-6	雄	32	雄牛・中齢	タヌキ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
70	7-6	雄	32	雄牛・中齢	タヌキ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
70	7-6	雄	32	雄牛・中齢	タヌキ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
67	7-53・56	雄	32	雄牛・中齢	タヌキ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
70	6-22	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
72	6-3	雄	32	雄牛・中齢	シカ	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
71	6-30	雄	32	雄牛・中齢	不規	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
73	7-36	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
74	7-46	雄	32	雄牛・中齢	イノシシ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
76	7-52・53	雄	46	雄牛・中齢	シカ	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
75	7-52・53	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
78	7-53	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	左	上歯骨	骨質のみ遺存		
78	7-53	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
77	7-52・33	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
75	7-52・23	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
77	7-52・23	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
79	7-51	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
79	7-51	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
156	7-51	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
93	7-52	自然歯2	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
93	7-52	自然歯2	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
102	6-29	雄	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
99	7-53	自然歯2	46	雄牛・中齢	ヒト	右	上歯骨	骨質のみ遺存		
38	6-24	雄	47	雄牛・中齢	大型鳴乳歯	左	上歯骨	骨質のみ遺存	別表	
101	6	2	47	雄牛・中齢	カバ(イノシシ)	左	上歯骨	骨質のみ遺存	別表	
97	6-16	自然歯1	47	雄牛・中齢	カバ(イノシシ)	左	上歯骨	骨質のみ遺存	別表	
37	6-30	雄	47	雄牛・中齢	ウシ	右	上歯骨	骨質のみ遺存	別表	

第7表 シカの下顎骨の計測値表

資料番号	142
種	シカ
左右	左
下頬枝長 M 後縁より goc	54.10
頬臼齒長 (1) Pm 1 - M 後縁	94.56
小白歯長 (2) Fm 2 - Pm 4	37.56
大臼歯長 M 1 - M 後縁	57.97
下頬体高 (1) M 後縁	35.82

第8表 ウマ基節骨計測値表

資料番号	102
種	ウマ
左右	左
全長	75.54
近位	横径
	47.37
高径	31.22
中央	横径
	31.59
高径	20.67
遠位	横径
	41.37
高径	18.94

第9表 遺構ごとの出現頻度表

部位	脊椎・骨盤								四肢				中～前肢		後肢	
	頭部	13節	14節	15節	十筋膜	ビット	包含膜	薄	自然筋膜	8筋	薄	四肢	腕	手	脚	
件名	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	イヌ	イノシシ	シカ	イノシシ	シカ	ウサギ	タマ	リマ	ウシ	
頭頂骨	左	1														
後頭骨	右										1					
前頭骨	左			1												
前頸骨	右		1			1										
側頸骨	左												1			
側頸骨	右	1											2			
上顎骨	左										1					
上II	左	1							1		1					
EII	左	1														
HPI4	左				1											
J.M1	左	2	1													
上M2	左	2							1							
上M3	左										1					
上M3	右												1			
下顎骨	左	1		1		1	1	1								
下顎骨	右	2		1		1		1					1		1	
下M1	右	2														
下M2	左												1			
下M3	右															
頸椎	一	2					1									
頸椎	一	1	1				1	1								
第11肋骨	-	1														
第1腰椎													1			
第3腰椎	一		1													
第4～腰椎	一															
肩甲骨	左	1				2										
肩甲骨	右		2													
上腕骨	左		2													
上腕骨	右		1	1												
尺骨	左												2			
桡骨	左	1														
月状骨	左	1														
三角骨	左	1														
翼骨	左												2			
翼骨	右	1											1			
大趾骨	左												1			
大趾骨	右	1	1													
腿骨	左	1											1			
腿骨	右															
距骨	左	2	1	1		1	1	1								
距骨	右	1	1										1			
蹠骨	左	1	1	1		1							2			
蹠骨	右	1	1													
蹠骨	右	1	1													
舟狀立方骨	左		2										1			
舟狀立方骨	右		1										1		1	
立方骨	左												1			
根狀骨	左		1													
根狀骨	右															
第3～足骨	右												1			
第2・3中足骨	左												1			
基節骨	左														1	
跖骨	29	15	4	5	1	2	10	8	1	2	3	10	5	18	4	
													1	1	1	

第10表 時期ごとの出現頻度表

	イノシシ	弥生・中期		奈良～平安		近世 ウシ
		シカ	ウサギ	イス	ウマ	
頭頂骨	左	1				
後頭骨	右	1				
前頭骨	左		1			
前頭骨	右	1		1		
側頭骨	左		1			
側頭骨	右	3				
上顎骨	左	1				
I1	左	3				
上I1	右	1				
上P4	左		1			
上M1	左	2		1		
上M2	左	3				
上M3	左		1			
上M3	右				1	
下顎骨	左	4		1		
下顎骨	右	3		2	1	
下M1	右	2				
下M2	左	1				
下M3	右		1			
環椎	—	1		1		
軸椎	—	2		1	1	
第11胸椎	—	1				
第1腰椎	—		1			
第3腰椎	—	1				
第4 ?腰椎	—	1				
肩甲骨		1				
肩甲骨	右	1		2		
上腕骨	左	2				
上腕骨	右	2		1		1
尺骨	右	2				
桡骨	左	1		2		
桡骨	右		1			
月状骨	左	1				
三角骨	左	1				
寛骨	左	3				
寛骨	右	2		1		
大腿骨	左	2				
大腿骨	右	1		1		
脛骨	左	3		3		
脛骨	右	1				
距骨	左	3		4		
距骨	右	1		1		
蹠骨	左	2		4		
蹠骨	右	2		2		
舟状立方骨	左			3		
舟状立方骨	右			3		
立方骨	左	1				
楔状骨	左			1		
楔状骨	右	1				
第3中足骨	右	1				
第2・3中足骨	左			1		
基節骨	左				1	1
合計		67	42	1	1	

3. 出土木製品の樹種同定

本遺跡は弥生時代の集落遺跡としてはよく知られている遺跡で、今回の調査で弥生時代から江戸時代にわたる遺構や遺物が検出された。弥生時代のものとして、木棺墓1基、土坑墓3基、自然流路、溝、井戸、土坑と多数の柱穴群などの造構が検出された。今回、板卒塔婆、武器形木製品、容器、杓子、農具など6点の木製品の樹種同定をおこなった。

樹種同定のための顕微鏡的特徴

スギ (*Cryptomeria japonica*)

樹脂道は存在しない。樹種細胞は晩材付近に接線状にまばらにみられる。分野壁孔は典型的なスギ型。

バラ科 (*Rosaceae*)

散孔材。道管は小さく、單穿孔を有する。放射組織は同性で、1-2列。

ヤマグワ (*Morus bombycina*)

環孔材。孔圈道管は大きく、複層になる。孔圈外道管は数個が塊状になる。道管は單先行。道管にらせん肥厚がみられ、チロースが詰まる。放射組織は異性で、1-5列となる。

アカガシ亜属 (*Quercus sp. cyclobalanopsis*)

放射孔材。道管は大型で、放射方向にならぶ。道管は單穿孔。広放射組織と単列放射組織からなる。

その結果は表1に示すとおりであった。板卒塔婆2点は共にスギであった。武器型木製品はバラ科の一種、容器と杓子は共にヤマグワであった。また、農具はアカガシ亜属であった。

第11表 樹種同定表

遺物番号	遺物名	法量(mm)	出土遺構	時代	樹種	顕微鏡写真
1185	板卒塔婆	620×35×10	溝62	室町時代後半	スギ	図版190
1184	板卒塔婆	300×45×5	溝6	室町時代末期	スギ	図版190
1166	武器形木製品	165×29×7	自然流路4	弥生時代中期	バラ科	図版190
1164	容器 (鉢脚器)	Φ175×65×10	第13層内	弥生時代中期	ヤマグワ	図版190
1165	大型杓子	200×120×15	第13層内	弥生時代中期	ヤマグワ	図版190
1175	農具 (未製品)		溝128	弥生時代中期	アカガシ科	図版190

V. まとめ

今回の調査では、弥生時代の木棺墓1基、土坑墓3基、上器棺墓2基、自然流路、溝、井戸、土坑と多数のピットを検出し、多量の弥生土器、石鏃・石錐・石槍などの打製石器、細形銅劍型磨製石劍・石包丁・石斧などの磨製石器、鍬などの木製品、刺突具などの骨角器、シカ・イノシシなどの動物遺体が出土した。このことから、弥生時代中期の集落状況・住居域・墓などを見ることができた。また、平安時代以降の遺構は溝、側溝を伴う道、鋪溝・足跡、落ち込み、自然流路などで、大半が田畠としての生産域にともないう造構であった。遺物としては須恵器、土師器、瓦器、陶磁器とともに、板卒塔婆・漆器碗などの木製品、鉄製品、ウマなどの動物遺体が出土した。

このように、今回の調査では弥生時代から江戸時代にわたる遺構・遺物を検出した。以下、時代をもって調査内容をまとめておく。

調査地の現況は国道170号線=外環状線東沿いにあたり、南から北へ高くなっている、約1.1mの比高差がある。これは調査地北を東西に流れる新川の堤防に向けて盛土し、道路が造られたためである。しかし、弥生時代の中期後半の造構面は北端がT.P.+0.45m、南端がT.P.+1.5mと逆に約1m南の方が高く、この状況は、比高差は少なくなるが現代の旧耕上期までつづいていた。

縄文時代晩期の凸帯文土器は出土したが、いずれも7工区の弥生時代の造構または整地土=遺物包含層内からで、明確な造構は確認できなかった。弥生時代前期土器の出土状況もほとんど同じで、7工区からの出土が大半であった。6工区の第17層上面で検出したピット・溝は層的には前期相当造構であるが、遺物は出土していない。7工区では土器棺墓IIのような前期の土坑やピットが少量みられた。中期になると調査地全域から多数の造構・遺物が検出され、全体が集落域の一画であったことを示している。第16層および第15層上面造構はII様式相当、第14層上面造構はIII・IV様式相当期の造構であった。この状況は、第44次調査地南、第55次調査地南、そして本調査地の西南および南に位置する第56次調査地（今年度調査地）全体に見られた。国道308号線内の調査地では集落の北端を画する大溝群、第7次調査地がピット・土坑などとともに貝塚があり、その北方の第55次調査地北で集落北西端、西方の第47次調査地で西端を画すると思われる大溝がみつかっており、本調査地は環濠集落の中心部北よりに位置するものと思われる。

弥生時代中期末の東西方向の自然流路を3筋検出したが、後期の遺物は少なかった。ただ、自然流路上面などで検出した溝は、弥生時代中期の遺物を掘り上げ包含していたものの、古墳時代以後の遺構と考えられる。

また、6工区南で検出した東西方向の溝および道造構は、平安時代中ごろから江戸時代にわたり溝、数次期の側溝をもつ東西道（軸）、溝と変化しながらもほぼ同地点（24地区付近）で形成されつづけていた。これらの遺構は条里制に伴う坪境を走る。すなわち、七条の十九坪と二十坪（小字では柳田と東間瀬）を南北に区切る東西線にあたり、江戸時代以降もこの坪境の南北で掘り上げ田の井路状況が相違し、現在もその遺制としての東西道が分断されながらも残存している。

本遺跡が弥生時代の拠点集落として周知されており、これまで環濠と考えられる数条の大溝、方形周溝墓群、土坑墓、貝塚、井戸などの土坑、ピット群などからその存在を窺わせていた。今回の調査では調査地長約190m間はピット・土坑・溝などの遺構が密集し、かなり大きな（南北長）集落であったこと裏付けることができた。さらに、生産域化してしまうものの、平安時代中ごろ以降の条里造構の存在を確認し、その遺削が現在までも生き続いていることを実証することができた。

国道170号立体交差事業伴う調査は今年度以後も引き続き行なわれ、本遺跡の状況がさらに明確化するものと思われる。今後、それらの成果を踏まえ、遺跡の性格をまとめたいと考えている。

図 版



1. 調査地航空写真（1950年ごろ撮影）



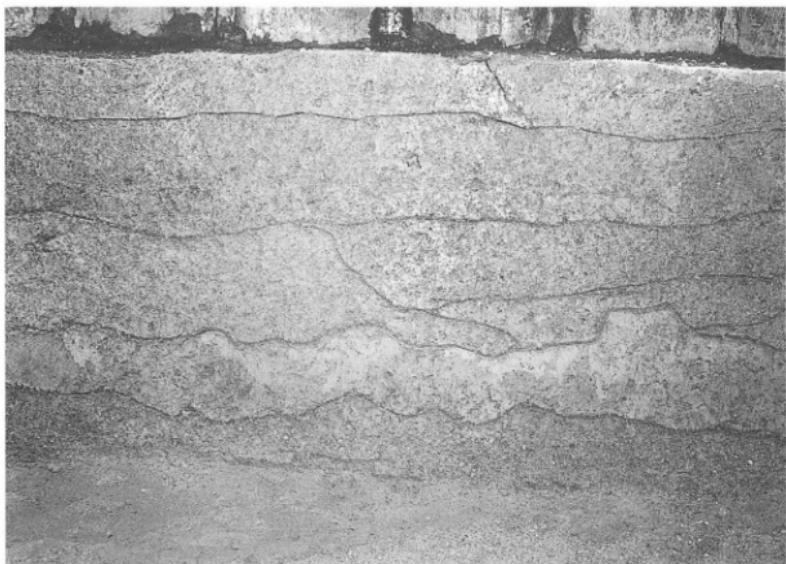
2. 調査地航空写真（1984年撮影）右が北



1. 調査地全景（南から）



2. 機械掘削状況



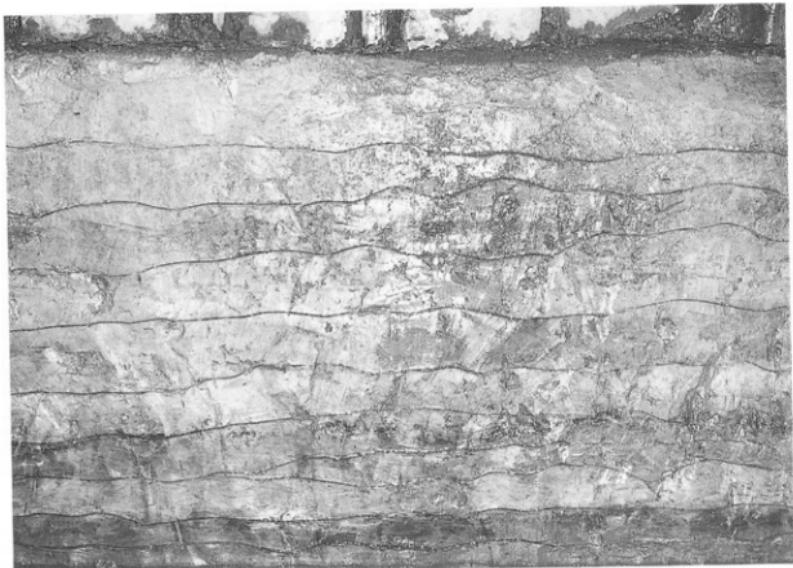
1. 7工区36地区付近西壁断面(1)



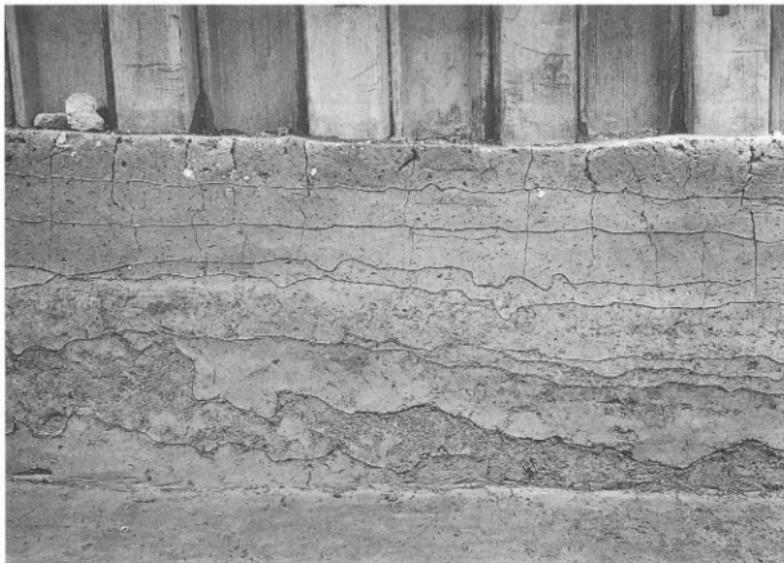
2. 7工区36地区付近西壁断面(2)



1. 7工区36地区附近西壁断面(3)



2. 7工区36地区附近西壁断面(4)



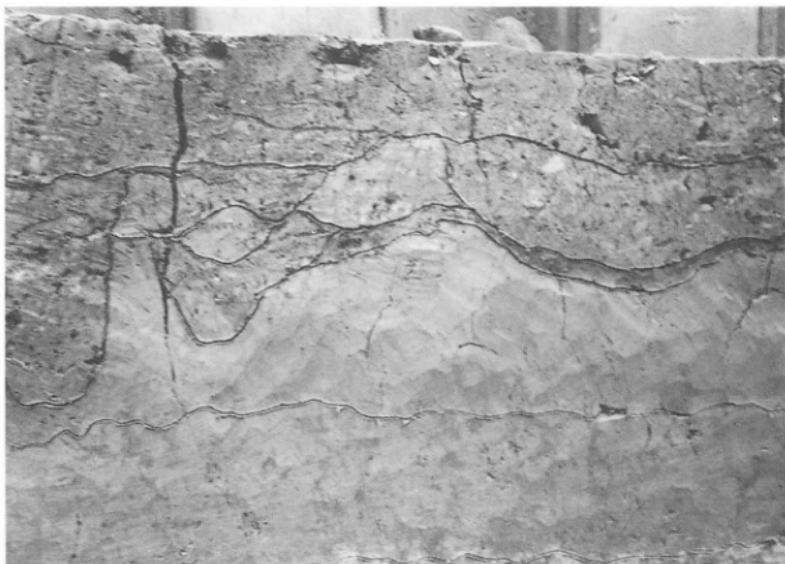
1. 6工区8地区付近西壁断面(1)



2. 6工区8地区付近西壁断面(2)



1. 6工区8地区付近西壁断面(3)



2. 6工区8地区付近西壁断面(4)

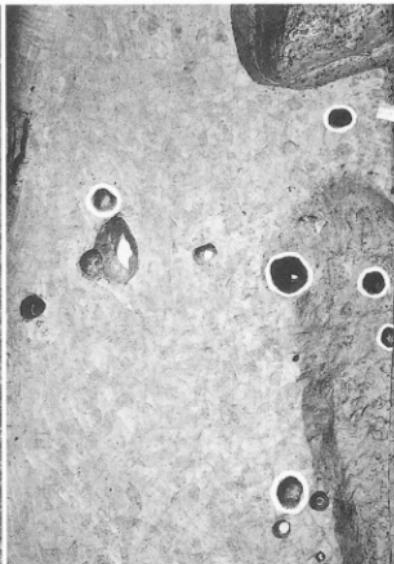


図版 8

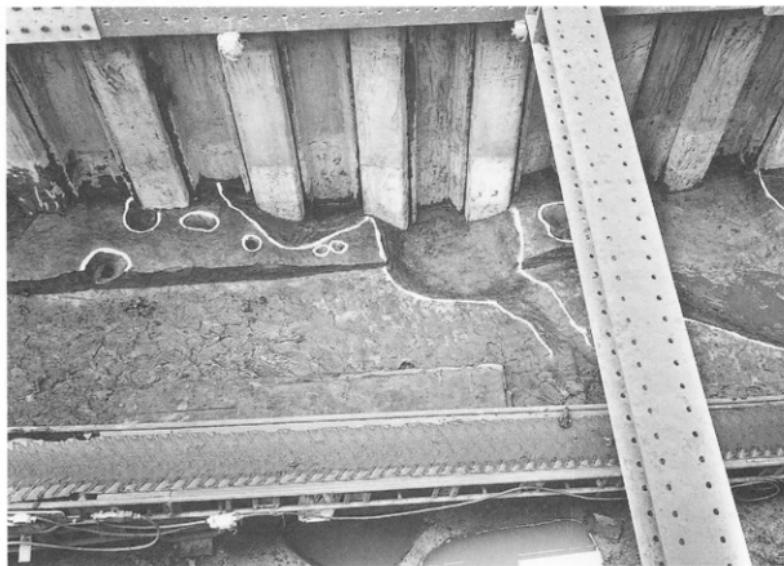
遺構



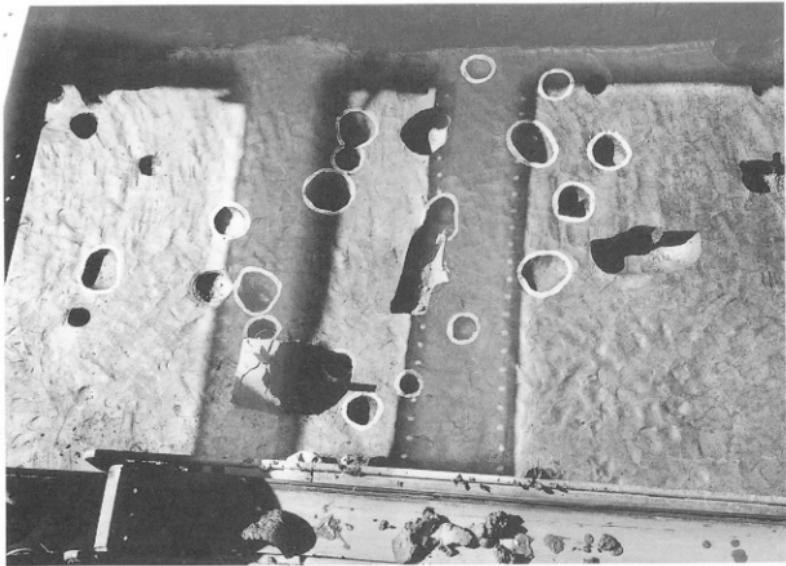
1. 6工区第16層上面遺構(1)
1地区付近 南より



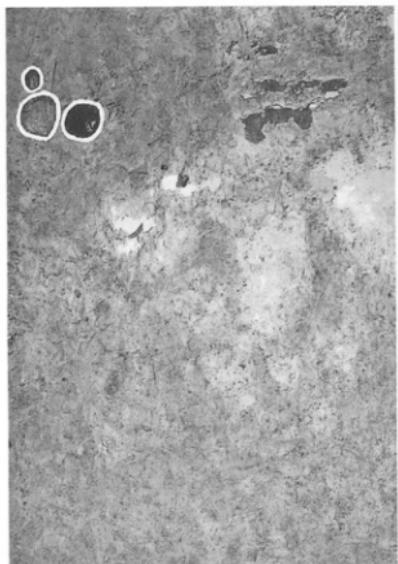
2. 6工区第16層上面遺構(2)
4地区付近 北より



3. 6工区第16層上面遺構(3) 2・3地区付近 東より



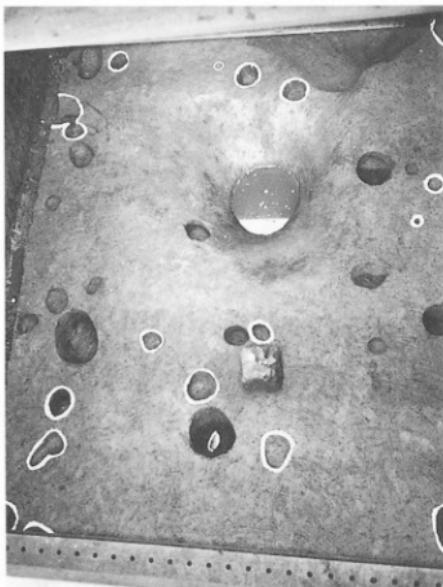
1. 6工区第16層上面遺構(4) 7地区付近 東より



2. 6工区第16層上面遺構(5)
14地区付近 北より



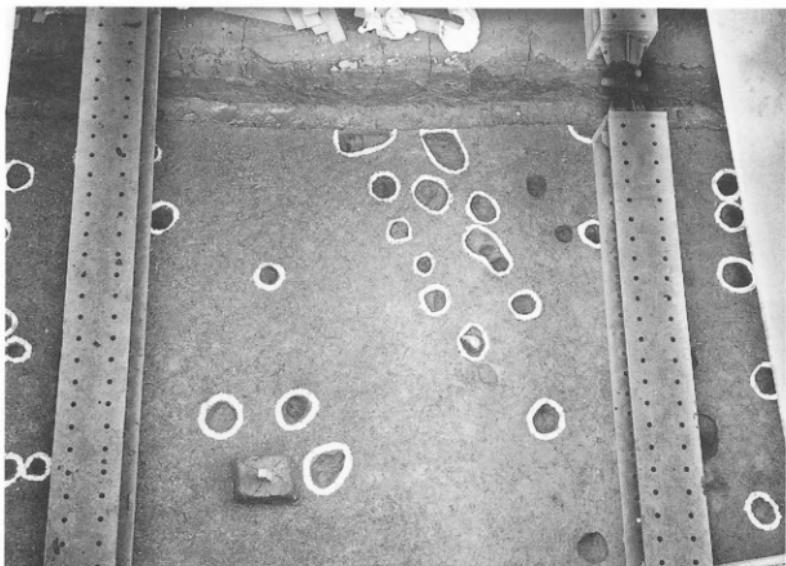
3. 6工区第16層上面遺構(6)
21地区付近 南より



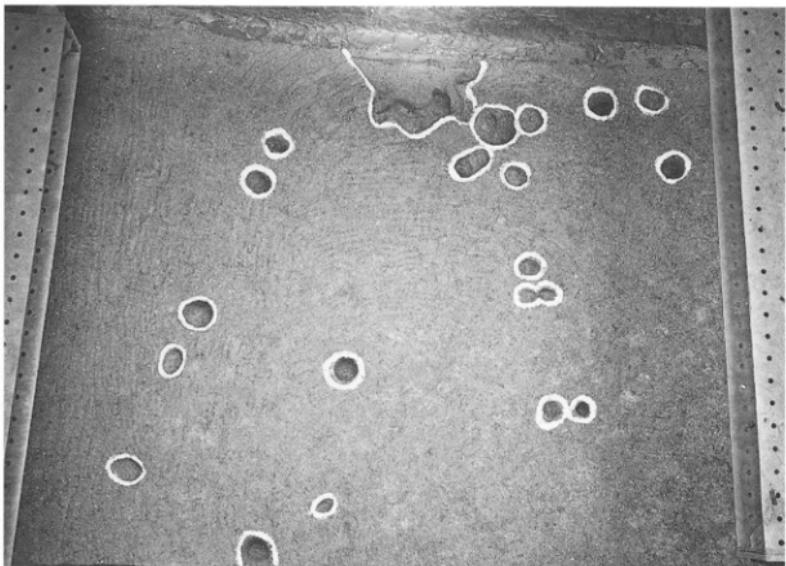
1. 7工区第16層上面遺構(7)
31・32地区付近 南より



2. 7工区第16層上面遺構(8) 32・33地区付近 東より



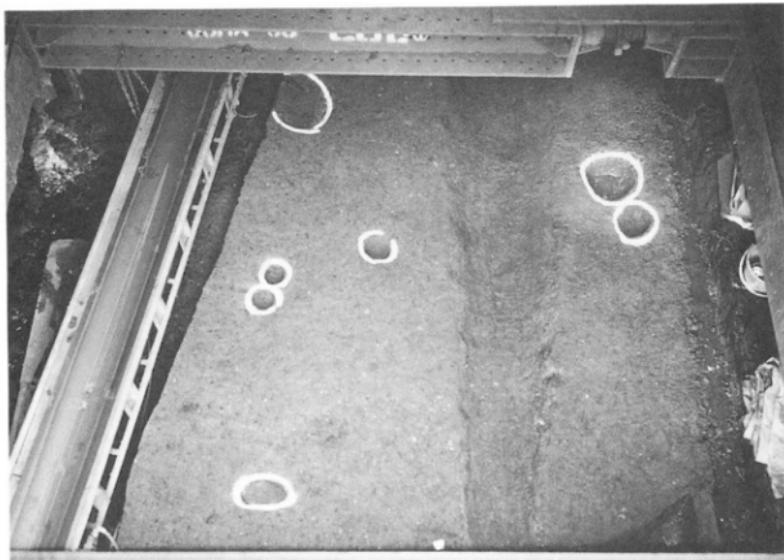
1. 7工区第16層上面遺構(9) 33・34地区付近 東より



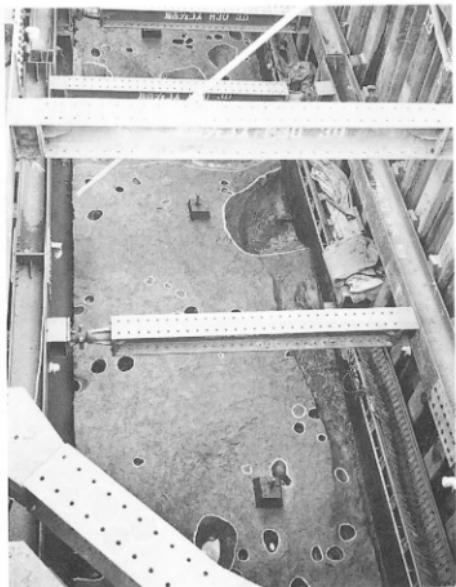
2. 7工区第16層上面遺構(10) 35地区付近 東より

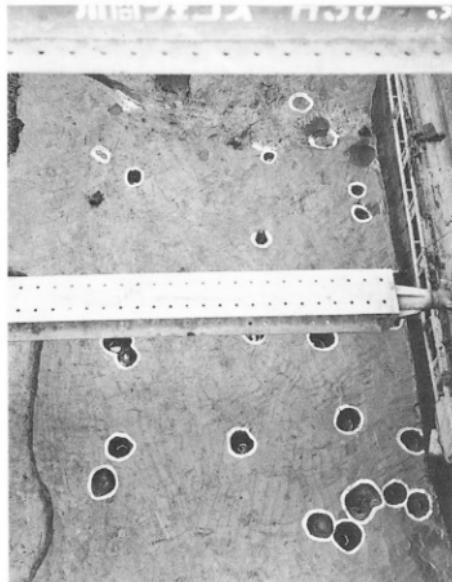


1. 7工区第16層上面遺構(11) 38地区付近 東より

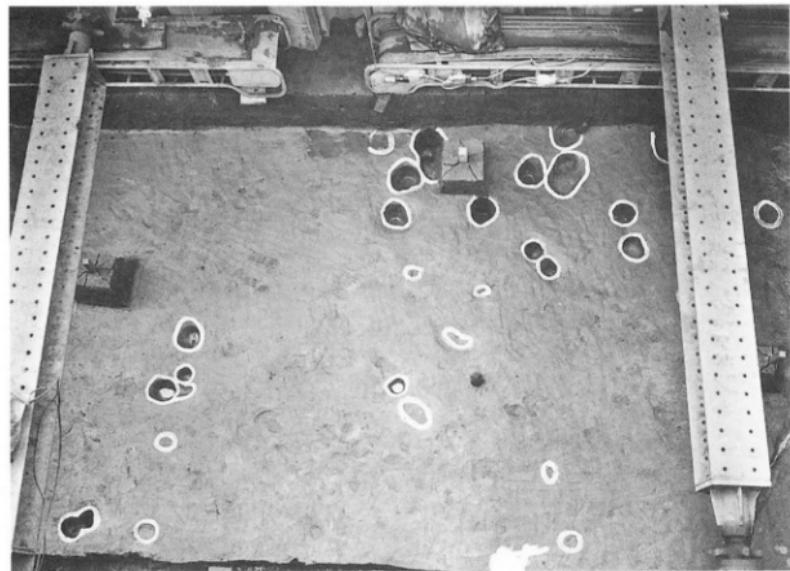


2. 7工区第16層上面遺構(12) 41・42地区付近 東より

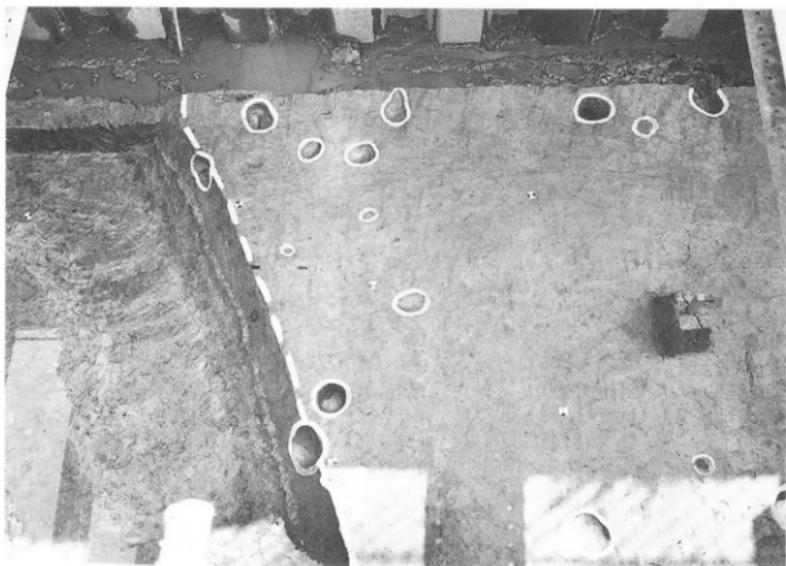
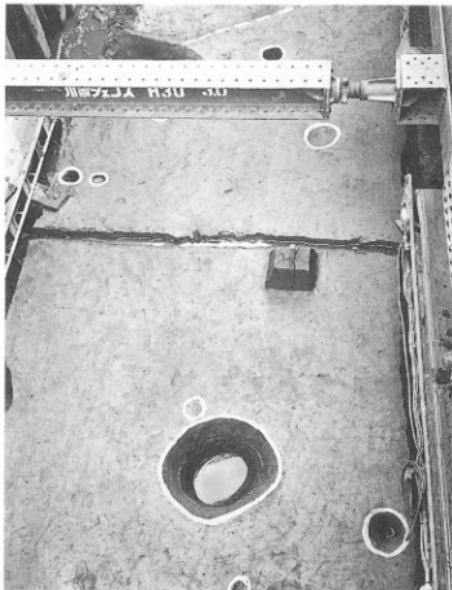




1. 6工区第15層上面遺構(3)
6・7地区付近 北より



2. 6工区第15層上面遺構(4) 8地区付近 東より

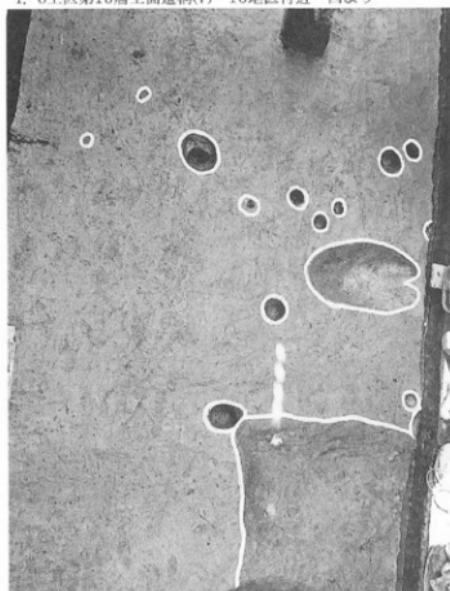


図版
16

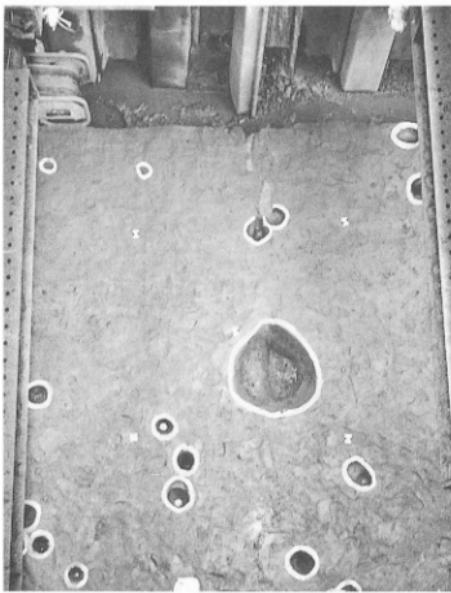
遺構



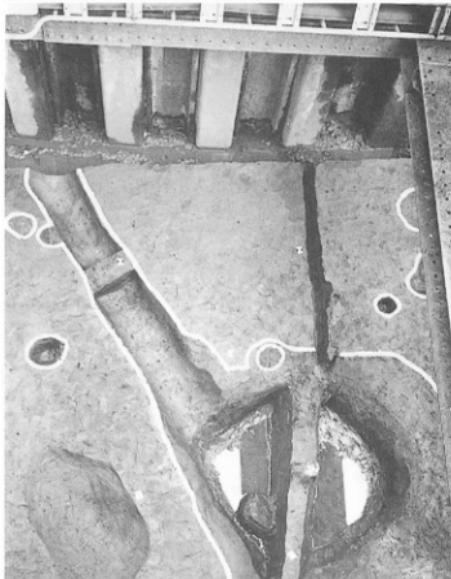
1. 6工区第15層上面遺構(7) 16地区付近 西より



2. 6工区第15層上面遺構(8)
19地区付近 北より



1. 6工区第15層上面遺構(9)
24地区付近 西より



2. 6工区第15層上面遺構(10)
26地区付近 西より

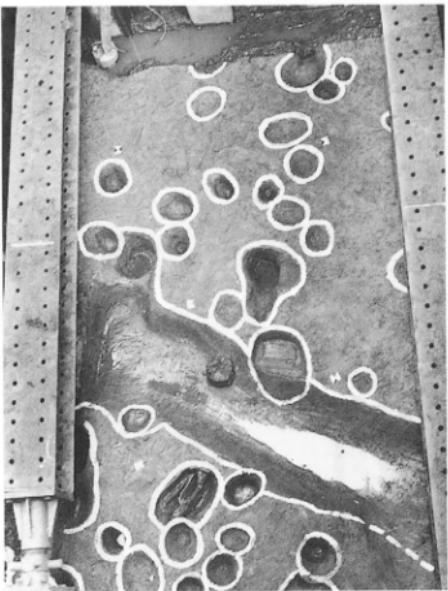


1. 6工区土坑96内土器・木製品出土状況 西より

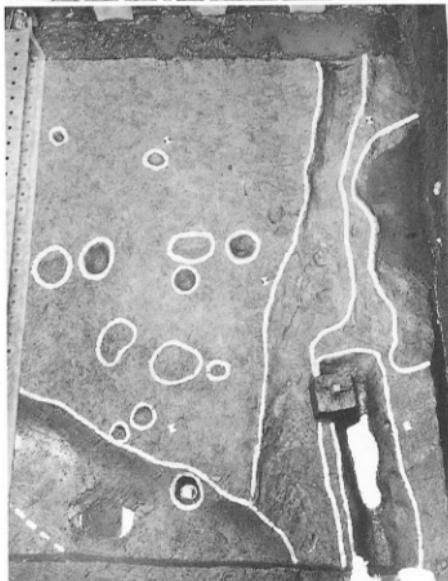


2. 6工区第15層上面遺構(11)
28地区付近 西より

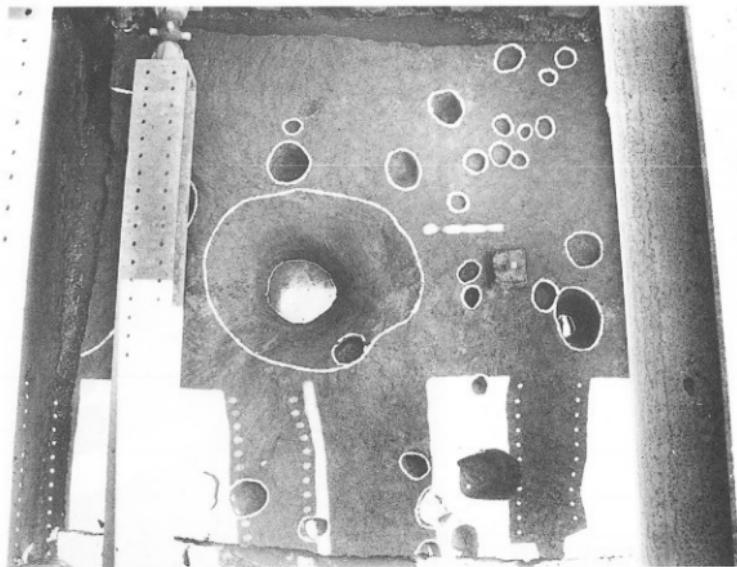
図版 19
遺構



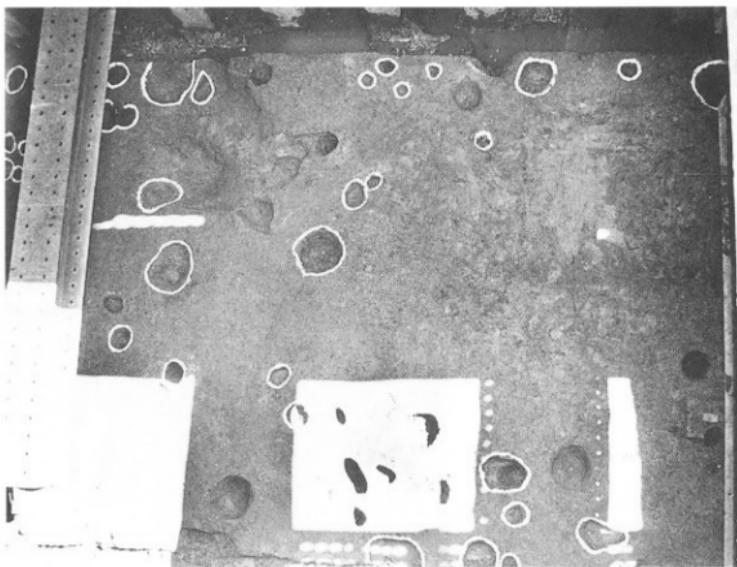
1. 6工区第15層上面遺構(12)
29地区付近 北より



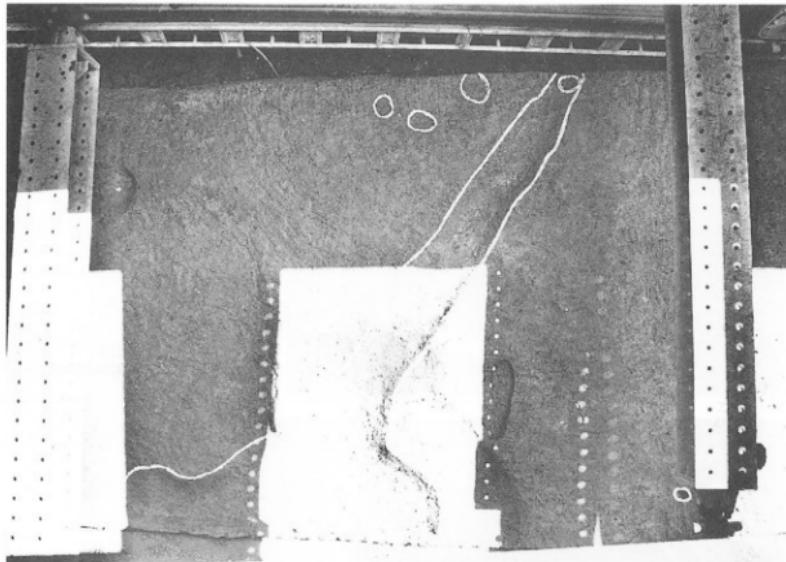
2. 6工区第15層上面遺構(13)
30地区付近 西より



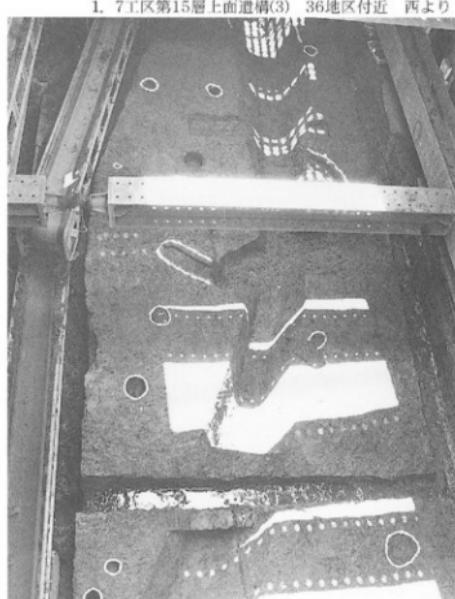
1. 7工区第15層上面遺構(1) 32地区付近 西より



2. 7工区第15層上面遺構(2) 33地区付近 西より



1. 7工区第15層上面遺構(3) 36地区付近 西より



2. 7工区第15層上面遺構(4)
41・42地区付近 北より



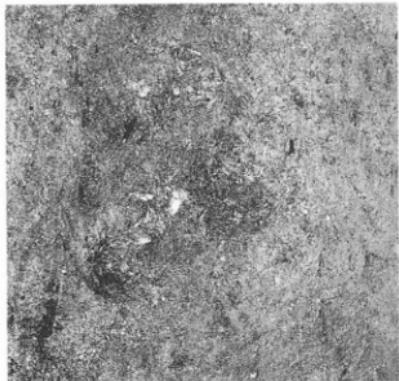
1. 7工区54地区土坑128
(土器棺墓 I) 土器棺檢出狀況



2. 7工区54地区土坑128
(土器棺墓 I)
土器棺内VII号人骨出土状况



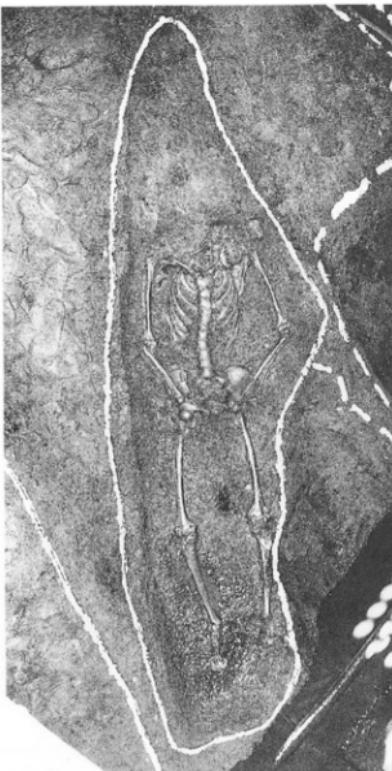
3. 7工区54地区土坑128 (土器棺墓 I) 断ち割り断面



1. 7工区53地区土坑墓III·
Ⅲ号人骨颈部上方动物遗体出土状况



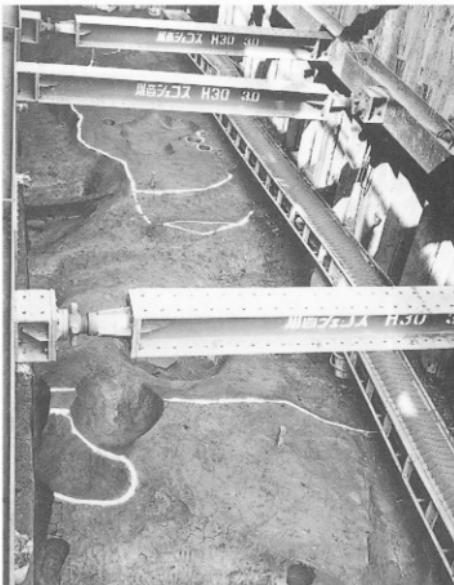
2. 7工区53地区土坑墓III·
Ⅲ号人骨颈部附近状况



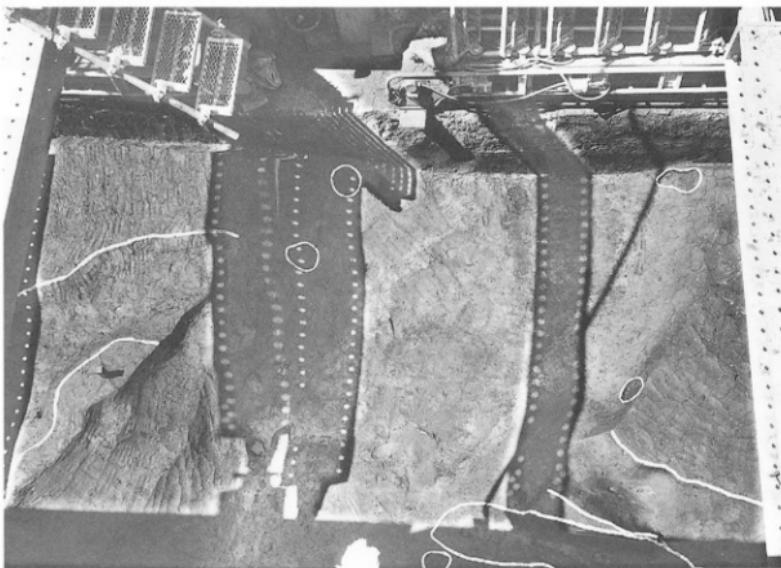
2. 7工区53地区土坑墓III·Ⅲ号人骨挖出状况



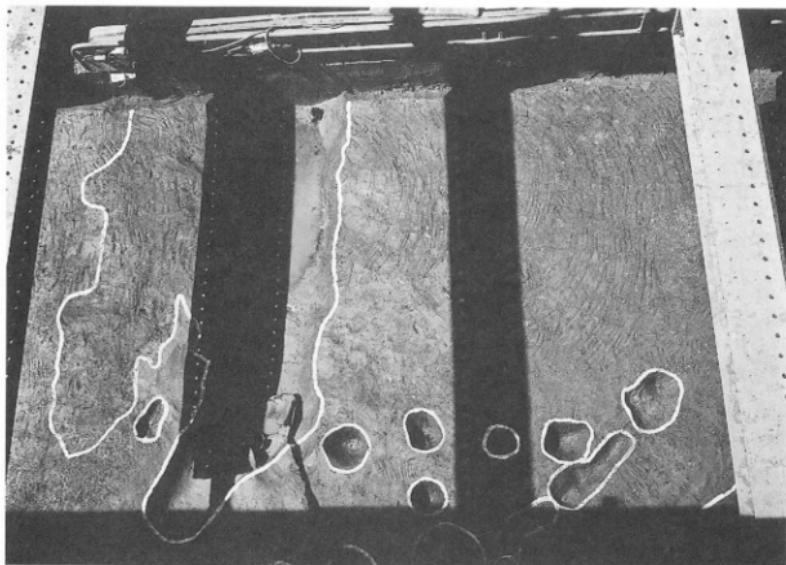
4. 7工区53地区土坑墓III·
Ⅲ号人脊椎附近石砾出土状况



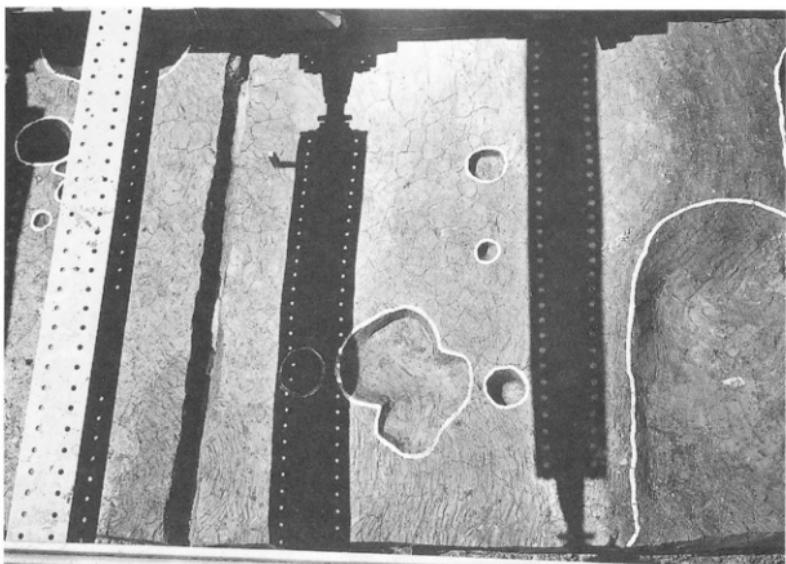
1. 6工区第14層上面遺構(1)
1～5地区 北より



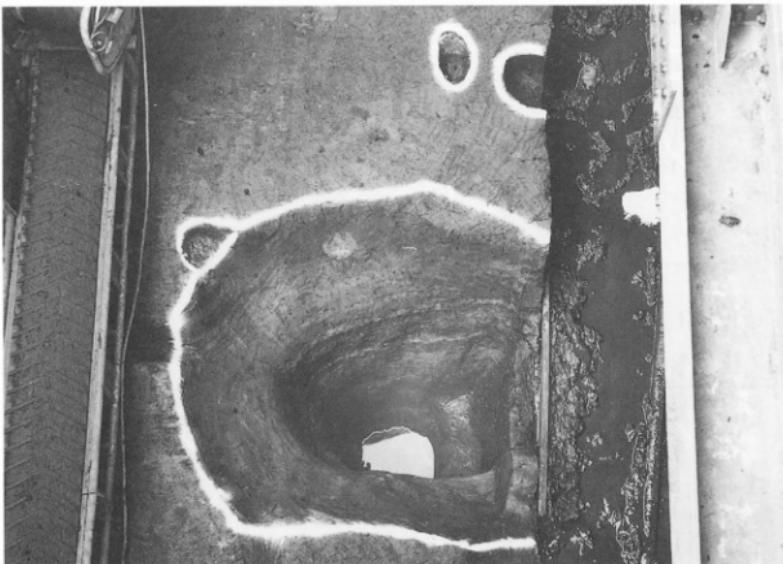
2. 6工区第14層上面遺構(2) 6地区 東より



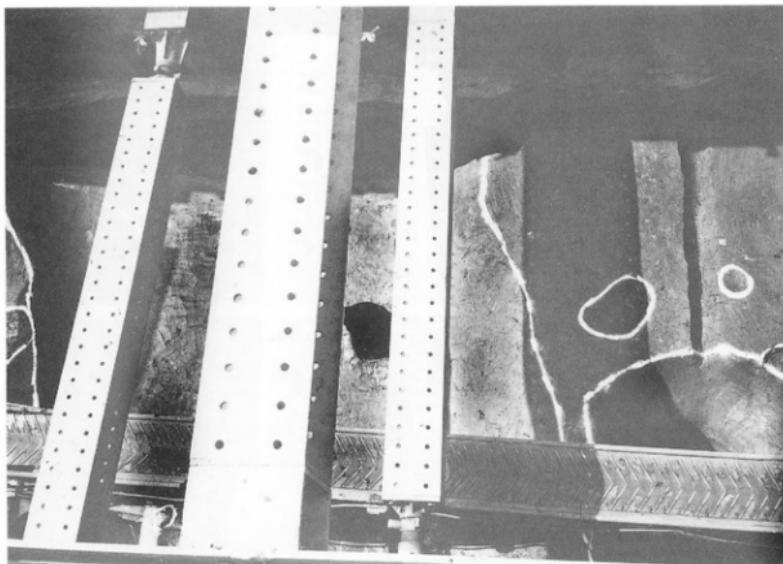
1. 6工区第14層上面遺構(3) 7地区 西より



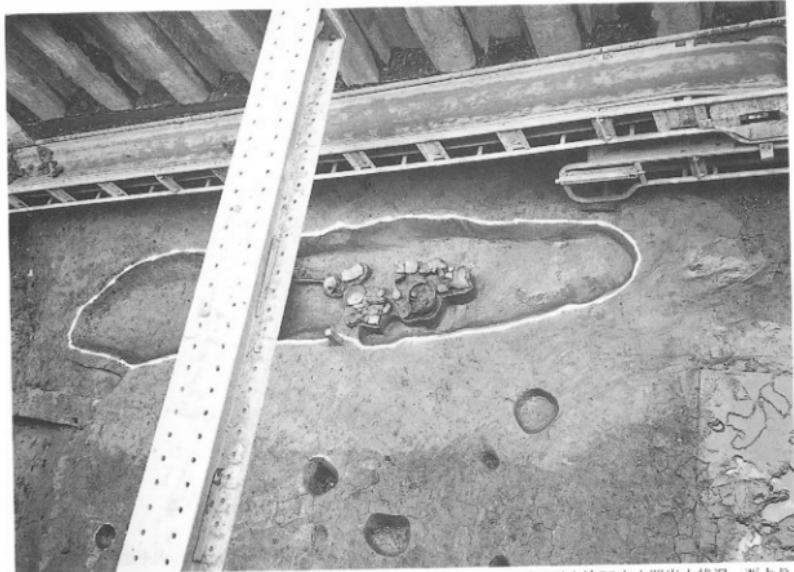
2. 6工区第14層上面遺構(4) 10地区 西より



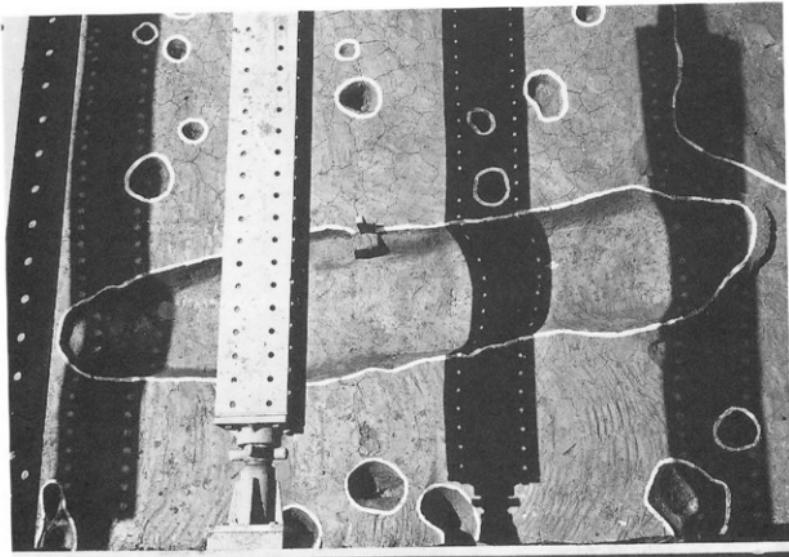
1. 6工区第14層上面遺構(5) 11地区 南より



2. 6工区第14層上面遺構(6) 12地区 東より



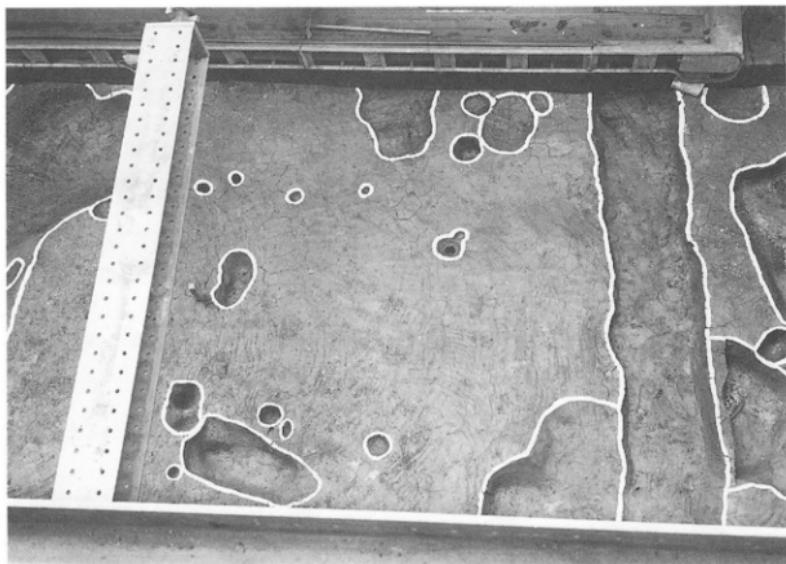
1. 6工区土坑20内土器出土状況 西より



2. 6工区第14層上面遺構(7) 13・14地区 西より



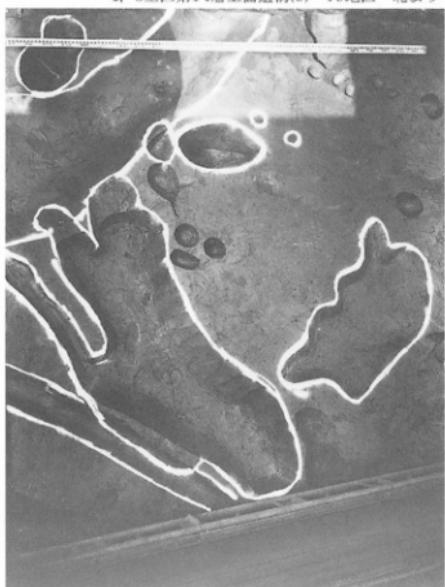
1. 6工区溝84・土坑19内土器出土状況
東より



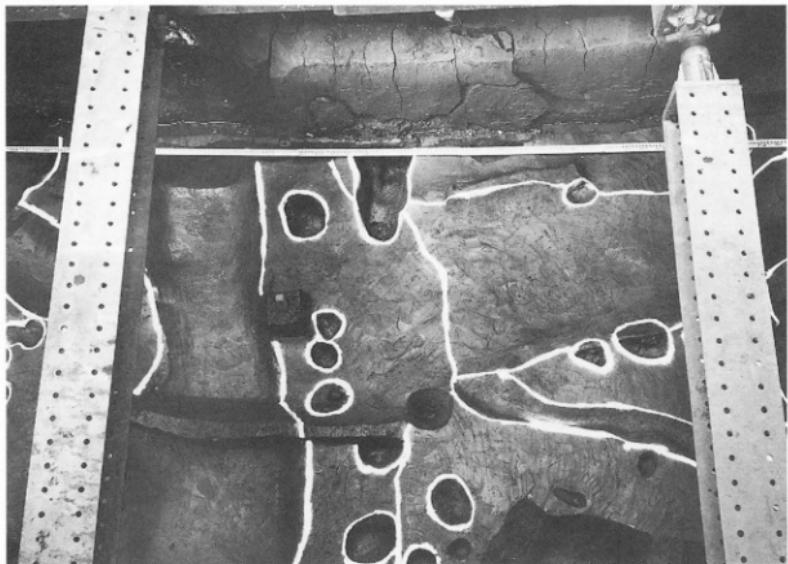
2. 6工区第14層上面遺構(8) 16~18地区 西より



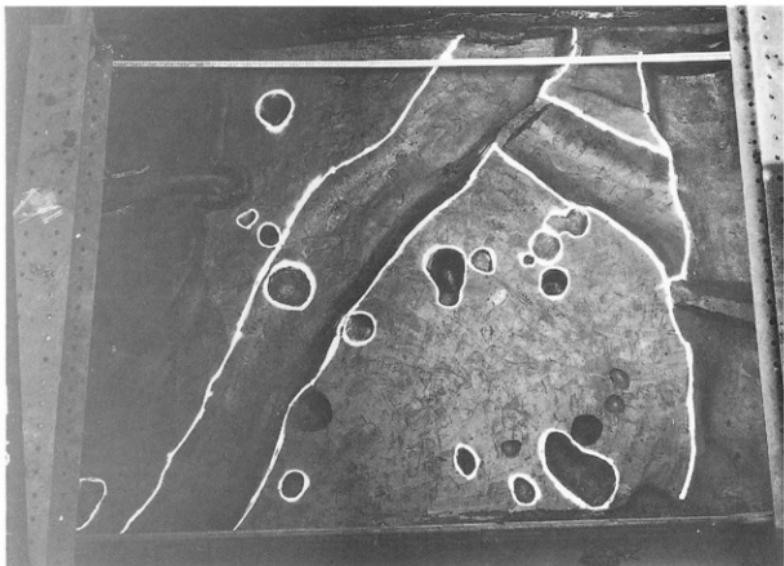
1. 6工区第14層上面遺構(9) 19地区 北より



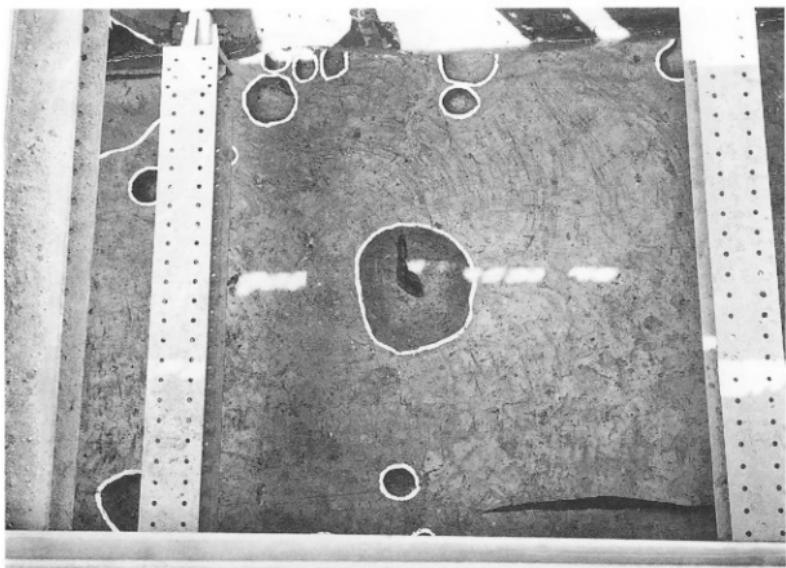
2. 6工区第14層上面遺構(10)
20・21地区 北より



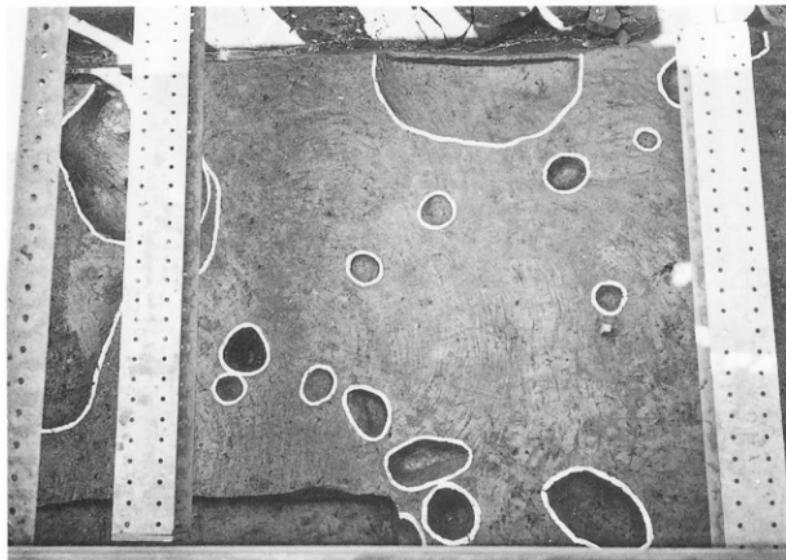
1. 6工区第14層上面遺構(11) 22地区 西より



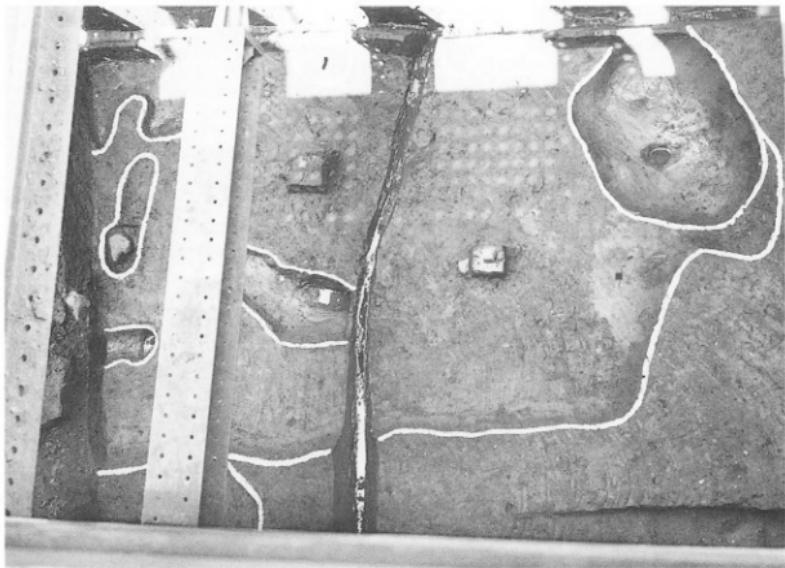
2. 6工区第14層上面遺構(12) 23地区 西より



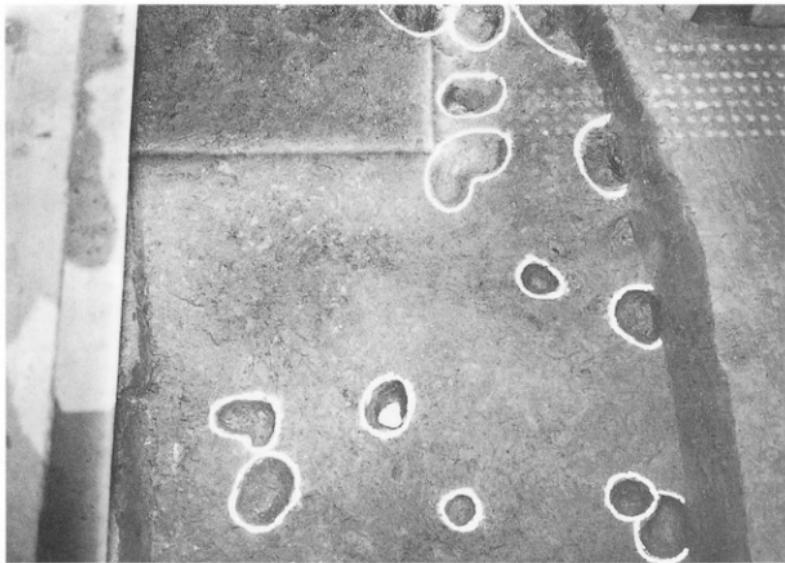
1. 6工区第14層上面遺構(13) 24地区 西より



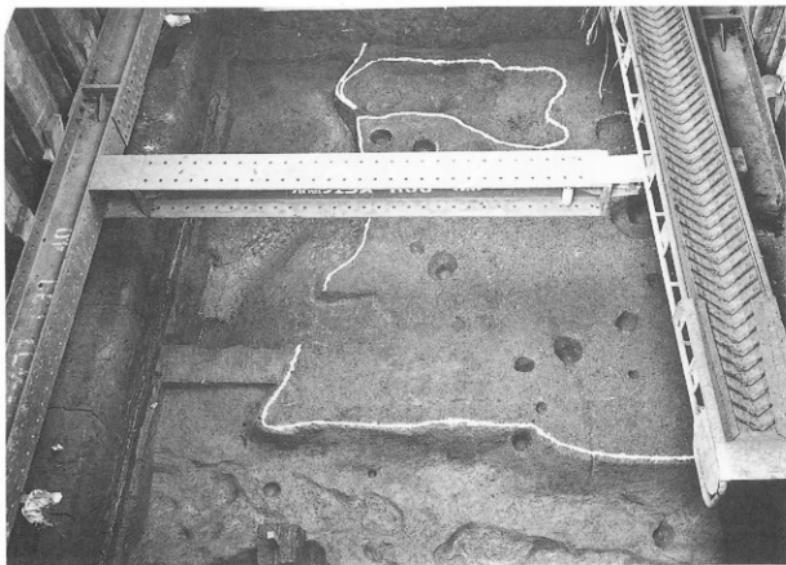
2. 6工区第14層上面遺構(14) 25・26地区 西より



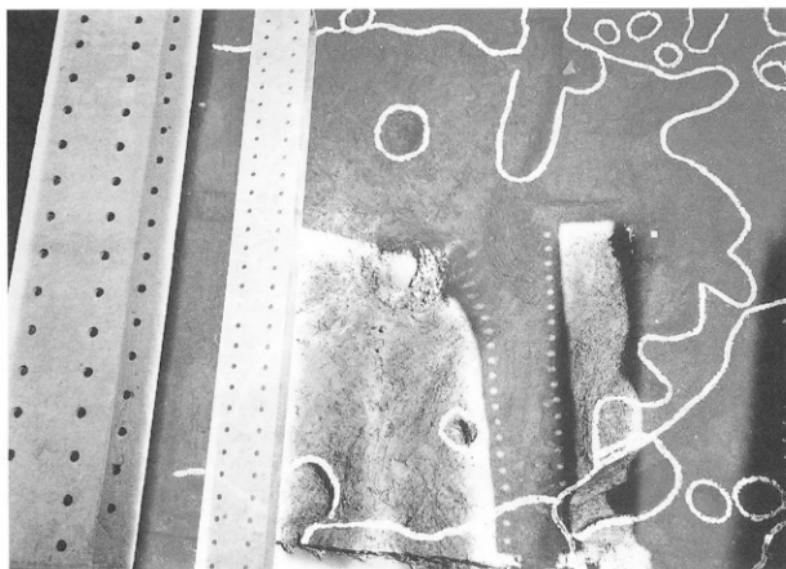
1. 6工区第14層上面遺構(15) 27地区 西より



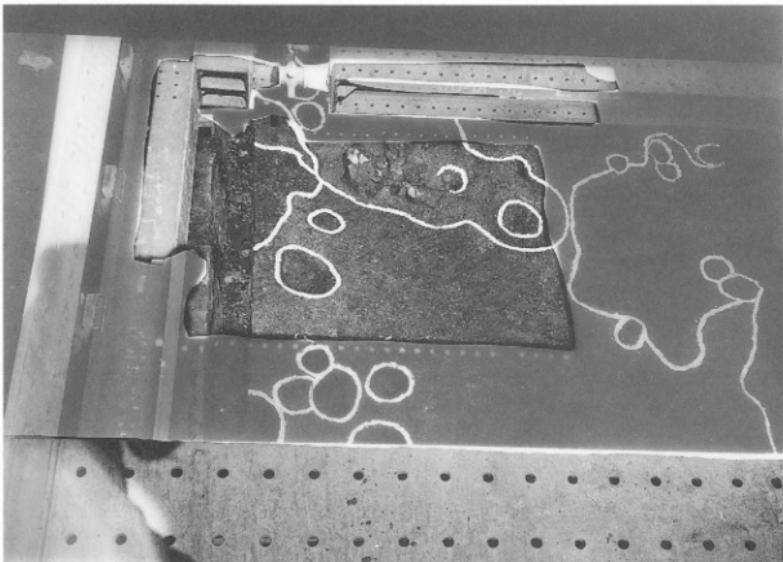
2. 6工区第14層上面遺構(16) 28地区 西より



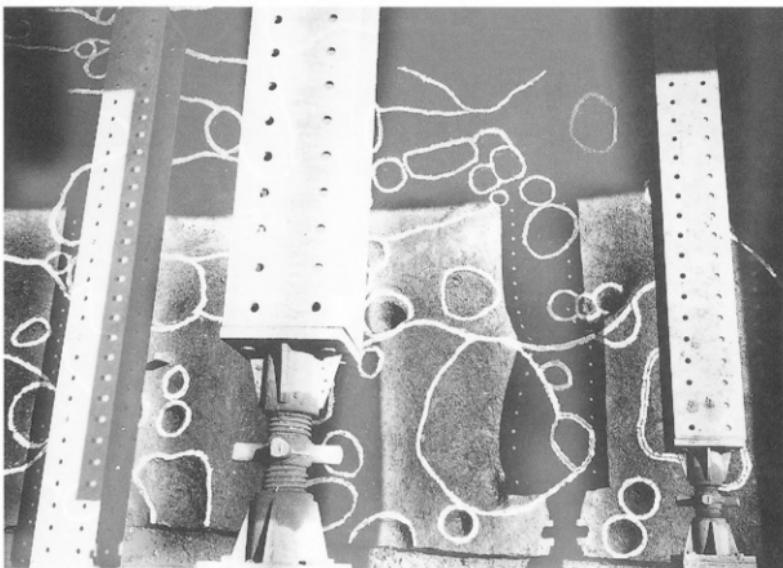
1. 6工区第14層上面遺構(1) 29・30地区 南より



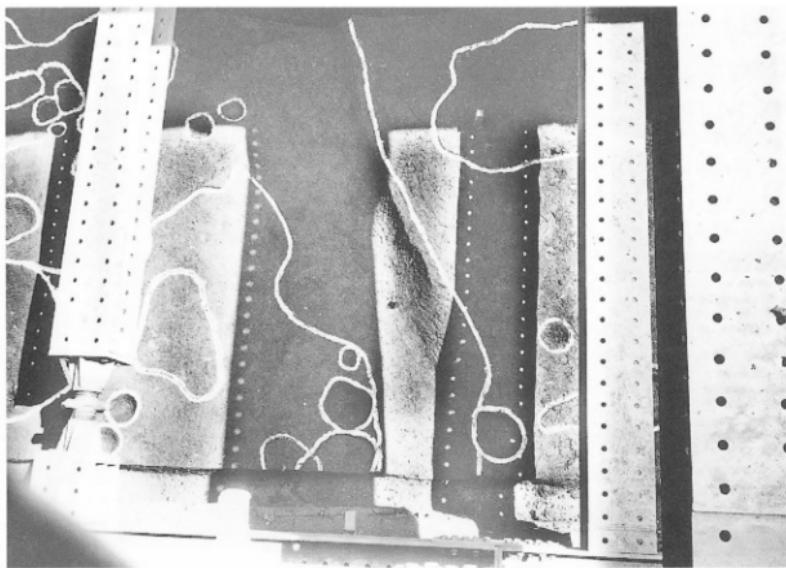
2. 7工区第14層上面遺構(1) 31・32地区 西より



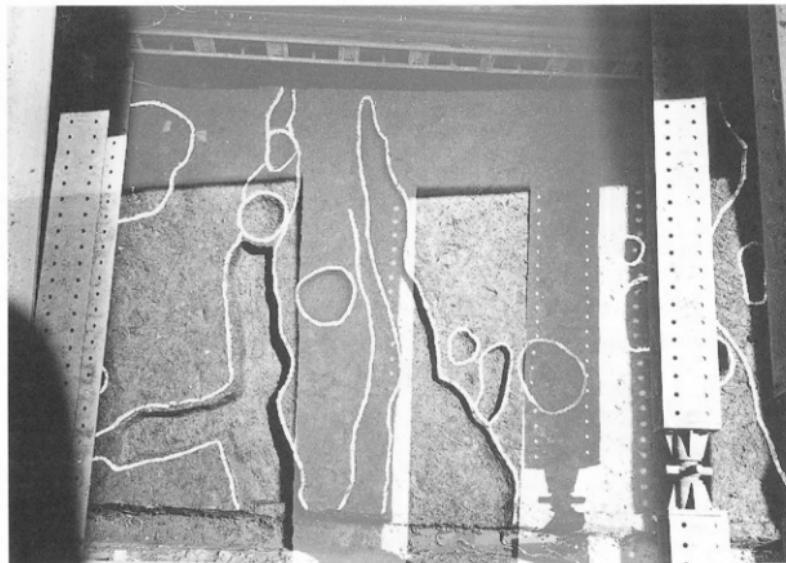
1. 7工区第14層上面遺構(2) 32・33地区 南より



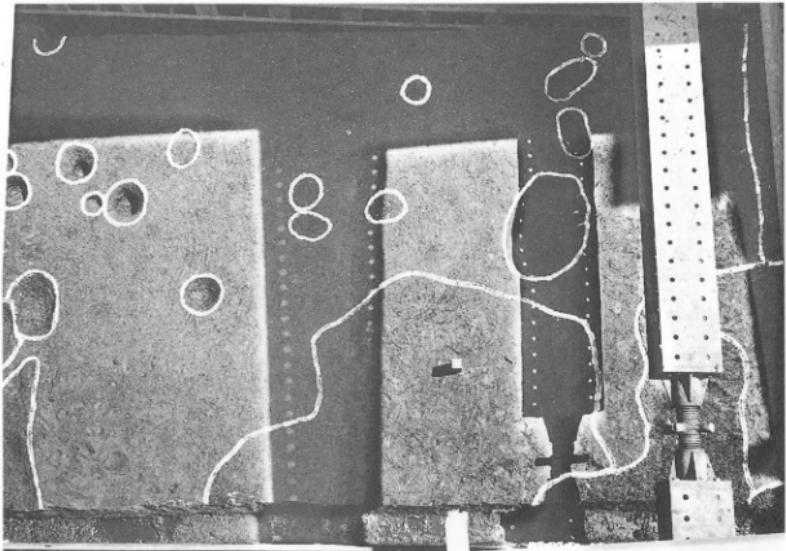
2. 7工区第14層上面遺構(3) 34地区 西より



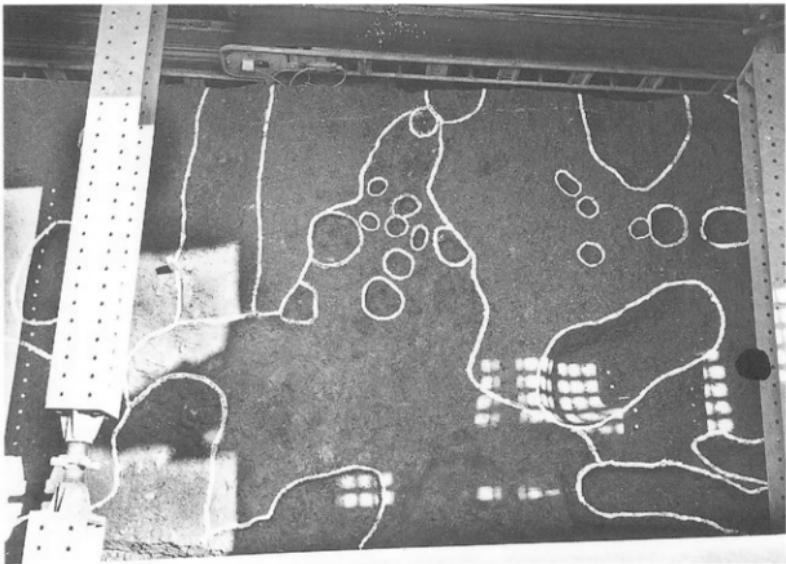
1. 7工区第14層上面遺構(4) 35地区 西より



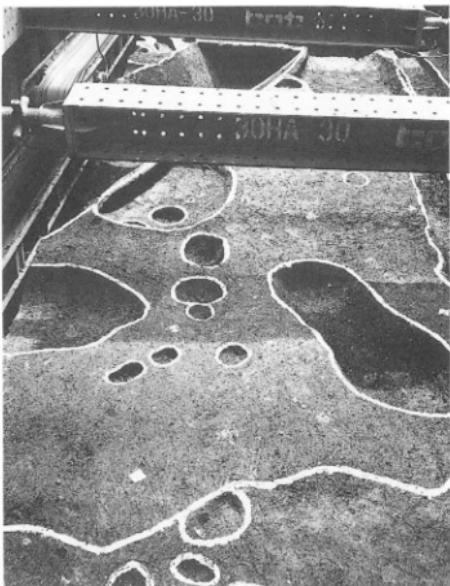
2. 7工区第14層上面遺構(5) 36地区 西より



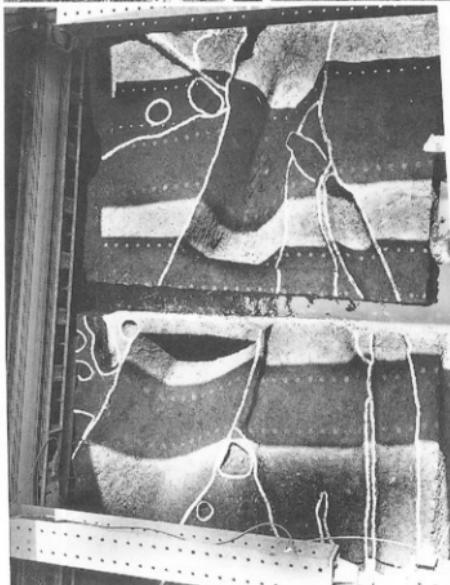
1. 7工区第14層上面遺構(6) 38地区 西より



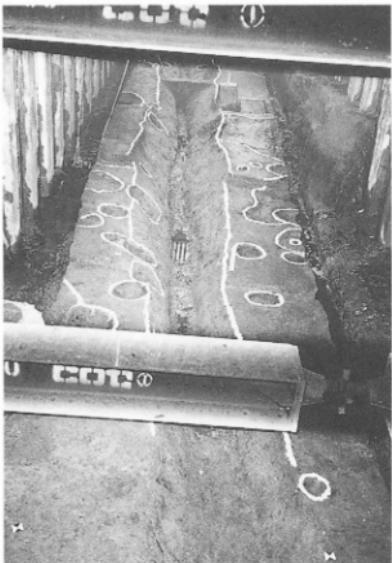
2. 7工区第14層上面遺構(7) 39地区 西より



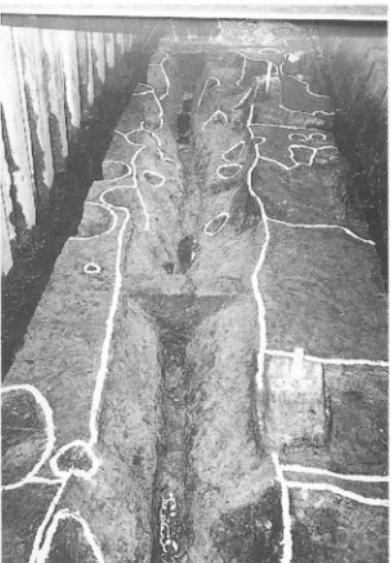
2. 7工区第14層上面遺構(8)
39~41地区 北より



2. 7工区第14層上面遺構(9)
41~43地区 北より



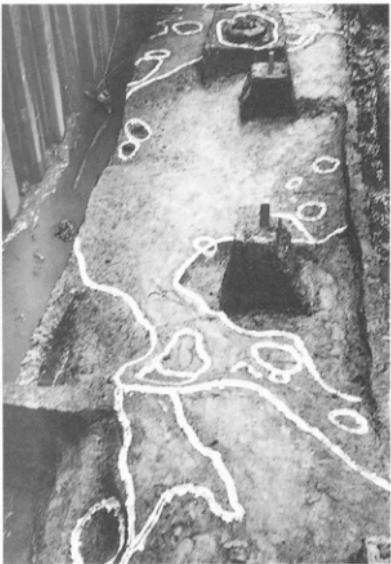
1. 7工区第14層上面遺構(10) 43~45地区 北より



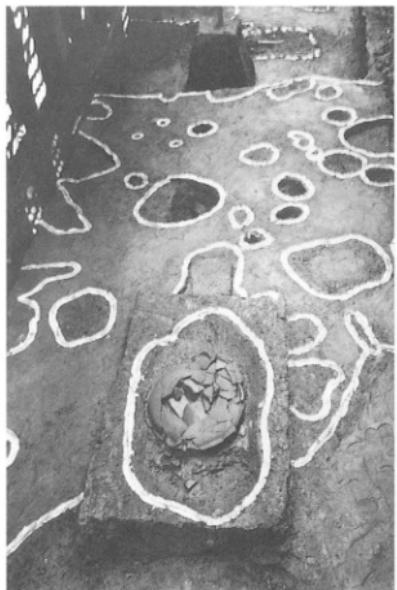
2. 7工区第14層上面遺構(11) 44~46地区 北より



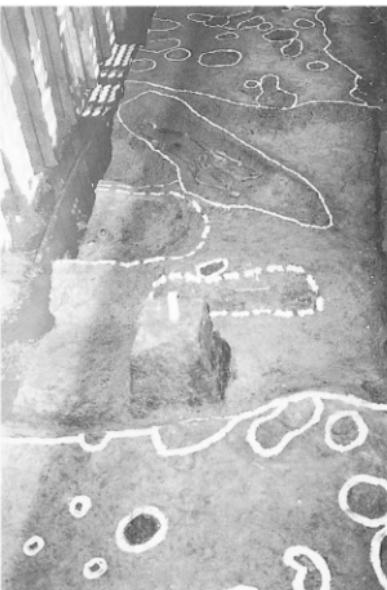
3. 7工区第14層上面遺構(12) 46~48地区 北より



4. 7工区第14層上面遺構(13) 48~51地区 北より



1. 7工区第14層上面遺構(14)
51~53地区 北より



2. 7工区第14層上面遺構(15)
52~54地区 北より



3. 7工区第14層上面遺構(16)
55・56地区 北より



4. 7工区第14層上面遺構(17)
57・58地区 北より



1. 7工区58地区土坑墓IV・Ⅷ号人骨検出状況 北より



2. 7工区58地区土坑墓IV・Ⅷ号人骨上半部状況



3. 7工区58地区土坑墓IV・Ⅷ号人骨下半部状況



1. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨検出状況 西上より



2. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨頭部状況



3. 7工区42地区土坑墓II・II号人骨上半身部状況

图版
42

遗構



1. 7工区42地区土坑墓 I ·
I号人骨検出状況 北上より



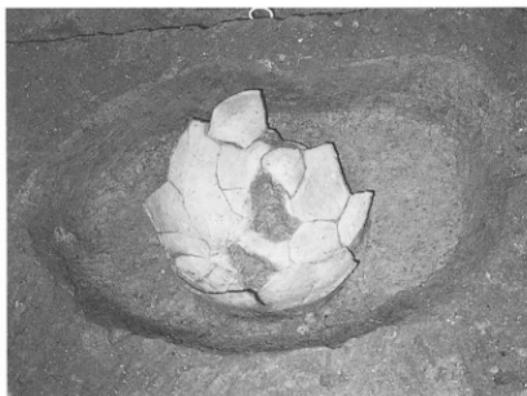
2. 6工区17地区出土状況



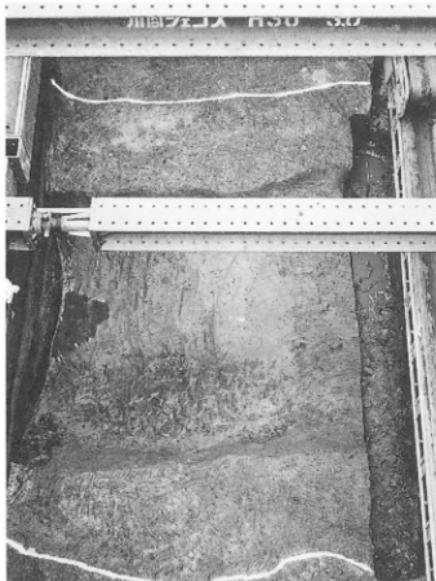
1. 7工区51地区土坑95
(土器棺墓 I) 土器棺検出状況



2. 7工区51地区土坑95
(土器棺墓 I) 所ち割り断面



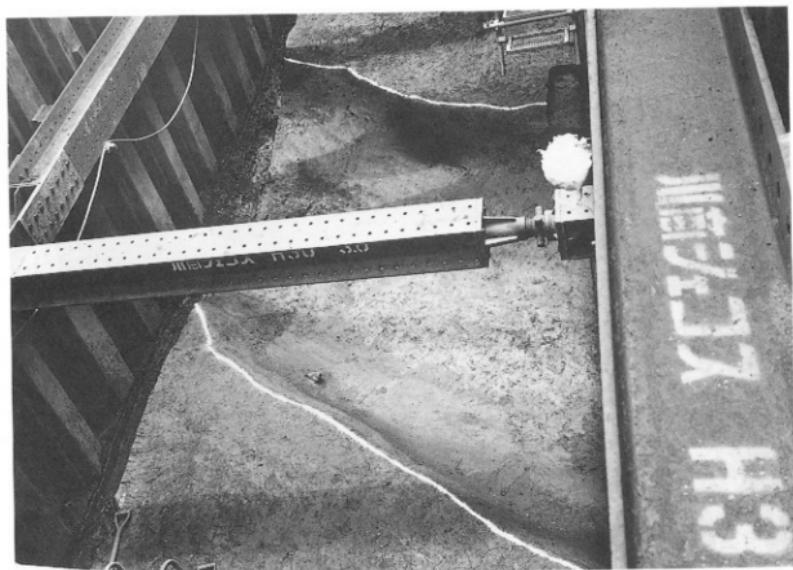
3. 7工区51地区土坑95 (土器棺墓 I) 土器棺内VI号人骨出土状況



1. 6工区38・39地区自然流路3検出状況
南より



2. 6工区38・39地区自然流路3内堆積状況



1. 6工区4~6地区自然流路4検出状況 北より



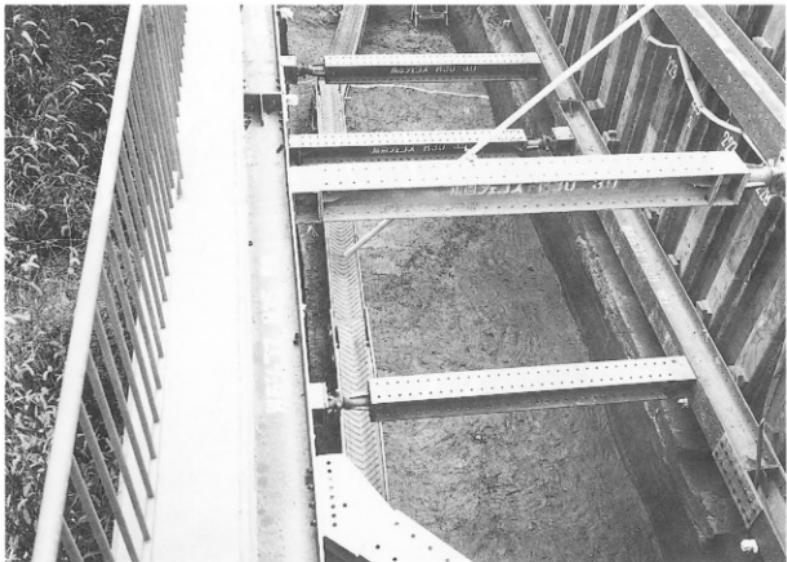
2. 6工区4~6地区自然流路4内堆積状況



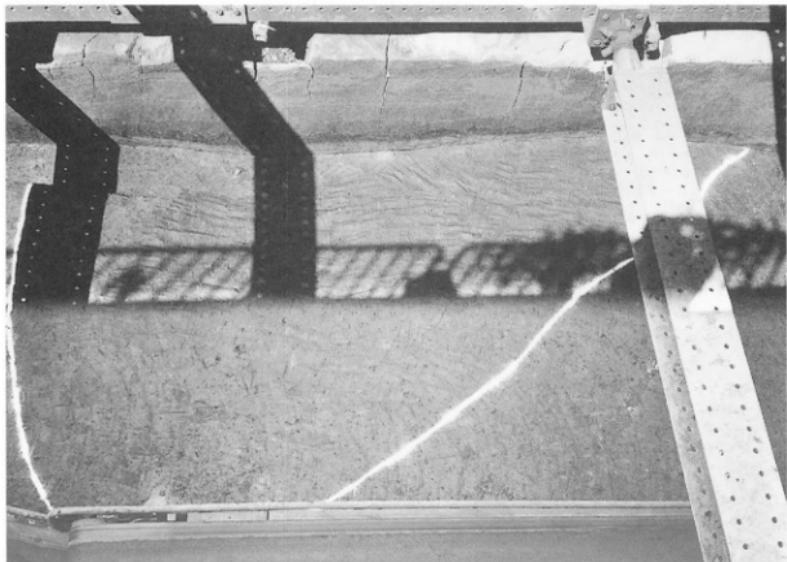
1. 7工区54・55地区自然流路5検出状況 南より



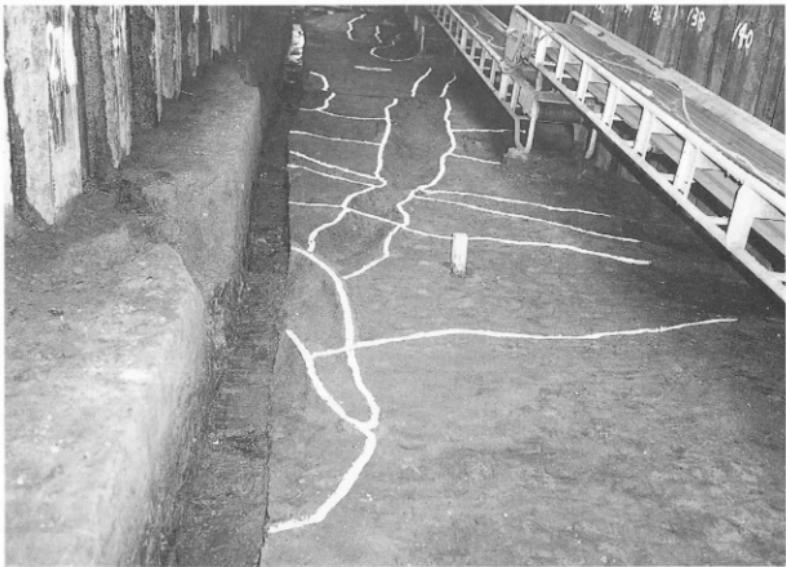
2. 7工区54地区自然流路5
北斜面足跡検出状況



1. 6工区1～4地区落ち込み6検出状況 北より



2. 6工区6・7地区落ち込み7検出状況 西より



1. 7工区～45地区第13層・自然流路5上面遺構検出状況 南より



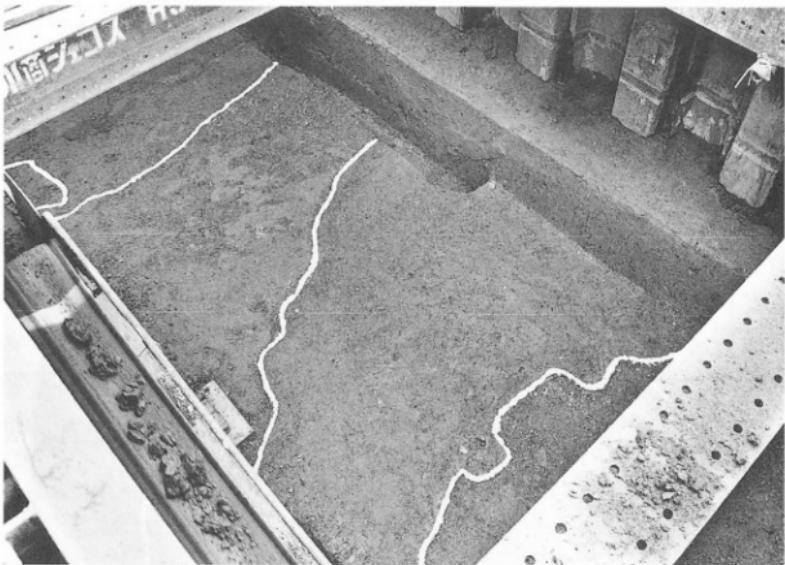
2. 7工区～55地区第13層・自然流路5上面遺構検出状況 南より



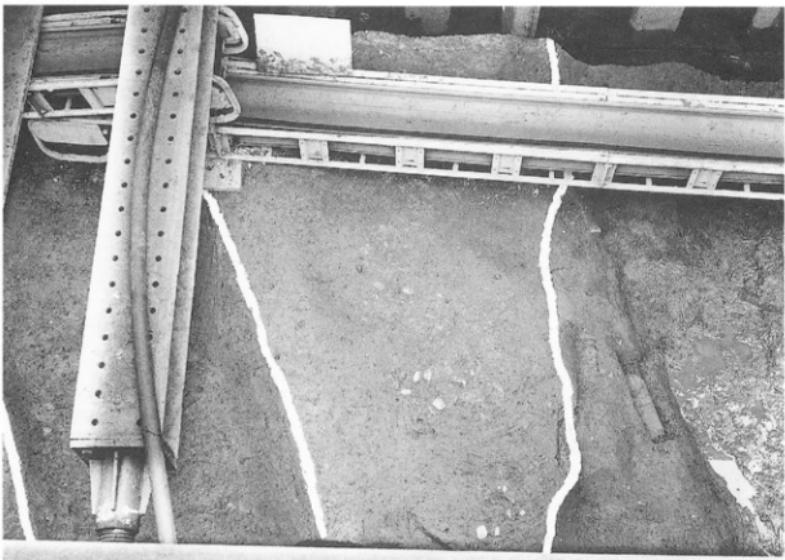
1. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝(3)検出状況 西より



2. 6工区23~25地区坪境東西方向段状造構検出状況 西より



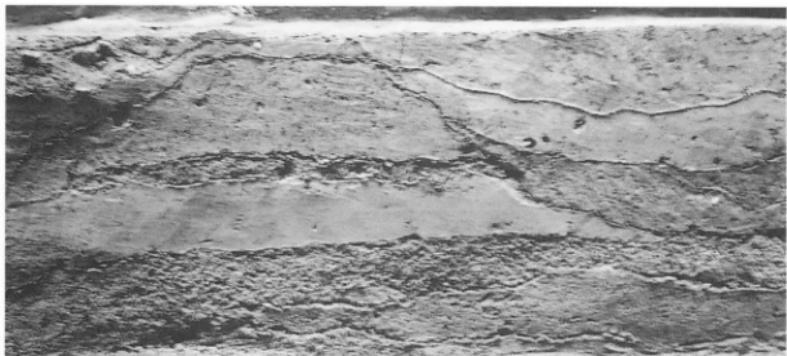
1. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝(1)検出状況 西南より



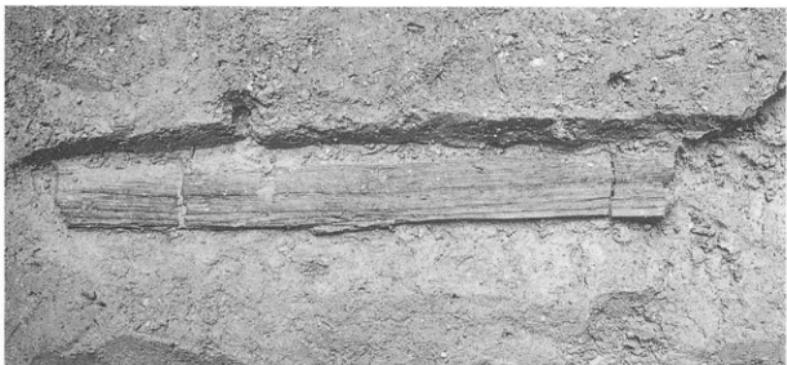
2. 6工区23~25地区坪境東西方向道・側溝(2)検出状況 西より



1. 6工区23~25地区坪境付近西断面(1)



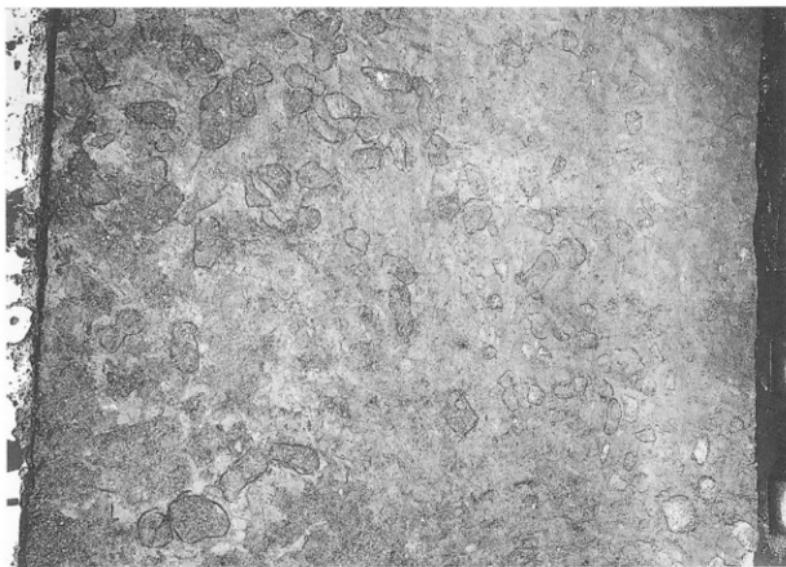
2. 6工区23~25地区坪境付近西断面(2)



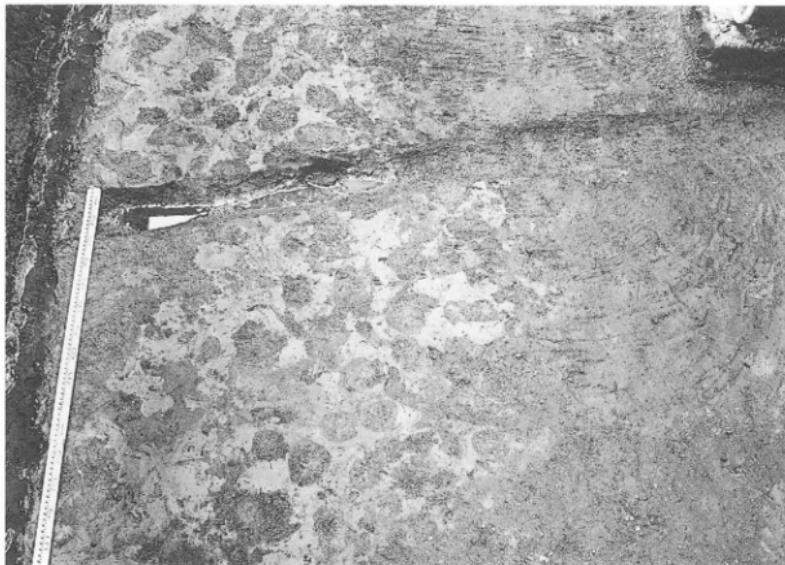
3. 溝18北斜面卒塔婆出土状況



1. 7工区33地区付近第8層上面足跡検出状況



2. 7工区32地区付近第10層上面足跡検出状況



1. 7工区39地区清75檢出状況



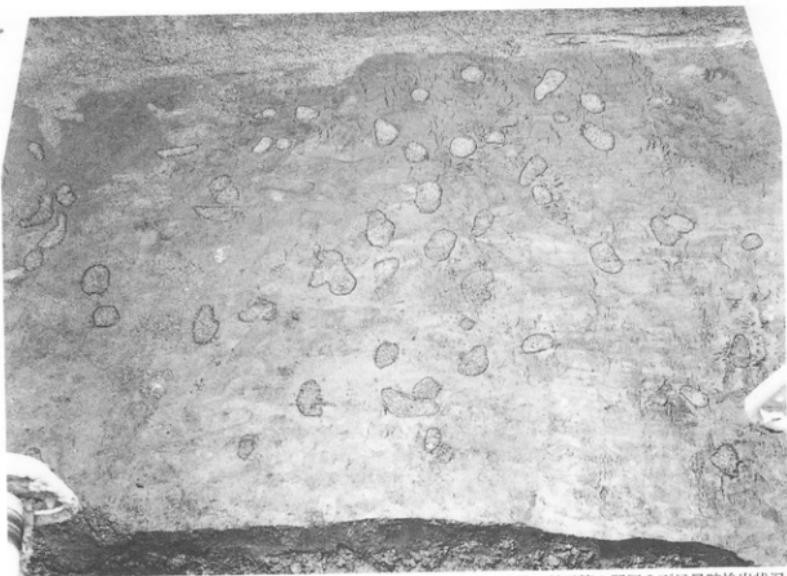
2. 7工区42~44地区清79檢出状況

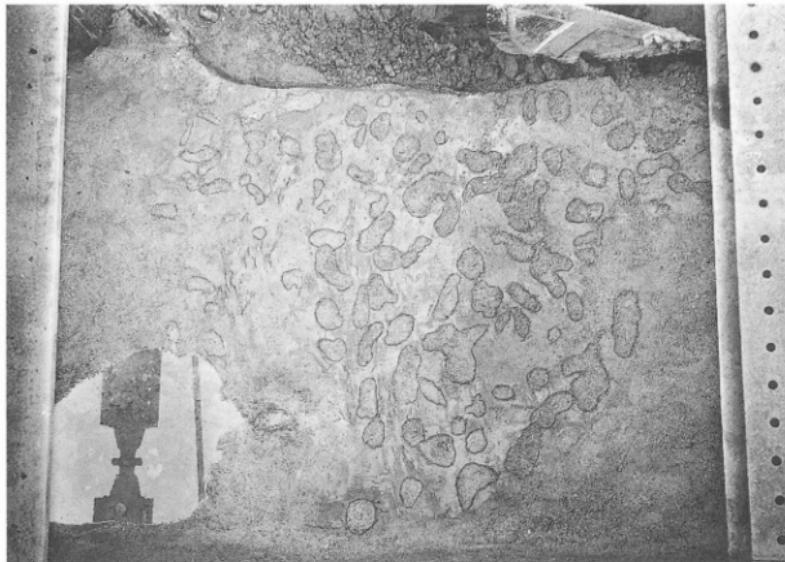


1. 7工区33地区付近第7層上面足跡検出状況

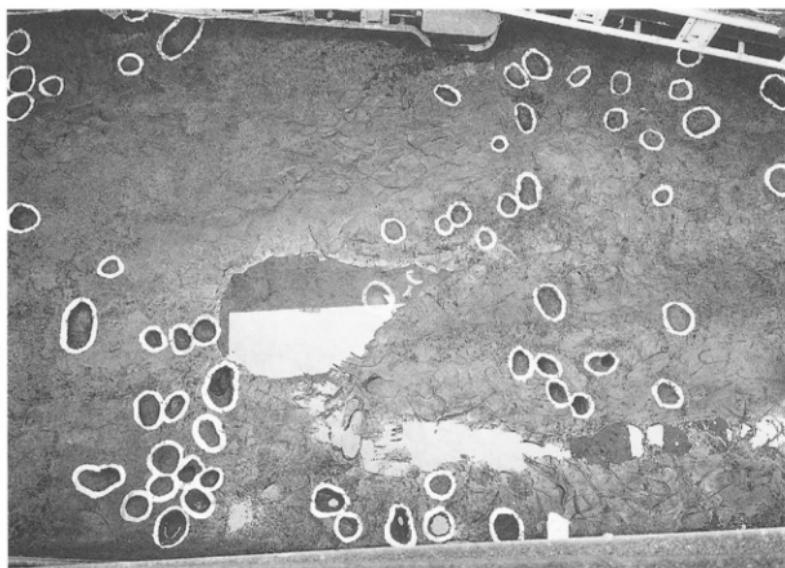


2. 7工区33地区付近第8層上面鉄製品出土状況





1. 7工区33地区付近第6間層1面目足跡検出状況



2. 7工区41・42地区第6間層2面目足跡



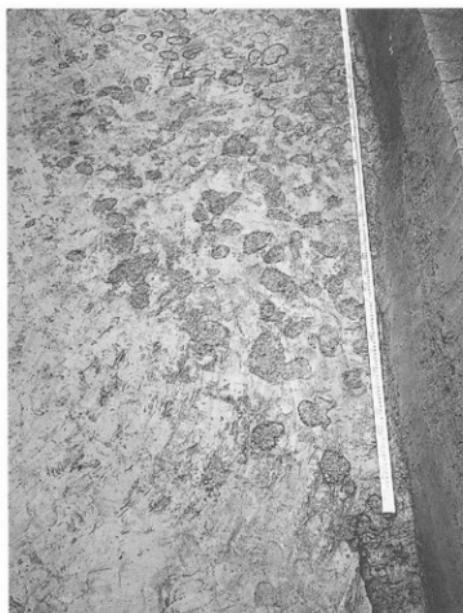
1. 6工区8~10地区第8層上面足跡 南より



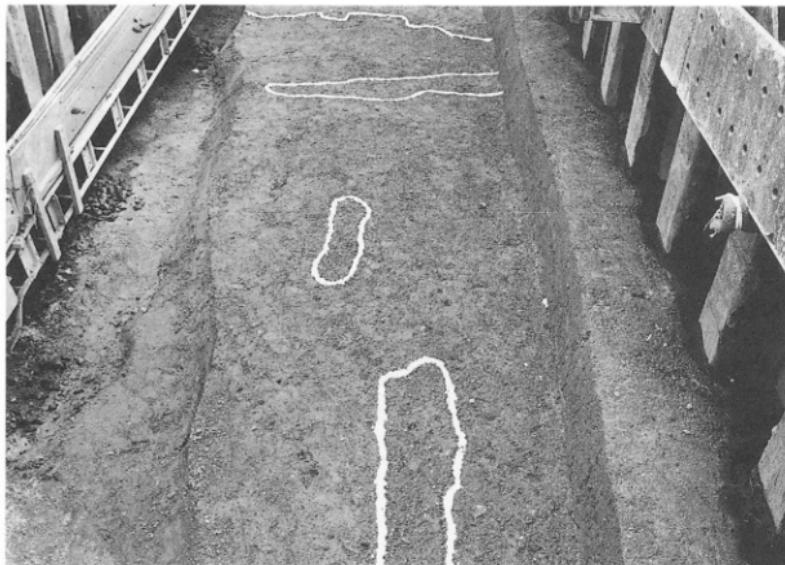
2. 6工区29地区第10層上面足跡検出状況 南より



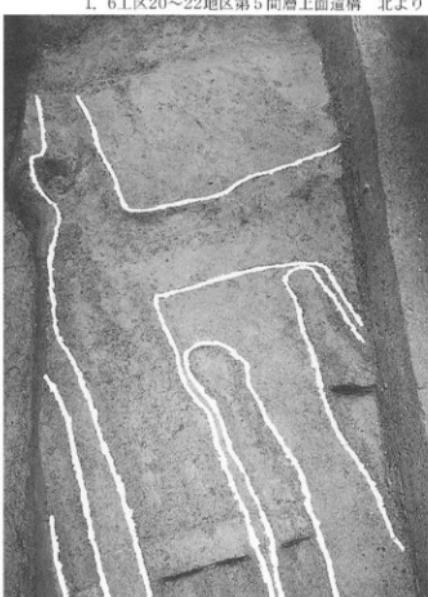
1. 6工区21地区付近第6間層2面目足跡検出状況 南より



2. 6工区16地区付近第6間層3面目
足跡検出状況 南より



1. 6工区20～22地区第5間層上面遺構 北より

2. 6工区20～23地区第6層上面遺構
北より



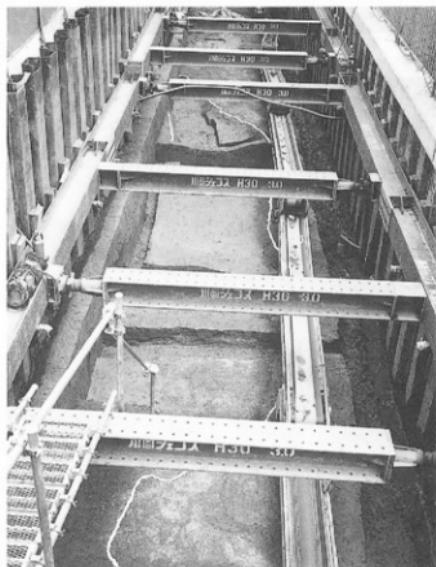
1. 7工区31～39地区第6層上面遺構(1) 南より



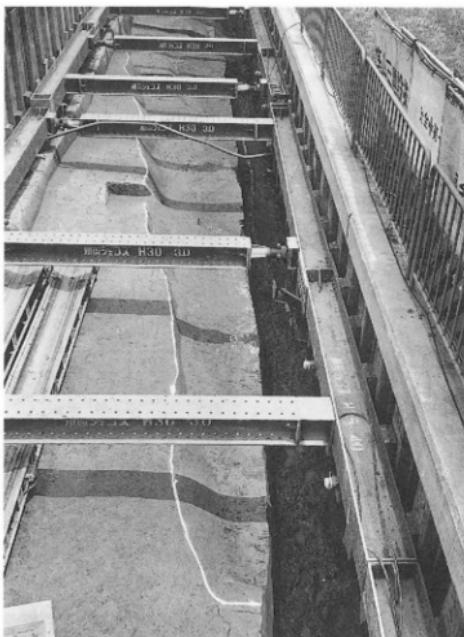
2. 7工区31～45地区第6層上面遺構(2) 南より



1. 6工区落ち込み2 北より



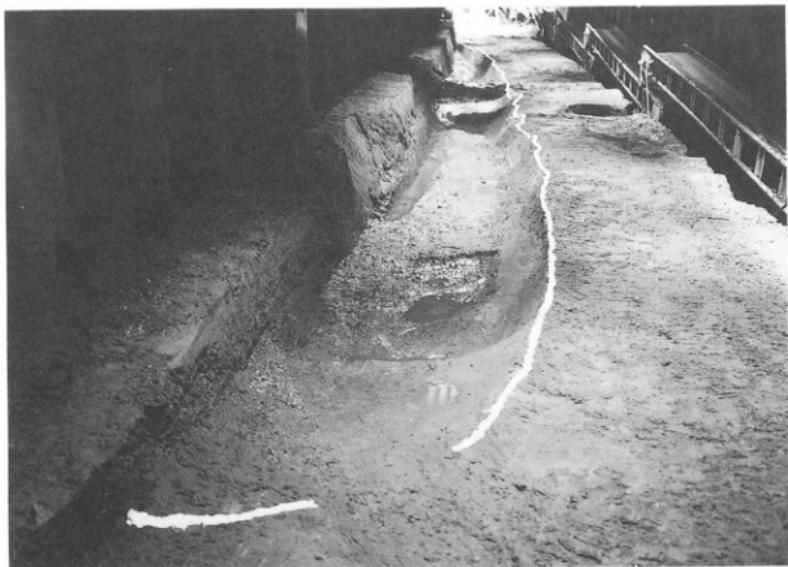
2. 6工区落ち込み3 南より



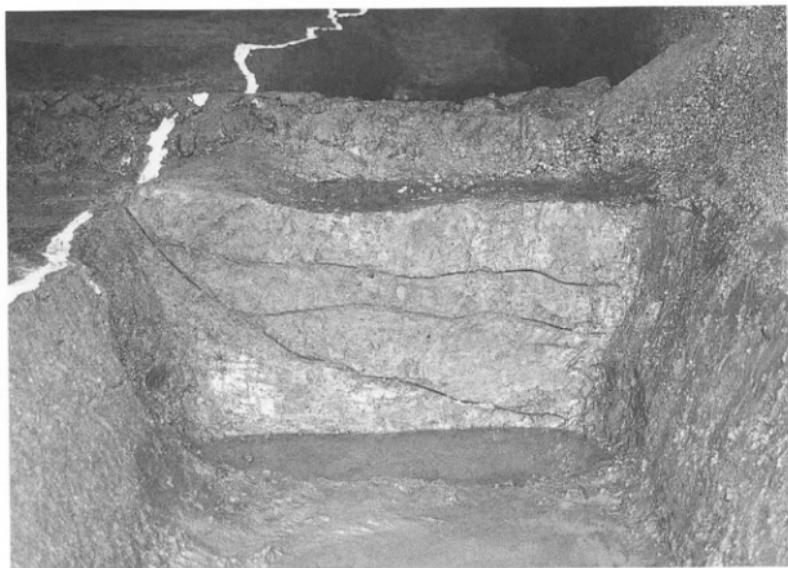
1. 6工区1~18地区自然流路1
南より



2. 6工区16地区付近自然流路1内足跡検出状況 東より



1. 7工区～45地区溝60 南より



2. 7工区溝60東西断ち割り断面 北より



1. 7工区43~45地区4層上面溝群 北より



2. 7工区46地区付近4層上面溝群・足跡 北より



1. 6工区25~27地区第3下層上面遺構 南より



2. 6工区28~29地区第3下層上面遺構 北より



1. 7工区43~52地区溝6 北より



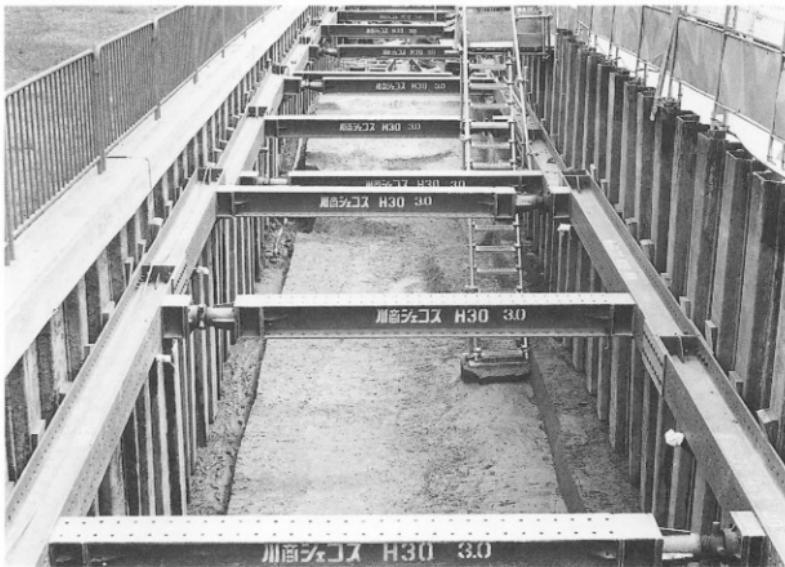
2. 7工区51地区溝6 内卒塔婆出土状況



1. 7工区54・55地区自然流路2 南東より



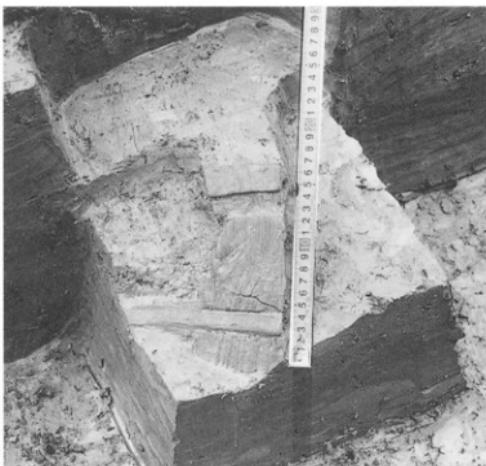
2. 7工区54・55地区自然流路2 内杭打ち割り断面



1. 6工区1~11地区落ち込み1 北より



2. 落ち込み1内出土状況



3. 落ち込み1内下出土状況



1. 6工区23・24地区溝7 東より



2. 6工区30地区土坑3 東より



1. 6工区26地区からの溝Ⅰ 北より



2. 6工区28地区土坑Ⅰ 東より



87



17



15



18



23



12

土坑20・21・47出土弥生土器　壺・甌・鉢・高坏



135



88



96



97



29



110

土坑19・50・82出土弥生土器 壺・無頸壺・甕蓋・鉢・高坏



148



169



149



145



151



150

土坑97・105出土弥生土器 壺・細頸壺・無頸壺・鉢